

尾張旭市

障がい福祉に関する計画策定の
ための市民意識調査結果報告書

令和5年3月
尾張旭市

目次

I 調査の概要	1
1 調査の目的	1
2 調査の種類と実施方法	1
3 回収結果	2
4 報告書の見方	3
II 調査の結果（障がい者）	4
1 調査の回答者について	4
（1）調査の回答者	4
2 あなた（宛名の方）の年齢、ご家族などについて	5
（1）対象者の年齢	5
（2）対象者の性別	6
（3）同居の家族	7
3 あなたの障がいの種類、等級（程度）などについて	9
（1）障害者手帳の所持状況	9
（2）障害者手帳アプリの認知度	11
（3）身体障がいの状況	12
（4）発達障がいの診断状況	14
（5）重症患者認定	16
（6）障害支援区分認定	17
（7）要介護認定と介護保険サービスの利用状況	18
4 支援（援助、介助、看護）してくれる人のことについて	20
（1）生活するうえで必要な支援	20
（2）主な支援者	22
（3）主な支援者の年齢	24
（4）主な支援者が一時的に援助できない場合の対処	26
5 収入の状況について	28
（1）収入の状況	28
（2）経済的にみた暮らしの状況	30
6 医療について	31
（1）病気等の治療状況	31
（2）医療費助成の利用状況	32
（3）医療に関して困っていること	34

(4) 医療的支援の状況.....	36
7 日中の活動について	38
(1) 日中の過ごし方.....	38
(2) 仕事の状況	40
(3) 日中を自宅で過ごす理由	45
(4) 就労促進に必要な配慮	47
(5) 日中の過ごし方に関する今後の意向.....	49
8 これからの生活について.....	51
(1) 暮らし方に関する今後の意向	51
(2) グループホームへの入居希望時期.....	53
(3) グループホームなどを活用した一人暮らし体験	54
9 外出について	55
(1) 外出の頻度	55
(2) 外出時の交通手段.....	56
(3) 外出の目的	58
(4) 外出時に困ること.....	60
(5) 公共施設の利用に関して	62
(6) ヘルプマーク・ヘルプカードの認知度	66
(7) ヘルプマーク・ヘルプカードの所持状況	67
10 社会参加（仕事を除く）について.....	69
(1) 社会参加の状況と今後の意向	69
(2) 社会参加するうえでの問題	71
(3) 積極的な社会参加に大切なこと.....	73
11 地域活動について.....	75
(1) 近所づきあいの程度	75
(2) 地域活動や行事への参加	76
(3) 居住地域の住みやすさ	77
12 災害時に困ることについて	80
(1) 災害時の避難の可否	80
(2) 災害時に困ることや不安なこと.....	81
(3) 災害時に避難所で困ること	83
13 相談などについて.....	85
(1) 悩みや相談したいこと	85
(2) 悩みの相談先	87

14	権利擁護について.....	89
	(1) 障がいのある人に対する社会の理解.....	89
	(2) 市民理解を深めるために必要なこと.....	91
	(3) 日常生活自立支援事業の認知度.....	93
	(4) 日常生活自立支援事業の利用意向.....	94
	(5) 成年後見制度の認知度.....	95
	(6) 成年後見制度の利用意向.....	96
	(7) 尾張東部権利擁護支援センターの認知度.....	98
15	障がいなどのある人に対する差別や配慮について.....	99
	(1) 差別をうけたりいやな思いをしたことの有無.....	99
	(2) 市役所の配慮.....	102
	(3) 虐待に関する相談窓口の認知度.....	105
16	障害福祉サービスなどについて.....	106
	(1) 障害福祉サービスの利用の有無.....	106
17	障がい者施策等について.....	110
	(1) 障がい者施策の満足度と今後の優先度.....	110
	(2) 障がいのある人にとっての尾張旭市の暮らしやすさ.....	127
Ⅲ	調査の結果（障がい児）.....	131
1	調査の回答者について.....	131
	(1) 調査の回答者.....	131
2	あなた（宛名の方）の年齢、ご家族などについて.....	131
	(1) 対象者の年齢.....	131
	(2) 対象者の性別.....	132
	(3) 同居の家族.....	132
3	あなたの障がいの種類、等級（程度）などについて.....	133
	(1) 障害者手帳の所持状況.....	133
	(2) 障害者手帳アプリの認知度.....	134
	(3) 障がいがあった時期.....	134
	(4) 障がいの主な原因.....	135
	(5) 点字の利用.....	135
	(6) コミュニケーション手段.....	136
	(7) 発達障がいの診断状況.....	137
4	支援（援助、介助、看護）してくれる人のことについて.....	138
	(1) 生活するうえで必要な支援.....	138

(2) 主な支援者	139
(3) 主な支援者の年齢	140
(4) 主な支援者が一時的に援助できない場合の対処	141
5 医療について	142
(1) 病気等の治療状況	142
(2) 精神科での治療状況	142
(3) 医療に関して困っていること	143
(4) 医療的支援の状況	144
6 日中の活動について	145
(1) 日中の過ごし方	145
(2) 通っている園や学校で困っていること	147
(3) 学びの環境の希望	148
(4) 放課後等デイサービス	149
(5) 学校卒業後における日中の過ごし方の意向	150
7 これからの生活について	151
(1) 学校卒業後における暮らし方の意向	151
(2) グループホームへの入居希望時期	152
(3) グループホームなどを活用した一人暮らし体験	152
(4) 就労促進に必要な配慮	153
8 外出について	154
(1) 外出の頻度	154
(2) 外出時の交通手段	155
(3) 外出の目的	156
(4) 外出時に困ること	157
(5) 公共施設の利用に関して	158
(6) ヘルプマーク・ヘルプカードの認知度	160
(7) ヘルプマーク・ヘルプカードの所持状況	160
9 社会参加について	162
(1) 社会参加の状況と今後の意向	162
(2) 社会参加するうえでの問題	163
(3) 積極的な社会参加に大切なこと	164
10 地域活動について	165
(1) 近所づきあいの程度	165
(2) 地域活動や行事への参加	165
(3) 居住地域の住みやすさ	166

11	災害時に困ることについて	168
	(1) 災害時の避難の可否	168
	(2) 災害時に困ることや不安なこと	169
	(3) 災害時に避難所で困ること	170
12	相談などについて	171
	(1) 悩みや相談したいこと	171
	(2) 悩みの相談先	172
13	権利擁護について	173
	(1) 障がいのある人に対する社会の理解	173
	(2) 市民理解を深めるために必要なこと	174
	(3) 日常生活自立支援事業の認知度	175
	(4) 日常生活自立支援事業の利用意向	175
	(5) 成年後見制度の認知度	176
	(6) 成年後見制度の利用意向	177
	(7) 尾張東部権利擁護支援センターの認知度	178
14	障がいなどのある人に対する差別や配慮について	179
	(1) 差別をうけたり嫌な思いをしたことの有無	179
	(2) 市役所の配慮	183
	(3) 虐待に関する相談窓口の認知度	186
15	障がい児などに対するサービスについて	187
	(1) 障がい児などに対するサービスの利用の有無	187
16	障がい者施策等について	189
	(1) 障がい者施策の満足度と今後の優先度	189
	(2) 障がいのある人にとっての尾張旭市の暮らしやすさ	192
IV	調査の結果（一般）	196
1	あなたご自身のことについて	196
	(1) 性別	196
	(2) 年齢	196
	(3) 障がいのある家族・親族の状況	197
	(4) 職業	197
2	障がいのある人への関心などについて	198
	(1) 障がいのある人への関心	198
	(2) 障がいのある人との関わりの状況	198

(3) 障がいのある人に対する社会の理解.....	199
(4) 市民理解を深めるために必要なこと.....	202
3 障がいのある人への地域でのボランティア等について	203
(1) 障がいのある人との地域活動への参加	203
(2) 障がいのある人やその家族に対する日常的な支援.....	205
(3) 障がいのある人に対してできる支援.....	206
4 尾張旭市の暮らしやすさや地域への参加について	207
(1) 障がいのある人にとっての尾張旭市の暮らしやすさ.....	207
(2) 積極的な社会参加に大切なこと.....	209
5 障がい福祉に関わる言葉や制度、法律等について	210
(1) 障がい福祉に関わる言葉、制度、法律等の認知度.....	210
6 就労について	211
(1) 障がいのある人と一緒に働くことへの考え	211
(2) 障がいのある人の就労促進に必要な配慮	213
7 災害時の障がいのある人への支援について.....	214
(1) 災害時の障がいのある人への支援.....	214
8 権利擁護について	215
(1) 障がいのある人への配慮	215
(2) 障がいのある人への差別や偏見の有無	216
9 広報・啓発について	217
(1) ヘルプマークの認知度	217
(2) 障がいや障がい者に関する情報発信.....	217
10 障がいのある人への施策について.....	218
(1) 障がいのある人への充実すべき施策.....	218
V 調査の結果（事業所）	219
1 事業所の状況について.....	219
(1) 主たる事業内容.....	219
(2) 常用の従業員数.....	220
(3) 障がい者の雇用状況	221
2 障がい者の雇用について.....	222
(1) 障がい者の雇用人数等	222
(2) 雇用する上での配慮	225

(3) 障がい者雇用における工夫	226
(4) 協力等を求めた関係機関	227
(5) 障がい者雇用への考え（現在障がい者を雇用している事業所）	228
(6) 雇っていた方が辞めた理由	229
(7) 障がい者雇用への考え（以前雇用していた事業所）	230
(8) 障がい者を雇用していない理由.....	231
(9) 障がい者雇用への考え（雇用していない事業所）	232
(10) 障がいのある方の企業就労を促進するために必要な配慮	233
3 雇用上の課題及び配慮について	234
(1) 障がい者雇用の課題	234
(2) 障がい者雇用の促進に必要な施策.....	235
4 関係機関との連携について	236
(1) 関係機関の取組・施策に期待すること	236
VI 自由回答の整理	237
1 障がい者調査の自由回答	237
(1) 充実していくと良いと思う活動や支援・サービス.....	237
(2) その他、意見・要望	238
2 障がい児調査の自由回答	239
(1) 充実していくと良いと思う活動や支援・サービス.....	239
(2) その他、意見・要望	240
3 一般市民調査の自由回答	241
(1) 障がいのある人への施策に関する意見や要望	241
4 事業所調査の自由回答	242
(1) 障がい者雇用に関する意見	242

I 調査の概要

1 調査の目的

この調査は、令和6年度を初年度とする「尾張旭市第7期障がい者計画・第7期障がい福祉計画・第3期障がい児福祉計画」の策定にあたり、障害者手帳所持者及び障がい福祉サービス利用者、18歳以上の一般市民、市内企業を対象に障害福祉サービスの利用実態や福祉に関する意識、意向など把握することを目的に実施しました。

2 調査の種類と実施方法

① 障がい福祉に関する計画策定のための市民意識調査（障がい者）

調査対象者	尾張旭市在住の18歳以上の身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳をお持ちの方及び難病患者の方
調査票配布数	3,601件
抽出方法	全数抽出
調査方法	郵送配布、回収については、郵送及びWebアンケートを併用して実施
調査時期	令和4年12月20日 ～ 令和5年1月31日

② 障がい福祉に関する計画策定のための市民意識調査（障がい児）

調査対象者	尾張旭市在住の18歳未満の身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳をお持ちの方及び障害児通所支援等のサービスを利用している方
調査票配布数	401件
抽出方法	全数抽出
調査方法	郵送配布、回収については、郵送及びWebアンケートを併用して実施
調査時期	令和4年12月20日 ～ 令和5年1月31日

③ 障がい福祉に関する計画策定のための市民意識調査（一般市民）

調査対象者	尾張旭市在住の18歳以上の障害者手帳所持者等を除く一般市民の方
調査票配布数	500件
抽出方法	無作為抽出
調査方法	郵送配布、回収については、郵送及びWebアンケートを併用して実施
調査時期	令和4年12月20日 ～ 令和5年1月31日

④ 尾張旭市民間事業所アンケート（事業所）

調査対象者	尾張旭市内の民間事業所
調査票配布数	193件
抽出方法	事業所リストから従業員10名以上の事業所を抽出
調査方法	郵送配布、回収については、郵送及びWebアンケートを併用して実施
調査時期	令和4年12月20日 ～ 令和5年 1月31日

3 回収結果

単位：上段/件、下段/%

	配布数	回収数	有効	無効
①障がい者調査	3,601	1,787	1,784	3
	－	49.6	49.5	0.1
②障がい児調査	401	171	171	0
	－	42.6	42.6	0.0
③一般市民調査	500	204	204	0
	－	40.8	40.8	0.0
④事業所調査	193	71	71	0
	－	36.8	36.8	0.0

4 報告書の見方

- 比率はすべてパーセントで表し、小数点以下第2位を四捨五入して算出しました。そのためパーセントの合計が100%にならないこともあります。
- 図表中の「n（回答者数）」は、各設問に該当する回答者の総数であり、回答率（%）の母数をあらわしています。
- 回答者が2つ以上回答することができる設問（複数回答）の場合、その回答率の合計は100%を超えることがあります。
- 本報告書の表の見出し及び文章中での回答選択肢の表現は、趣旨が変わらない程度に簡略化して掲載している場合があります。
- 身体障害者手帳所持者は「身体障がい」、療育手帳所持者は「知的障がい」、精神障害者保健福祉手帳所持者は「精神障がい」、複数の障害者手帳所持者は「重複所持」と記載しています。
- 基数（件数・n）が30以下のものについては、少数意見でも比率が拡大され有意差が生じやすいため、分析結果では基本的にふれないものとししました。

Ⅱ 調査の結果（障がい者）

1 調査の回答者について

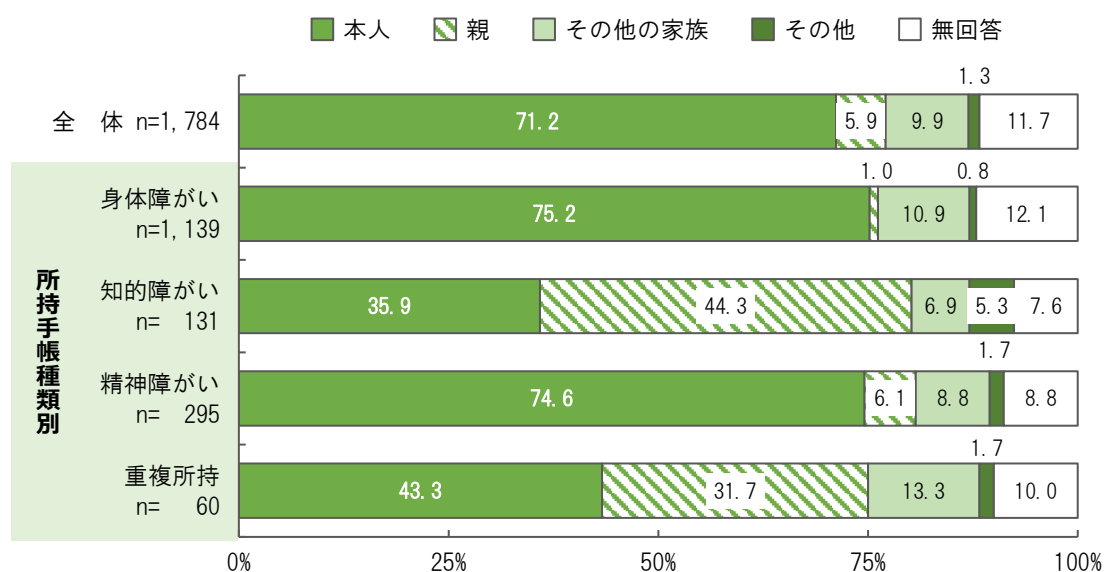
（1）調査の回答者

■ このアンケートをご記入いただくのはどなたですか。（○は1つ）

○調査の回答者は、「本人」が71.2%、「その他の家族」が9.9%、「親」が5.9%となっています。

○持っている障害者手帳別（以下、所持手帳種類別）にみると、身体障害者手帳（以下、身体障がい）では「本人」（75.2%）、療育手帳（以下、知的障がい）では「親」（44.3%）、精神障害者保健福祉手帳（以下、精神障がい）では「本人」（74.6%）、複数の障害者手帳所持（以下、重複所持）では「本人」（43.3%）が最も高くなっています。

■ 回答者【所持手帳種類別】



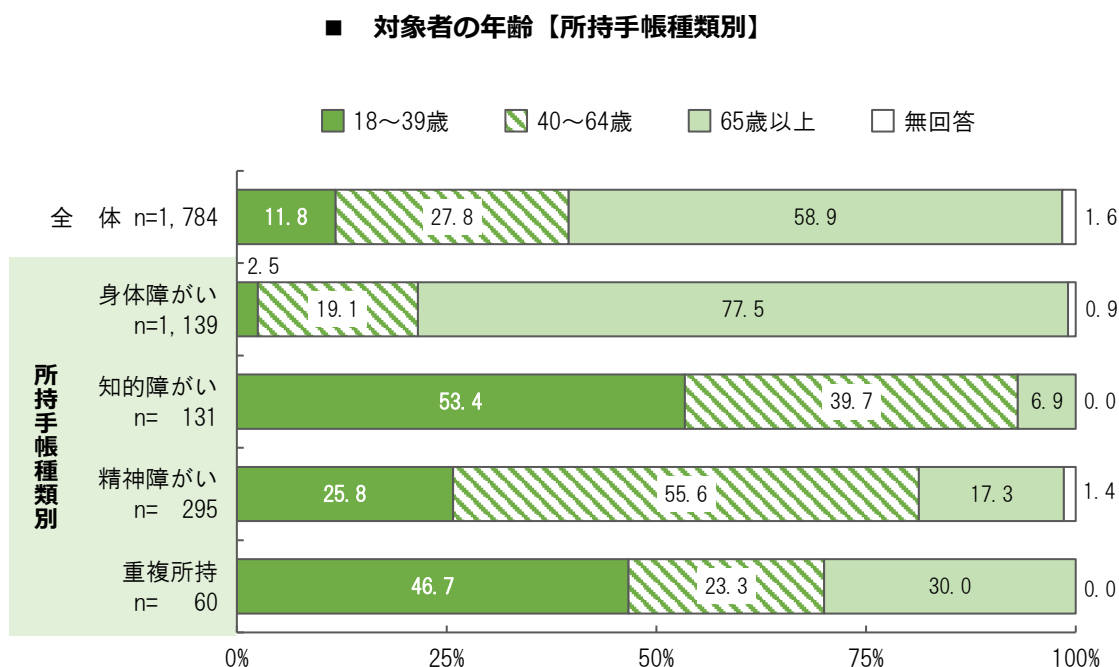
2 あなた（宛名の方）の年齢、ご家族などについて

（1）対象者の年齢

問1 あなた（封筒の宛名のご本人）の年齢は満何歳ですか（令和4年12月1日現在）。

○対象者の年齢は、「65歳以上」が58.9%と最も高く、次いで「40～64歳」が27.8%となっています。

○所持手帳種類別にみると、身体障がいでは「65歳以上」（77.5%）、知的障がいでは「18～39歳」（53.4%）、精神障がいでは「40～64歳」（55.6%）、重複所持では「18～39歳」（46.7%）が最も高くなっています。



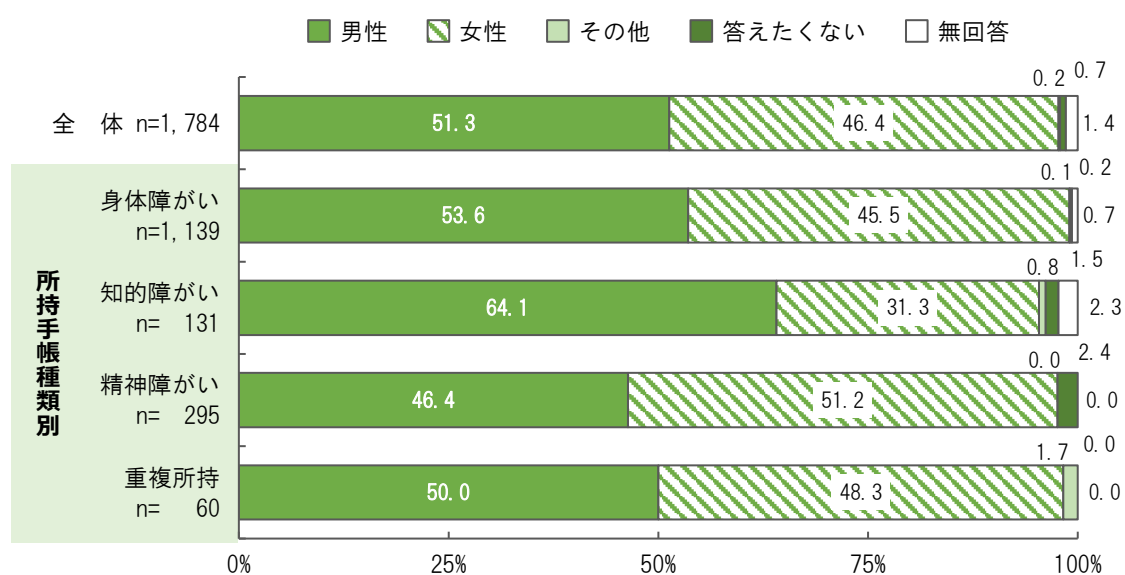
（２）対象者の性別

問２ あなたの性別をお答えください。（○は１つ）

○対象者の性別は、「男性」が51.3%、「女性」が46.4%となっています。

○所持手帳種類別にみると、身体障がい・知的障がい・重複所持では「男性」の割合が高く、精神障がいでは「女性」の割合が高くなっています。

■ 対象者の性別【所持手帳種類別】



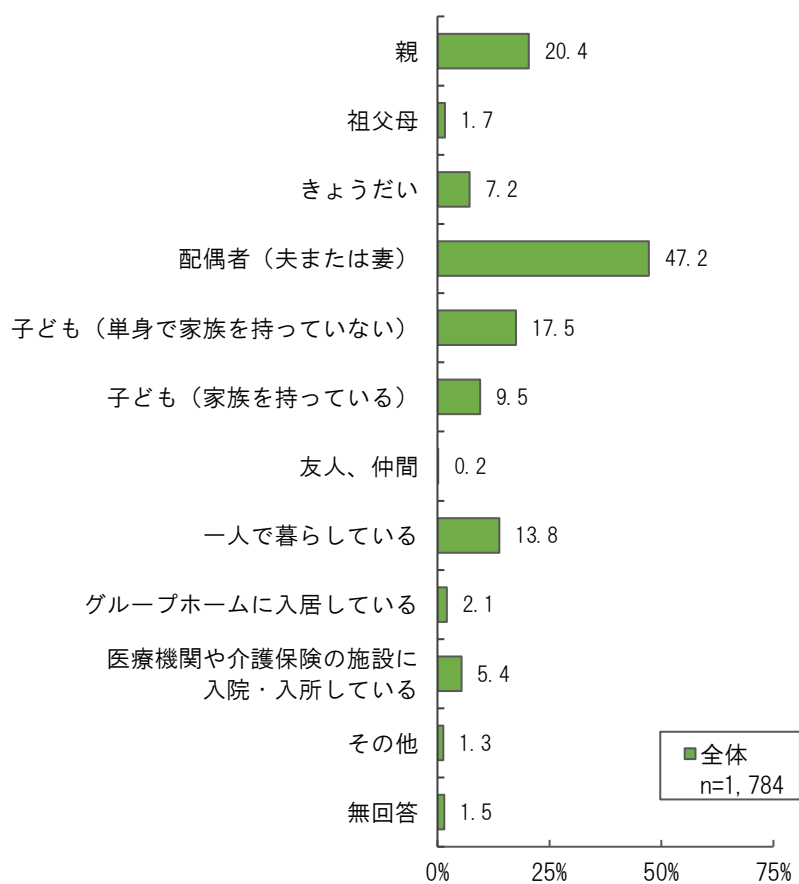
（３）同居の家族

問３ 現在、あなたが一緒に暮らしている人は、どなたですか。（○はいくつでも）

○同居の家族の状況をみると、「配偶者（夫または妻）」が47.2%と最も高く、次いで「親」が20.4%となっています。

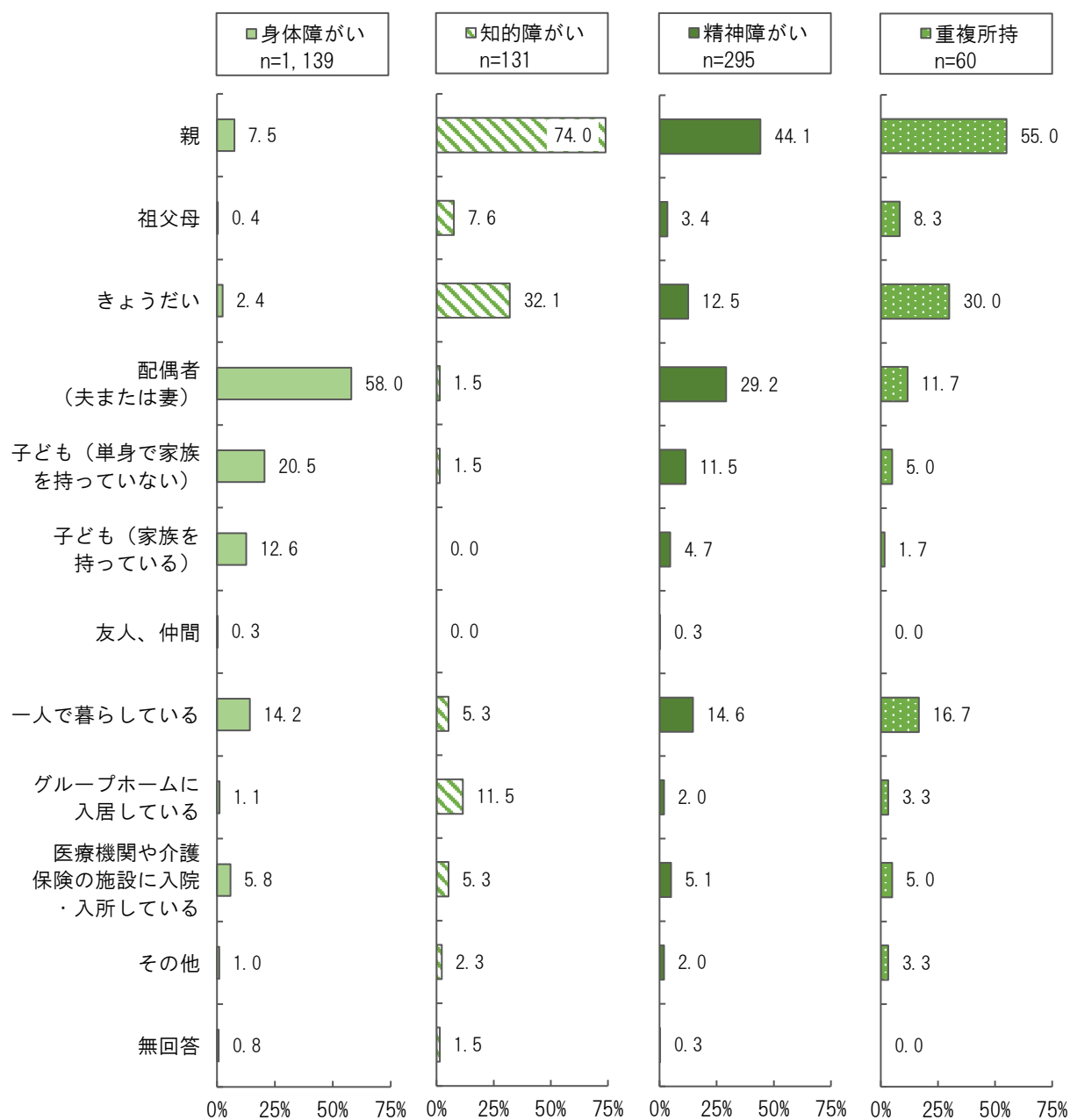
一方、「一人で暮らしている」は13.8%となっています。

■ 同居の家族



○所持手帳種類別にみると、身体障がいでは「配偶者（夫または妻）」（58.0%）、知的障がい・精神障がい・重複所持では「親」（74.0%・44.1%・55.0%）が最も高くなっています。

■ 同居の家族【所持手帳種類別】



3 あなたの障がいの種類、等級（程度）などについて

（1）障害者手帳の所持状況

問4 あなたが、お持ちの障害者手帳は次のどれですか。（○はいくつでも）
また、お持ちの手帳については、あてはまる等級（程度）に○をつけてください。

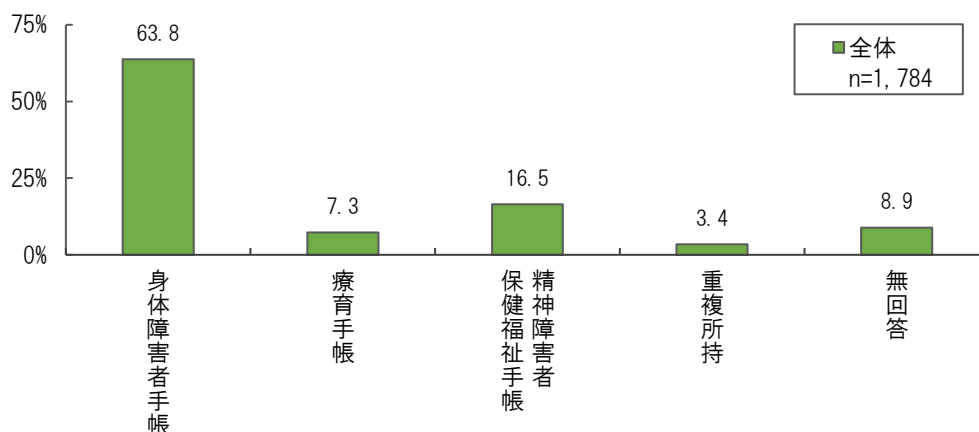
○対象者が持っている障害者手帳の種類は、「身体障害者手帳」が63.8%と最も高く、「療育手帳」が7.3%、「精神障害者保健福祉手帳」が16.5%、「重複所持」が3.4%となっています。

○各手帳の等級は、『身体障害者手帳』では「1級」が30.6%と最も高く、次いで「3級」が22.8%、「4級」が22.4%となっています。

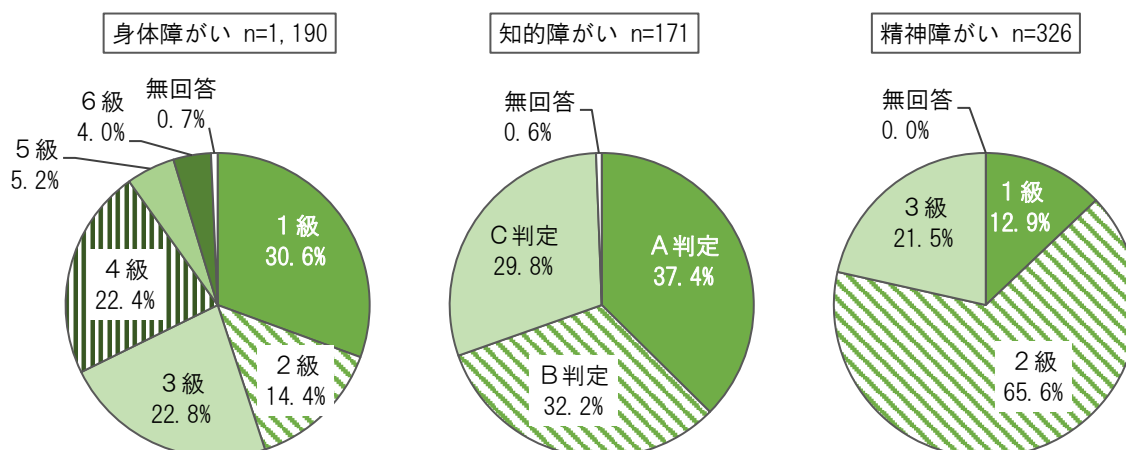
『療育手帳』では「A判定」が37.4%と最も高く、次いで「B判定」が32.2%、「C判定」が29.8%となっています。

『精神障害者保健福祉手帳』では「2級」が65.6%と最も高く、次いで「3級」が21.5%、「1級」が12.9%となっています。

■ 障害者手帳の所持状況



■ 手帳の等級



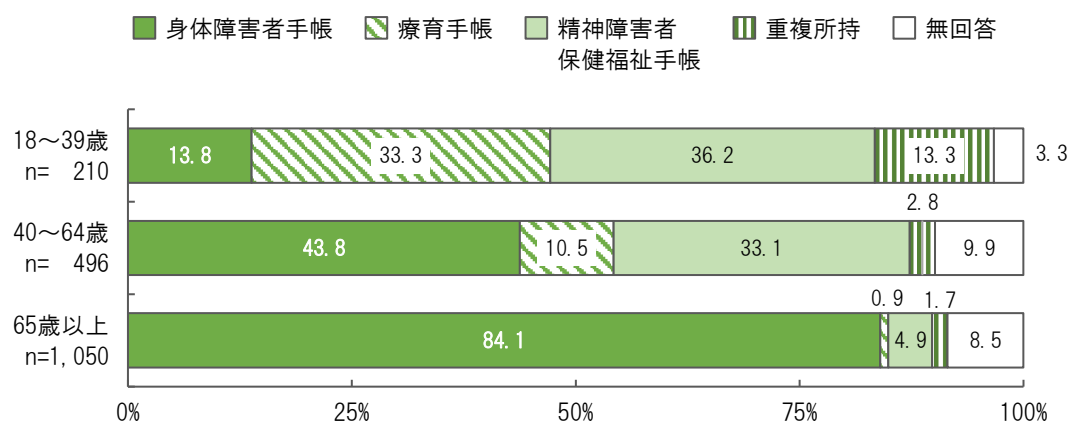
○年齢区分別に障害者手帳の所持状況をみると、『18～39歳』では「精神障害者保健福祉手帳」が36.2%と最も高く、次いで「療育手帳」(33.3%)、「身体障害者手帳」(13.8%)となっています。

『40～64歳』では「身体障害者手帳」が43.8%と最も高く、次いで「精神障害者保健福祉手帳」(33.1%)、「療育手帳」(10.5%)となっています。

『65歳以上』では「身体障害者手帳」が84.1%を占め、「療育手帳」は0.9%、「精神障害者保健福祉手帳」は4.9%となっています。

また、「重複所持」は『18～39歳』が13.3%と他の年齢区分に比べ高くなっています。

■ 障害者手帳の所持状況【年齢区分別】



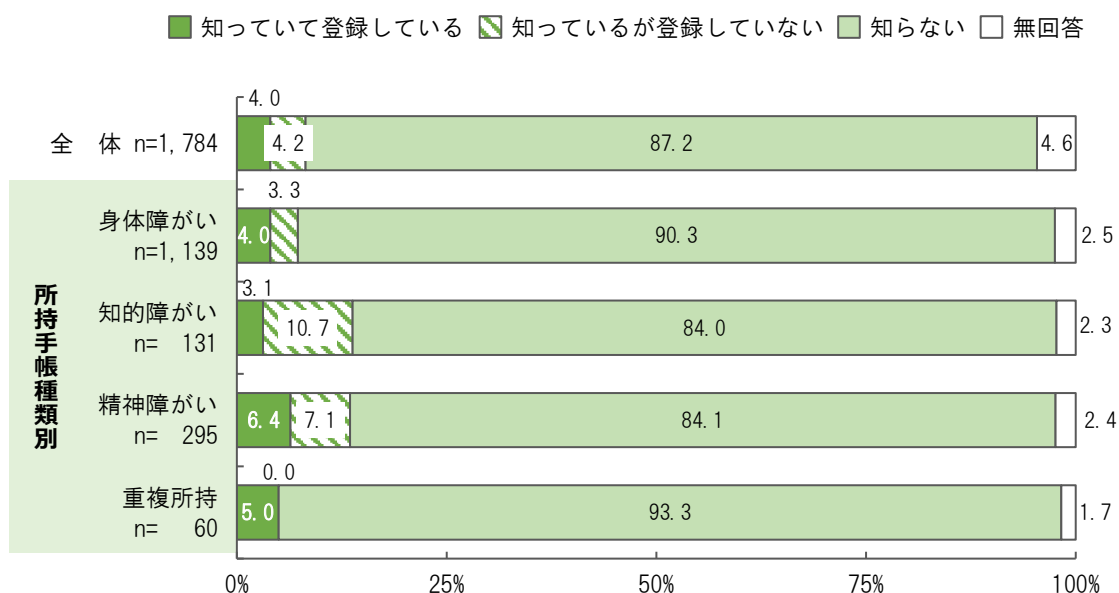
（２）障害者手帳アプリの認知度

問５ あなたは障害者手帳アプリ「ミライロＩＤ」を知っていますか。（○は１つ）

○障害者手帳アプリ「ミライロＩＤ」の認知度は、「知らない」が87.2%を占め、「知っている登録している」は4.0%となり、「知っているが登録していない」（4.2%）を合わせた『知っている』は8.2%と１割に満たない状況です。

○所持手帳種類別にみると、『知っている』は身体障がいでは7.3%、知的障がいでは13.8%、精神障がいでは13.5%、重複所持では5.0%となっています。

■ 「ミライロＩＤ」の認知度【所持手帳種類別】



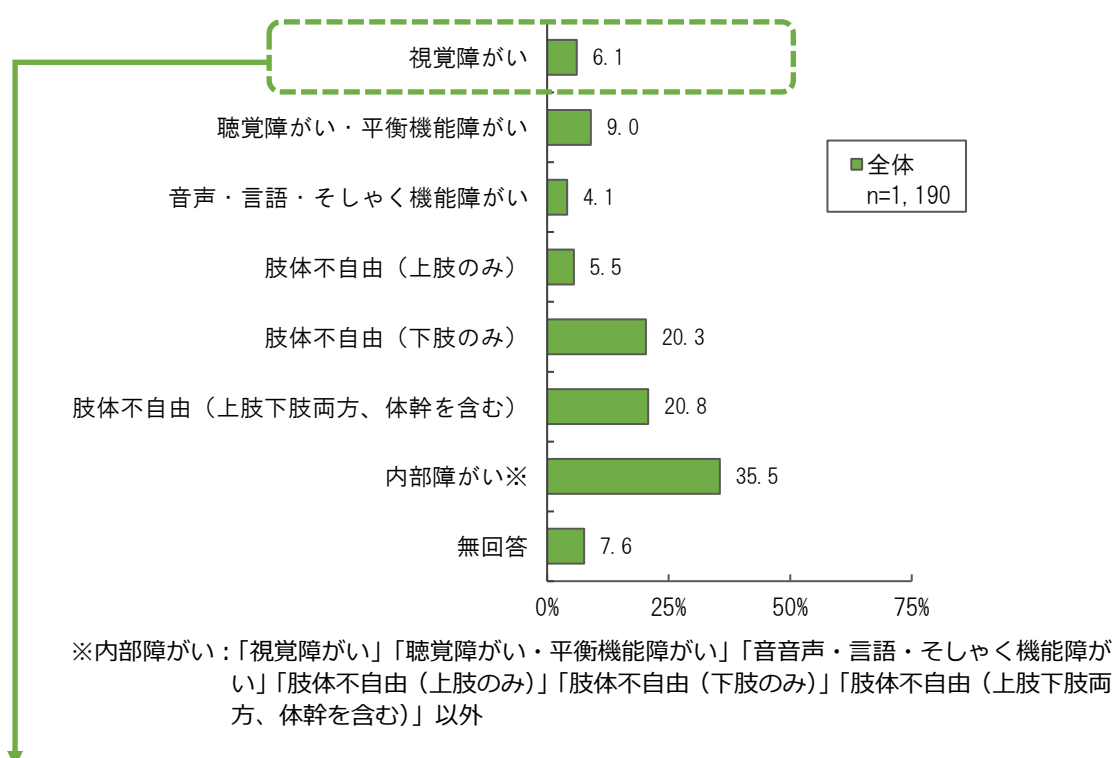
（３）身体障がいの状況

問４で「１．身体障害者手帳」と答えた方のみ

問６ あなたの障がいは、どのような障がいですか。（○はいくつでも）

○身体障害者手帳所持者の障がいの種類は、「内部障がい」が35.5%と最も高く、次いで「肢体不自由（上肢下肢両方、体幹を含む）」が20.8%、「肢体不自由（下肢のみ）」が20.3%となっています。

■ 身体障がいの内容

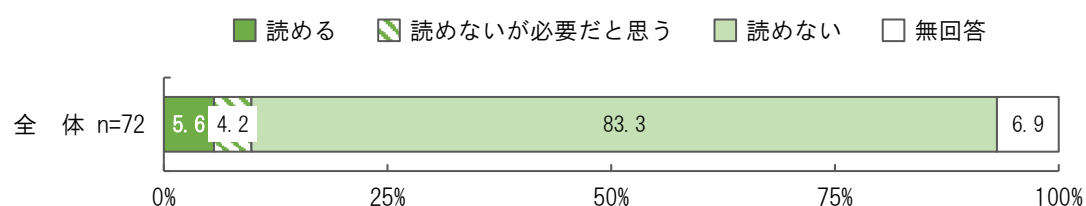


問６で「１．視覚障がい」と答えた方のみ

問７ あなたは、点字が読めますか。（○は1つ）

○視覚障がいがある方のうち、点字が「読める」のは5.6%となっています。

■ 点字が読めるか

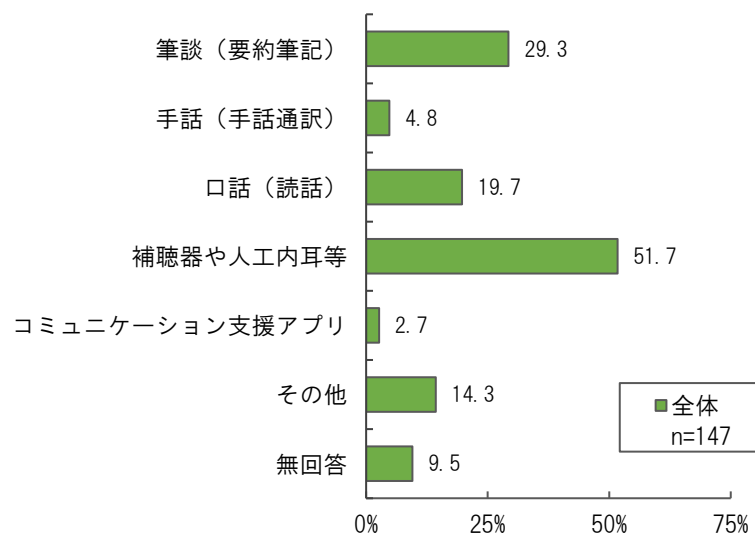


問6で「2. 聴覚障がい・平衡機能障がい」または「3. 音声・言語・そしゃく機能障がい」と答えた方のみ

問8 あなたは、日常的にどのようなコミュニケーション手段を利用していますか。
(○はいくつでも)

○聴覚等に障がいのある方のコミュニケーション手段をみると、「補聴器や人工内耳等」が51.7%と最も高く、次いで「筆談（要約筆記）」が29.3%、「口話（読話）」が19.7%となっています。

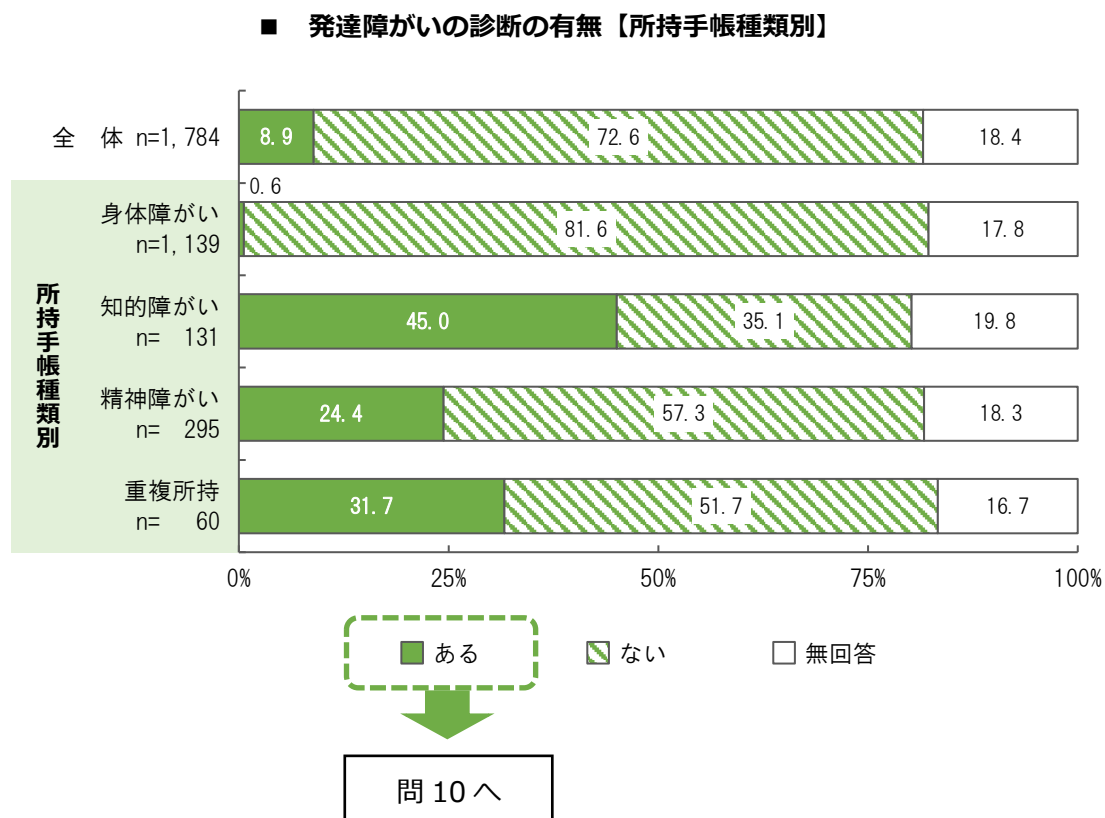
■ コミュニケーション手段



（４）発達障がいの診断状況

問 9 あなたは発達障がいとして診断されたことはありますか。（○は1つ）

- 発達障がいの診断状況をみると、「ある」は8.9%、「ない」が72.6%となっています。
- 所持手帳種類別にみると、「ある」は身体障がいでは0.6%、知的障がいでは45.0%、精神障がいでは24.4%、重複所持では31.7%となっています。



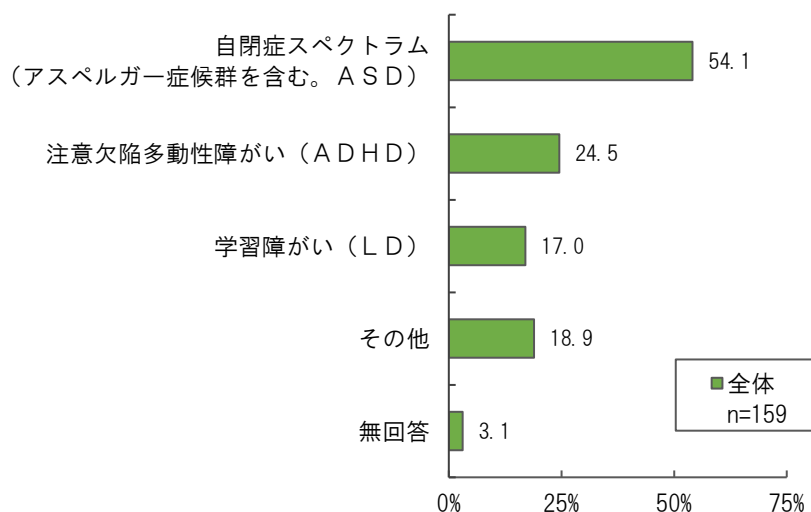
問9で「1. ある」と答えた方のみ

問10 診断名は何ですか。（○はいくつでも）

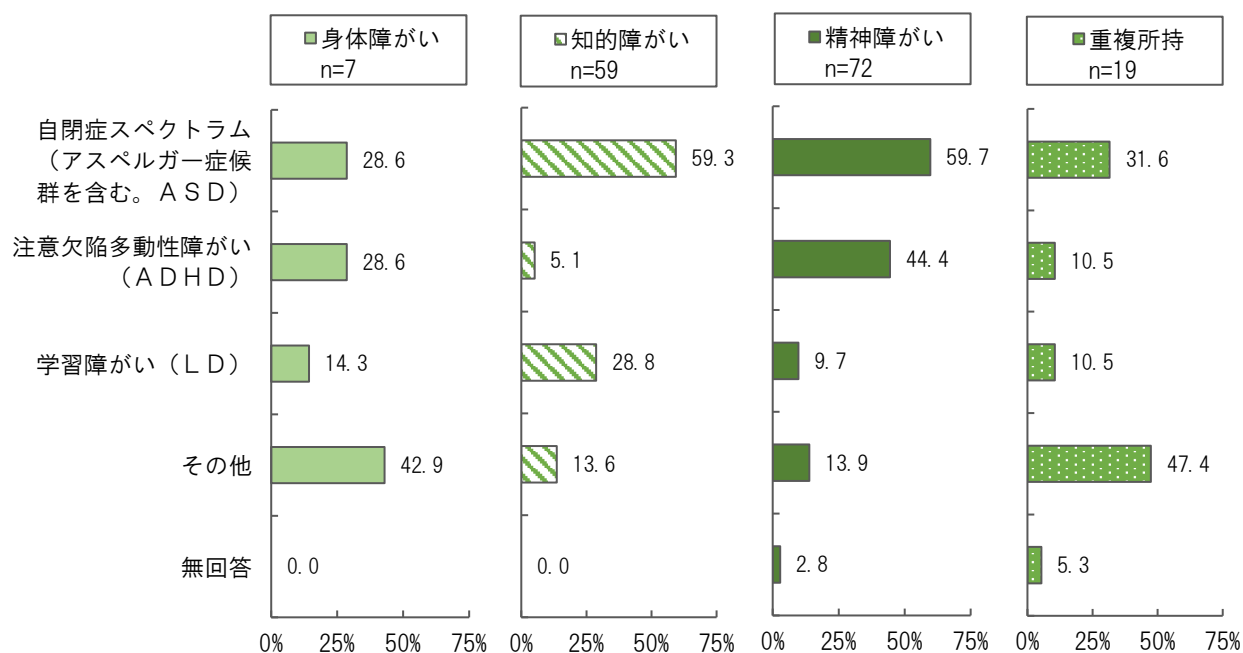
○診断された発達障がいは、「自閉症スペクトラム（アスペルガー症候群を含む。A S D）」が54.1%と最も高く、次いで「注意欠陥多動性障がい（A D H D）」が24.5%となっています。

○所持手帳種類別にみると、知的障がい・精神障がいでは「自閉症スペクトラム（アスペルガー症候群を含む。A S D）」（59.3%・59.7%）が最も高くなっています。

■ 発達障がいの診断名



■ 発達障がいの診断名【所持手帳種類別】

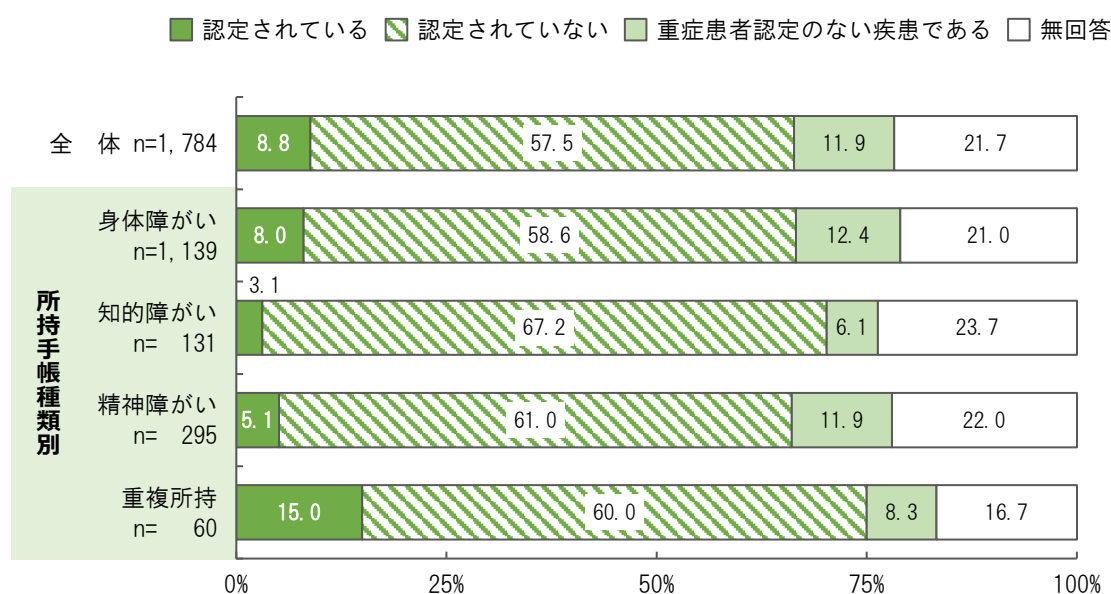


（５）重症患者認定

問11 あなたは難病の特定疾患の重症患者認定を受けていますか。（○は1つ）

- 難病の特定疾患の重症患者認定の状況は、「認定されている」が8.8%となっています。
 ○所持手帳種類別にみると、「認定されている」は身体障がいでは8.0%、知的障がいでは3.1%、精神障がいでは5.1%、重複所持では15.0%となっています。・

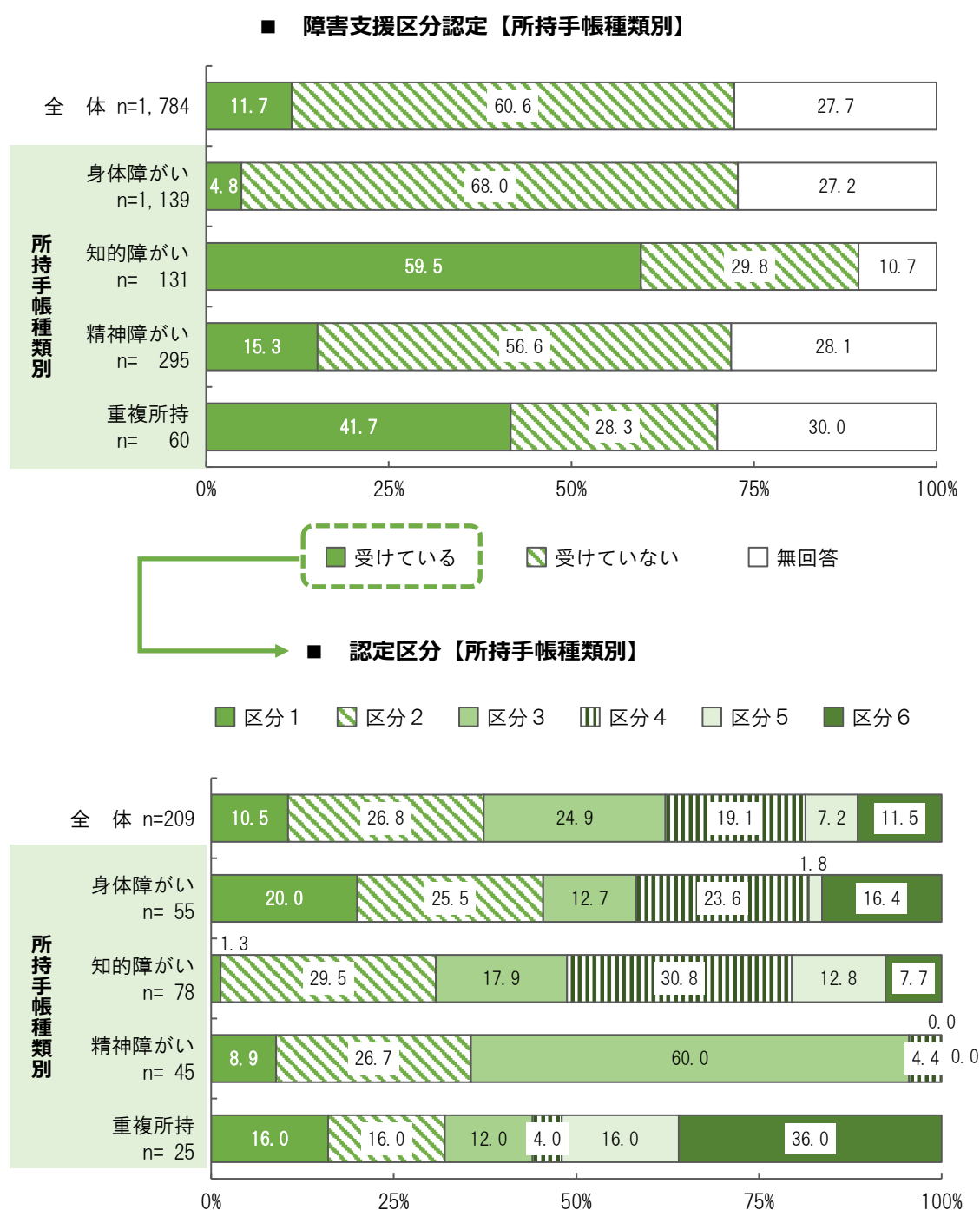
■ 重症患者認定【所持手帳種類別】



（６）障害支援区分認定

問12 障害支援区分認定を受けていますか。（○は1つ）

- 障害支援区分認定を「受けている」は11.7%となり、その区分をみると、「区分2」が26.8%と最も高くなっています。
- 所持手帳種類別にみると、「受けている」は身体障がいでは4.8%、知的障がいでは59.5%、精神障がいでは15.3%、重複所持では41.7%となっています。



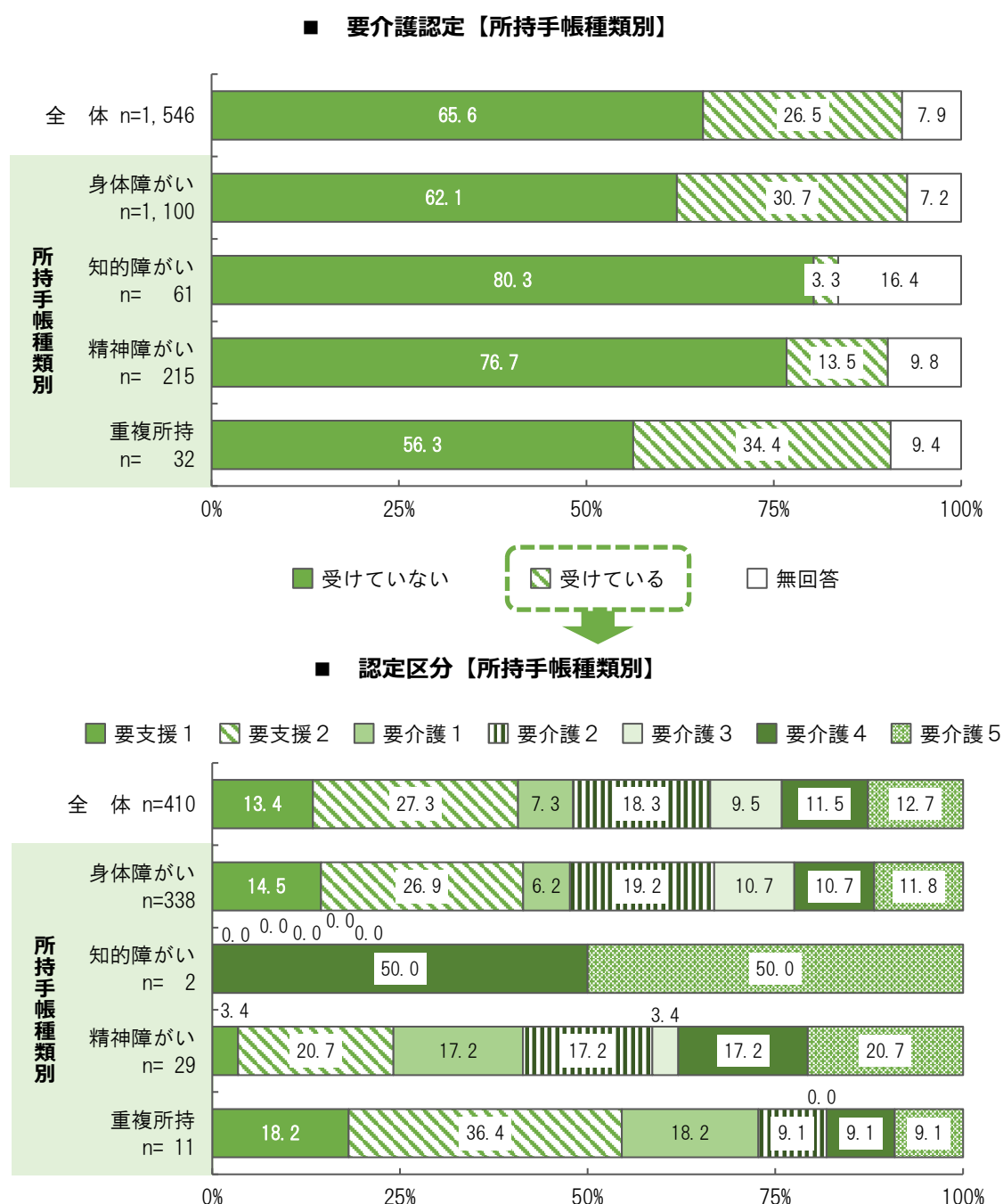
（７）要介護認定と介護保険サービスの利用状況

40歳以上の方のみ

問13 あなたは介護保険の要介護認定を受けていますか。受けている方はあてはまる番号に○をつけてください。（○は1つ）

○要介護認定を「受けている」は26.5%となり、その区分をみると、「要支援2」が27.3%と最も高くなっています。

○所持手帳種類別にみると、「受けている」は身体障がいでは30.7%、知的障がいでは3.3%、精神障がいでは13.5%、重複所持では34.4%となっています。



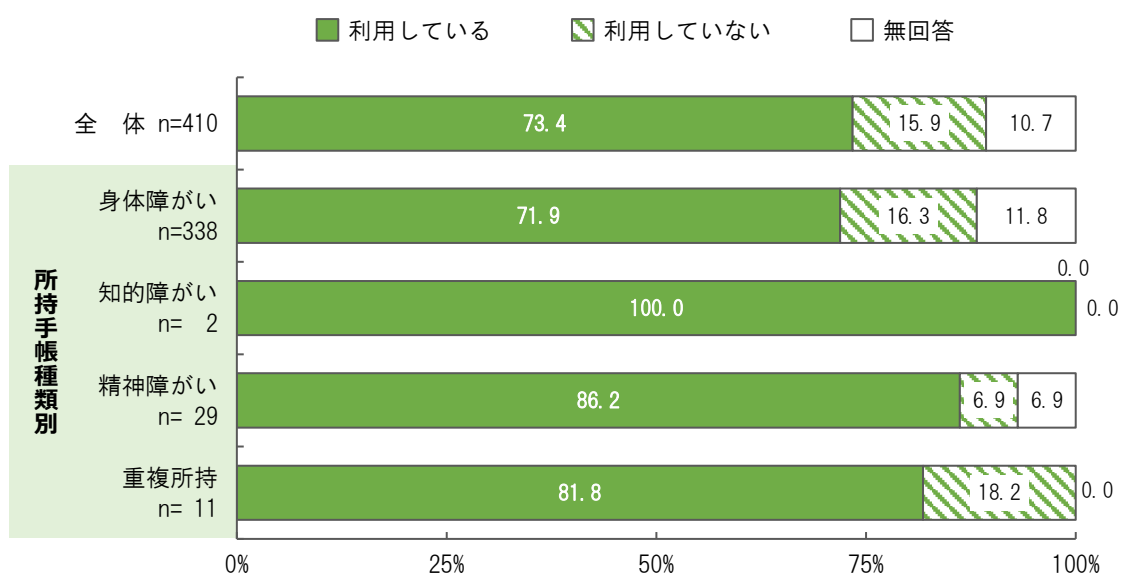
問13で「2. 要支援1」～「8. 要介護5」と答えた方のみ

問14 介護保険のサービスを利用していますか。（○は1つ）

○介護保険サービスを「利用している」は73.4%、「利用していない」は15.9%となっています。

○所持手帳種類別にみると、「利用している」は身体障がいでは71.9%となっています。

■ 介護保険サービスの利用状況【所持手帳種類別】



4 支援（援助、介助、看護）してくれる人のことについて

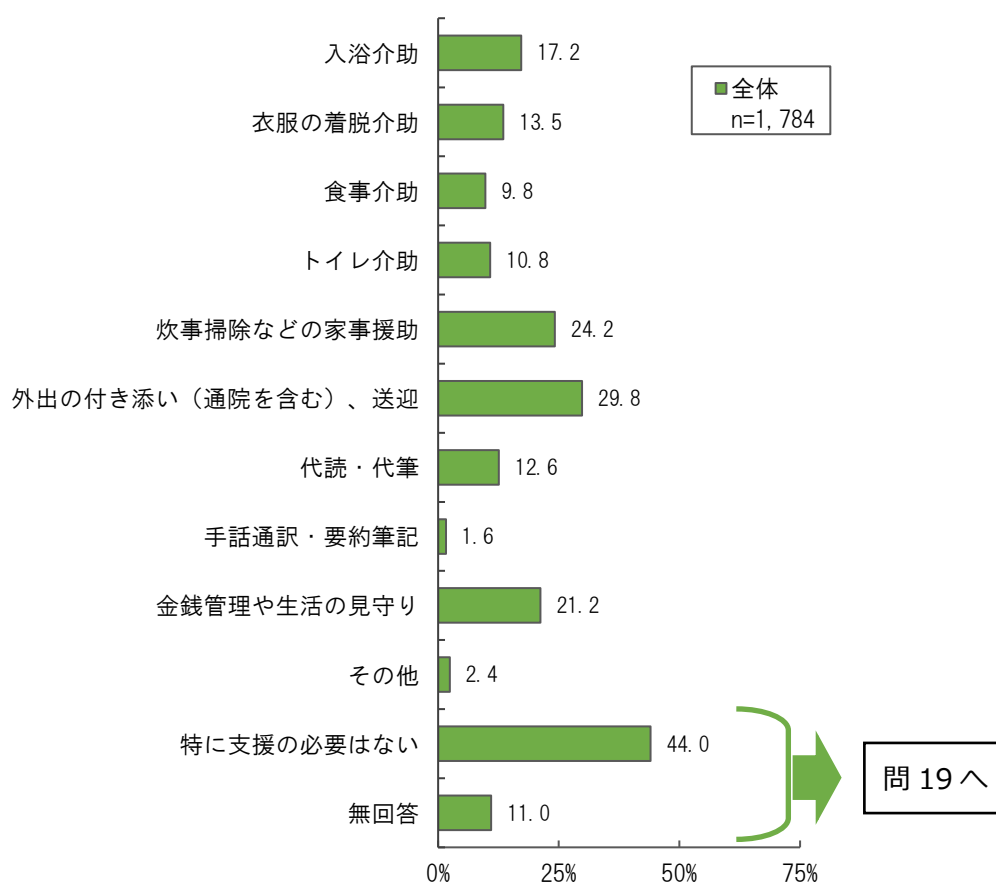
（1）生活するうえで必要な支援

問15 ふだんの生活で、どのような支援が必要ですか。（○はいくつでも）

○生活するうえで必要な支援は、「外出の付き添い（通院を含む）、送迎」（29.8%）、「炊事掃除などの家事援助」（24.2%）、「金銭管理や生活の見守り」（21.2%）が2割以上と高くなっています。

一方、「特に支援の必要はない」が44.0%と最も高くなっています。

■ 生活するうえで必要な支援



○所持手帳種類別にみると、身体障がい・精神障がいでは「特に支援の必要はない」（47.3%・34.2%）が最も高くなっています。

必要な支援の上位は、身体障がいでは「外出の付き添い（通院を含む）、送迎」（28.8%）、「炊事掃除などの家事援助」（22.5%）、「入浴介助」（19.5%）となっています。

知的障がいでは「金銭管理や生活の見守り」（64.9%）、「外出の付き添い（通院を含む）、送迎」（48.9%）、「炊事掃除などの家事援助」（38.9%）となっています。

精神障がいでは「金銭管理や生活の見守り」（32.5%）、「外出の付き添い（通院を含む）、送迎」（30.8%）、「炊事掃除などの家事援助」（27.5%）となっています。

重複所持では「外出の付き添い（通院を含む）、送迎」（43.3%）、「炊事掃除などの家事援助」「金銭管理や生活の見守り」（各41.7%）となっています。

■ 生活するうえで必要な支援【所持手帳種類別】

単位：％

	身体障がい n = 1,139	知的障がい n = 131	精神障がい n = 295	重複所持 n = 60
入浴介助	③ 19.5	19.8	8.5	35.0
衣服の着脱介助	14.5	16.8	6.4	33.3
食事介助	8.9	16.0	8.1	33.3
トイレ介助	11.4	19.1	5.1	26.7
炊事掃除などの家事援助	② 22.5	③ 38.9	③ 27.5	② 41.7
外出の付き添い（通院を含む）、送迎	① 28.8	② 48.9	② 30.8	① 43.3
代読・代筆	10.8	38.2	9.8	25.0
手話通訳・要約筆記	1.8	0.8	2.4	0.0
金銭管理や生活の見守り	13.9	① 64.9	① 32.5	② 41.7
その他	2.4	2.3	2.7	3.3
特に支援の必要はない	47.3	22.1	34.2	20.0
無回答	10.9	8.4	12.2	6.7

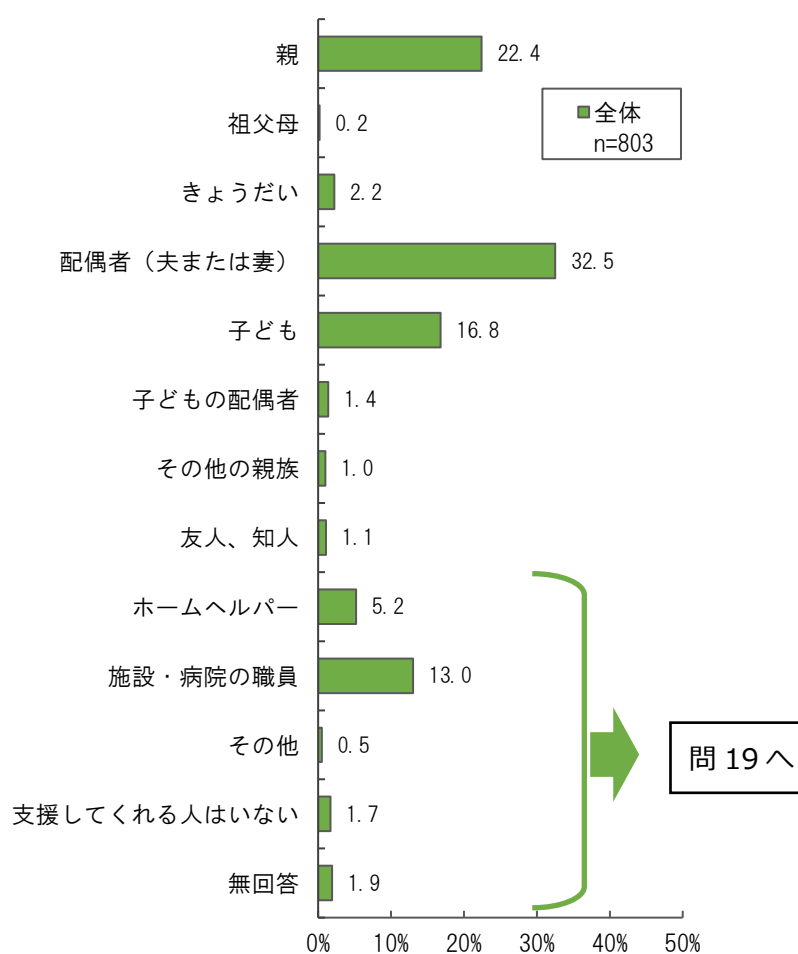
※最も高い割合に網掛けをしています。

（２）主な支援者

問16 主に支援してくれる人はどなたですか。（○は1つ）

○主に支援をしてくれる人は、「配偶者（夫または妻）」が32.5%と最も高く、次いで「親」が22.4%、「子ども」が16.8%となっています。

■ 主に支援してくれる人



○所持手帳種類別にみると、身体障がいでは「配偶者（夫または妻）」（42.6%）、知的障がい・精神障がい・重複所持では「親」（70.3%・37.3%・63.6%）が最も高くなっています。

■ 主に支援してくれる人【所持手帳種類別】

単位：％

	身体障がい n=476	知的障がい n=91	精神障がい n=158	重複所持 n=44
親	5.3	70.3	37.3	63.6
祖父母	0.0	0.0	1.3	0.0
きょうだい	1.7	4.4	2.5	4.5
配偶者（夫または妻）	42.6	0.0	27.2	9.1
子ども	25.0	0.0	3.2	11.4
子どもの配偶者	2.1	0.0	0.0	0.0
その他の親族	0.6	1.1	1.3	0.0
友人、知人	1.3	0.0	1.9	0.0
ホームヘルパー	5.3	4.4	6.3	2.3
施設・病院の職員	12.6	17.6	11.4	9.1
その他	0.6	0.0	0.6	0.0
支援してくれる人はいない	1.1	1.1	5.1	0.0
無回答	1.9	1.1	1.9	0.0

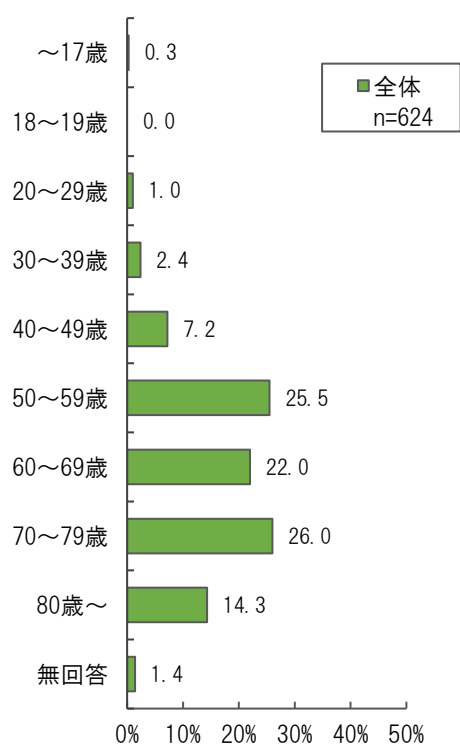
※最も高い割合に網掛けをしています。

（３）主な支援者の年齢

問17 主に支援してくれる人はいくつですか。（○は１つ）

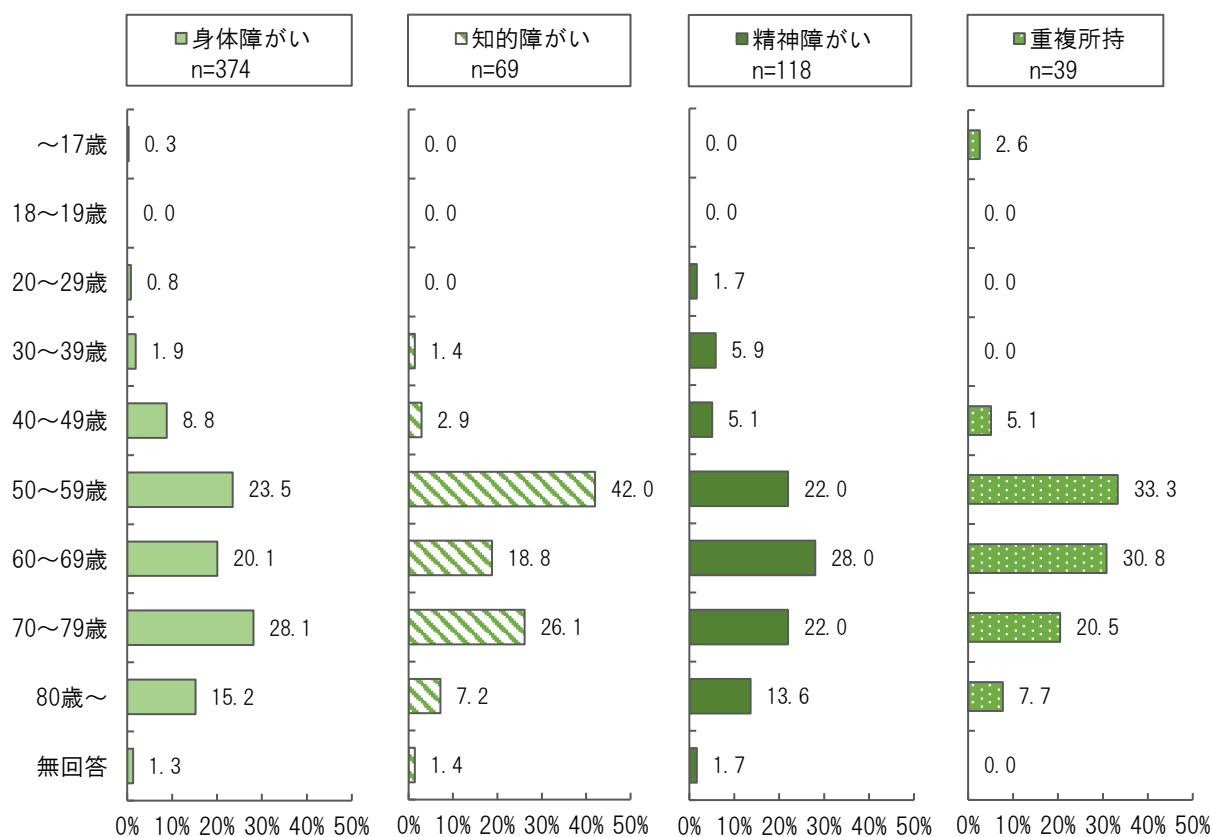
○主な支援者の年齢は、「70～79歳」が26.0%と最も高く、次いで「50～59歳」が25.5%、「60～69歳」が22.0%となり、約９割が50歳以上となっています。

■ 主な支援者の年齢



○所持手帳種類別にみると、身体障がいでは「70～79歳」（28.1%）、知的障がいでは「50～59歳」（42.0%）、精神障がいでは「60～69歳」（28.0%）、重複所持では「50～59歳」（33.3%）が最も高くなっています。

■ 主な支援者の年齢【所持手帳種類別】

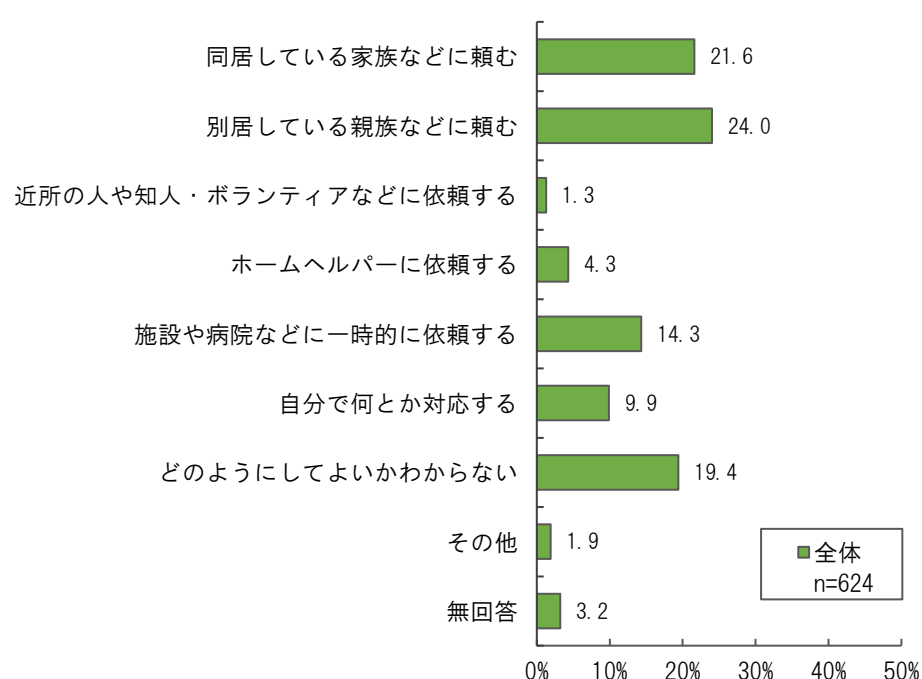


（４）主な支援者が一時的に援助できない場合の対処

問18 主に支援してくれる人が、万一急病や事故、用事などのために一時的に援助ができなくなった場合、どのようにすることになっていますか。（○は1つ）

○主な支援者が一時的に援助できない場合の対処は、「別居している親族などに頼む」が24.0%と最も高く、次いで「同居している家族などに頼む」が21.6%、「どのようにしてよいかわからない」が19.4%となっています。

■ 主な支援者が一時的に援助できない場合の対処



○所持手帳種類別にみると、身体障がいでは「別居している親族などに頼む」（25.9%）、知的障がいでは「同居している家族などに頼む」（37.7%）、精神障がいでは「どのようにしてよいかわからない」（28.8%）、重複所持では「施設や病院などに一時的に依頼する」（33.3%）が最も高くなっています。

■ 主な支援者が一時的に援助できない場合の対処【所持手帳種類別】

単位：％

	身体障がい n=374	知的障がい n=69	精神障がい n=118	重複所持 n=39
同居している家族などに頼む	19.3	37.7	19.5	25.6
別居している親族などに頼む	25.9	18.8	22.9	17.9
近所の人や知人・ボランティアなどに依頼する	0.5	1.4	3.4	0.0
ホームヘルパーに依頼する	5.3	4.3	0.8	7.7
施設や病院などに一時的に依頼する	13.1	20.3	6.8	33.3
自分で何とか対応する	11.0	1.4	13.6	7.7
どのようにしてよいかわからない	18.7	14.5	28.8	5.1
その他	2.1	1.4	1.7	0.0
無回答	4.0	0.0	2.5	2.6

※最も高い割合に網掛けをしています。

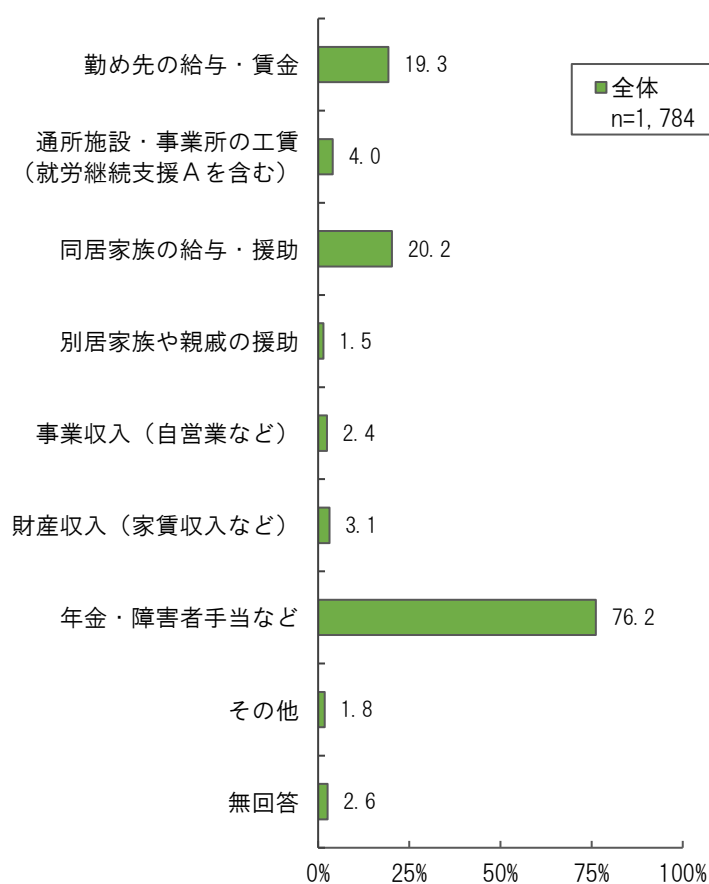
5 収入の状況について

（1）収入の状況

問19 あなたが生活していくうえでの収入は次のうちどれですか。（○はいくつでも）

○収入は、「年金・障害者手当など」が76.2%と最も高く、次いで「同居家族の給与・援助」が20.2%、「勤め先の給与・賃金」が19.3%となっています。

■ 収入の状況



○所持手帳種類別にみると、身体障がいでは「年金・障害者手当など」が81.8%と最も高く、次いで「勤め先の給与・賃金」が14.7%となっています。

知的障がいでは「年金・障害者手当など」が61.8%と最も高く、次いで「同居家族の給与・援助」が36.6%となっています。

精神障がいでは「年金・障害者手当など」が69.5%と最も高く、次いで「同居家族の給与・援助」が32.2%となっています。

重複所持では「年金・障害者手当など」が75.0%と最も高く、次いで「同居家族の給与・援助」が31.7%となっています。

■ 収入の状況【所持手帳種類別】

単位：％

	身体障がい n = 1,139	知的障がい n = 131	精神障がい n = 295	重複所持 n = 60
勤め先の給与・賃金	14.7	30.5	26.4	20.0
通所施設・事業所の工賃 （就労継続支援 A を含む）	0.6	21.4	9.8	11.7
同居家族の給与・援助	14.0	36.6	32.2	31.7
別居家族や親戚の援助	1.6	0.0	2.0	3.3
事業収入（自営業など）	2.9	0.0	1.4	0.0
財産収入（家賃収入など）	4.1	0.8	1.0	1.7
年金・障害者手当など	81.8	61.8	69.5	75.0
その他	1.4	0.8	5.1	0.0
無回答	2.2	3.1	3.1	1.7

※最も高い割合に網掛けをしています。

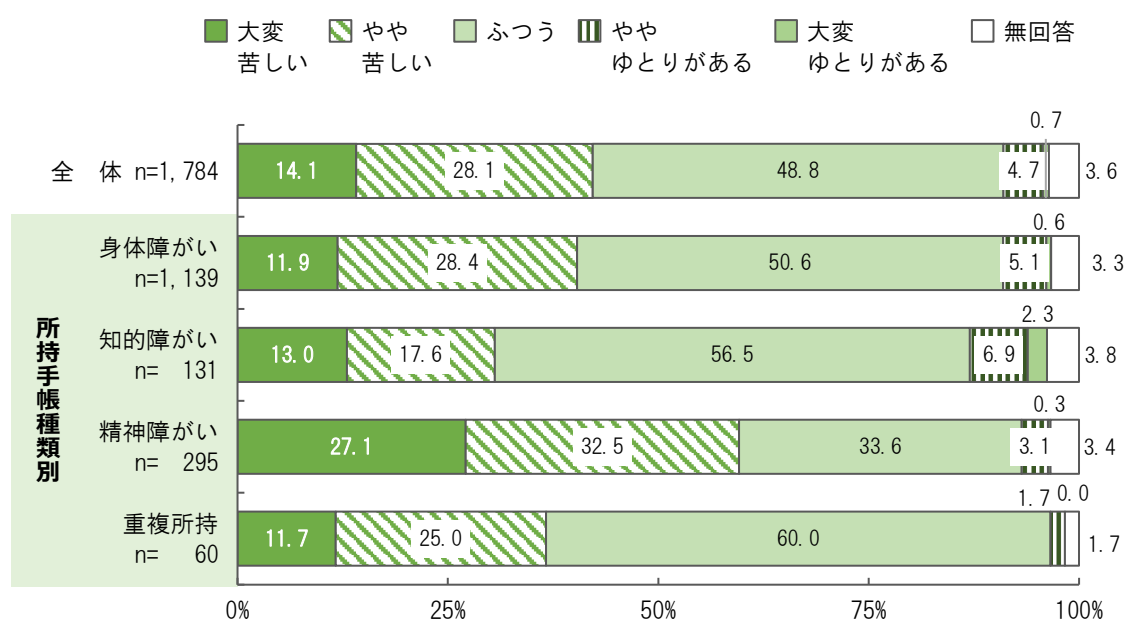
（２）経済的にみた暮らしの状況

問20 あなたは現在の暮らしの状況を経済的にみてどう感じていますか。（○は1つ）

○暮らしの状況は、「ふつう」が48.8%と最も高く、「大変苦しい」と「やや苦しい」を合わせた『苦しい』は42.2%、「ややゆとりがある」と「大変ゆとりがある」を合わせた『ゆとりがある』は5.4%となっています。

○所持手帳種類別にみると、『苦しい』は身体障がいでは40.3%、知的障がいでは30.6%、精神障がいでは59.6%、重複障がいでは36.7%となり、精神障がいの割合が最も高くなっています。

■ 経済的にみた暮らしの状況【所持手帳種類別】



6 医療について

（１）病気等の治療状況

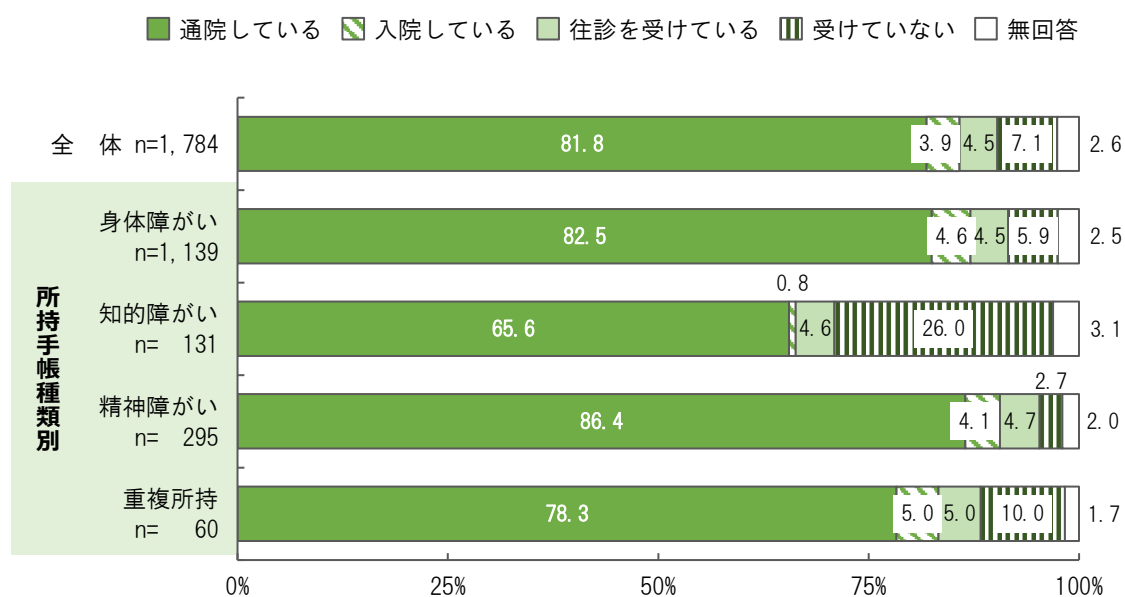
問21 あなたは現在、病院などでなんらかの治療を受けていますか。（○は1つ）

○病院などでの治療状況をみると、「通院している」が81.8%と最も高く、「入院している」は3.9%、「往診を受けている」は4.5%となっています。一方、「受けていない」は7.1%となっています。

○所持手帳種類別にみると、いずれも「通院している」が最も高く、特に精神障がいは86.4%と高くなっています。

一方、「受けていない」は知的障がいで26.0%と最も高くなっています。

■ 病気等の治療状況【所持手帳種類別】



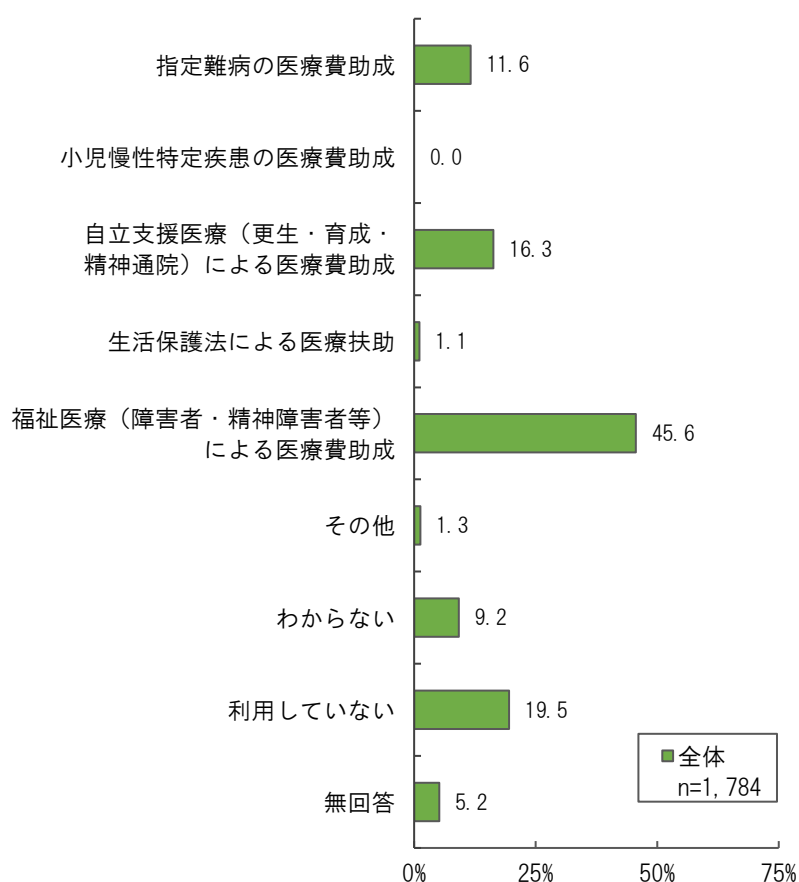
（２）医療費助成の利用状況

問22 あなたは現在の医療費助成の利用状況は次のどれですか。（○はいくつでも）

○医療費助成の利用状況は、「福祉医療（障害者・精神障害者等）による医療費助成」が45.6%と最も高く、次いで「自立支援医療（更生・育成・精神通院）による医療費助成」が16.3%となっています。

一方、「利用していない」も19.5%と高くなっています。

■ 医療費助成の利用状況



○所持手帳種類別にみると、身体障がい・知的障がい・重複所持では「福祉医療（障害者・精神障害者等）による医療費助成」（47.5%・61.1%・76.7%）、精神障がいでは「自立支援医療（更生・育成・精神通院）による医療費助成」（75.3%）が最も高くなっています。

■ 医療費助成の利用状況【所持手帳種類別】

単位：％

	身体障がい n = 1,139	知的障がい n = 131	精神障がい n = 295	重複所持 n = 60
指定難病の医療費助成	11.2	0.0	2.4	8.3
小児慢性特定疾患の医療費助成	0.0	0.0	0.0	0.0
自立支援医療（更生・育成・精神通院）による医療費助成	3.7	6.1	75.3	25.0
生活保護法による医療扶助	0.6	0.8	3.1	3.3
福祉医療（障害者・精神障害者等）による医療費助成	47.5	61.1	45.4	76.7
その他	1.5	1.5	1.0	0.0
わからない	11.5	9.2	3.7	1.7
利用していない	22.7	18.3	2.7	5.0
無回答	5.7	4.6	2.7	1.7

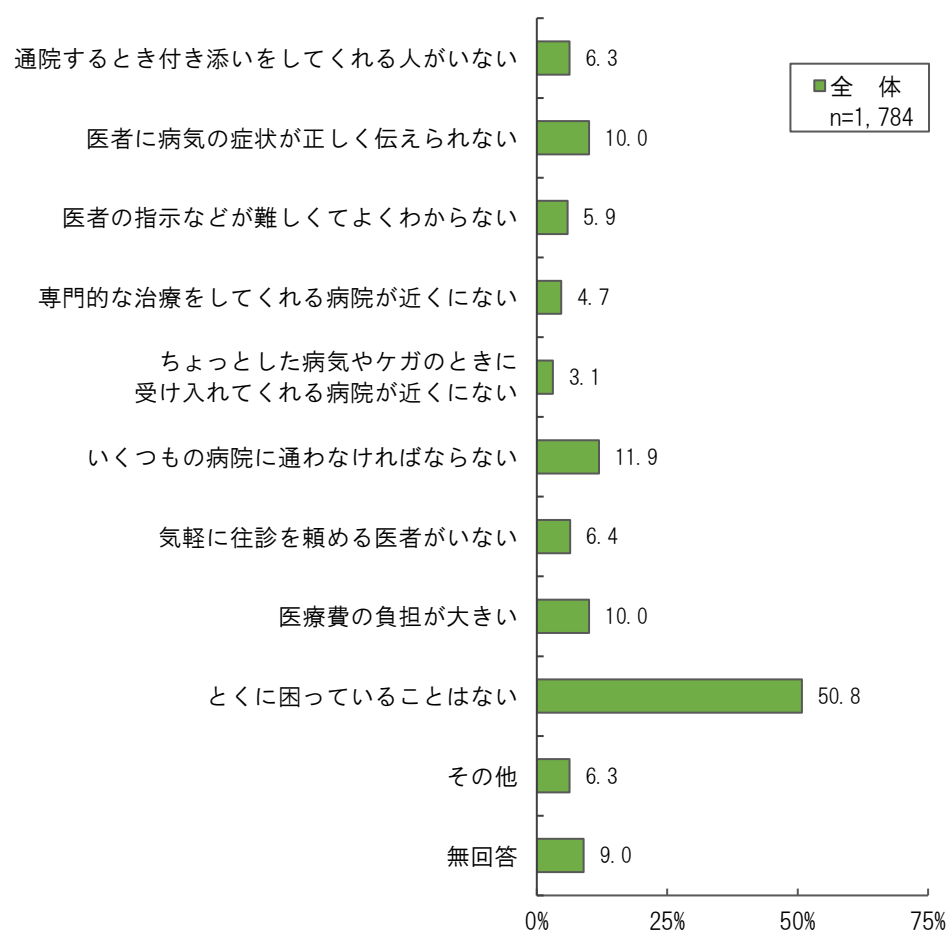
※最も高い割合に網掛けをしています。

（３）医療に関して困っていること

問23 医療のことで、なにか困っていることがありますか。（○はいくつでも）

○医療のことで困っていることをみると、「とくに困っていることはない」が50.8%と最も高いものの、「いくつもの病院に通わなければならない」（11.9%）、「医者に病気の症状が正しく伝えられない」「医療費の負担が大きい」（各10.0%）は1割以上が困っていることとしてあげています。

■ 医療に関して困っていること



○所持手帳種類別にみると、いずれも「とくに困っていることはない」が最も高くなっています。

また、身体障がいでは「いくつかの病院に通わなければならない」（11.2%）、知的障がいでは「医者に病気の症状が正しく伝えられない」（31.3%）、「医者の指示などが難しくてよくわからない」（21.4%）、精神障がいでは「医者に病気の症状が正しく伝えられない」（16.6%）、重複所持では「医者に病気の症状が正しく伝えられない」「いくつかの病院に通わなければならない」（各21.7%）を困っていることの上位としてあげています。

■ 医療に関して困っていること【所持手帳種類別】

単位：％

	身体障がい n=1,139	知的障がい n=131	精神障がい n=295	重複所持 n=60
通院するとき付き添いをしてくれる人がいない	5.7	10.7	6.8	8.3
医者に病気の症状が正しく伝えられない	6.1	31.3	16.6	21.7
医者の指示などが難しくてよくわからない	4.2	21.4	6.8	11.7
専門的な治療をしてくれる病院が近くにない	3.7	6.1	9.2	5.0
ちょっとした病気やケガのときに受け入れてくれる病院が近くにない	2.7	4.6	2.7	13.3
いくつかの病院に通わなければならない	11.2	9.9	15.9	21.7
気軽に往診を頼める医者がない	6.6	6.1	5.8	15.0
医療費の負担が大きい	9.1	6.1	6.8	8.3
とくに困っていることはない	55.4	45.8	40.0	28.3
その他	4.8	3.1	13.2	8.3
無回答	9.4	7.6	6.1	10.0

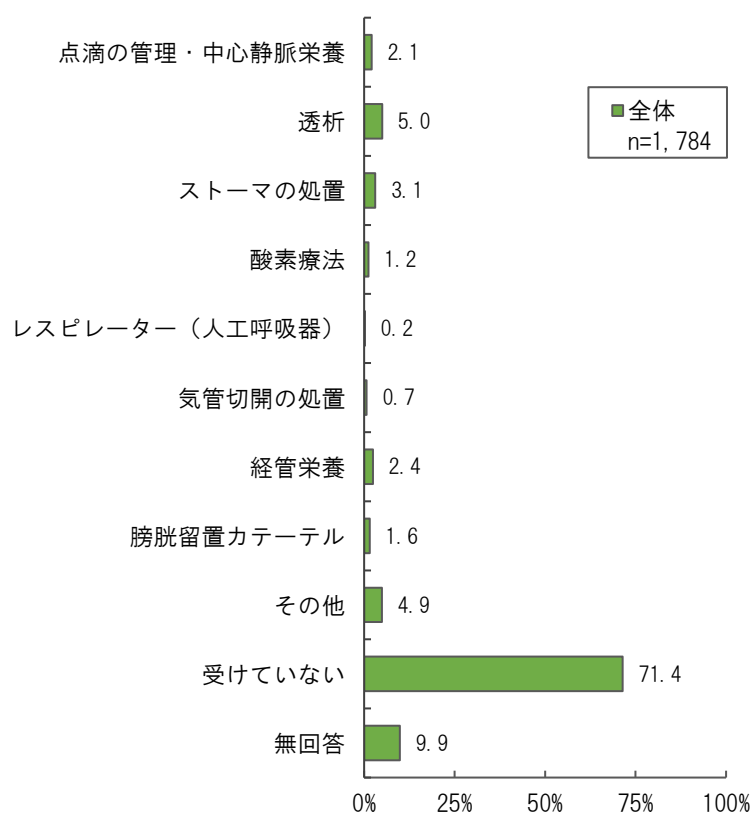
※最も高い割合に網掛けをしています。

（４）医療的支援の状況

問24 あなたは、ふだん次のような、医療的支援を受けていますか。（○はいいくつでも）

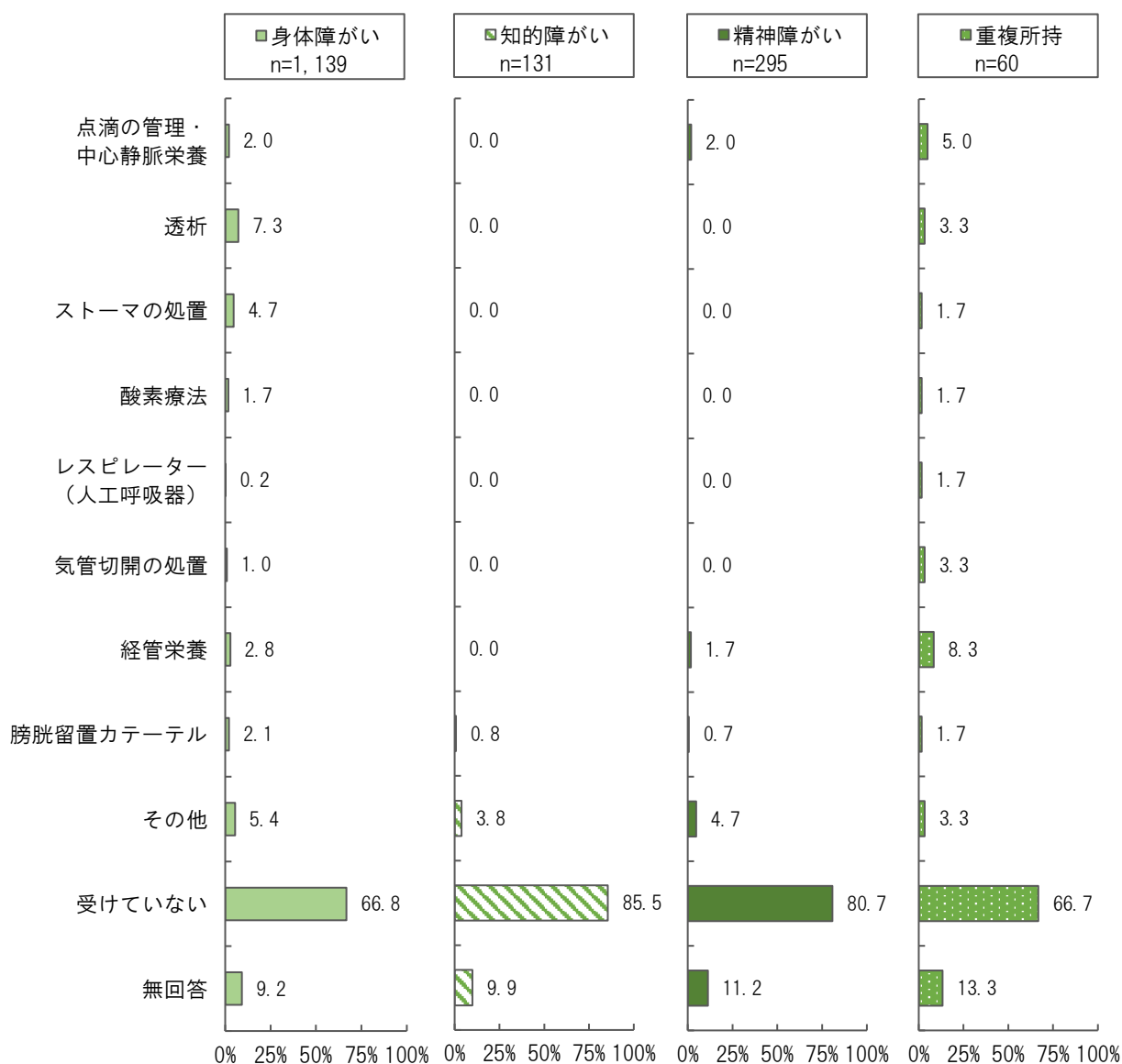
○医療的支援は、「受けていない」が71.4%と最も高くなっています。また、受けている支援をみると、「透析」が5.0%、「ストーマの処置」が3.1%となっています。

■ ふだん受けている医療的支援



○所持手帳種類別にみると、いずれも「受けていない」が最も高くなっています。
また、受けている支援は、身体障がいでは「透析」が7.3%、重複所持では「経管栄養」が8.3%となっています。

■ ふだん受けている医療的支援【所持手帳種類別】



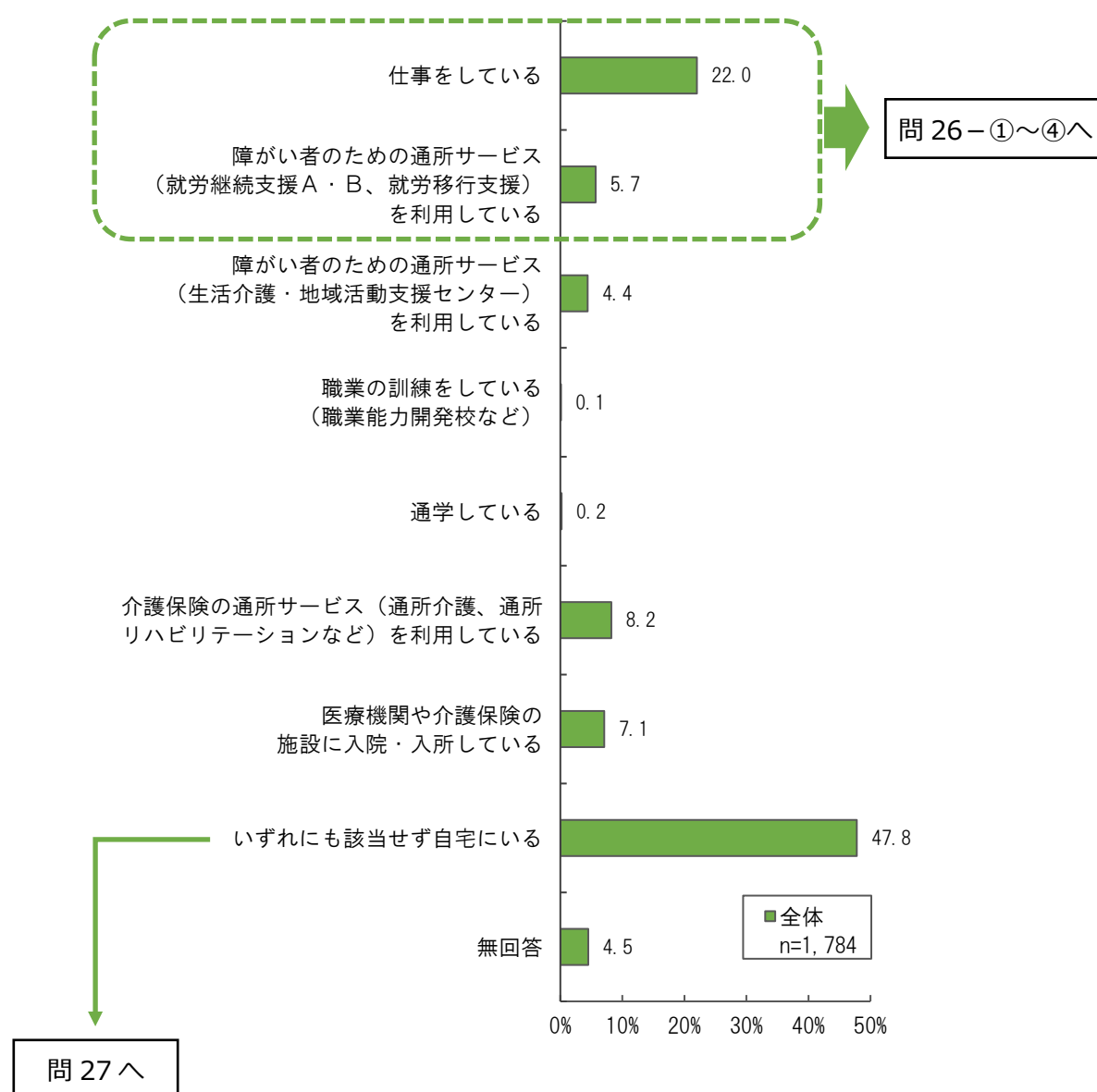
7 日中の活動について

（1）日中の過ごし方

問25 現在、日中は主にどのように過ごしていますか。（○は1つ）

○日中の主な過ごし方をみると、「いずれにも該当せず自宅にいる」が47.8%と最も高く、次いで「仕事をしている」が22.0%、「介護保険の通所サービス（通所介護、通所リハビリテーションなど）を利用している」が8.2%となっています。

■ 日中の過ごし方



○所持手帳種類別にみると、身体障がいでは「いずれにも該当せず自宅にいる」が54.7%と最も高く、次いで「仕事をしている」が18.5%、「介護保険の通所サービス（通所介護、通所リハビリテーションなど）を利用している」が11.0%となっています。

知的障がいでは「仕事をしている」が29.8%と最も高く、次いで「障がい者のための通所サービス（就労継続支援 A・B、就労移行支援）を利用している」が26.0%、「障がい者のための通所サービス（生活介護・地域活動支援センター）を利用している」が25.2%となっています。

精障がいでは「いずれにも該当せず自宅にいる」が42.7%と最も高く、次いで「仕事をしている」が26.8%、「障がい者のための通所サービス（就労継続支援 A・B、就労移行支援）を利用している」が14.9%となっています。

重複所持では「いずれにも該当せず自宅にいる」が26.7%と最も高く、次いで「障がい者のための通所サービス（生活介護・地域活動支援センター）を利用している」が23.3%、「仕事をしている」が16.7%となっています。

■ 日中の過ごし方【所持手帳種類別】

単位：%

	身体 障がい n=1,139	知的 障がい n=131	精神 障がい n=295	重複 所持 n=60
仕事をしている	18.5	29.8	26.8	16.7
障がい者のための通所サービス（就労継続支援 A・B、就労移行支援）を利用している	1.1	26.0	14.9	15.0
障がい者のための通所サービス（生活介護・地域活動支援センター）を利用している	1.8	25.2	3.4	23.3
職業の訓練をしている（職業能力開発校など）	0.0	0.8	0.0	0.0
通学している	0.2	0.8	0.0	1.7
介護保険の通所サービス（通所介護、通所リハビリテーションなど）を利用している	11.0	0.0	2.7	1.7
医療機関や介護保険の施設に入院・入所している	8.0	3.1	7.1	6.7
いずれにも該当せず自宅にいる	54.7	11.5	42.7	26.7
無回答	4.8	3.1	2.4	8.3

※最も高い割合に網掛けをしています。

（２）仕事の状況

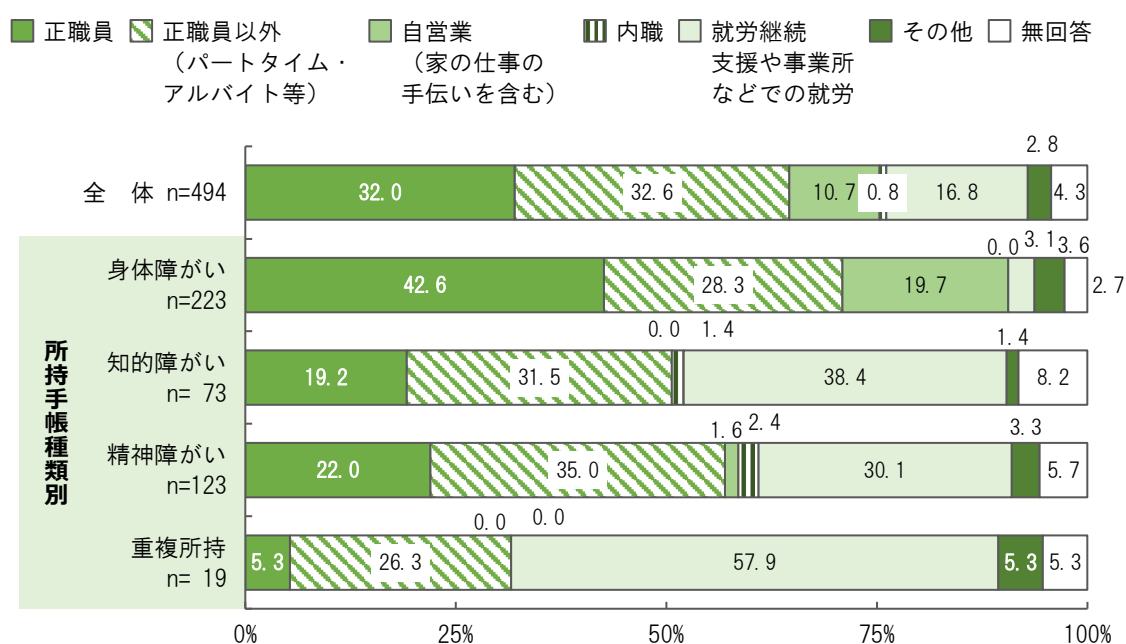
問25で「1. 仕事をしている」または「2. 障がい者のための通所サービスを利用している」と答えた方のみ

問26－① 仕事は何をされていますか。（○は1つ）

○雇用形態等仕事の状況は、「正職員以外（パートタイム・アルバイト等）」が32.6%と最も高く、次いで「正職員」が32.0%、「就労継続支援や事業所などでの就労」が16.8%となっています。

○所持手帳種類別にみると、身体障がいでは「正職員」（42.6%）、知的障がい・重複所持では「就労継続支援や事業所などでの就労」（38.4%・57.9%）、精神障がいでは「正職員以外（パートタイム・アルバイト等）」（35.0%）が最も高くなっています。

■ 雇用形態等仕事の状況【所持手帳種類別】

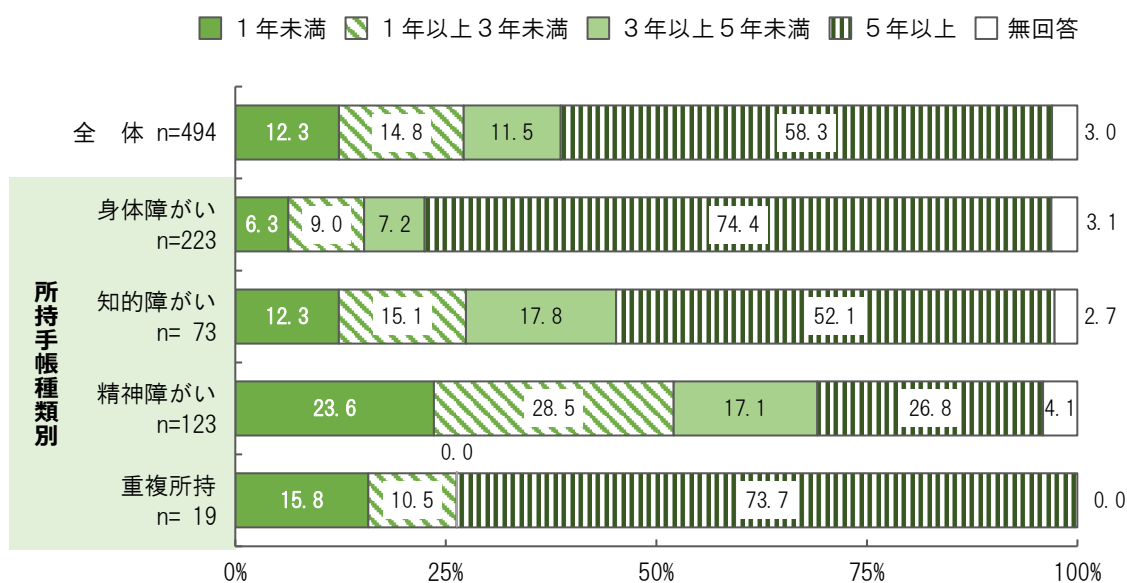


問26-② 現在の仕事に従事している期間はどれくらいですか。（○は1つ）

○現在の仕事に従事している期間は、「5年以上」が58.3%と最も高く、次いで「1年以上3年未満」が14.8%、「1年未満」が12.3%となっています。

○所持手帳種類別にみると、身体障がい・知的障がい・重複所持では「5年以上」（74.4%・52.1%・73.7%）、精神障がいでは「1年以上3年未満」（28.5%）が最も高くなっています。

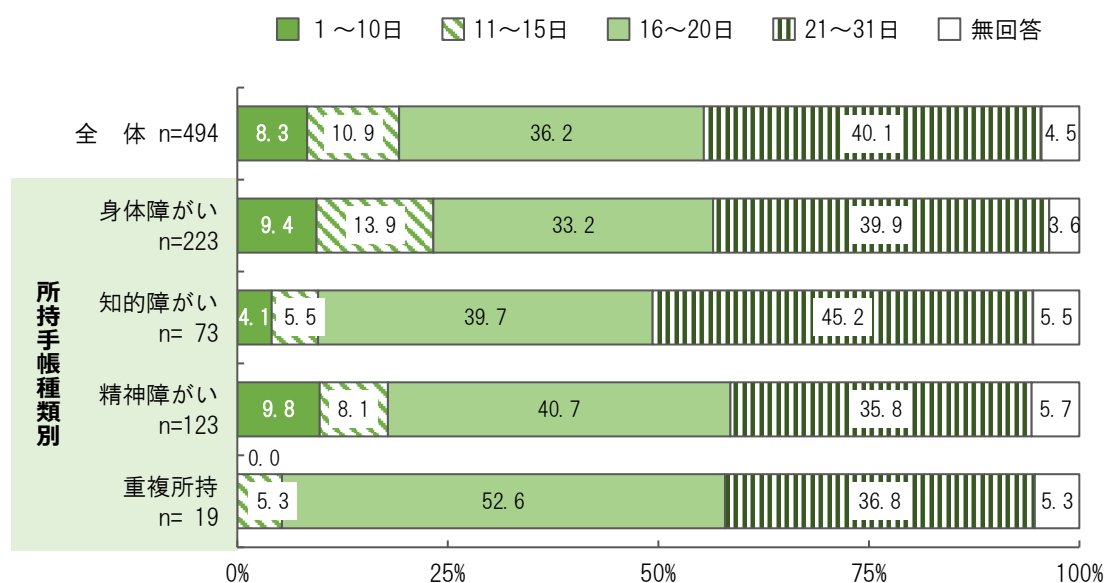
■ 仕事に従事している期間【所持手帳種類別】



問26－③ 1か月に働く日数はどの程度ですか。（○は1つ）

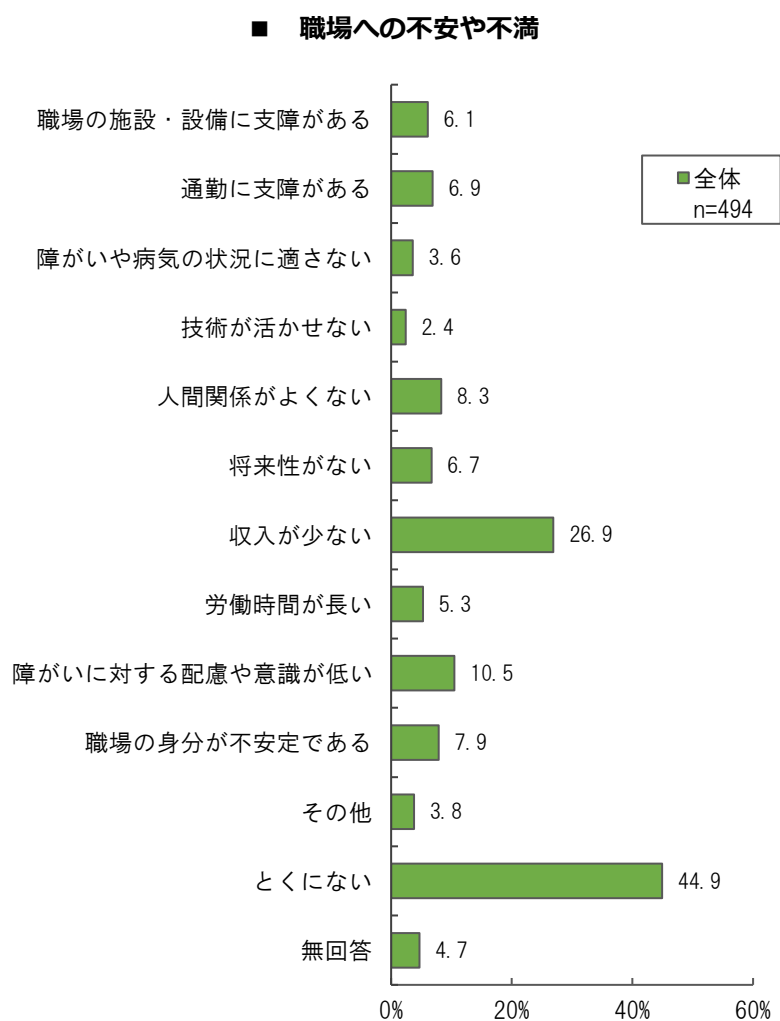
- 1か月あたりの働く日数は、「21～31日」が40.1%と最も高く、次いで「16～20日」が36.2%、「11～15日」が10.9%となっています。
- 所持手帳種類別にみると、身体障がい・知的障がいでは「21～31日」（39.9%・45.2%）、精神障がい・重複所持では「16～20日」（40.7%・52.6%）が最も高くなっています。

■ 1か月あたりの働く日数【所持手帳種類別】



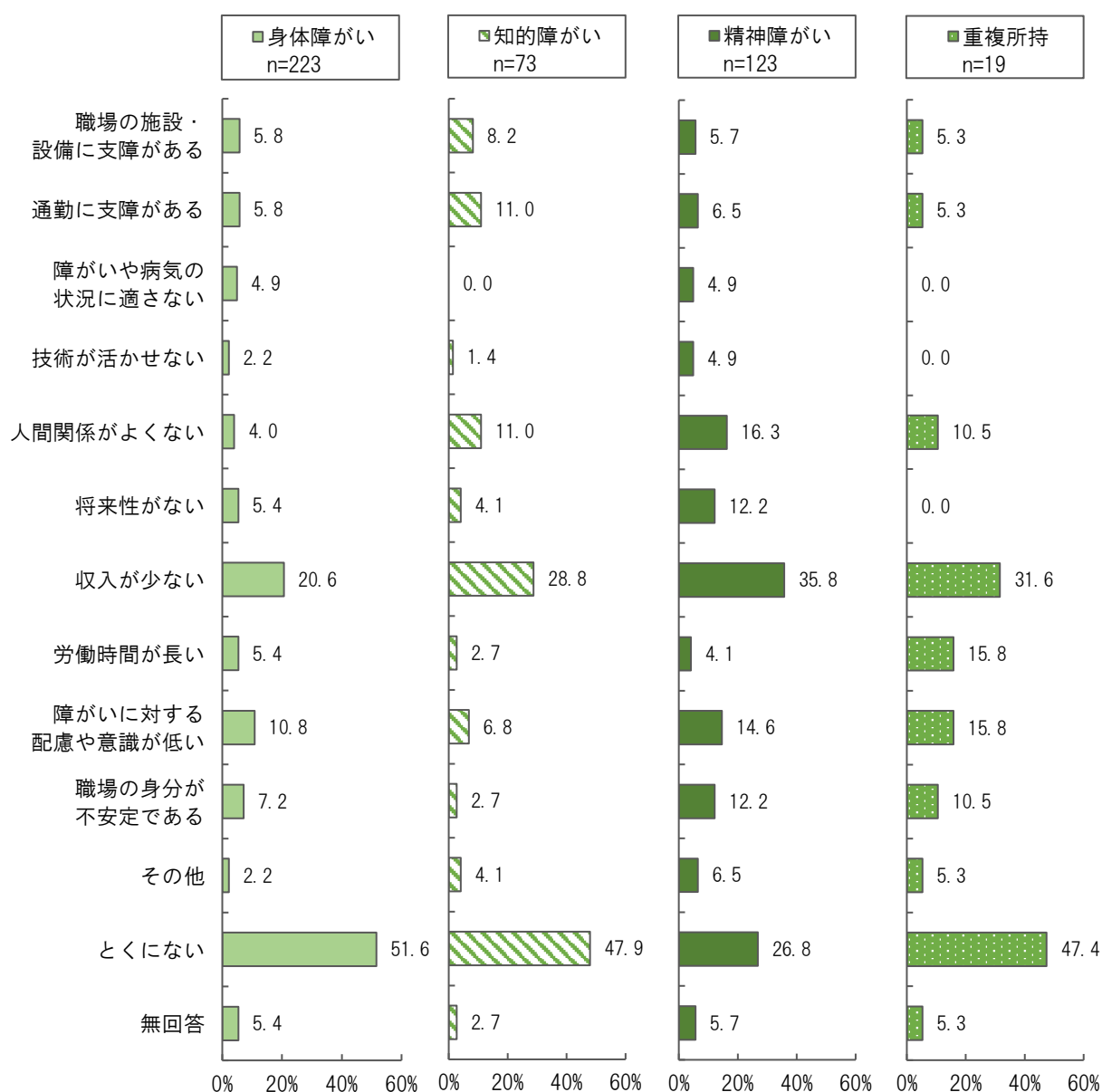
問26－④ 現在の職場について不安や不満はありますか。（○は3つまで）

○職場への不安や不満をみると、「とくにない」が44.9%と最も高いものの、「収入が少ない」も26.9%と高くなっています。



○所持手帳種類別にみると、身体障がいでは「とくにない」が51.6%と最も高く、次いで「収入が少ない」が20.6%、「障がいに対する配慮や意識が低い」が10.8%となっています。
知的障がいでは「とくにない」が47.9%と最も高く、次いで「収入が少ない」が28.8%、「通勤に支障がある」「人間関係がよくない」が各11.0%となっています。
精神障がいでは「収入が少ない」が35.8%と最も高く、次いで「とくにない」が26.8%、「人間関係がよくない」が16.3%となっています。
重複所持では「とくにない」が47.4%と最も高く、次いで「収入が少ない」が31.6%、「労働時間が長い」「障がいに対する配慮や意識が低い」が各15.8%となっています。

■ 職場への不安や不満【所持手帳種類別】



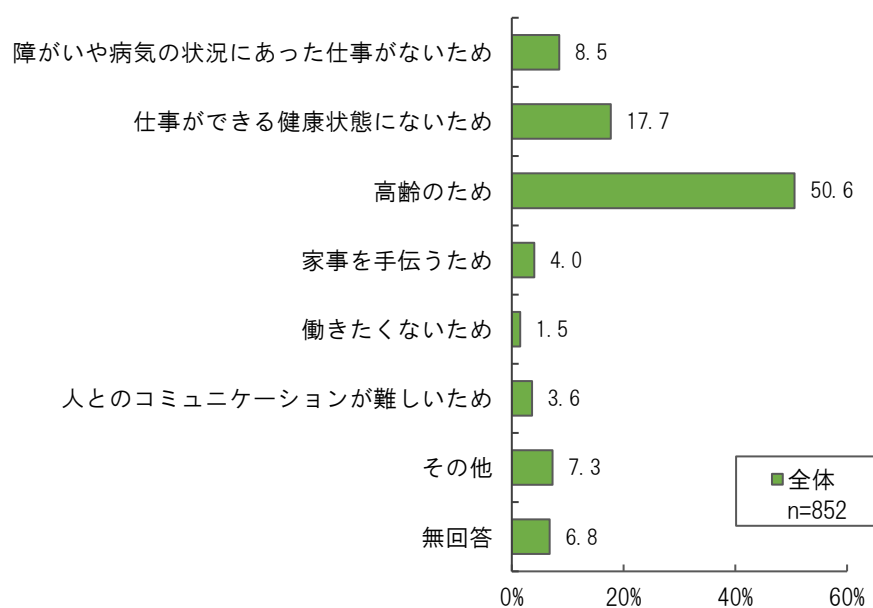
（３）日中を自宅で過ごす理由

問25で「８．いずれにも該当せず自宅にいる」と答えた方のみ

問27 自宅にいる主な理由は何ですか。（○は１つ）

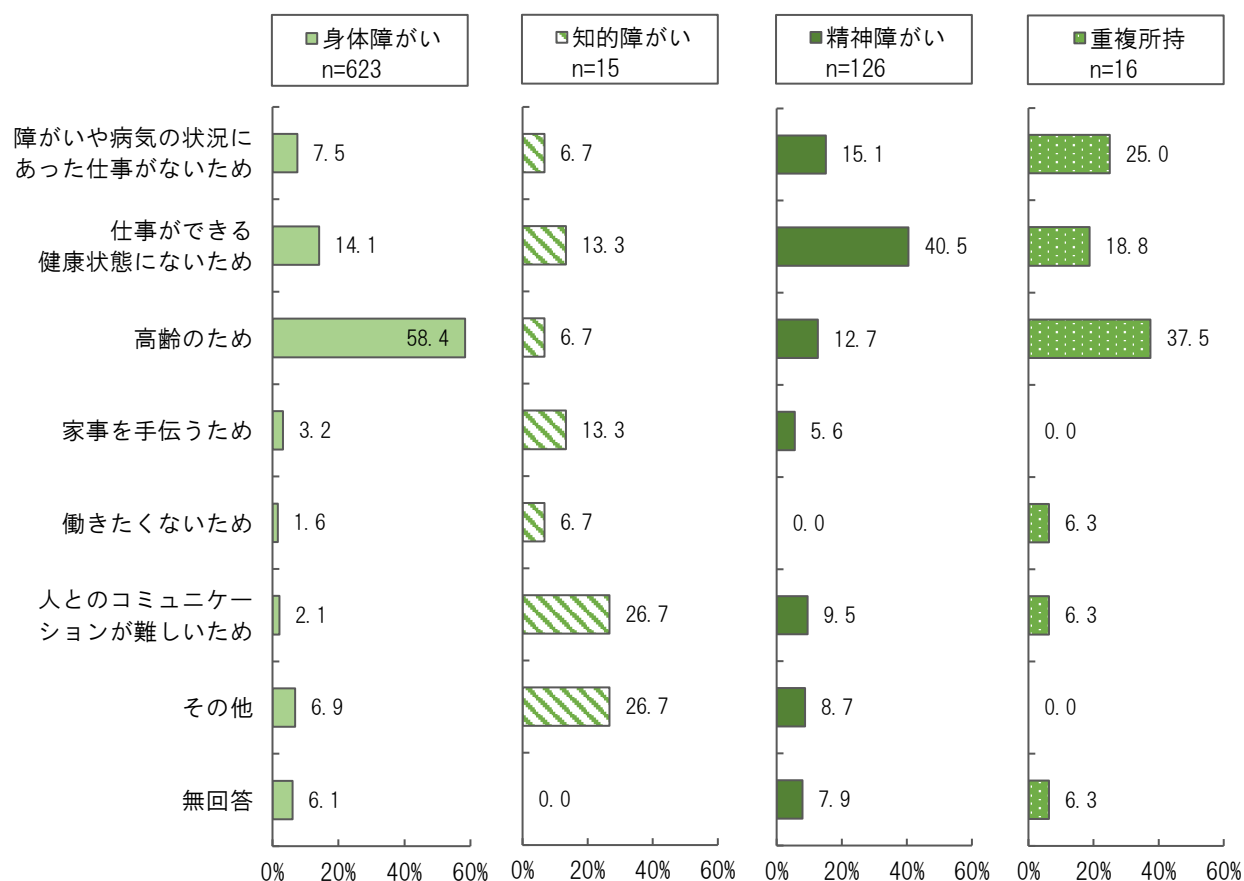
○自宅にいる主な理由は、「高齢のため」が50.6%と最も高く、次いで「仕事ができる健康状態にないため」が17.7%、「障がいや病気の状況にあった仕事がないため」が8.5%となっています。

■ 日中を自宅で過ごす主な理由



○所持手帳種類別にみると、身体障がいでは「高齢のため」（58.4%）、精神障がいでは「仕事ができる健康状態にないため」が40.5%と最も高くなっています。

■ 日中を自宅で過ごす主な理由【所持手帳種類別】



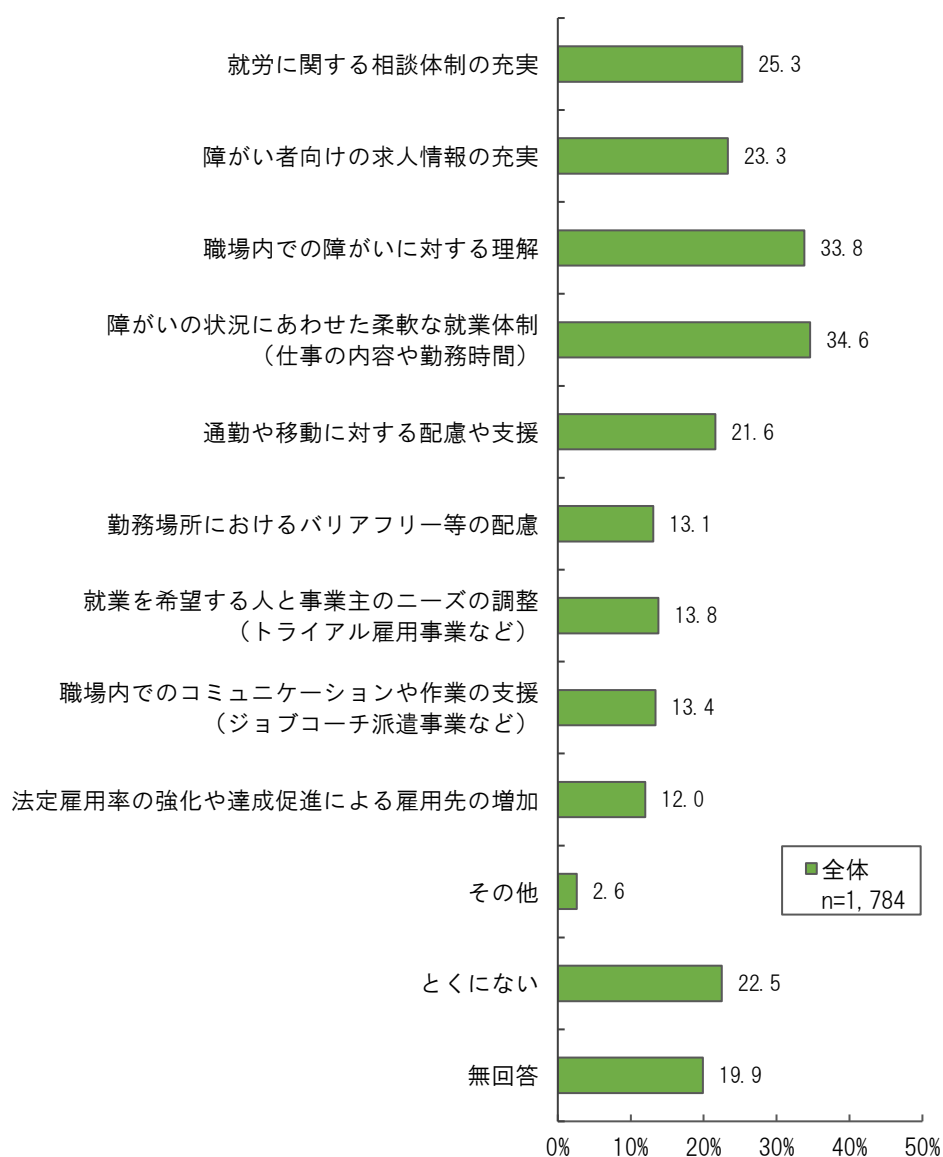
（４）就労促進に必要な配慮

問28 あなたは障がいのある人の就労を促進するために、どのような配慮が必要であると思いますか。（〇は5つまで）

○就労促進に必要な配慮は、「障がいの状況にあわせた柔軟な就業体制（仕事の内容や勤務時間）」が34.6%と最も高く、次いで「職場内での障がいに対する理解」が33.8%、「就労に関する相談体制の充実」が25.3%となっています。

○このように職場での仕事内容や障がいの理解など働きやすさへの配慮が求められています。事業所の調査においても、障がい者の調査結果と同様に職場での仕事内容や障がいの理解の配慮が必要と回答しており、労働者、事業者ともに重要な配慮であることと認識していることが分かりました。

■ 障がいのある人の就労促進に必要な配慮



○所持手帳種類別にみると、身体障がいでは「障がいの状況にあわせた柔軟な就業体制（仕事の内容や勤務時間）」（30.4%）、知的障がい・精神障がい・重複所持では「職場内での障がいに対する理解」（44.3%・47.8%・33.3%）が最も高くなっています。

■ 障がいのある人の就労促進に必要な配慮【所持手帳種類別】

単位：%

	身体 障がい n=1,139	知的 障がい n=131	精神 障がい n=295	重複 所持 n=60
就労に関する相談体制の充実	22.2	29.8	34.6	30.0
障がい者向けの求人情報の充実	21.2	27.5	32.5	23.3
職場内での障がいに対する理解	28.1	44.3	47.8	33.3
障がいの状況にあわせた柔軟な就業体制 （仕事の内容や勤務時間）	30.4	43.5	47.1	28.3
通勤や移動に対する配慮や支援	20.0	31.3	22.4	31.7
勤務場所におけるバリアフリー等の配慮	14.5	8.4	4.7	28.3
就業を希望する人と事業主のニーズの調整 （トライアル雇用事業など）	11.7	15.3	20.0	10.0
職場内でのコミュニケーションや作業の支援 （ジョブコーチ派遣事業など）	9.3	26.0	23.7	20.0
法定雇用率の強化や達成促進による雇用先の増加	11.9	12.2	13.9	15.0
その他	2.0	3.1	5.1	1.7
とくにない	25.0	14.5	16.9	18.3
無回答	23.1	14.5	10.8	13.3

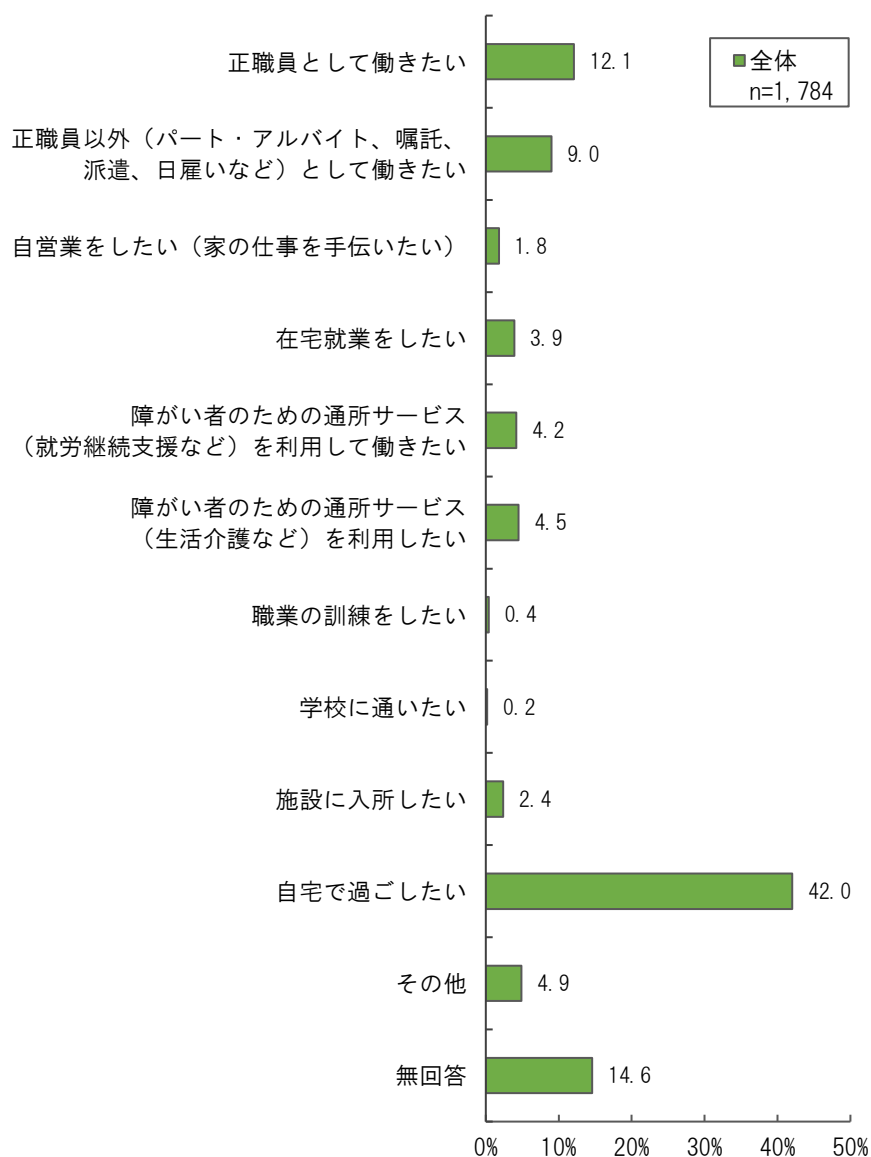
※最も高い割合に網掛けをしています。

（５）日中の過ごし方に関する今後の意向

問29 今後、主に日中をどのように過ごしたいですか。（○は1つ）

○日中の過ごし方に関する今後の意向をみると、「自宅で過ごしたい」が42.0%と最も高く、次いで「正職員として働きたい」が12.1%、「正職員以外（パート・アルバイト、嘱託、派遣、日雇いなど）として働きたい」が9.0%となっています。

■ 日中の過ごし方に関する今後の意向



○所持手帳種類別にみると、身体障がい・精神障がい・重複所持では「自宅で過ごしたい」（50.9%・26.8%・25.0%）、知的障がいでは「正職員として働きたい」（19.8%）が最も高くなっています。

■ 日中の過ごし方に関する今後の意向【所持手帳種類別】

単位：％

	身体 障がい n=1,139	知的 障がい n=131	精神 障がい n=295	重複 所持 n=60
正職員として働きたい	8.9	19.8	22.0	1.7
正職員以外（パート・アルバイト、嘱託、派遣、日雇いなど）として働きたい	6.7	13.0	12.5	11.7
自営業をしたい（家の仕事を手伝いたい）	1.9	0.0	1.7	0.0
在宅就業をしたい	3.9	0.0	6.4	0.0
障がい者のための通所サービス（就労継続支援など）を利用して働きたい	1.0	16.0	11.2	16.7
障がい者のための通所サービス（生活介護など）を利用したい	3.4	17.6	1.7	21.7
職業の訓練をしたい	0.3	2.3	0.3	0.0
学校に通いたい	0.1	0.8	0.7	0.0
施設に入所したい	1.9	6.1	2.0	3.3
自宅で過ごしたい	50.9	9.9	26.8	25.0
その他	5.4	4.6	4.4	5.0
無回答	15.7	9.9	10.2	15.0

※最も高い割合に網掛けをしています。

8 これからの生活について

（１）暮らし方に関する今後の意向

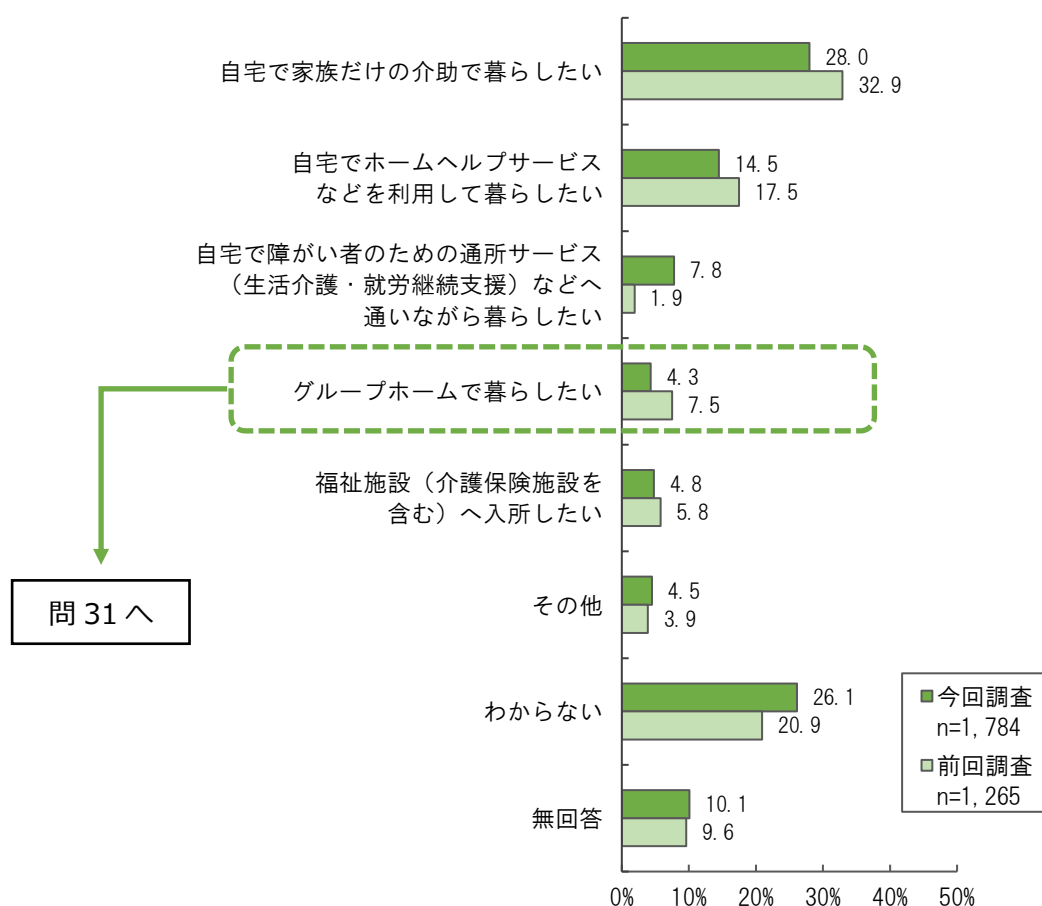
問30 今後どこでどのように暮らしたいとお考えですか。（○は1つ）

○暮らし方に関する今後の意向をみると、「自宅で家族だけの介助で暮らしたい」が28.0%と最も高く、次いで「わからない」が26.1%、「自宅でホームヘルプサービスなどを利用して暮らしたい」が14.5%となっています。

また、「グループホームで暮らしたい」は4.3%となっています。

○前回調査と比較すると、「自宅で障がい者のための通所サービス（生活介護・就労継続支援）などへ通いながら暮らしたい」が5.9ポイント高くなっています。

■ 暮らし方に関する今後の意向【前回調査比較】



○所持手帳種類別にみると、身体障がい・精神障がいでは「自宅で家族だけの介助で暮らしたい」（30.4%・31.5%）、知的障がいでは「グループホームで暮らしたい」（26.0%）、重複所持では「自宅で障がい者のための通所サービス（生活介護・就労継続支援）などへ通いながら暮らしたい」（30.0%）が最も高くなっています。

■ 暮らし方に関する今後の意向【所持手帳種類別】

単位：％

	身体 障がい n=1,139	知的 障がい n=131	精神 障がい n=295	重複 所持 n=60
自宅で家族だけの介助で暮らしたい	30.4	15.3	31.5	15.0
自宅でホームヘルプサービスなどを利用して暮らしたい	16.4	7.6	9.5	8.3
自宅で障がい者のための通所サービス（生活介護・就労継続支援）などへ通いながら暮らしたい	5.9	13.7	11.2	30.0
グループホームで暮らしたい	1.8	26.0	4.4	11.7
福祉施設（介護保険施設を含む）へ入所したい	5.6	7.6	1.4	3.3
その他	4.0	0.8	7.1	3.3
わからない	24.9	18.3	28.5	21.7
無回答	11.0	10.7	6.4	6.7

※最も高い割合に網掛けをしています。

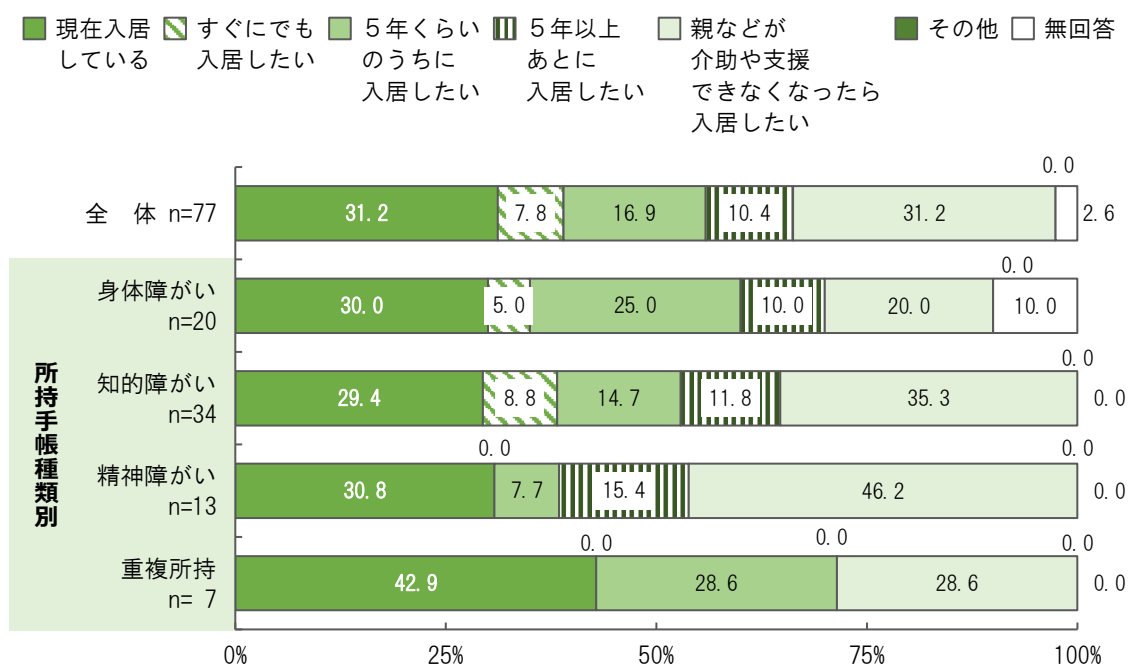
（２）グループホームへの入居希望時期

問30で「４．グループホームで暮らしたい」と答えた方のみ

問31 いつ頃からグループホームに入居したいと思いますか。（○は１つ）

- グループホームでの生活を希望する方の入居のタイミングは、「現在入居している」「親などが介助や支援できなくなったら入居したい」が各31.2%と最も高く、次いで「5年くらいのうちに入居したい」が16.9%となっています。
- 所持手帳種類別にみると、知的障がいでは「親などが介助や支援できなくなったら入居したい」が35.3%となっています。
- グループホーム入居希望者で「親などが介助や支援できなくなったら入居したい」という割合が約３割を占めており、親などの支援がなくなる万一の事態に備えて、グループホームの入居体験など機会を増やし、円滑な入居につなげていく必要があります。

■ 入居希望時期【所持手帳種類別】



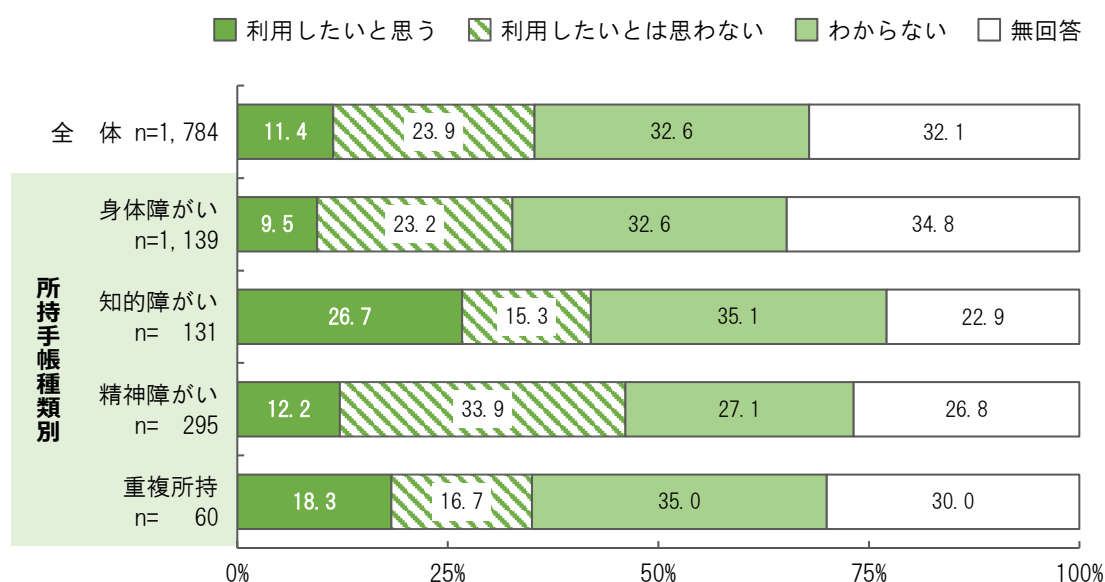
（３）グループホームなどを活用した一人暮らし体験

問32 あなたは、グループホームなどを活用した一人暮らしの体験の場があれば、利用したいと思いますか。（○は1つ）

○一人暮らし体験を「利用したいと思う」は11.4%、「利用したいとは思わない」は23.9%となっています。

○所持手帳種類別にみると、「利用したいと思う」は身体障がいでは9.5%、知的障がいでは26.7%、精神障がいでは12.2%、重複所持では18.3%となっています。

■ 一人暮らし体験の利用意向【所持手帳種類別】



9 外出について

（１）外出の頻度

問33 あなたはどれくらいの頻度で外出していますか。（○は１つ）

○外出の頻度は、「週に４日以上」が43.2%と最も高く、次いで「週に２、３日」が27.0%、「週に１日」が8.5%となっています。

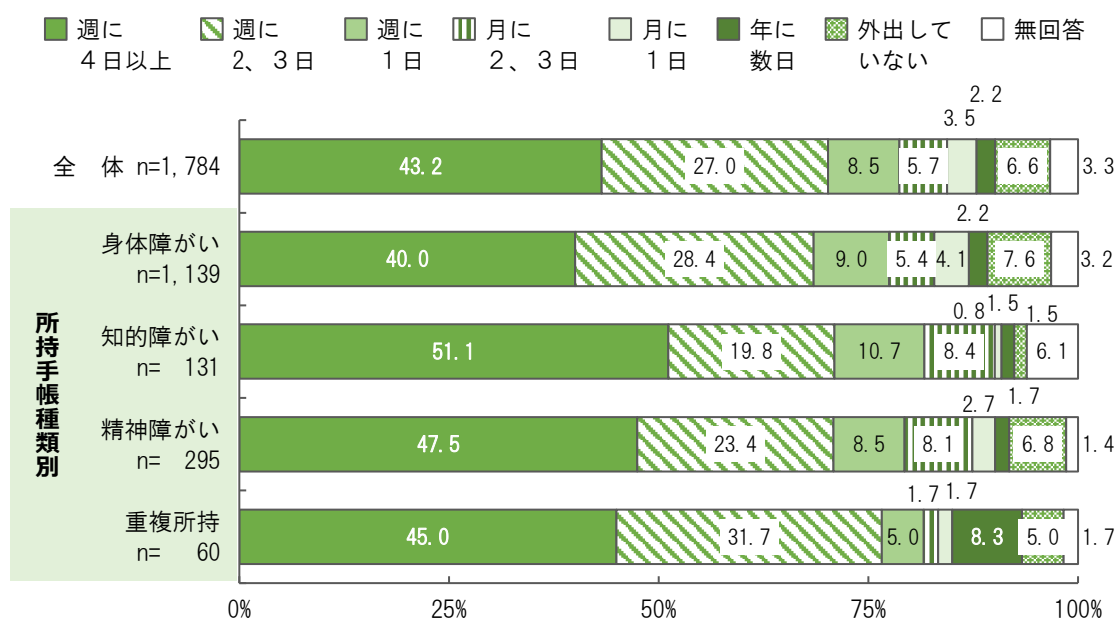
○所持手帳種類別にみると、身体障がいでは「週に４日以上」が40.0%と最も高く、次いで「週に２、３日」が28.4%となっています。

知的障がいでは「週に４日以上」が51.1%と最も高く、次いで「週に２、３日」が19.8%となっています。

精神障がいでは「週に４日以上」が47.5%と最も高く、次いで「週に２、３日」が23.4%となっています。

重複所持では「週に４日以上」が45.0%と最も高く、次いで「週に２、３日」が31.7%となっています。

■ 外出の頻度【所持手帳種類別】

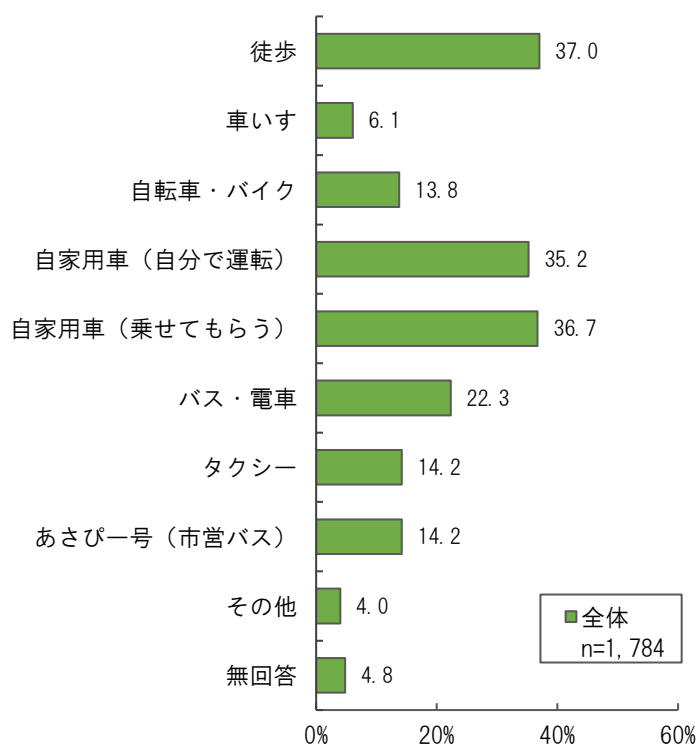


（２）外出時の交通手段

問34 外出のときの交通手段は何ですか。（○はいくつでも）

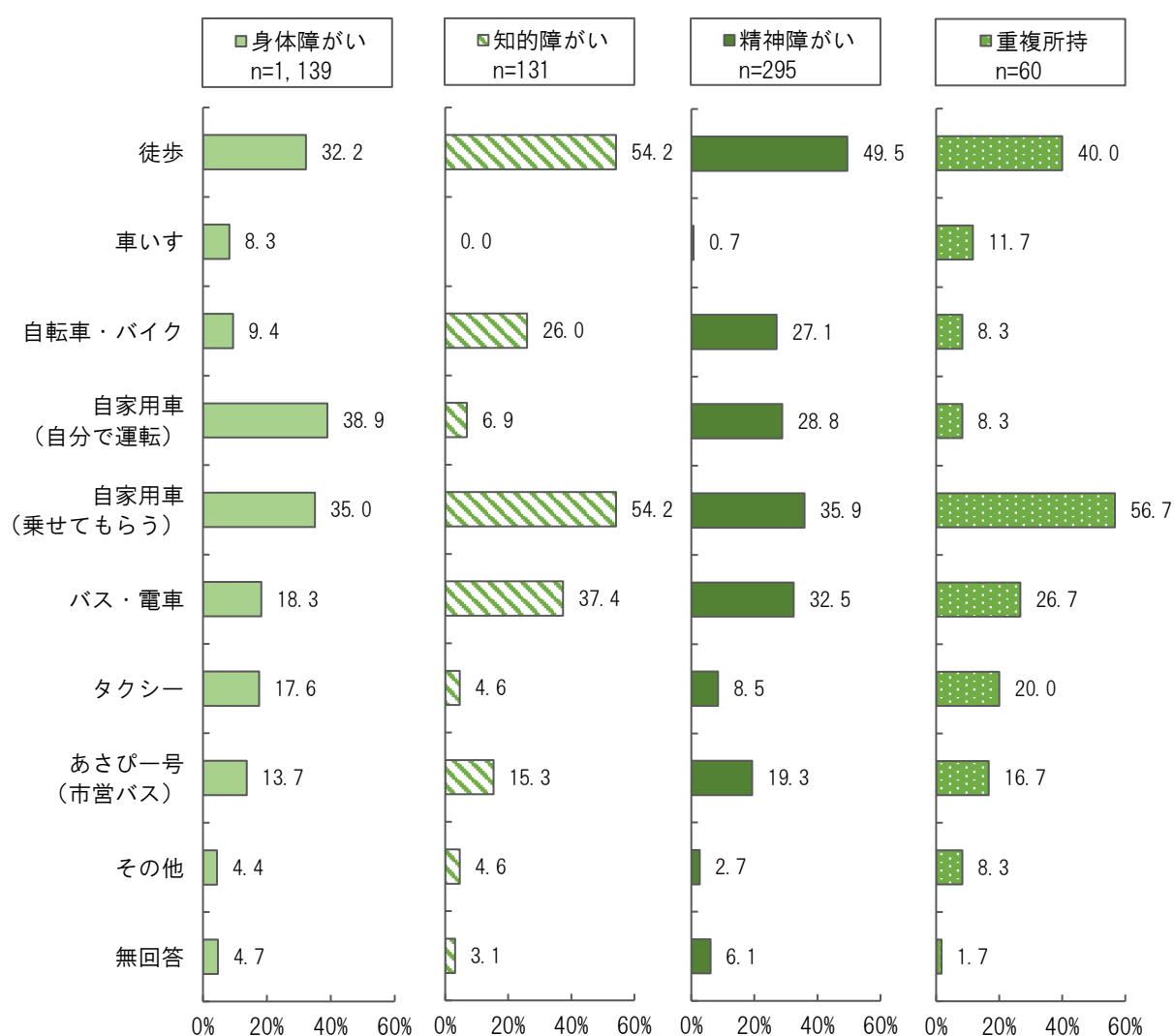
○外出時の交通手段は、「徒歩」が37.0%と最も高く、次いで「自家用車（乗せてもらう）」が36.7%、「自家用車（自分で運転）」が35.2%となっています。

■ 外出時の交通手段



○所持手帳種類別にみると、身体障がいでは「自家用車（自分で運転）」が38.9%と最も高く、次いで「自家用車（乗せてもらう）」が35.0%、「徒歩」が32.2%となっています。知的障がいでは「徒歩」「自家用車（乗せてもらう）」がともに54.2%と最も高く、次いで「バス・電車」が37.4%、「自転車・バイク」が26.0%となっています。精神障がいでは「徒歩」が49.5%と最も高く、次いで「自家用車（乗せてもらう）」が35.9%、「バス・電車」が32.5%となっています。重複所持では「自家用車（乗せてもらう）」が56.7%、次いで「徒歩」が40.0%、「バス・電車」が26.7%となっています。

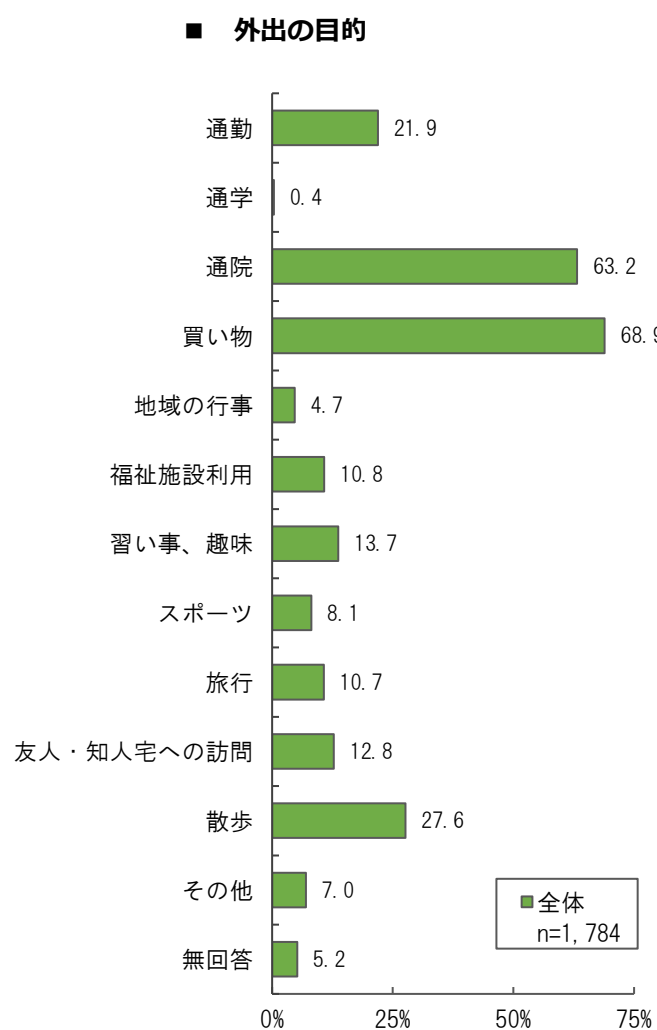
■ 外出時の交通手段【所持手帳種類別】



（３）外出の目的

問35 外出の目的は何ですか。（○はいくつでも）

○外出の目的は、「買い物」が68.9%と最も高く、次いで「通院」が63.2%、「散歩」が27.6%となっています。



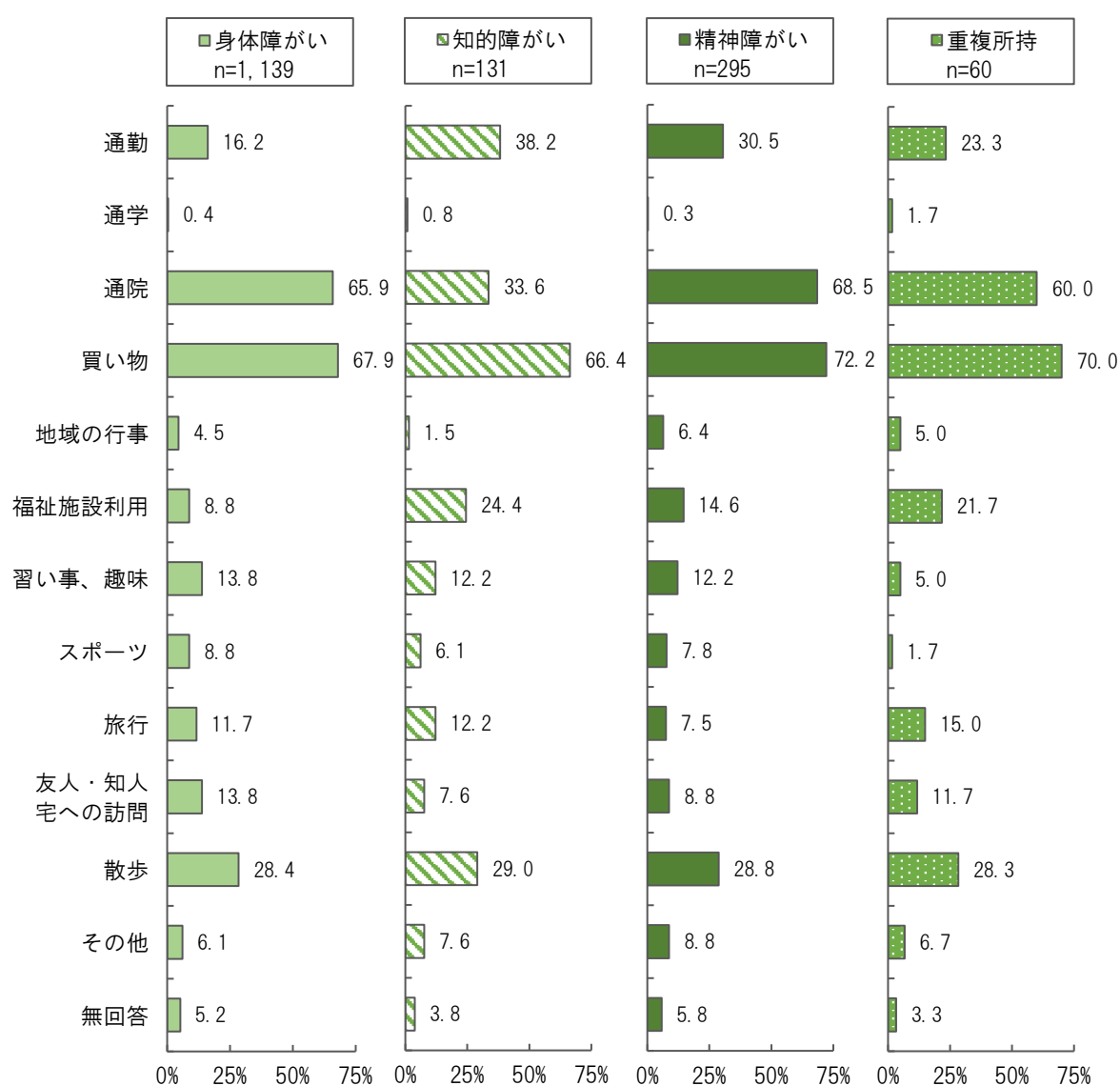
○所持手帳種類別にみると、身体障がいでは「買い物」が67.9%と最も高く、次いで「通院」が65.9%、「散歩」が28.4%となっています。

知的障がいでは「買い物」が66.4%と最も高く、次いで「通勤」が38.2%、「通院」が33.6%となっています。

精神障がいでは「買い物」が72.2%と最も高く、次いで「通院」が68.5%、「通勤」が30.5%となっています。

重複所持では「買い物」が70.0%と最も高く、次いで「通院」が60.0%、「散歩」が28.3%となっています。

■ 外出の目的【所持手帳種類別】

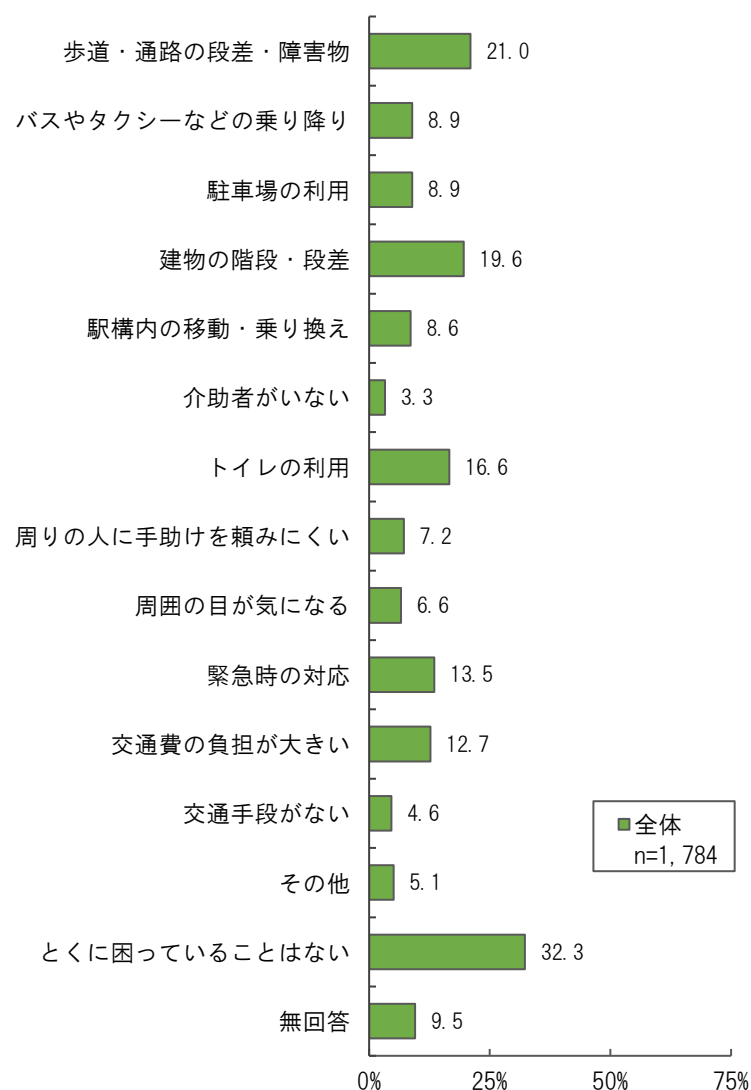


（４）外出時に困ること

問36 外出するうえで困ることは何ですか。（○はいくつでも）

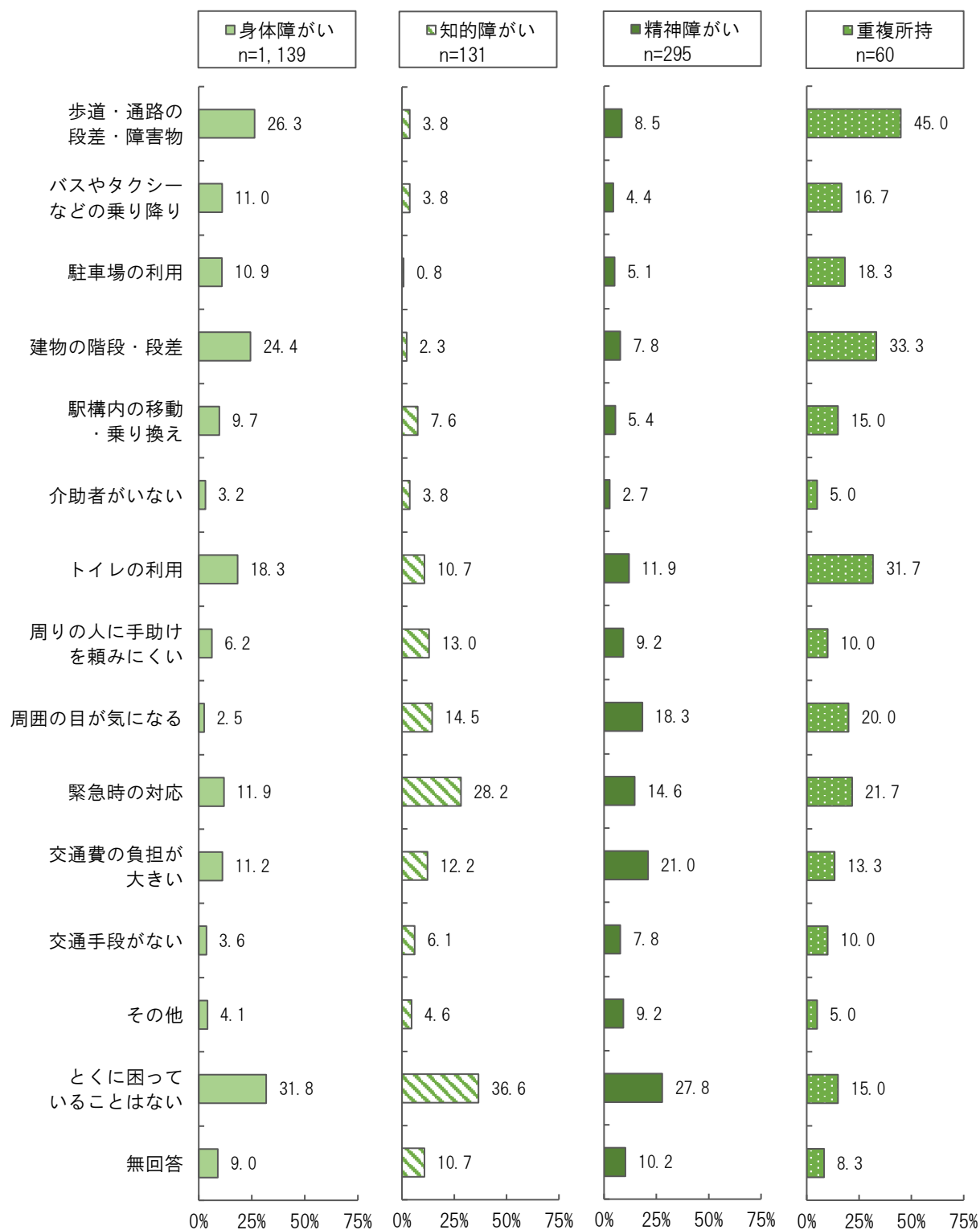
○外出時に困ることをみると、「とくに困っていることはない」が32.3%と最も高いものの、「歩道・通路の段差・障害物」は21.0%、「建物の階段・段差」は19.6%、「トイレの利用」は16.6%が困ることとしてあげています。

■ 外出時に困ること



○所持手帳種類別にみると、身体障がい・重複所持では「歩道・通路の段差・障害物」（26.3%・45.0%）、知的障がいでは「緊急時の対応」（28.2%）、精神障がいでは「交通費の負担が大きい」（21.0%）を困ることの上位としてあげています。

■ 外出時に困ること【所持手帳種類別】



（５）公共施設の利用に関して

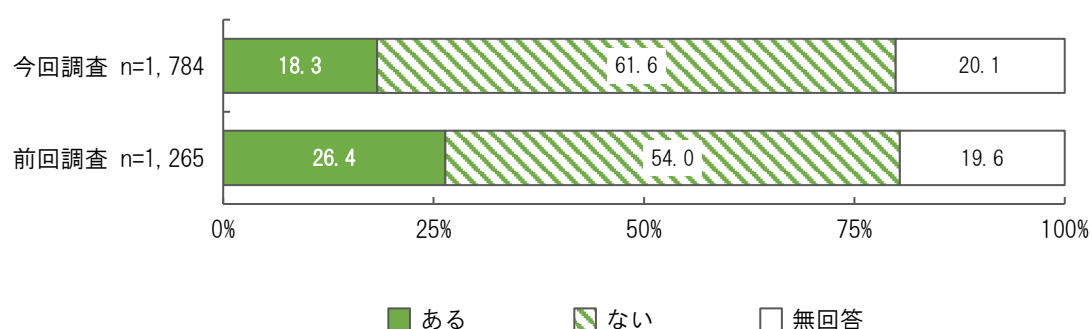
問37 市内の公共施設を利用するときに、不便を感じたことがありますか。（○は1つ）

○市内の公共施設を利用するときに、不便を感じたことが「ある」は18.3%、「ない」は61.6%となっています。

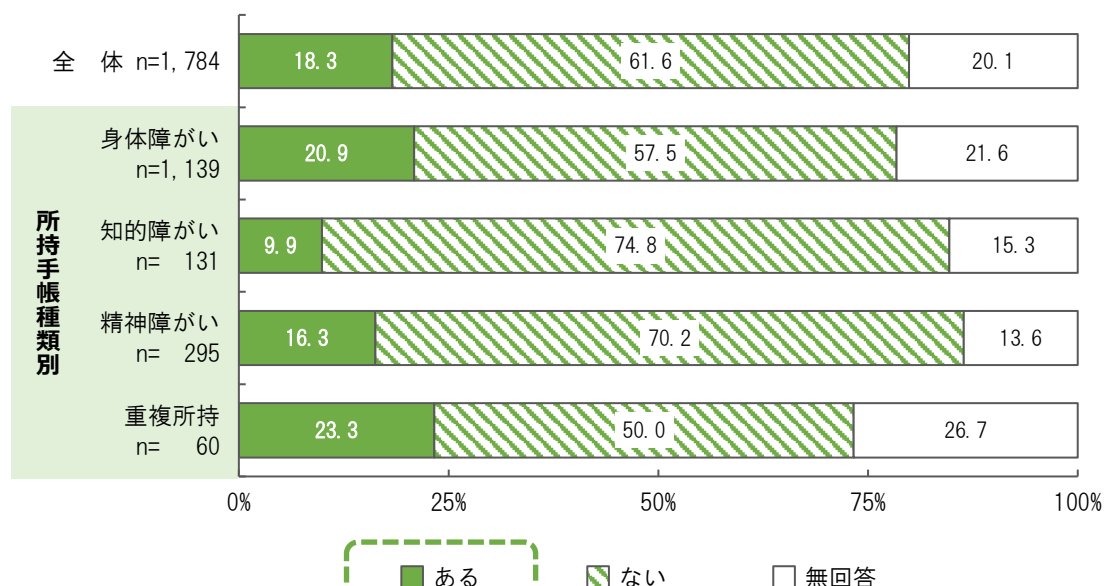
○前回調査との比較をみると、「ある」は8.1ポイント低くなっています。

○所持手帳種類別にみると、「ある」は重複所持が23.3%と最も高くなっています。

■ 公共施設利用の際の不便を感じたことの有無【前回調査比較】



■ 公共施設利用の際の不便を感じたことの有無【所持手帳種類別】



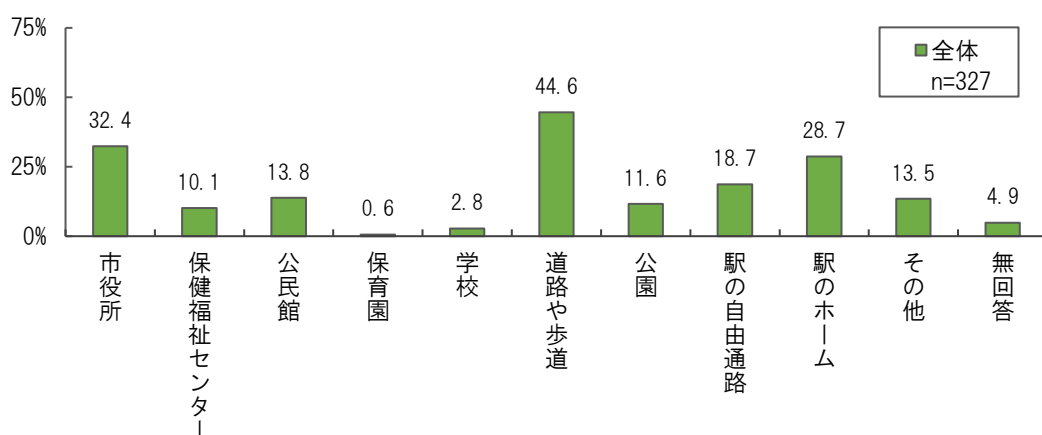
問 38・問 39 へ

問37で「1. ある」と答えた方のみ

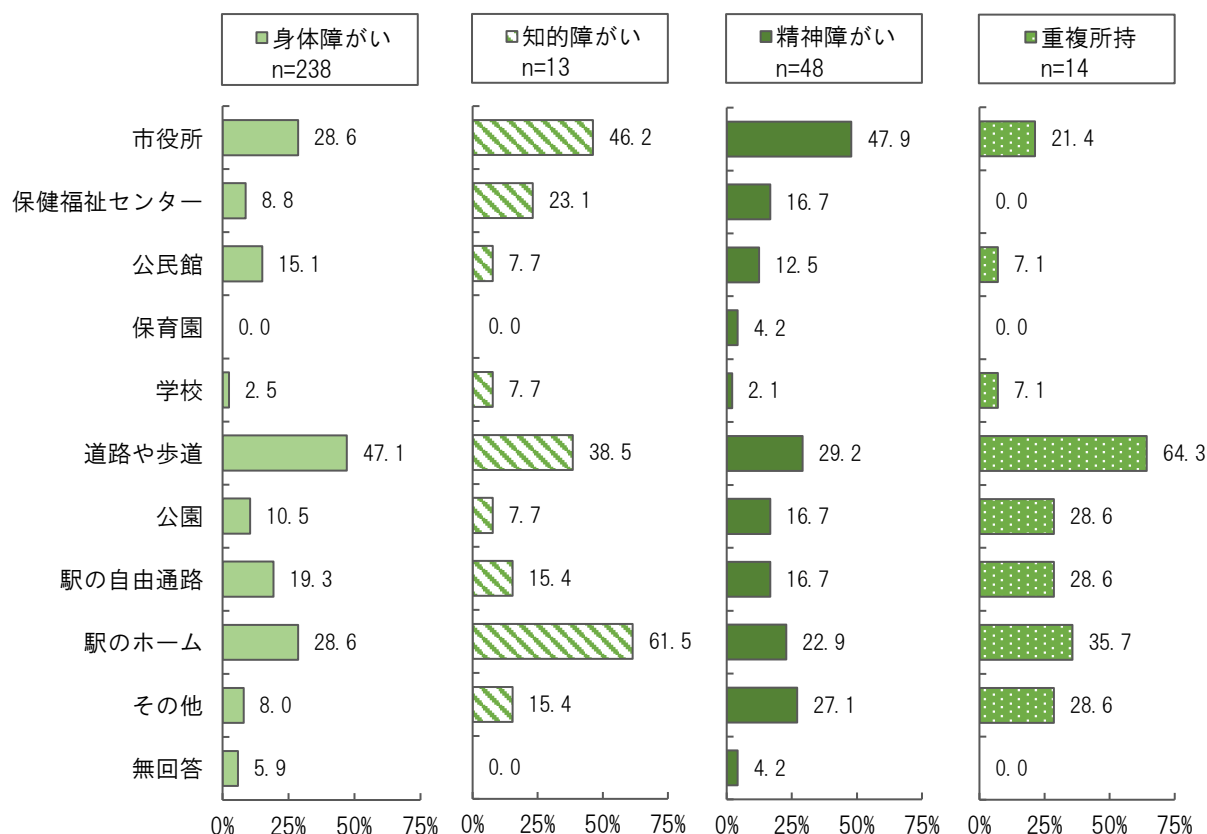
問38 どの施設で感じましたか。（○はいくつでも）

- 不便を感じた施設は、「道路や歩道」が44.6%と最も高く、次いで「市役所」が32.4%、「駅のホーム」が28.7%となっています。
- 所持手帳種類別にみると、身体障がいでは「道路や歩道」が47.1%、精神障がいでは「市役所」が47.9%と高くなっています。

■ 不便を感じた施設

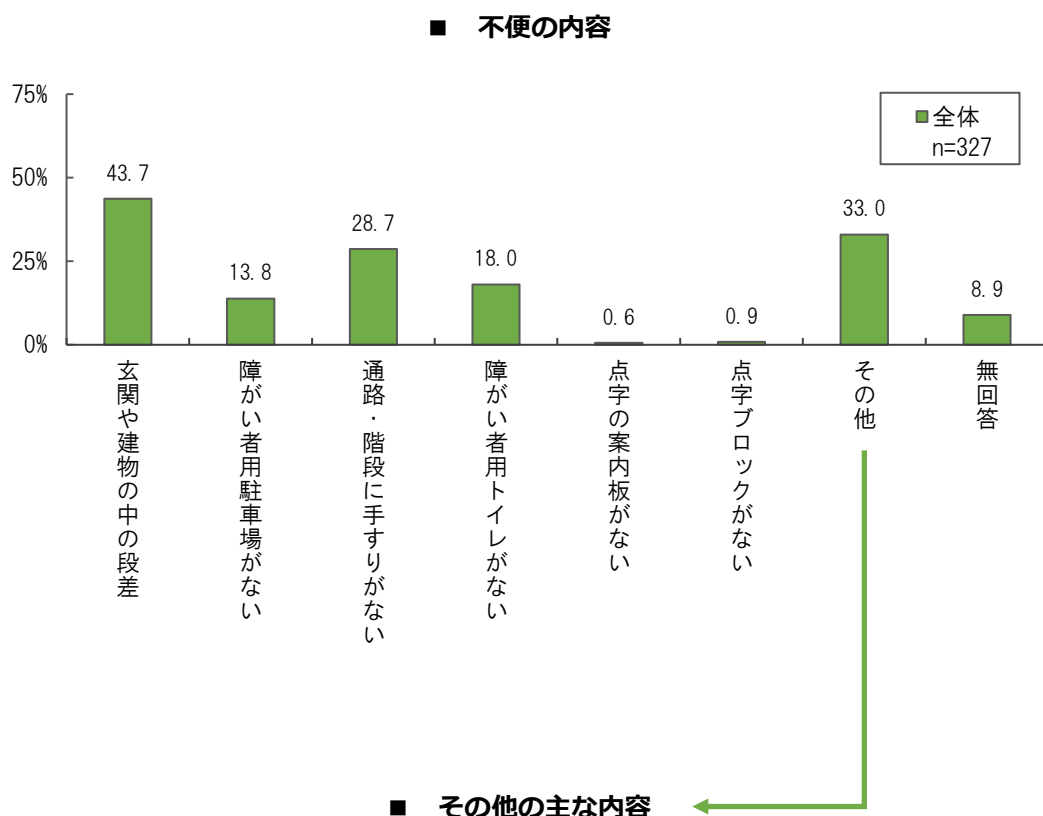


■ 不便を感じた施設【所持手帳種類別】



問39 どのような不便でしたか。（○はいくつでも）

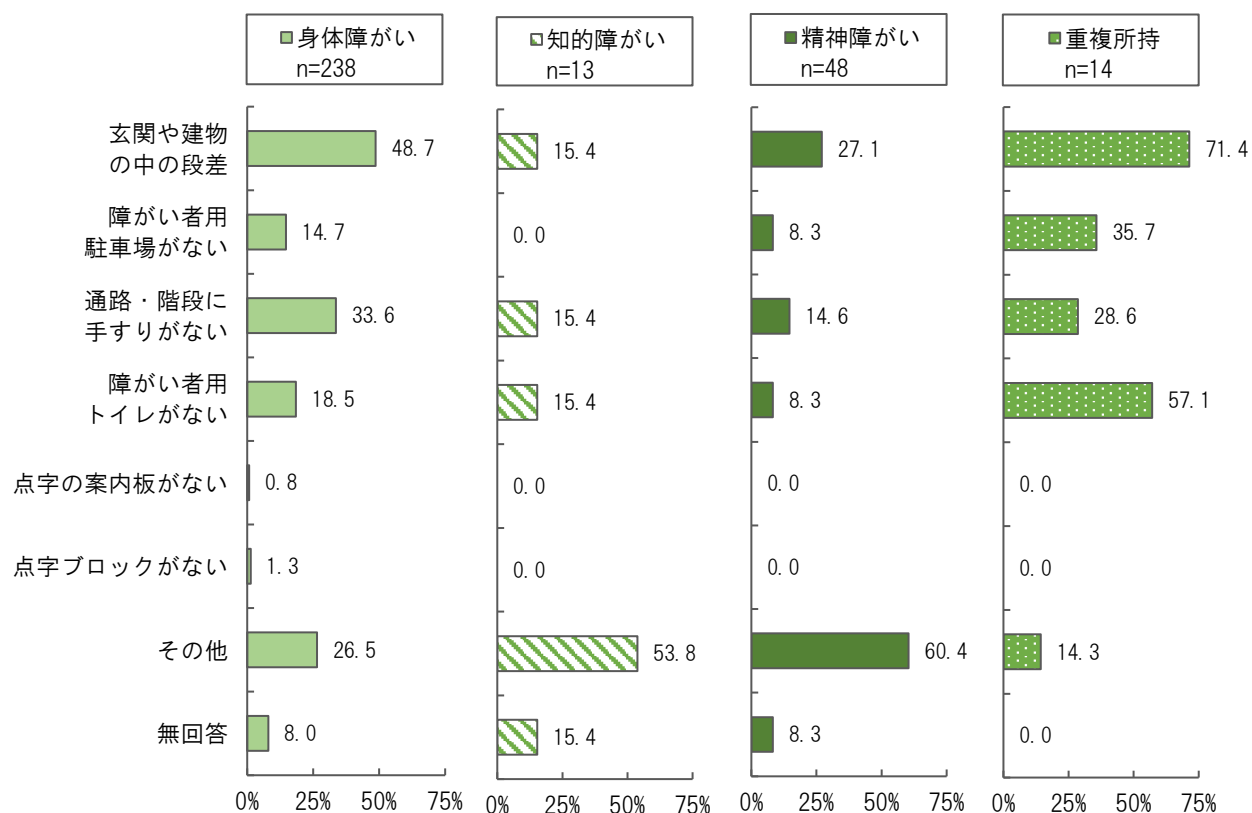
○不便を感じた内容は、「玄関や建物の中の段差」が43.7%と最も高く、次いで「通路・階段に手すりがない」が28.7%となっています。



主なその他の内容 (n=108)	件数 (件)	割合 (%)
歩道等の整備が不十分	12	11.1
案内が不十分	9	8.3
エレベーターがない（階段しかない）	7	6.5
イスがない	4	3.7
車イスがない、少ない	3	2.8

○所持手帳種類別にみると、身体障がい・精神障がいでは「玄関や建物の中の段差」が48.7%・27.1%と高くなっています。

■ 不便の内容【所持手帳種類別】



（６）ヘルプマーク・ヘルプカードの認知度

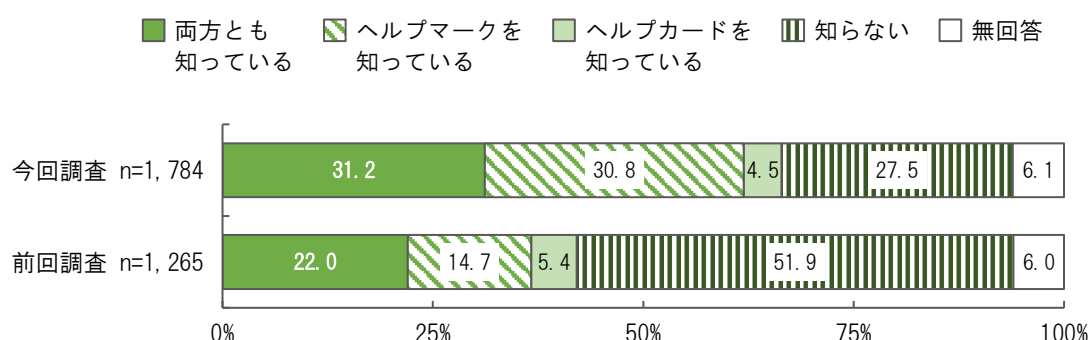
問40 あなたは、配慮や支援を必要としていることを周囲の人に知らせる「ヘルプマーク」や「ヘルプカード」を知っていますか。（○は1つ）

○ヘルプマーク・ヘルプカードの認知度は、「両方とも知っている」が31.2%と最も高く、「ヘルプマークを知っている」は30.8%、「ヘルプカードを知っている」は4.5%となり、一方、「知らない」は27.5%となっています。

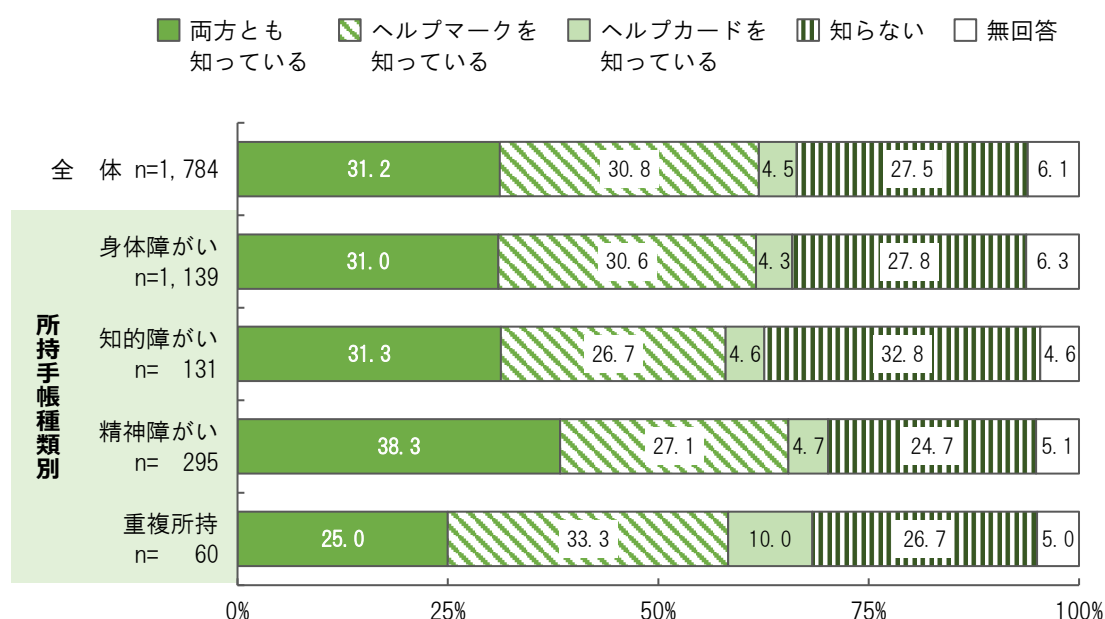
○前回調査との比較をみると、「両方とも知っている」は9.2ポイント、「ヘルプマークを知っている」は16.1ポイントと大幅に高くなっています。

○所持手帳種類別にみると、「両方とも知っている」は精神障がい（38.3%）で最も高く、「ヘルプマークを知っている」、「ヘルプカードを知っている」はともに重複所持（33.3%・10.0%）で最も高くなっています。

■ ヘルプマーク・ヘルプカードの認知度【前回調査比較】



■ ヘルプマーク・ヘルプカードの認知度【所持手帳種類別】



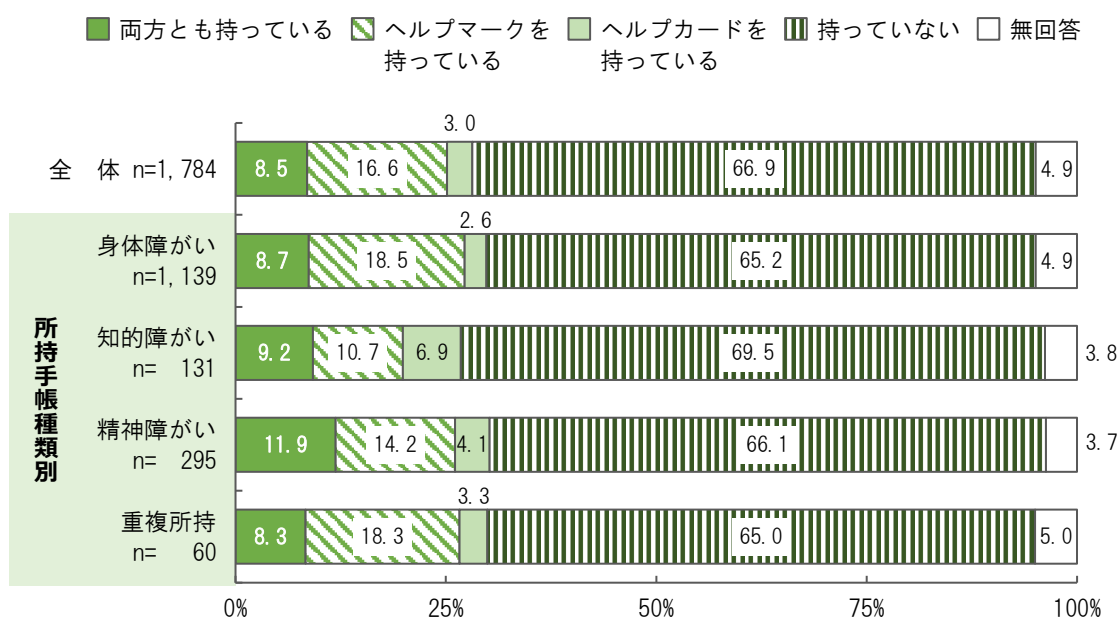
（７）ヘルプマーク・ヘルプカードの所持状況

問41 あなたは、「ヘルプマーク」か「ヘルプカード」を持っていますか。（○は1つ）

○ヘルプマーク・ヘルプカードの所持状況をみると、「持っていない」が66.9%と最も高く、「両方とも持っている」は8.5%、「ヘルプマークを持っている」は16.6%、「ヘルプカードを持っている」は3.0%となっています。

○所持手帳種類別にみると、「両方とも持っている」は精神障がい（11.9%）で最も高く、「ヘルプマークを持っている」は身体障がい（18.5%）、「ヘルプカードを持っている」は知的障がい（6.9%）で最も高くなっています。

■ ヘルプマーク・ヘルプカードの所持状況【所持手帳種類別】



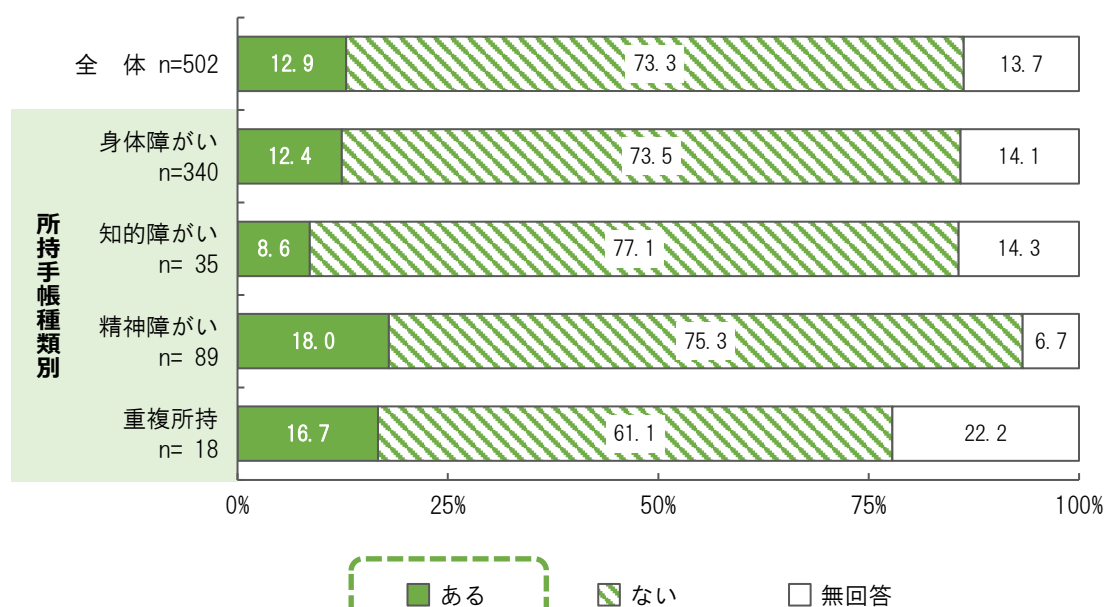
問41で「1. 両方とも持っている」～「3. ヘルプカードを持っている」と答えた方のみ

問42 ヘルプマークやヘルプカードを使用することで、周囲の手助けを受けられるなど役に立ったことはありますか。（○は1つ）

○ヘルプマークやヘルプカードが役立ったことが「ある」は12.9%、「ない」は73.3%となっています。

○所持手帳種類別にみると、「ある」は身体障がいでは12.4%、知的障がいでは8.6%、精神障がいでは18.0%、重複所持では16.7%となっています。

■ ヘルプマーク・ヘルプカードが役立ったことの有無【所持手帳種類別】



■ 役立った具体的な内容の分類

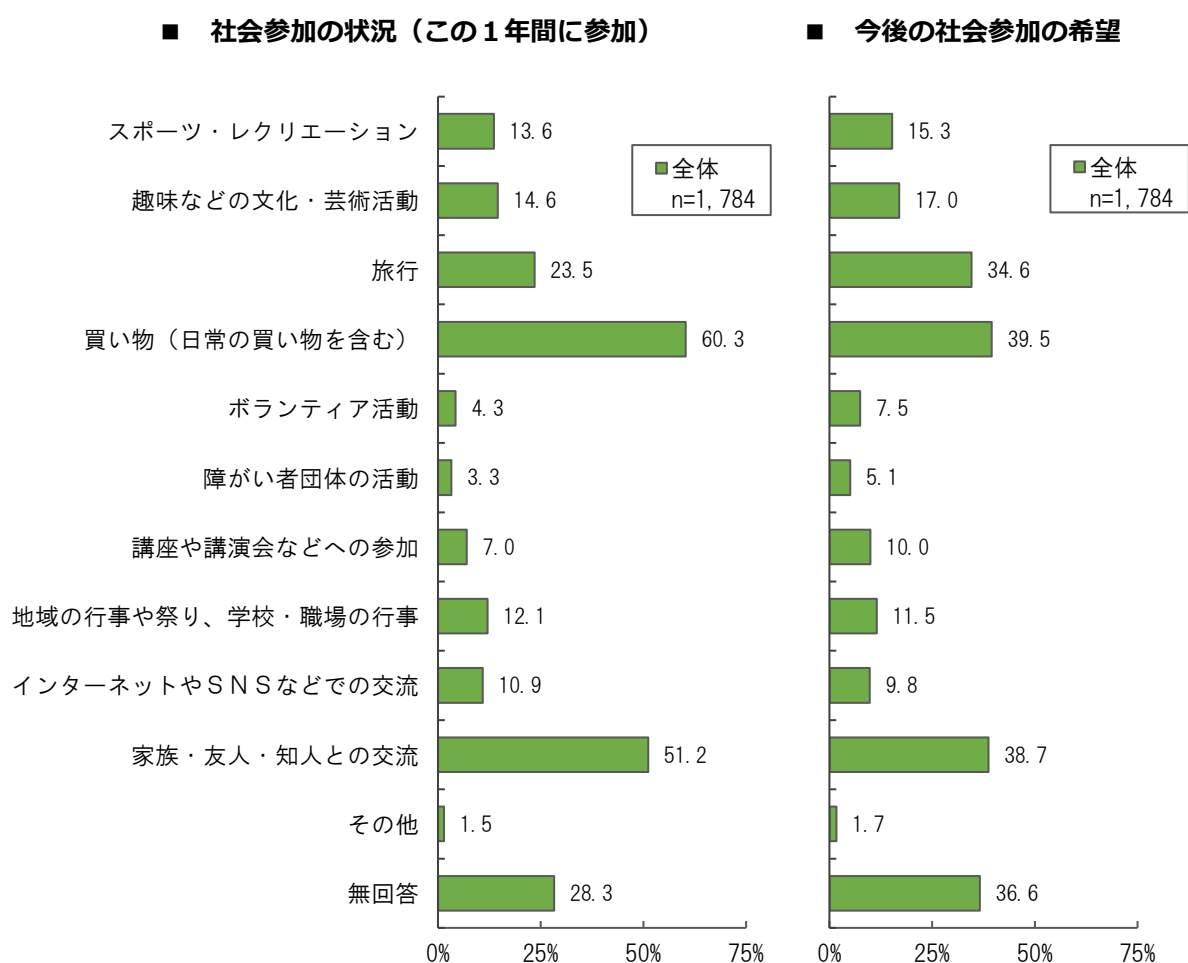
具体的な内容の分類 (n=65)	件数 (件)	割合 (%)
公共交通機関等で席を譲ってもらった、優先席に座りやすい	29	44.6
荷物を運んでくれた	5	7.7
障がいがあることに気づいてもらえる	5	7.7
コミュニケーションをとる時に配慮してくれる	4	6.2
優先駐車スペースや多目的トイレが気がねなく使える	3	4.6
ドアを開けて待ってくれる	2	3.1
「大丈夫ですか」などの声かけをしてくれる	2	3.1

10 社会参加（仕事を除く）について

（１）社会参加の状況と今後の意向

問43 この１年にどのような社会参加をしましたか。また、今後どのような社会参加をしたいですか。（○はいくつでも）

- この１年間に参加した活動等は、「買い物（日常の買い物を含む）」が60.3%と最も高く、次いで「家族・友人・知人との交流」が51.2%、「旅行」が23.5%となっています。
- 今後参加を希望する活動等は、「買い物（日常の買い物を含む）」が39.5%と最も高く、次いで「家族・友人・知人との交流」が38.7%、「旅行」が34.6%となっています。
- 実際の参加状況と今後の希望を比較すると、「旅行」では11.1ポイント希望が高くなっています。
- 実際の参加状況と今後の希望の差を参加できていないが、参加したいというニーズと捉え、旅行をはじめ、スポーツや生涯学習など様々な活動に参加しやすい環境づくりが必要と考えられます。



○所持手帳種類別にみると、この１年間に参加した活動等は、いずれも「買い物（日常の買い物を含む）」が最も高くなっています。

○今後参加を希望する活動等は、身体障がいでは「家族・友人・知人との交流」（39.9%）、知的障がい・精神障がいでは「買い物（日常の買い物を含む）」（50.4%・42.4%）、重複所持では「旅行」（36.7%）が最も高くなっています。

■ 社会参加の状況（この１年間に参加）【所持手帳種類別】

単位：％

	身体 障がい n=1,139	知的 障がい n=131	精神 障がい n=295	重複 所持 n=60
スポーツ・レクリエーション	14.4	14.5	10.5	6.7
趣味などの文化・芸術活動	14.0	14.5	18.0	10.0
旅行	24.0	22.1	21.7	25.0
買い物（日常の買い物を含む）	57.2	74.8	66.4	56.7
ボランティア活動	4.5	1.5	3.7	3.3
障がい者団体の活動	2.2	12.2	3.7	11.7
講座や講演会などへの参加	7.3	1.5	7.5	1.7
地域の行事や祭り、学校・職場の行事	11.0	20.6	9.2	15.0
インターネットやSNSなどでの交流	9.1	6.9	19.7	8.3
家族・友人・知人との交流	52.1	53.4	46.4	43.3
その他	1.8	0.0	1.0	1.7

※最も高い割合に網掛けをしています。

■ 今後の社会参加の希望【所持手帳種類別】

単位：％

	身体 障がい n=1,139	知的 障がい n=131	精神 障がい n=295	重複 所持 n=60
スポーツ・レクリエーション	13.8	17.6	19.3	6.7
趣味などの文化・芸術活動	15.0	13.0	24.7	10.0
旅行	34.9	42.0	31.5	36.7
買い物（日常の買い物を含む）	38.0	50.4	42.4	33.3
ボランティア活動	6.6	5.3	11.2	5.0
障がい者団体の活動	3.4	10.7	7.8	16.7
講座や講演会などへの参加	10.0	4.6	11.5	5.0
地域の行事や祭り、学校・職場の行事	9.3	26.7	11.9	11.7
インターネットやSNSなどでの交流	8.3	8.4	16.6	8.3
家族・友人・知人との交流	39.9	47.3	34.9	23.3
その他	1.6	0.0	1.7	3.3

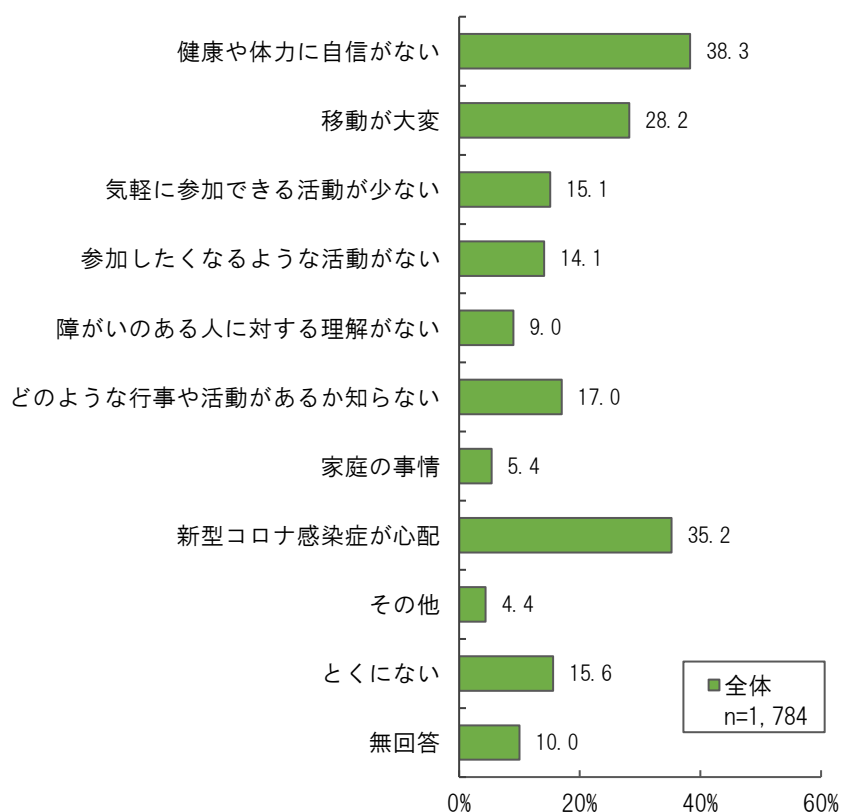
※最も高い割合に網掛けをしています。

（２）社会参加するうえでの問題

問44 あなたが社会参加する場合、問題となることはありますか。（○はいくつでも）

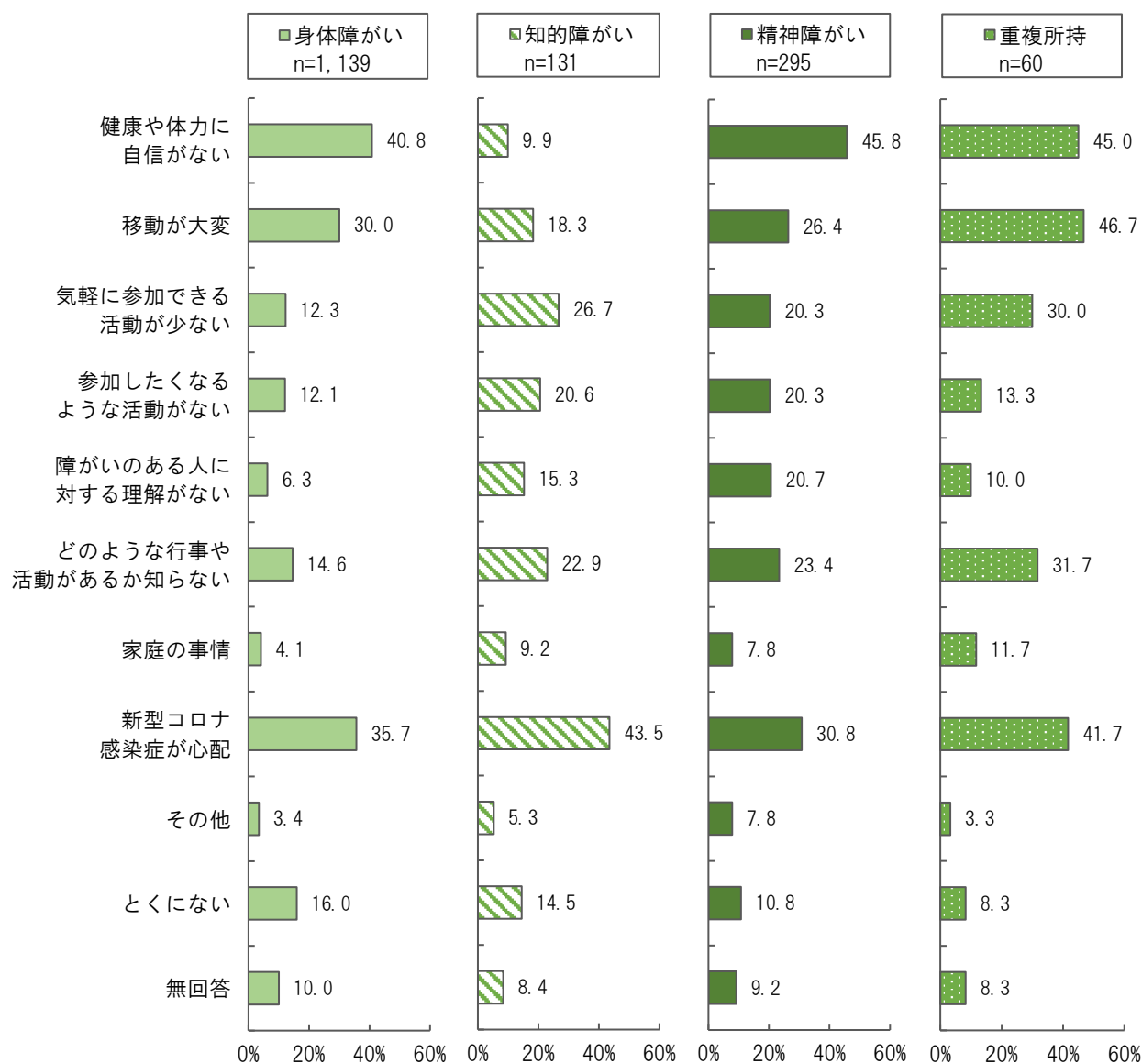
○社会参加する場合の問題をみると、「健康や体力に自信がない」が38.3%と最も高く、次いで「新型コロナウイルス感染症が心配」が35.2%、「移動が大変」が28.2%となっています。

■ 社会参加するうえでの問題



○所持手帳種類別にみると、身体障がい・精神障がいでは「健康や体力に自信がない」（40.8%・45.8%）、知的障がいでは「新型コロナ感染症が心配」（43.5%）、重複所持では「移動が大変」（46.7%）が最も高くなっています。

■ 社会参加するうえでの問題【所持手帳種類別】



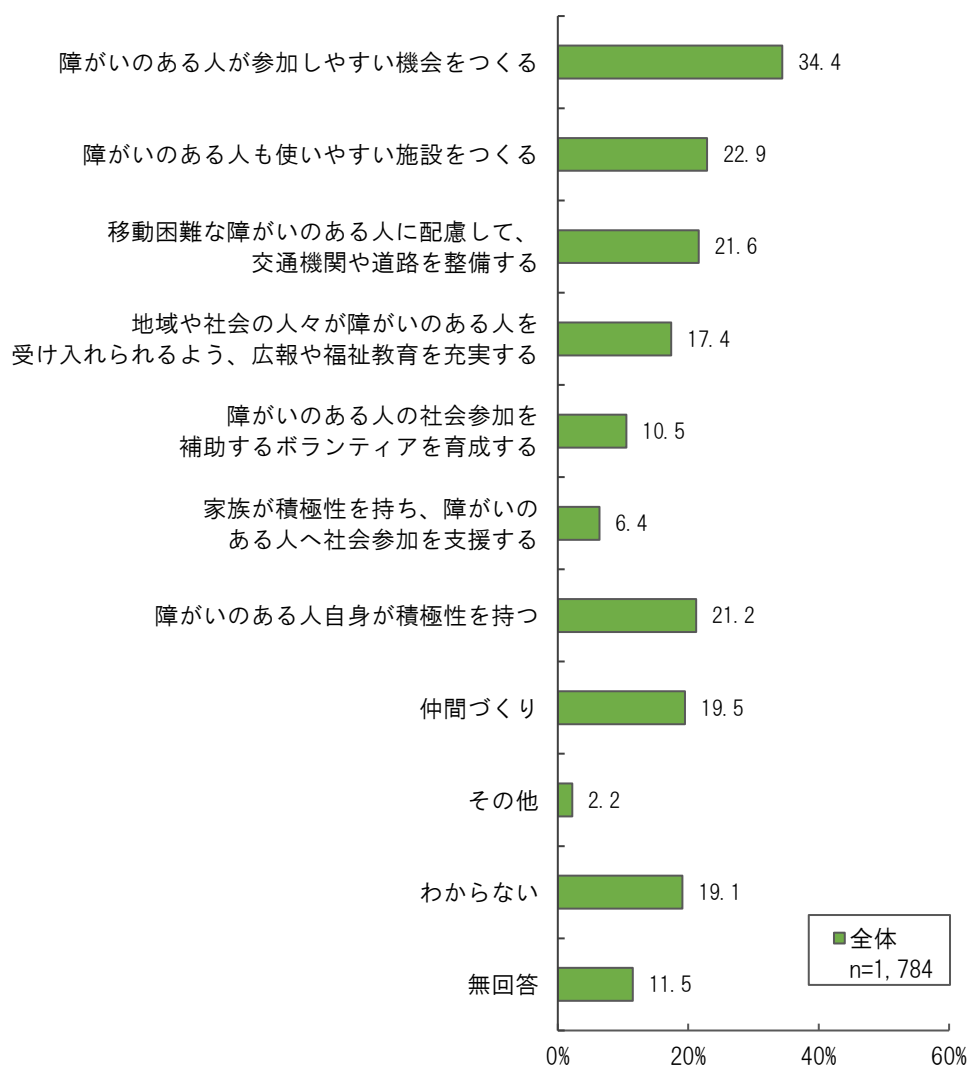
（３）積極的な社会参加に大切なこと

問45 あなたは障がいのある人が地域や社会に積極的に参加できるようにするために、大切なことは何だとお考えですか。（○は3つまで）

○積極的な社会参加に大切なことは、「障がいのある人が参加しやすい機会をつくる」が34.4%と最も高く、次いで「障がいのある人も使いやすい施設をつくる」が22.9%、「移動困難な障がいのある人に配慮して、交通機関や道路を整備する」が21.6%となっています。

○同じ設問を一般市民の調査と比較したところ、「障がいのある人自身が積極性を持つ」は、一般市民が13.7%に対して、障がい者が21.2%と高く、障がい者自身が積極性を持つべきであるという認識がうかがえます。

■ 積極的な社会参加に大切なこと



○所持手帳種類別にみると、身体障がい・知的障がい・精神障がいでは「障がいのある人が参加しやすい機会をつくる」（33.5%・44.3%・34.2%）、重複障がいでは「障がいのある人が参加しやすい機会をつくる」と「障がいのある人も使いやすい施設をつくる」（各40.0%）が最も高くなっています。

■ 積極的な社会参加に大切なこと【所持手帳種類別】

単位：%

	身体 障がい n=1,139	知的 障がい n=131	精神 障がい n=295	重複 所持 n=60
障がいのある人が参加しやすい機会をつくる	33.5	44.3	34.2	40.0
障がいのある人も使いやすい施設をつくる	22.6	23.7	21.0	40.0
移動困難な障がいのある人に配慮して、交通機関や道路を整備する	23.7	19.1	14.6	26.7
地域や社会の人々が障がいのある人を受け入れられるよう、広報や福祉教育を充実する	15.4	29.0	22.4	15.0
障がいのある人の社会参加を補助するボランティアを育成する	8.9	21.4	10.5	18.3
家族が積極性を持ち、障がいのある人へ社会参加を支援する	5.7	11.5	5.8	10.0
障がいのある人自身が積極性を持つ	23.6	10.7	20.3	8.3
仲間づくり	18.3	22.9	22.0	15.0
その他	1.8	0.0	5.1	0.0
わからない	18.6	16.0	23.4	16.7
無回答	12.6	8.4	6.8	11.7

※最も高い割合に網掛けをしています。

11 地域活動について

（１）近所づきあいの程度

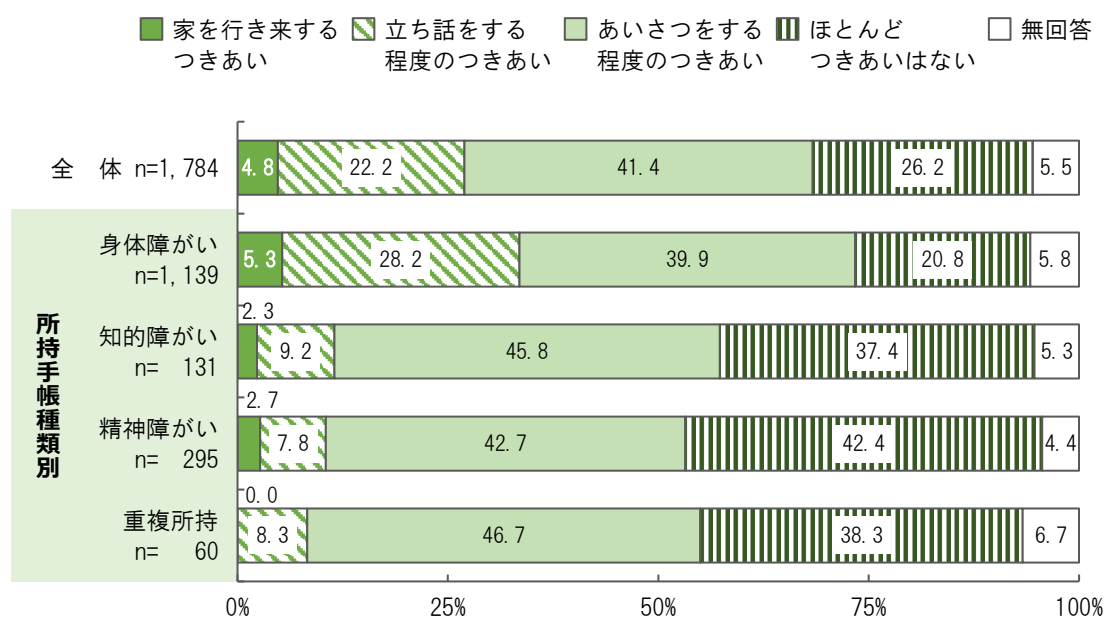
問46 あなたは、ふだん近所の方とどの程度のおつきあいをしていますか。（○は1つ）

○近所づきあいの程度をみると、「あいさつをする程度のつきあい」が41.4%と最も高く、次いで「ほとんどつきあいはない」が26.2%、「立ち話をする程度のつきあい」が22.2%となっています。

○所持手帳種類別にみると、いずれも「あいさつをする程度のつきあい」が最も高くなっています。

また、「家を行き来するつきあい」と「立ち話をする程度のつきあい」を合わせた『ある程度のつきあいがある』は、身体障がいでは33.5%、知的障がいでは11.5%、精神障がいでは10.5%、重複所持では8.3%となっています。

■ 近所づきあいの程度【所持手帳種類別】



（２）地域活動や行事への参加

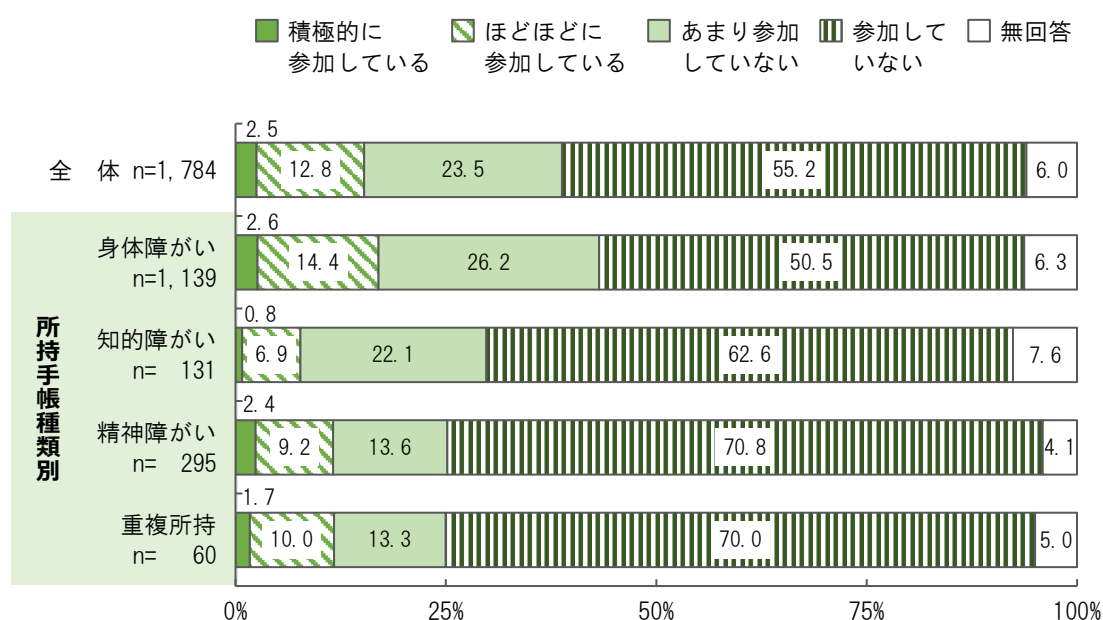
問47 あなたは地域の活動や行事にどの程度参加していますか。（○は1つ）

○地域活動や行事への参加をみると、「参加していない」が55.2%と最も高く、次いで「あまり参加していない」が23.5%、「ほどほどに参加している」が12.8%となっています。

○所持手帳種類別にみると、いずれも「参加していない」が最も高くなっています。

また、「積極的に参加している」と「ほどほどに参加している」を合わせた『参加している』は、身体障がいでは17.0%、知的障がいでは7.7%、精神障がいでは11.6%、重複所持では11.7%となっています。

■ 地域活動や行事への参加程度【所持手帳種類別】



（３）居住地域の住みやすさ

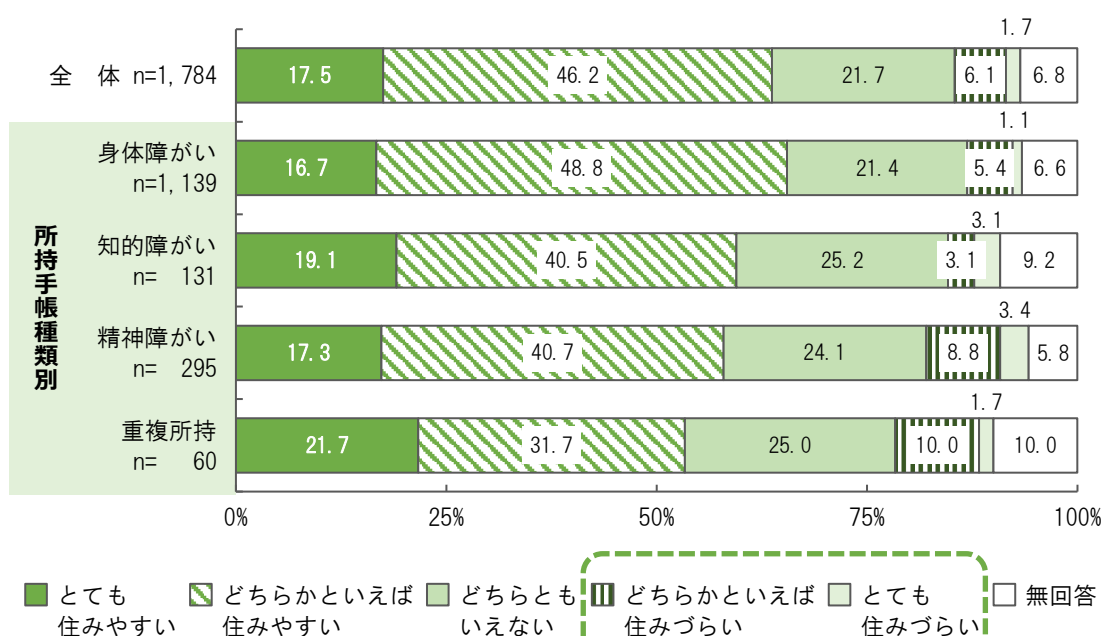
問48 あなたの住んでいる地域（小学校区）は住みやすいと思いますか。（○は1つ）

○居住地域の住みやすさをみると、「どちらかといえば住みやすい」が46.2%と最も高く、次いで「どちらともいえない」が21.7%となっています。

また、「とても住みやすい」と「どちらかといえば住みやすい」を合わせた『住みやすい』は63.7%、「どちらかといえば住みづらい」と「とても住みづらい」を合わせた『住みづらい』は7.8%となり、『住みやすい』が大きく上回っています。

○所持手帳種類別にみると、『住みづらい』は身体障がいでは6.5%、知的障がいでは6.2%、精神障がいでは12.2%、重複所持では11.7%となっています。

■ 居住地域の住みやすさ【所持手帳種類別】



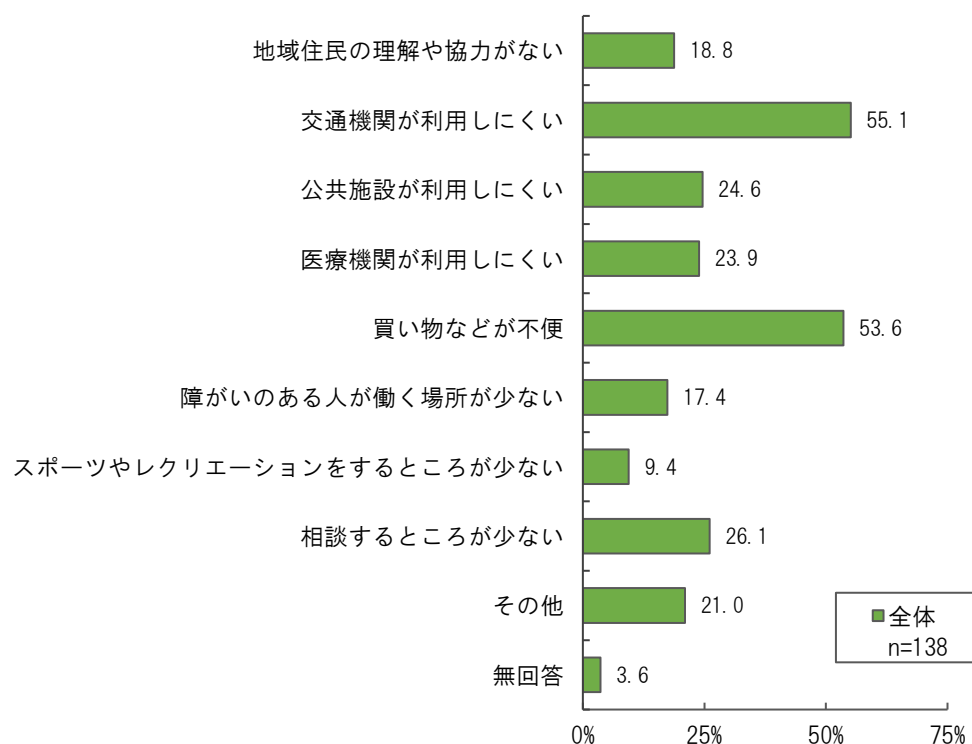
問 49 へ

問48で「4. どちらかといえば住みづらい」または「5. とても住みづらい」と答えた方のみ

問49 住みづらい理由は何ですか。（○はいくつでも）

○住みづらい理由をみると、「交通機関が利用しにくい」が55.1%と最も高く、次いで「買い物などが不便」が53.6%、「相談するところが少ない」が26.1%となっています。

■ 住みづらい理由



○所持手帳種類別にみると、身体障がいでは「買い物などが不便」（63.5%）、精神障がいでは「交通機関が利用しにくい」（52.8%）が最も高くなっています。

○年齢区分別にみると、18～39歳・40～64歳では「交通機関が利用しにくい」（53.1%・59.5%）、65歳以上では「買い物などが不便」（64.2%）が最も高くなっています。

■ 住みづらい理由【所持手帳種類別】

単位：％

	身体 障がい n=74	知的 障がい n=8	精神 障がい n=36	重複 所持 n=7
地域住民の理解や協力ががない	14.9	37.5	22.2	28.6
交通機関が利用しにくい	58.1	50.0	52.8	42.9
公共施設が利用しにくい	27.0	12.5	27.8	28.6
医療機関が利用しにくい	23.0	37.5	22.2	42.9
買い物などが不便	63.5	50.0	41.7	28.6
障がいのある人が働く場所が少ない	9.5	37.5	38.9	0.0
スポーツやレクリエーションをするところが少ない	8.1	25.0	8.3	14.3
相談するところが少ない	18.9	50.0	38.9	28.6
その他	17.6	25.0	30.6	14.3
無回答	5.4	0.0	0.0	0.0

※最も高い割合に網掛けをしています。

■ 住みづらい理由【年齢区分別】

単位：％

	18～39歳 n=32	40～64歳 n=37	65歳以上 n=67
地域住民の理解や協力ががない	25.0	18.9	16.4
交通機関が利用しにくい	53.1	59.5	53.7
公共施設が利用しにくい	25.0	24.3	25.4
医療機関が利用しにくい	34.4	18.9	22.4
買い物などが不便	46.9	43.2	64.2
障がいのある人が働く場所が少ない	21.9	40.5	3.0
スポーツやレクリエーションをするところが少ない	12.5	10.8	7.5
相談するところが少ない	34.4	24.3	23.9
その他	25.0	27.0	16.4
無回答	0.0	0.0	6.0

※最も高い割合に網掛けをしています。

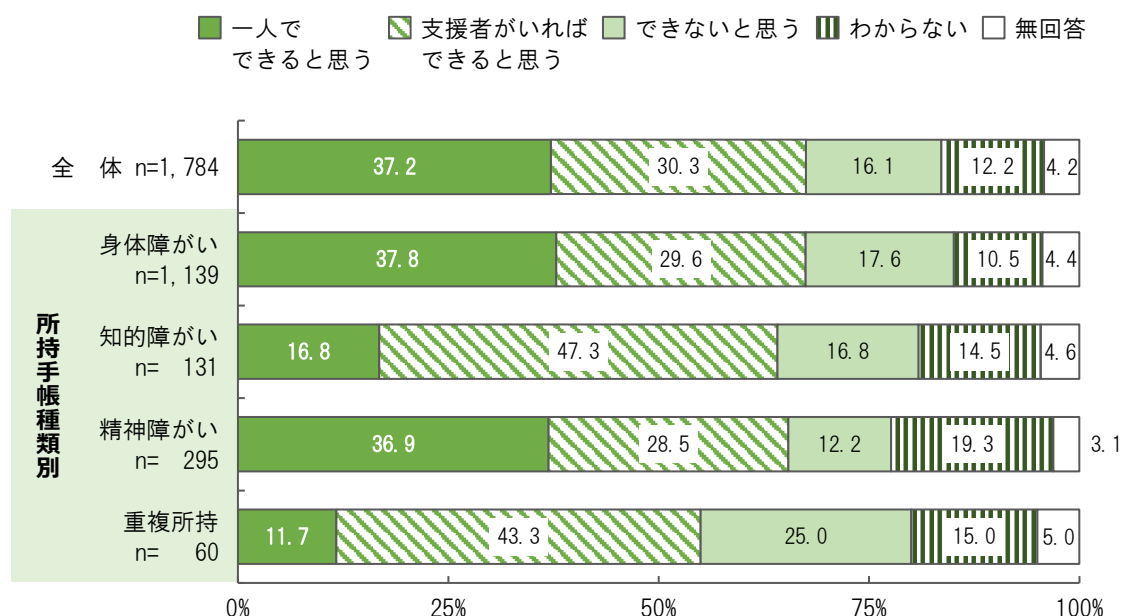
12 災害時に困ることについて

（１）災害時の避難の可否

問50 地震などの災害時に避難できますか。（○は1つ）

○災害時に避難が「一人でできると思う」は37.2%と最も高く、次いで「支援者がいればできると思う」が30.3%となり、一方、「できないと思う」は16.1%となっています。
○所持手帳種類別にみると、身体障がい・精神障がいでは「一人でできると思う」（37.8%・36.9%）、知的障がい・重複所持では「支援者がいればできると思う」（47.3%・43.3%）が最も高くなっています。

■ 災害時の避難の可否【所持手帳種類別】

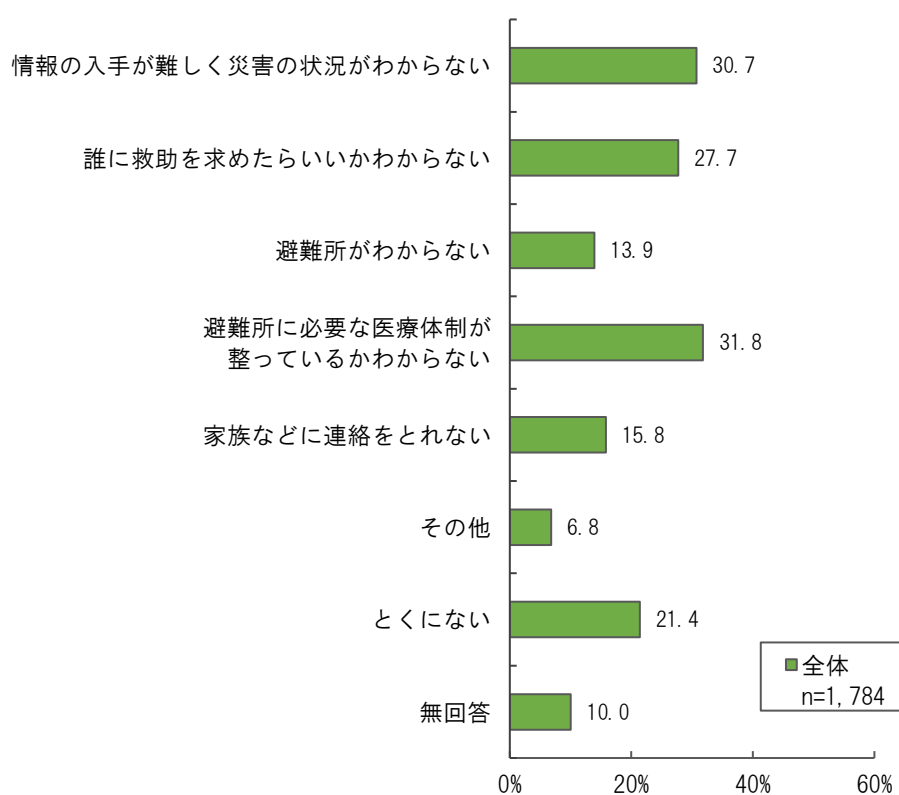


（２）災害時に困ることや不安なこと

問51 地震などの災害時にすぐに困ることや不安に思うことは何ですか。
（○はいくつでも）

○災害時に困ることや不安なことは、「避難所に必要な医療体制が整っているかわからない」が31.8%と最も高く、次いで「情報の入手が難しく災害の状況がわからない」が30.7%、「誰に救助を求めたらいいかわからない」が27.7%となっています。

■ 災害時に困ることや不安なこと



○所持手帳種類別にみると、身体障がいでは「避難所に必要な医療体制が整っているかわからない」が33.0%と最も高く、次いで「情報の入手が難しく災害の状況がわからない」が29.6%、「誰に救助を求めたらいいかわからない」が26.5%となっています。

知的障がいでは「情報の入手が難しく災害の状況がわからない」が43.5%と最も高く、次いで「誰に救助を求めたらいいかわからない」が40.5%、「避難所がわからない」が29.0%となっています。

精神障がいでは「情報の入手が難しく災害の状況がわからない」「誰に救助を求めたらいいかわからない」「避難所に必要な医療体制が整っているかわからない」が各31.5%と最も高くなっています。

重複所持では「情報の入手が難しく災害の状況がわからない」が38.3%と最も高く、次いで「誰に救助を求めたらいいかわからない」が36.7%、「避難所に必要な医療体制が整っているかわからない」が33.3%となっています。

■ 災害時に困ることや不安なこと【所持手帳種類別】

単位：%

	身体 障がい n=1,139	知的 障がい n=131	精神 障がい n=295	重複 所持 n=60
情報の入手が難しく災害の状況がわからない	29.6	43.5	31.5	38.3
誰に救助を求めたらいいかわからない	26.5	40.5	31.5	36.7
避難所がわからない	10.9	29.0	20.0	18.3
避難所に必要な医療体制が整っているかわからない	33.0	22.9	31.5	33.3
家族などに連絡をとれない	13.1	27.5	20.7	16.7
その他	5.4	7.6	12.2	8.3
とくにない	23.0	15.3	18.0	21.7
無回答	11.2	8.4	6.4	6.7

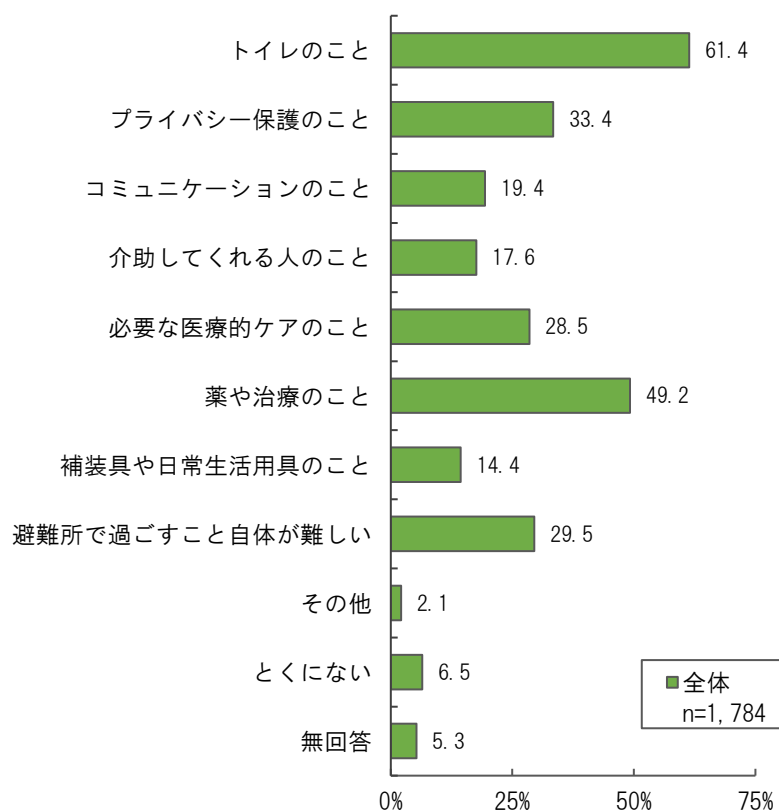
※最も高い割合に網掛けをしています。

（３）災害時に避難所で困ること

問52 災害時に、避難所等で困ると思われることは何ですか。（○はいくつでも）

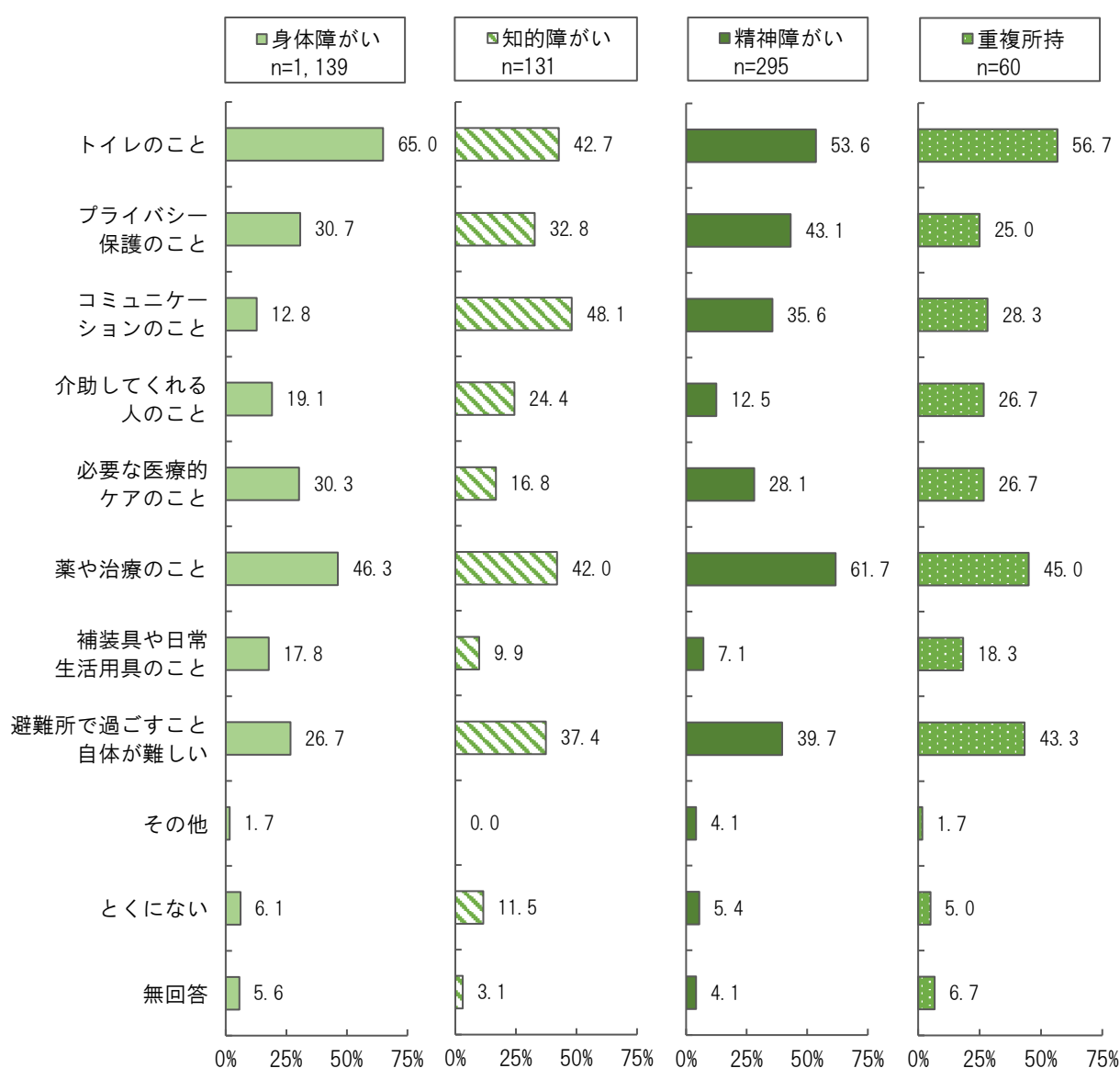
○災害時に避難所で困ることは、「トイレのこと」が61.4%と最も高く、次いで「薬や治療のこと」が49.2%、「プライバシー保護のこと」が33.4%となっています。

■ 災害時に避難所で困ること



○所持手帳種類別にみると、身体障がいでは「トイレのこと」が65.0%と最も高く、次いで「薬や治療のこと」が46.3%、「プライバシー保護のこと」が30.7%となっています。
 知的障がいでは「コミュニケーションのこと」が48.1%と最も高く、次いで「トイレのこと」が42.7%、「薬や治療のこと」が42.0%となっています。
 精神障がいでは「薬や治療のこと」が61.7%と最も高く、次いで「トイレのこと」が53.6%、「プライバシー保護のこと」が43.1%となっています。
 重複所持では「トイレのこと」が56.7%と最も高く、次いで「薬や治療のこと」が45.0%、「避難所で過ごすこと自体が難しい」が43.3%となっています。

■ 災害時に避難所で困ること【所持手帳種類別】



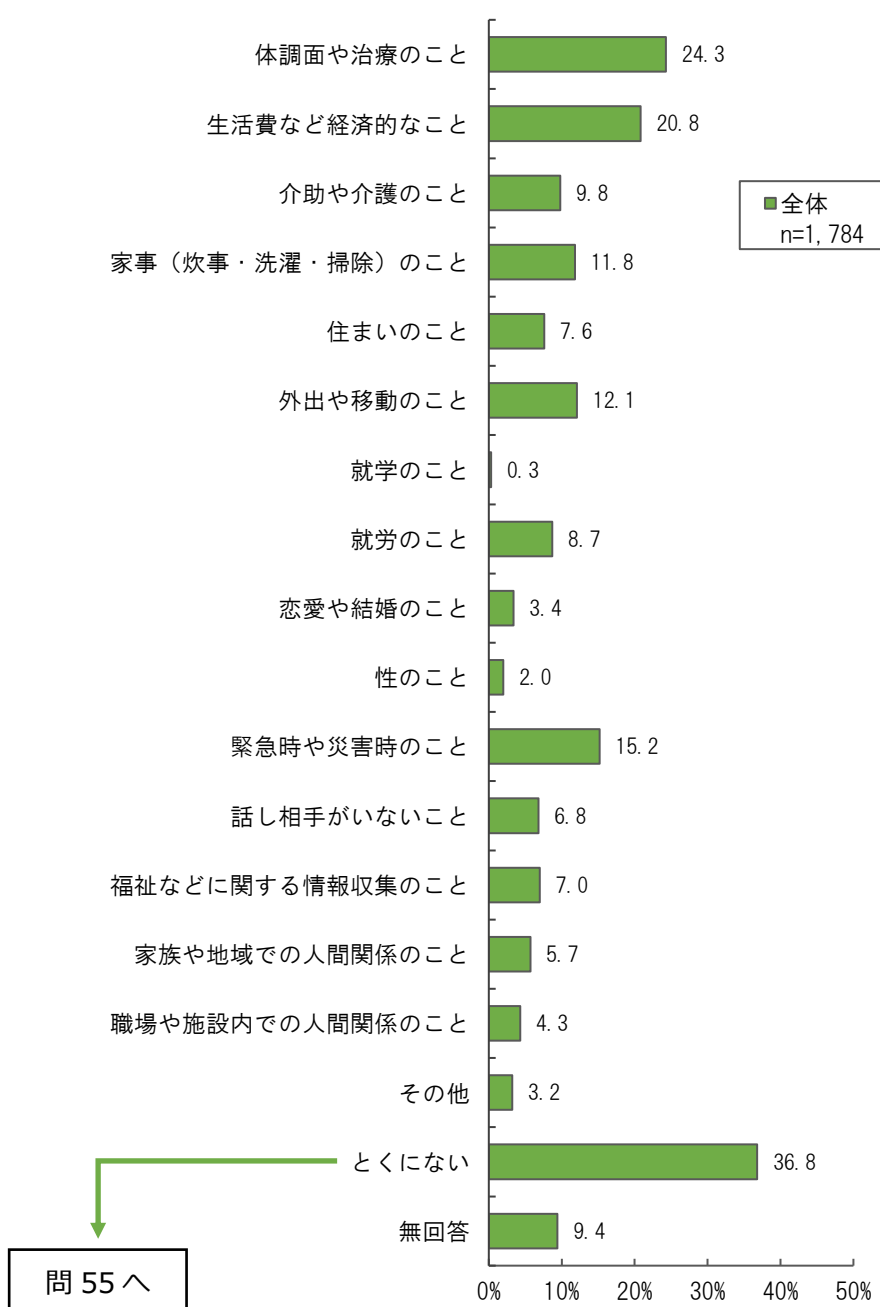
13 相談などについて

（１）悩みや相談したいこと

問53 現在、悩んでいることや相談したいことがありますか。（○はいくつでも）

○現在の悩みや相談したいことは、「とくにない」が36.8%と最も高いものの、「体調面や治療のこと」（24.3%）、「生活費など経済的なこと」（20.8%）は2割以上が悩みや相談したいこととしてあげています。

■ 悩みや相談したいこと



○所持手帳種類別にみると、身体障がい・知的障がいでは「とくにない」（40.8%・29.8%）が最も高く、精神障がい・重複所持では「生活費など経済的なこと」（40.3%・28.3%）が最も高くなっています。

■ 悩みや相談したいこと【所持手帳種類別】

単位：％

	身体障がい n=1,139	知的障がい n=131	精神障がい n=295	重複所持 n=60
体調面や治療のこと	23.9	13.0	34.9	20.0
生活費など経済的なこと	16.8	20.6	40.3	28.3
介助や介護のこと	10.9	9.2	8.1	11.7
家事（炊事・洗濯・掃除）のこと	10.6	13.7	18.0	16.7
住まいのこと	6.1	10.7	12.5	11.7
外出や移動のこと	11.8	11.5	14.9	25.0
就学のこと	0.2	0.0	0.7	1.7
就労のこと	4.1	8.4	28.8	8.3
恋愛や結婚のこと	1.5	7.6	10.5	3.3
性のこと	0.9	2.3	7.1	3.3
緊急時や災害時のこと	14.8	22.1	15.9	26.7
話し相手がいないこと	4.0	13.0	15.9	15.0
福祉などに関する情報収集のこと	6.6	9.2	9.2	10.0
家族や地域での人間関係のこと	3.4	8.4	16.3	1.7
職場や施設内での人間関係のこと	1.7	10.7	11.2	10.0
その他	2.4	6.9	5.4	3.3
とくにない	40.8	29.8	20.7	21.7
無回答	9.9	10.7	6.1	11.7

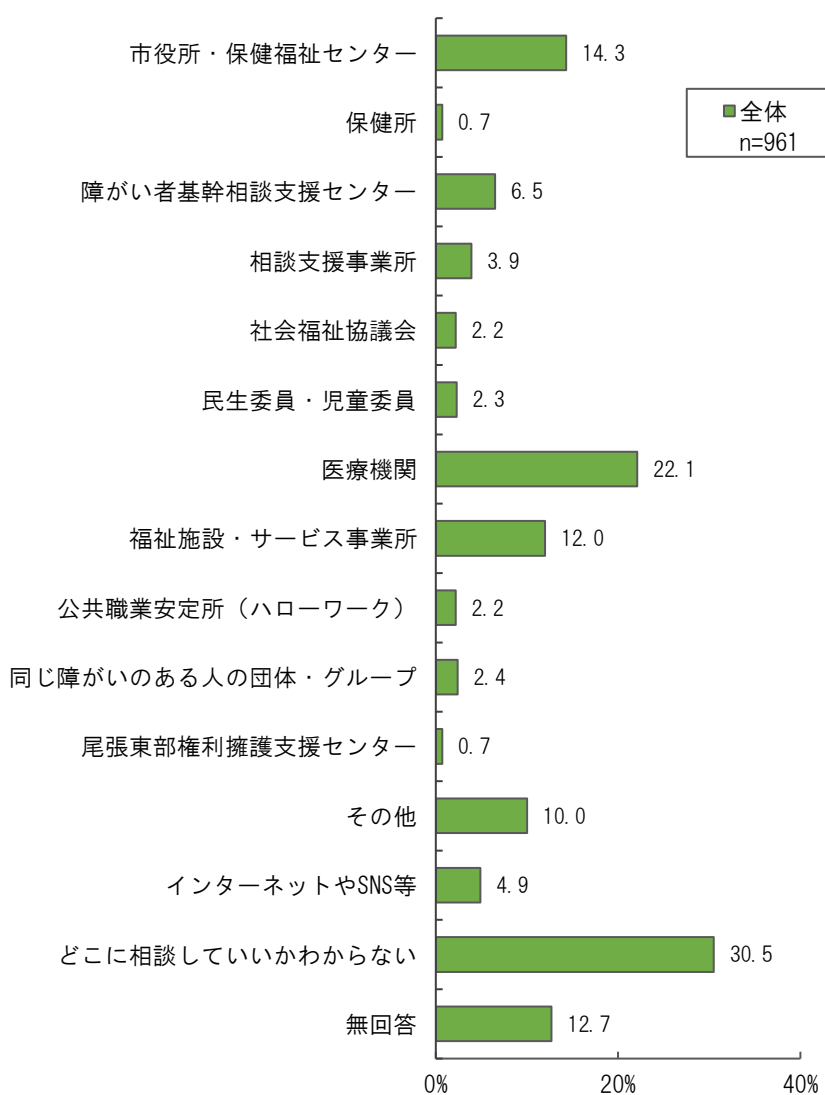
※最も高い割合に網掛けをしています。

（２）悩みの相談先

問54 悩んでいることを、家族以外でどこに相談していますか。（○はいくつでも）

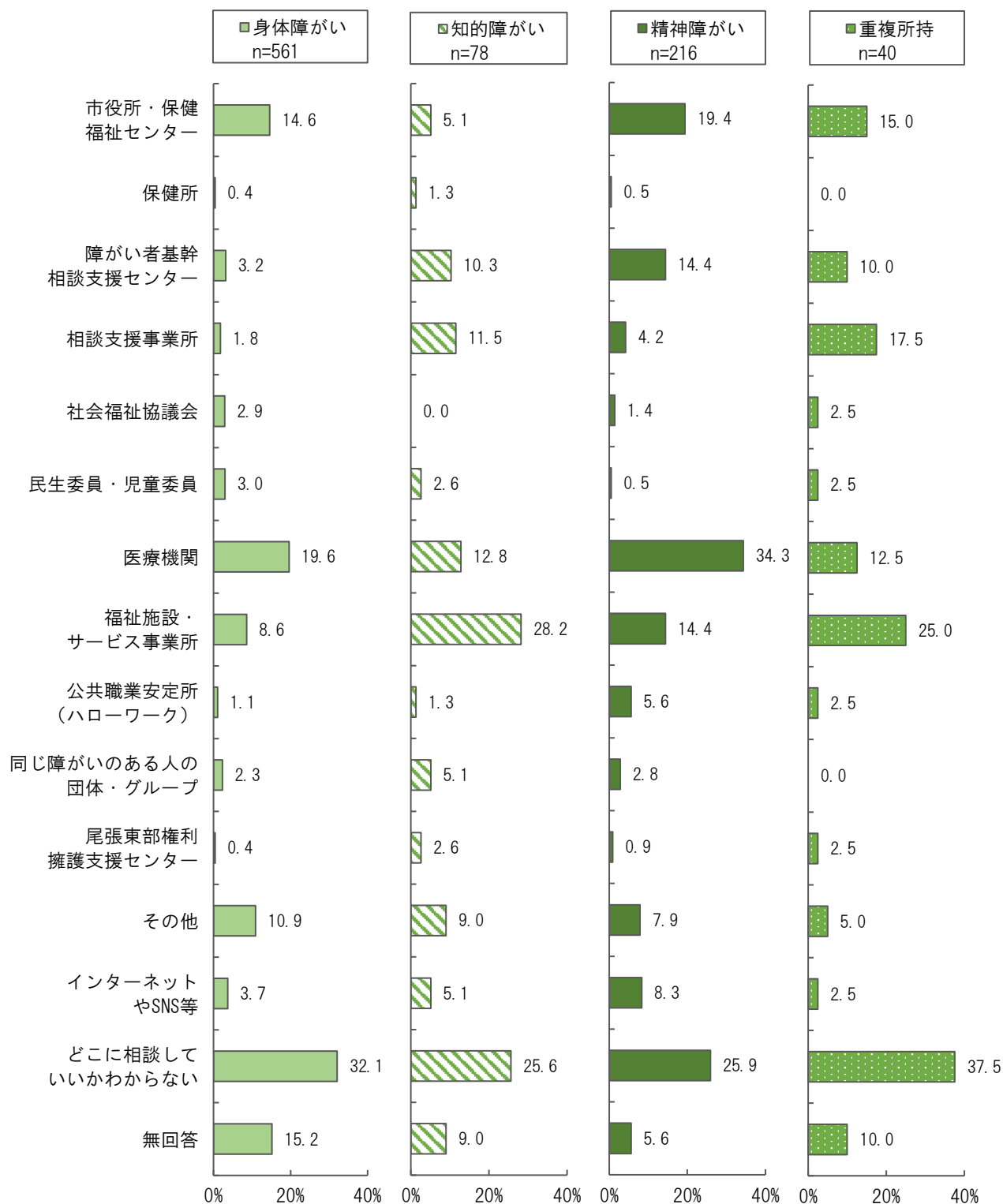
- 家族以外の悩みの相談先をみると、「医療機関」（22.1%）、「市役所・保健福祉センター」（14.3%）、「福祉施設・サービス事業所」（12.0%）が上位となっています。
- 一方、「どこに相談していいかわからない」が30.5%と最も高くなっています。
- 「どこに相談していいかわからない」が全体の3割を占めていることから、潜在的な相談のニーズがうかがえます。こうした結果を踏まえて、気軽に相談できる場所や人の周知が必要と考えられます。

■ 悩みの相談先（家族以外）



○所持手帳種類別にみると、身体障がい・重複所持では「どこに相談していいかわからない」(32.1%・37.5%)が最も高く、知的障がいでは「福祉施設・サービス事業所」(28.2%)、精神障がいでは「医療機関」(34.3%)が最も高くなっています。

■ 悩みの相談先（家族以外）【所持手帳種類別】



14 権利擁護について

（１）障がいのある人に対する社会の理解

問55 あなたは日常生活の中で、障がいのある人に対する社会の理解についてどう感じますか。（○は1つ）

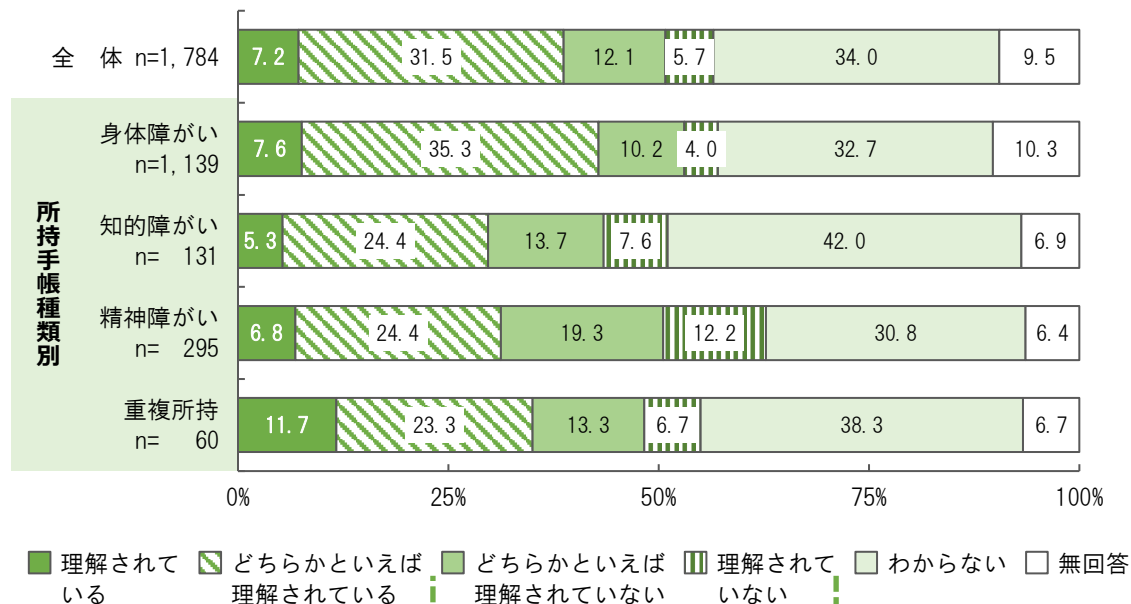
○障がいのある人に対する社会の理解は、「わからない」が34.0%と最も高く、次いで「どちらかといえば理解されている」が31.5%となっています。

一方、『理解されていない』（「どちらかといえば理解されていない」＋「理解されていない」）と感じている方は17.8%となっています。

○所持手帳種類別にみると、『理解されていない』は身体障がいでは14.2%、知的障がいでは21.3%、精神障がいでは31.5%、重複所持では20.0%となり、理解されていないと感じている割合は精神障がいが高くなっています。

○同じ設問を一般市民調査と比較すると『理解されていない』は障がい者の17.8%に対して一般市民は26.0%と高く、一般市民の方が障がい者に対する社会の理解がないと認識を持っていることが分かりました。

■ 障がいのある人に対する社会の理解【所持手帳種類別】



問 55－1 へ

問55で「3. どちらかといえば理解されていない」「4. 理解されていない」と答えた方のみ

問55-1 あなたは日常生活の中で、障がいのある人が理解されていないと感じることは何ですか。（自由回答）

○障がいのある人が理解されていないと感じることは、「見た目（精神障がいや内部障がい等）では分からない障がい者への配慮不足」が45件（14.2%）と最も多く、次いで「障がいの具体的な内容、困難さが理解されていない」が30件（9.5%）となっています。

■ 障がいのある人が理解されていないと感じることの自由回答の分類

自由回答の分類（n=317）	件数（件）	割合（%）
見た目（精神障がいや内部障がい等）では分からない障がい者への配慮不足	45	14.2
障がいの具体的な内容、困難さが理解されていない	30	9.5
差別・偏見・嫌な思いをする	29	9.1
バリアフリー等の整備不足	21	6.6
無関心・見て見ぬふりをされる	20	6.3
就労に関する職場の配慮不足	19	6.0
経験がなければ理解は難しいと感じている	12	3.8
周囲の反応が気になる（気兼ねする）	6	1.9
その他	48	15.1
無回答	87	27.4

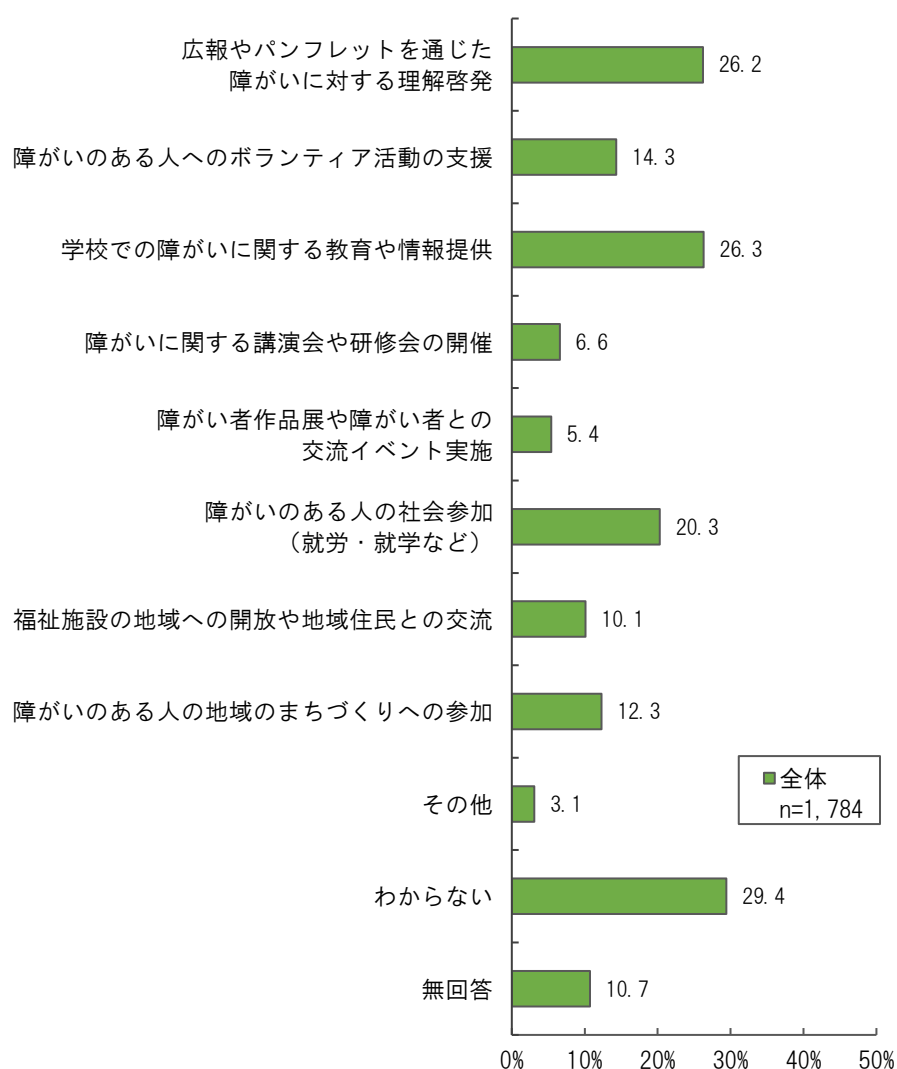
（２）市民理解を深めるために必要なこと

問56 障がいのある人に対する市民の理解を深めるために、必要だと思うことは何ですか。（○は3つまで）

○障がいのある人に対する市民理解を深めるために必要なことは、「学校での障がいに関する教育や情報提供」（26.3%）、「広報やパンフレットを通じた障がいに対する理解啓発」（26.2%）、「障がいのある人の社会参加（就労・就学など）」（20.3%）が上位となっています。

一方、「わからない」が29.4%と最も高くなっています。

■ 市民理解を深めるために必要なこと



○所持手帳種類別にみると、身体障がいでは「わからない」が30.1%と最も高く、次いで「広報やパンフレットを通じた障がいに対する理解啓発」（26.6%）、「学校での障がいに関する教育や情報提供」（24.1%）となっています。

知的障がいでは「わからない」「学校での障がいに関する教育や情報提供」が各29.0%と最も高く、次いで「広報やパンフレットを通じた障がいに対する理解啓発」（26.0%）となっています。

精神障がいでは「学校での障がいに関する教育や情報提供」が31.5%と最も高く、次いで「障がいのある人の社会参加（就労・就学など）」（27.1%）となっています。

重複所持では「わからない」が28.3%と最も高く、次いで「学校での障がいに関する教育や情報提供」（26.7%）、「広報やパンフレットを通じた障がいに対する理解啓発」「福祉施設の地域への開放や地域住民との交流」（各20.0%）となっています。

■ 市民理解を深めるために必要なこと【所持手帳種類別】

単位：%

	身体 障がい n=1,139	知的 障がい n=131	精神 障がい n=295	重複 所持 n=60
広報やパンフレットを通じた障がいに対する理解啓発	26.6	26.0	25.8	20.0
障がいのある人へのボランティア活動の支援	14.8	16.8	11.2	18.3
学校での障がいに関する教育や情報提供	24.1	29.0	31.5	26.7
障がいに関する講演会や研修会の開催	6.0	4.6	10.8	6.7
障がい者作品展や障がい者との交流イベント実施	4.4	8.4	6.1	10.0
障がいのある人の社会参加（就労・就学など）	18.3	23.7	27.1	15.0
福祉施設の地域への開放や地域住民との交流	9.3	19.1	9.2	20.0
障がいのある人の地域のまちづくりへの参加	11.0	22.1	14.2	16.7
その他	2.7	3.1	5.4	3.3
わからない	30.1	29.0	25.8	28.3
無回答	11.9	6.9	6.8	10.0

※最も高い割合に網掛けをしています。

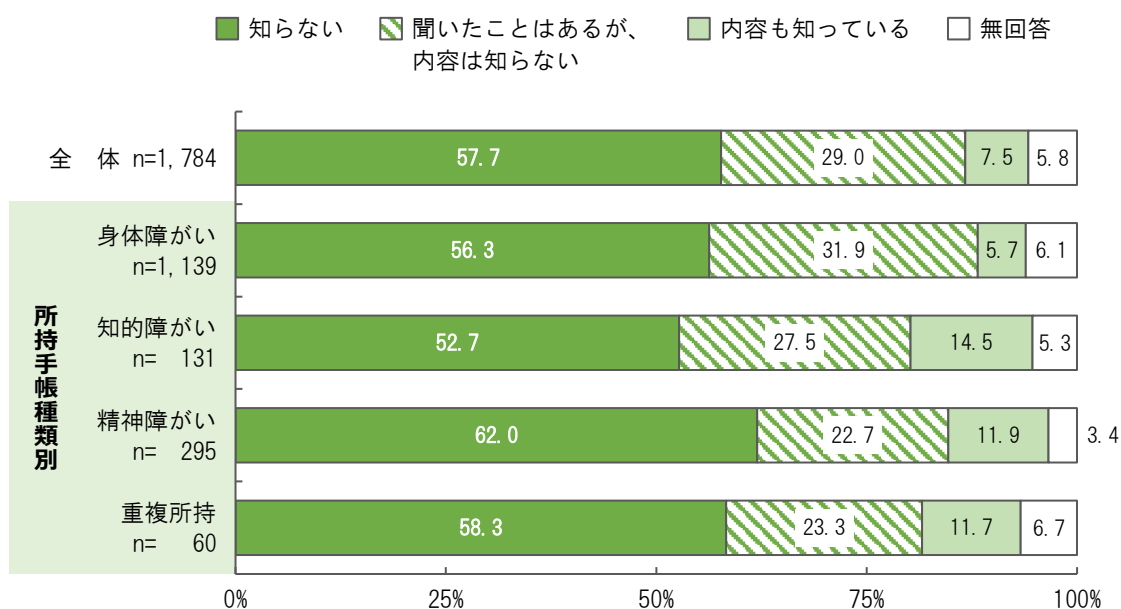
（３）日常生活自立支援事業の認知度

問57 日常生活自立支援事業を知っていますか。（○は１つ）

○日常生活自立支援事業の認知度をみると、「知らない」が57.7%と最も高く、「聞いたことはあるが、内容は知らない」は29.0%、「内容も知っている」は7.5%となっています。

○所持手帳種類別にみると、いずれも「知らない」が最も高くなっています。一方、「内容も知っている」は身体障がいでは5.7%、知的障がいでは14.5%、精神障がいでは11.9%、重複所持では11.7%となっています。

■ 日常生活自立支援事業の認知度【所持手帳種類別】



（４）日常生活自立支援事業の利用意向

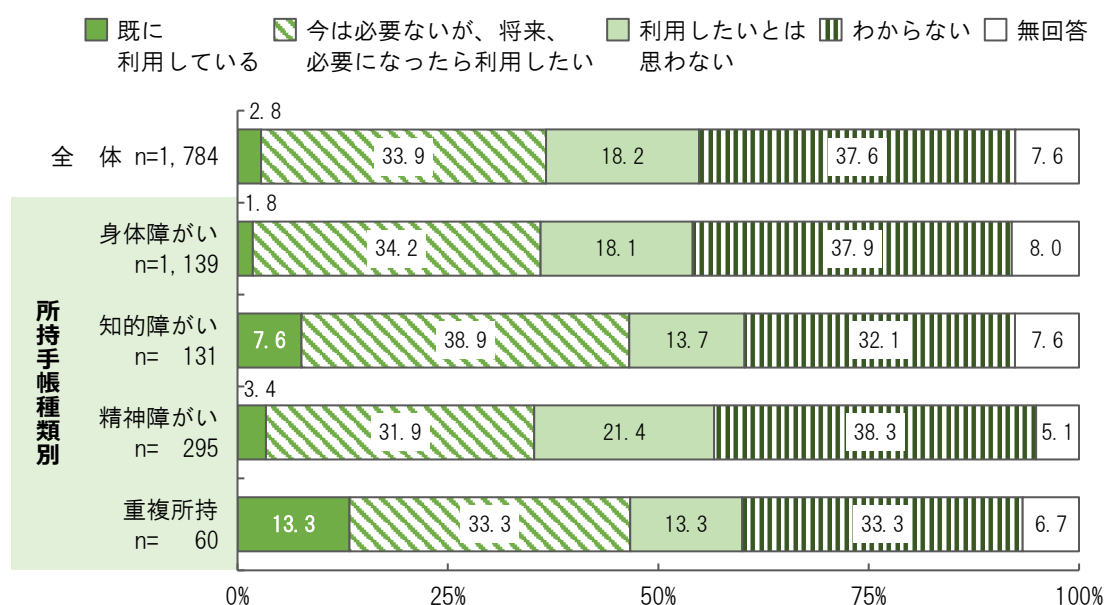
問58 日常生活自立支援事業を利用したいですか。（○は1つ）

○日常生活自立支援事業の利用意向をみると、「わからない」が37.6%と最も高く、次いで「今は必要ないが、将来、必要になったら利用したい」が33.9%となっています。

また、「既に利用している」と「今は必要ないが、将来、必要になったら利用したい」を合わせた『利用意向あり』は36.7%となっています。

○所持手帳種類別にみると、『利用意向あり』は身体障がいでは36.0%、知的障がいでは46.5%、精神障がいでは35.3%、重複所持では46.6%となっています。

■ 日常生活自立支援事業の利用意向【所持手帳種類別】

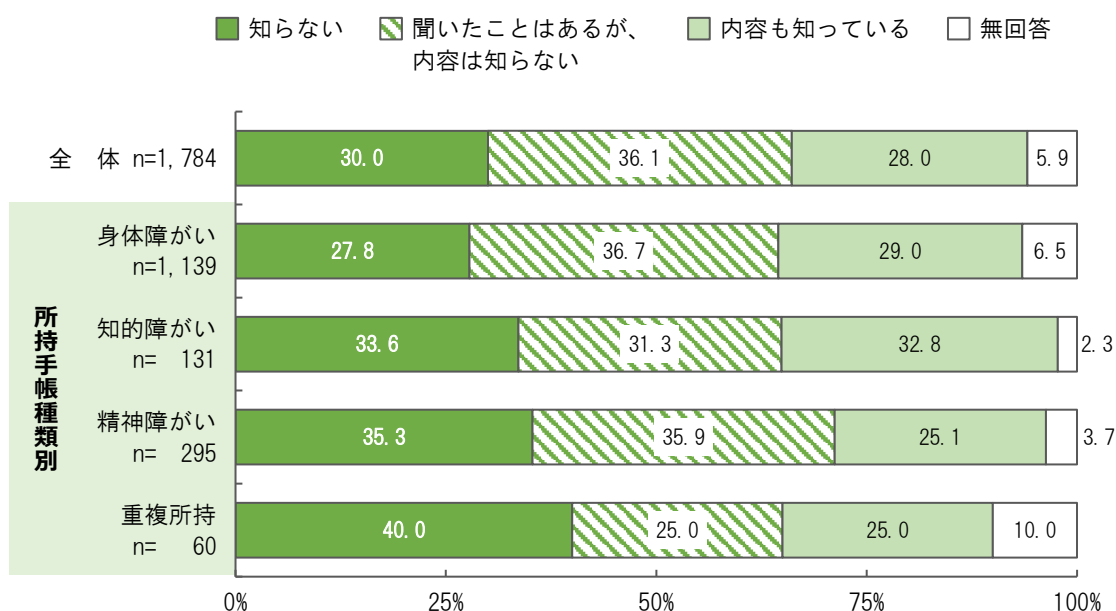


（５）成年後見制度の認知度

問59 成年後見制度を知っていますか。（○は1つ）

- 成年後見制度の認知度をみると、「聞いたことはあるが、内容は知らない」が36.1%と最も高く、次いで「知らない」が30.0%、「内容も知っている」が28.0%となっています。
- 所持手帳種類別にみると、身体障がい・精神障がいでは「聞いたことはあるが、内容は知らない」（36.7%・35.9%）が最も高く、知的障がい・重複所持では「知らない」（33.6%・40.0%）が最も高くなっています。

■ 成年後見制度の認知度【所持手帳種類別】



（６）成年後見制度の利用意向

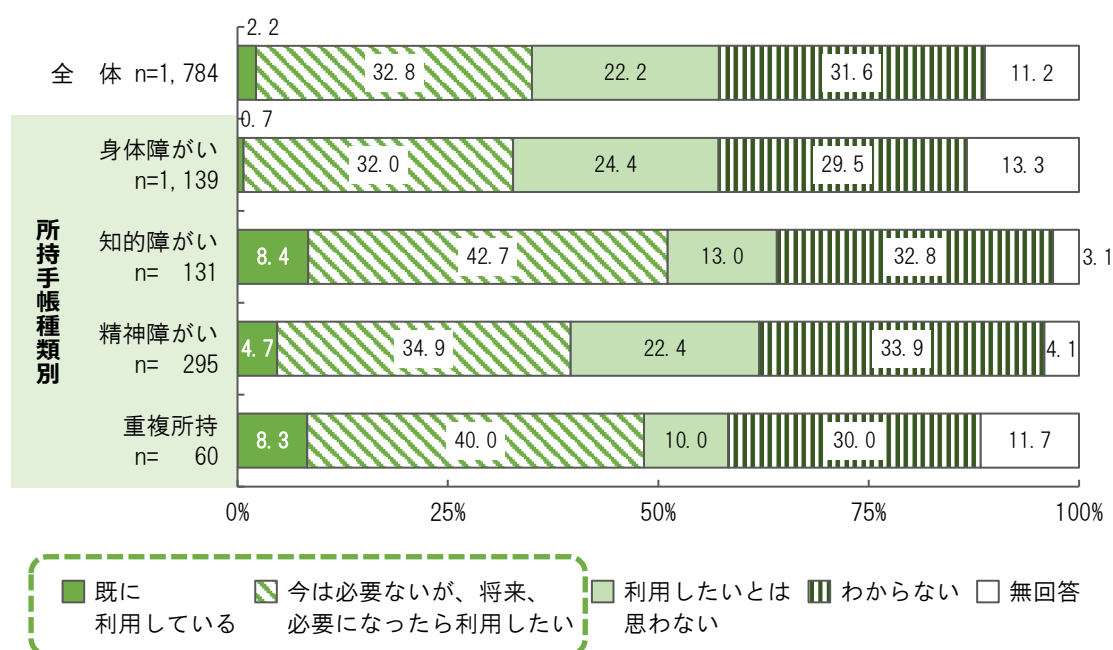
問60 成年後見制度を利用したいですか。（○は1つ）

○成年後見制度の利用意向をみると、「今は必要ないが、将来、必要になったら利用したい」が32.8%と最も高く、次いで「わからない」が31.6%となっています。

また、「既に利用している」と「今は必要ないが、将来、必要になったら利用したい」を合わせた『利用意向あり』は35.0%となっています。

○所持手帳種類別にみると、『利用意向あり』は身体障がいでは32.7%、知的障がいでは51.1%、精神障がいでは39.6%、重複所持では48.3%となっています。

■ 成年後見制度の利用意向【所持手帳種類別】



問 61 へ

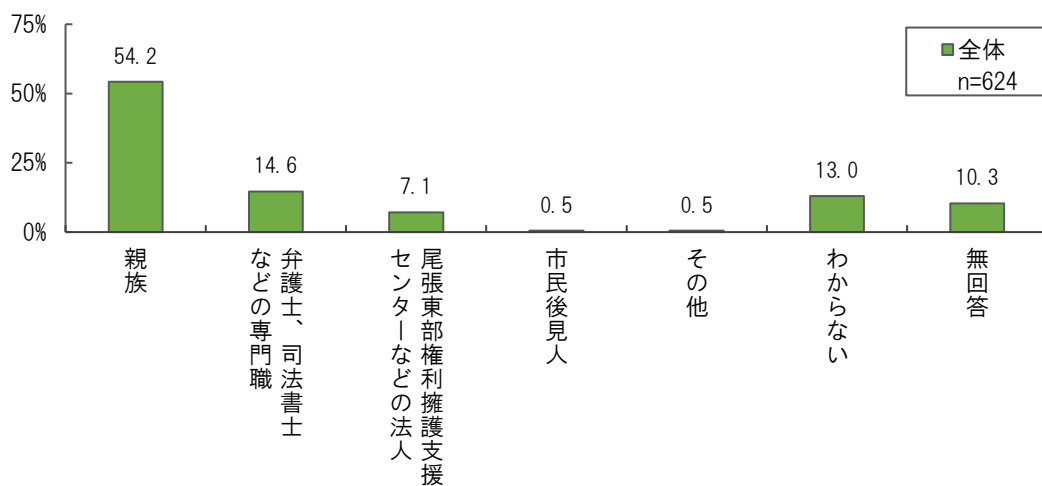
問60で「1. 既に利用している」または「2. 今は必要ないが、将来、必要になったら利用したい」と答えた方のみ

問61 支援してくれる後見人などはどのような方を希望しますか。（○は1つ）

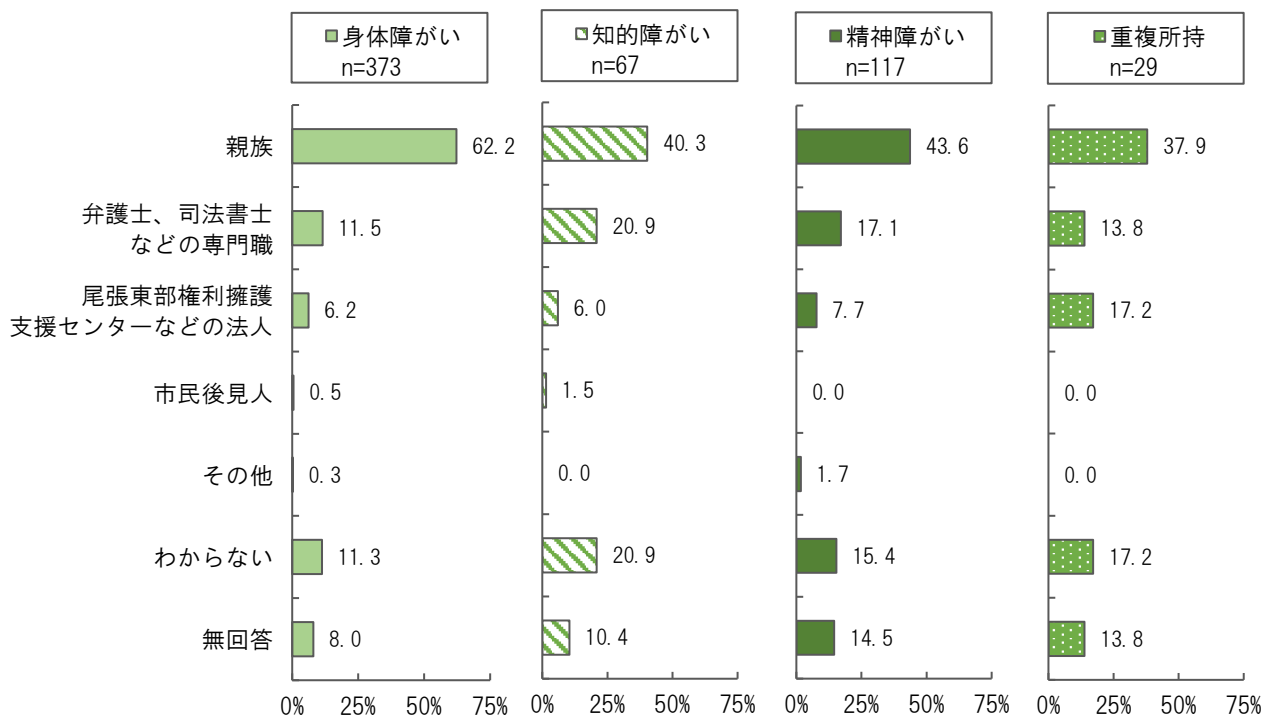
○希望する後見人は、「親族」が54.2%と最も高くなっています。

○所持手帳種類別にみると、いずれも「親族」が最も高くなっています。また、「弁護士、司法書士などの専門職」は知的障がい者で20.9%、「尾張東部権利擁護支援センターなどの法人」は重複所持で17.2%となっています。

■ 希望する後見人



■ 希望する後見人【所持手帳種類別】



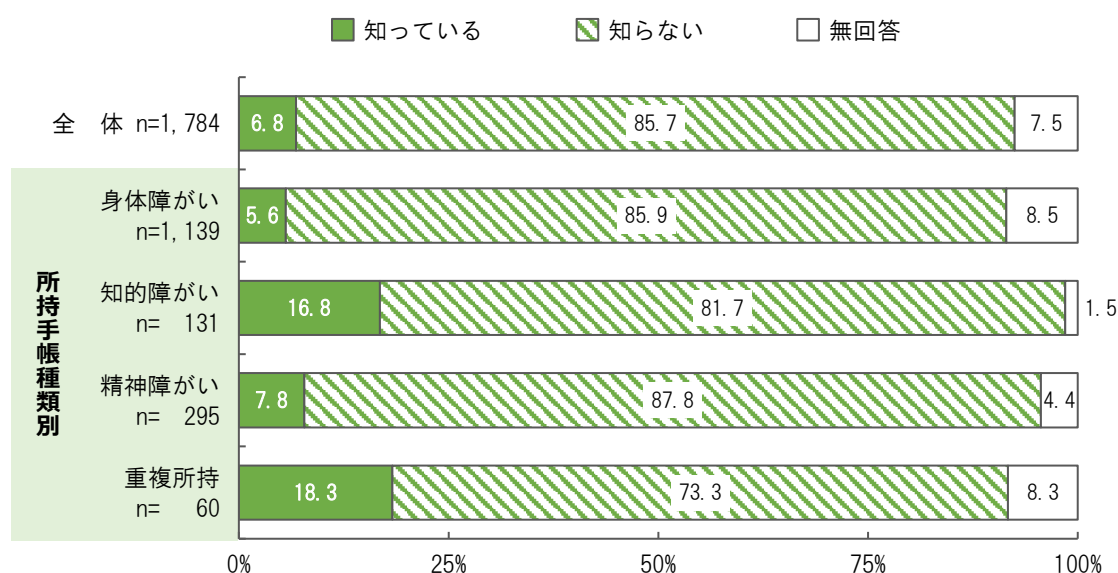
（７）尾張東部権利擁護支援センターの認知度

問62 あなたは、成年後見制度の相談や利用支援などを行う尾張東部権利擁護支援センターを知っていますか。（○は1つ）

○尾張東部権利擁護支援センターの認知度をみると、「知らない」が85.7%を占め、「知っている」は6.8%となっています。

○所持手帳種類別にみると、「知っている」は身体障がいでは5.6%、知的障がいでは16.8%、精神障がいでは7.8%、重複所持では18.3%となり、重複所持での認知度が高くなっています。

■ 尾張東部権利擁護支援センターの認知度【所持手帳種類別】



15 障がいなどのある人に対する差別や配慮について

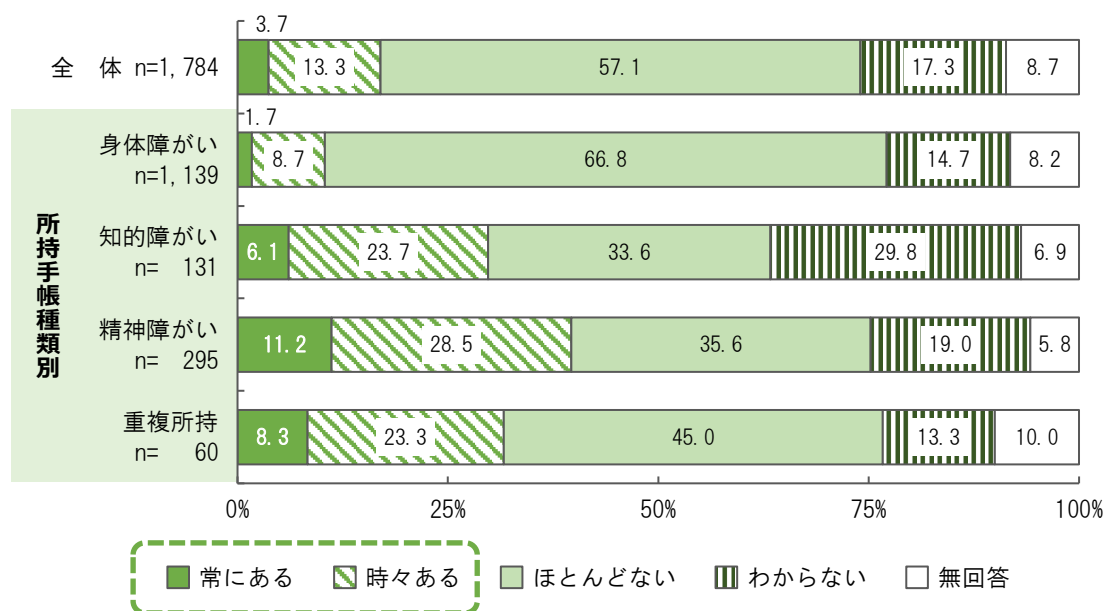
(1) 差別をうけたりいやな思いをしたことの有無

問63 あなたは、障がいなどがあるために差別をうけたり、いやな思いをしたことがありますか。（○は1つ）

○差別をうけたりいやな思いをしたことの有無をみると、「ほとんどない」が57.1%と最も高くなっています。一方、「常にある」(3.7%)と「時々ある」(13.3%)を合わせた17.0%は差別やいやな思いをしたことが『ある』としています。

○所持手帳種類別にみると、『ある』は身体障がいでは10.4%、知的障がいでは29.8%、精神障がいでは39.7%、重複所持では31.6%となり、精神障がいでも最も高くなっています。

■ 差別をうけたりいやな思いをしたことの有無【所持手帳種類別】



■ いやな思いをした具体的な内容

具体的な内容（一部抜粋記載）	
身体障がい	足を引き摺りながら歩いていると、笑われたり真似をされたりする。
	公共機関で白杖をついているのに自筆を求められる。
	過去には、仕事面において体調不良等の理由により、昇任が遅らされる等不利益を受けたことがあります。
	聞こえないので聞き返すが1回は許容されるが、何回も聞き返されると怒り出す人が多い。
	早く歩けないので、自動支払い機等、列の前に割り込まれる。
	動けない人に対して動ける人が邪魔をする。何かする時も、あやまってばかりいる。
	買い物先で人とぶつかり怒鳴られた。

具体的な内容（一部抜粋記載）	
知的障がい	近所の子供が「あの子バカなの」と家族に聞いていた。買い物へ行くと「あっち行け」と言われた。ジロジロ見られる。
	医療機関で、障害を理由に受診を断られること。
	読み書きが出来ないと伝えていたのに、以前通っていた作業所で、本当に書けないかテストされた。
	学校のときに、いじめられた。先生は対応してくれなかった。
	通学時、ジロジロ見られ、ヒソヒソ笑われる。
	嫌な顔をされる。
精神障がい	障害があると伝えただけで、履歴書をその場で返却された。障がい者で採用されたとき、他の社員より障がい者だけ休日が少ない。
	自立支援に対して、「人の金で治療を受けている」と言われた。
	障がいがあることを知っている友人・親戚が、まだ障がいのことを話していない共通の友人・親戚に暴露するなどアウティング行為。
	障がいがあるから、それは出来ないと言うと、言い訳をしていると、とられてしまうこと。
	悪口を言われている、友達が居なくなった。
	子供あつかいされる時がある。
	上手に言葉での説明が出来ず、げげんな表情をされがち。外見が普通なので、年齢相応の対応を求められやすい。
重複所持	障害者を子どものように扱う感じで、平等の立場を考えられていない、内容を聞いてもらえず、思い込みで決めつけられて扱われる。
	耳が聞こえないので無視される。
	社内で何かなくなる度に犯人あつかいされる。
	じろっと見られる、チラチラッとみられる。

問64 障がいなどのある人に対する配慮で、良かったことやうれしかったことなどがあれば具体的にお書きください。

○障がいなどのある人に対する配慮で、良かったことやうれしかったことの自由回答は、316件あり、その内容は以下のように分類できました。
最も多い「手助けをしてもらった」は74件（23.4%）となり、次いで「親切な対応、気遣い」が62件（19.6%）となっています。

■ 良かったことやうれしかった配慮の具体的内容の分類

具体的内容の分類（n=316）	件数（件）	割合（%）
手助けをしてもらった	74	23.4
親切な対応、気遣い	62	19.6
各種助成、サービス、制度の充実	41	13.0
障がいに対する理解、相談できる人がいる	24	7.6
やさしい声かけ	22	7.0
バリアフリーの整備	11	3.5
普通に接してくれた	10	3.2
職場での配慮	9	2.8
その他	32	10.1
特になし	31	9.8

《手助けをしてもらった：一部抜粋記載》

- ・杖を落とした時に黙って拾って手渡して頂いたり、困っているのを見てすぐに施設職員の方を呼んで頂いたり等、助けていただく機会に直面することもあります。（身体障がい）
- ・スーパーのレジでかごを前へ持って行ってくれる事が多い。（身体障がい）
- ・エレベーターのボタンを押して下さったり、車イスでの移動に手を差し伸べて下さる方が多くある。（身体障がい）
- ・電車に乗っている時に席を代わってもらえたこと。（精神障がい）

《親切な対応、気遣い：一部抜粋記載》

- ・SNSで知り合った友達に初対面でヘルプマークをつけていた私に気づいてくれた上で私が障害者である事を話すまで聞かないでいてくれたこと。（精神障がい）
- ・コミュニケーションアプリを既に入れてくれていたこと、マスクを外してくれたこと（身体障がい）
- ・公共の物を触ってしまった時、優しく見守ってくれた。（知的障がい）

（２）市役所の配慮

問65 市役所の窓口や電話での職員の対応、市役所から自宅に届く文書などについて、障がいのある人などへの配慮をどのように感じていますか。（○は1つ）

○市役所の配慮について、『配慮されている』（「配慮はされており、満足している」＋「十分ではないが、ある程度、配慮はされている」）と感じている方は61.7%、一方、『配慮されていない』（「どちらかという配慮が足りないと思う」＋「配慮はほとんど感じられない」）と感じている方は10.6%となっています。

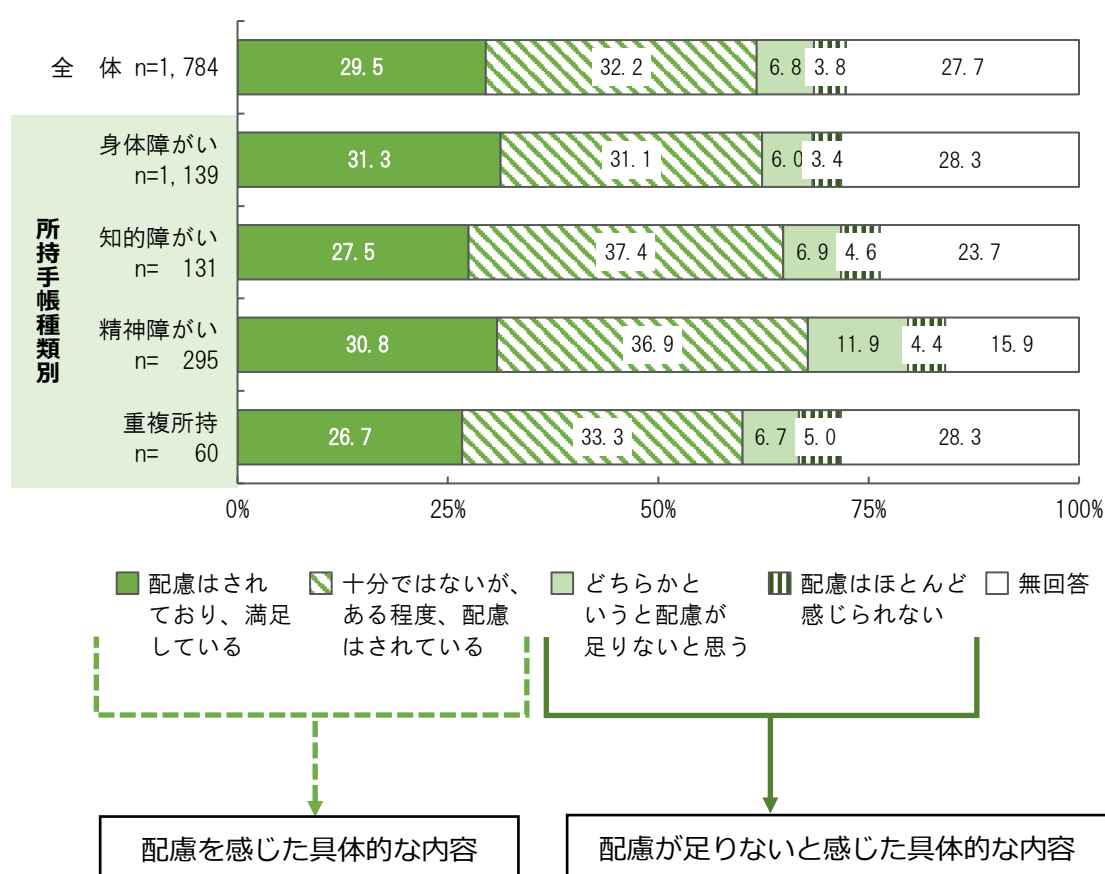
○所持手帳種類別にみると、身体障がいでは『配慮されている』は62.4%、『配慮されていない』は9.4%となっています。

知的障がいでは『配慮されている』は64.9%、『配慮されていない』は11.5%となっています。

精神障がいでは『配慮されている』は67.7%、『配慮されていない』は16.3%となっています。

重複所持では『配慮されている』は60.0%、『配慮されていない』は11.7%となっています。

■ 市役所の配慮【所持手帳種類別】



■ 配慮を感じた具体的な内容の分類

具体的な内容の分類（n=423）	件数（件）	割合（%）
窓口等での丁寧、迅速な対応	232	54.8
障がいの種類に配慮した対応	54	12.8
しっかり話を聞いてくれる	18	4.3
気遣い、配慮のある対応	17	4.0
書面对応の充実	12	2.8
バリアフリーの整備	3	0.7
障がいを理解しようとする姿勢を感じた	3	0.7
プライバシーの保護	2	0.5
その他	46	10.9
配慮不足を感じていないため	20	4.7
特になし、わからない	16	3.8

《窓口等での丁寧、迅速な対応：一部抜粋記載》

- ・手帳などの更新手続きがスムーズで助かっています。（精神障がい）
- ・書類を書くとき、一つ一つゆっくり説明しながら、書かせてもらえること。（精神障がい）
- ・電話や窓口での職員の方が、わかりやすく説明してくれる。（知的障がい）
- ・テキパキ動いてもらえて待たされる事がない。（身体障がい）

《障がいの種類に配慮した対応：一部抜粋記載》

- ・筆談を積極的に行って分かろうとする姿を、公共施設で見かけた。（身体障がい）
- ・自分がまともに文字を書けない様子を察して代筆をしてくれた。（精神障がい）
- ・長時間じっとしてられないことがわかって下さって、できる限り早く終わらせて下さったことです。（知的障がい）
- ・すぐに動けない際に、座っている所まで来てくれた。（身体障がい）

《しっかり話を聞いてくれる：一部抜粋記載》

- ・とある職員さんが障がいに寄り添って話を聞いてくれたり気持ちを押し量ってくれたところです。私のことを覚えてくれていて、家族が連絡した際にも寄り添った対応をしてくださいました。（精神障がい）
- ・丁寧な対応し言葉や行動で福祉の窓口で就労継続支援の福祉サービス受給者証の更新をすることができ印象がとてもよかった。また普段の生活（家族・子供への心配）のなやみを話したら、相談窓口の紹介案内を受けた。（身体障がい）

■ 配慮が足りないと感じた具体的な内容の分類

具体的な内容の分類（n=119）	件数（件）	割合（%）
窓口等での対応に配慮が足りない	37	31.1
郵便、書類等への配慮不足	28	23.5
障がいに対応した取り組みが遅れている	8	6.7
手続きが煩雑、しにくい	6	5.0
プライバシーの保護が不十分	4	3.4
わからない	4	3.4
その他	32	26.9

《窓口等での対応に配慮が足りない：一部抜粋記載》

- ・視覚障害者と提示しているが、文字での確認や記入を求められる。（身体障がい）
- ・窓口の態度が親切ではない、職員の態度が悪く、時間が長くなる。（身体障がい）
- ・市役所へ仕事を探しに行ったら、上から目線で1人で通勤出来ないなら働けないと言われてびっくりしました。（知的障がい）
- ・知識が足りない職員が多々おられた、窓口のたらい回しにあったことがあるので、サービス等の手続きを1カ所の窓口でしてほしい。（精神障がい）

《郵便、書類等への配慮不足：一部抜粋記載》

- ・書類の書き方が難しく、どの書類をどのように書いていいのか分からない。（身体障がい）
- ・郵便物が届いた物は開けられない、身体が不自由なので書類の記入にこまる。（身体障がい）
- ・いくら漢字にふりがながあっても、知的障害当事者には意味が理解できない。（知的障がい）

《障がいに対応した取り組みが遅れている一部抜粋記載》

- ・未だに行政から提出を求められる書類を郵送で返す事。早くwebで回答出来るようにしてほしい。ポストに出しに行くのが下肢障害者にとって大変か理解してほしい。（身体障がい）
- ・他の市町村では、聴覚障がい者向けの支援のデバイスを導入しているところもある。尾張旭市は、基本的に先進的な取り組みを積極的に行おうとする姿勢がない。それは、障がい分野だけではなく全体的な取り組みがそう思う。（精神障がい）

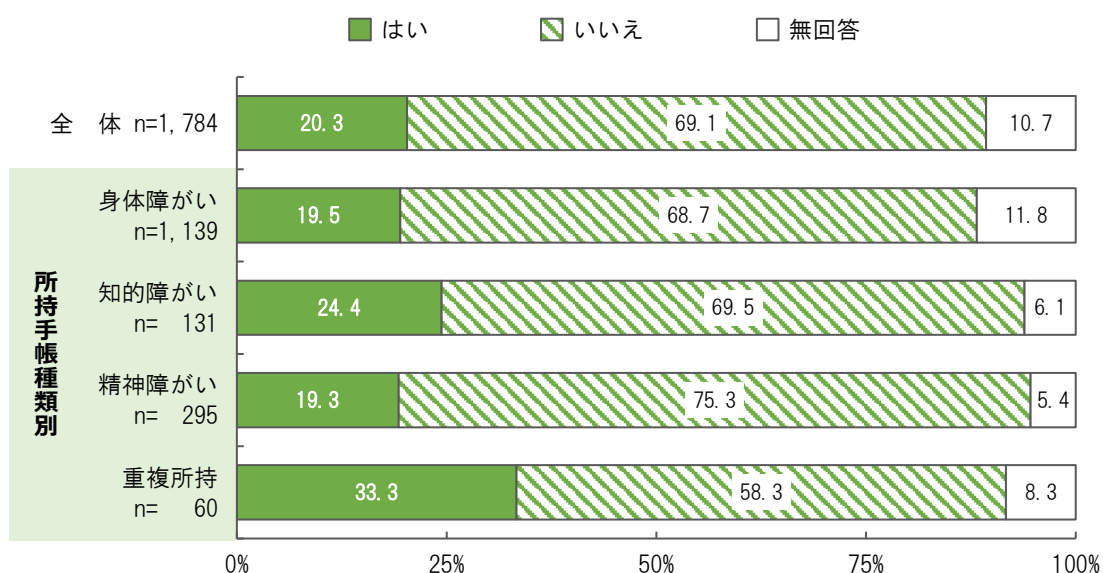
（３）虐待に関する相談窓口の認知度

問66 障がいのある人などに対する虐待に気づいた人は、市へ通報する義務があります。
あなたは虐待に関する相談窓口が市役所にあることを知っていますか。（○は１つ）

○市役所にある虐待に関する相談窓口の認知度をみると、「はい」（知っている）は20.3%、「いいえ」（知らない）が69.1%となっています。

○所持手帳種類別にみると、「はい」（知っている）は身体障がいでは19.5%、知的障がいでは24.4%、精神障がいでは19.3%、重複所持では33.3%となっています。

■ 虐待に関する相談窓口が市役所にあることを知っているか【所持手帳種類別】



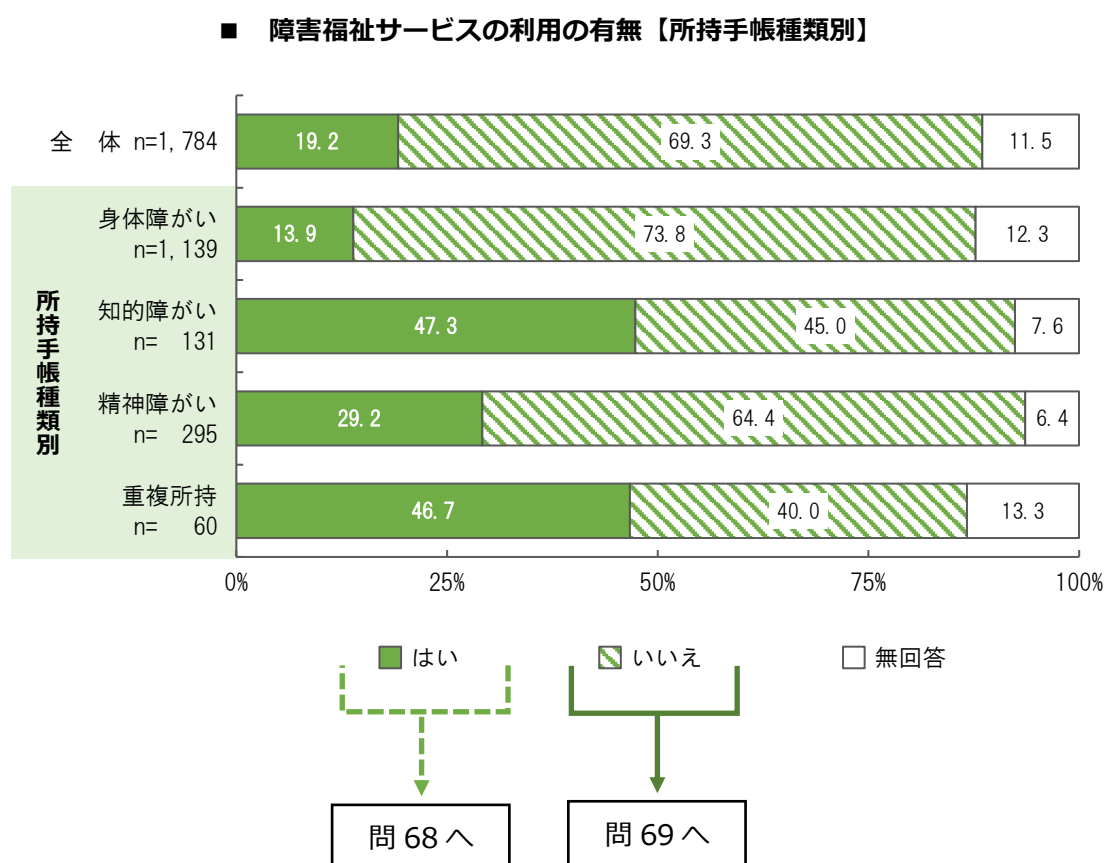
16 障害福祉サービスなどについて

（１）障害福祉サービスの利用の有無

問67 あなたは、現在、障害福祉サービス（介護保険制度での利用は除きます。）などを利用していますか。（○は1つ）

○障害福祉サービスの利用の有無をみると、「はい」（利用している）は19.2%、「いいえ」（利用していない）は69.3%となっています。

○所持手帳種類別にみると、「はい」（利用している）は身体障がいでは13.9%、知的障がいでは47.3%、精神障がいでは29.2%、重複所持では46.7%となっています。

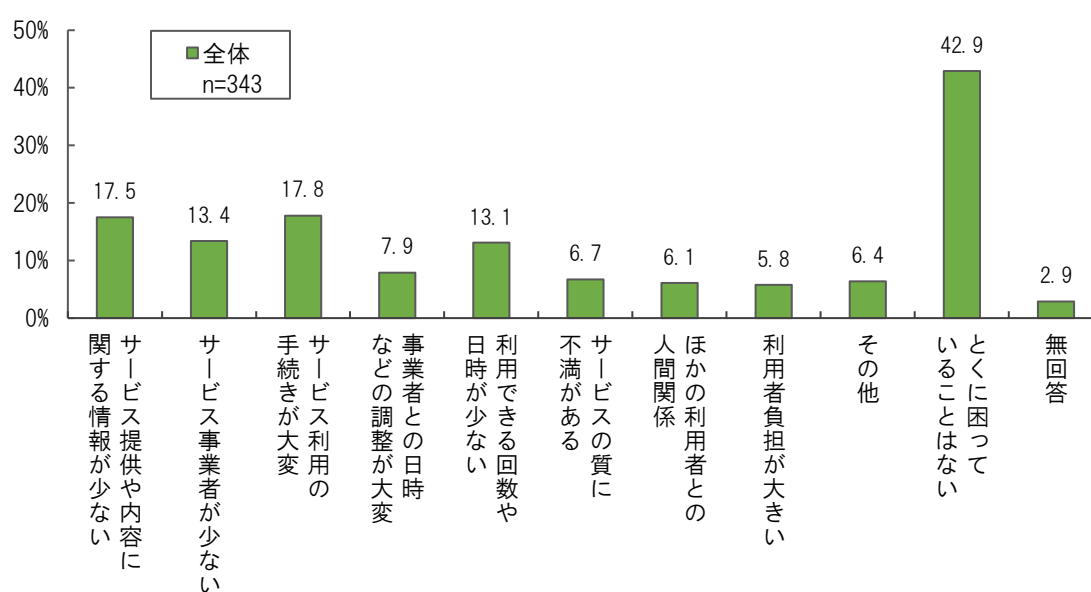


問67で「1. はい」と答えた方のみ

問68 障害福祉サービスなどを利用する上で困っていることはありますか。
(○はいいくつでも)

○利用する上で困っていることをみると、「とくに困っていることはない」が42.9%と最も高いものの、2割弱は「サービス利用の手続きが大変」(17.8%)、「サービス提供や内容に関する情報が少ない」(17.5%)を困っていることとしてあげています。

■ 利用する上で困っていること



○所持手帳種類別にみると、身体障がいでは「サービス利用の手続きが大変」（20.3%）、「サービス提供や内容に関する情報が少ない」（19.6%）、「利用できる回数や日時が少ない」（13.9%）が上位となっています。

知的障がいでは「サービス事業者が少ない」（22.6%）、「利用できる回数や日時が少ない」（19.4%）、「サービス利用の手続きが大変」（12.9%）が上位となっています。

精神障がいでは「サービス提供や内容に関する情報が少ない」（17.4%）、「サービス利用の手続きが大変」（16.3%）、「ほかの利用者との人間関係」（14.0%）が上位となっています。

重複所持では「サービス事業者が少ない」（39.3%）、「サービス提供や内容に関する情報が少ない」（35.7%）、「サービス利用の手続きが大変」「利用できる回数や日時が少ない」（各17.9%）が上位となっています。

■ 利用する上で困っていること【所持手帳種類別】

単位：％

	身体 障がい n=158	知的 障がい n=62	精神 障がい n=86	重複 所持 n=28
サービス提供や内容に関する情報が少ない	19.6	6.5	17.4	35.7
サービス事業者が少ない	8.9	22.6	7.0	39.3
サービス利用の手続きが大変	20.3	12.9	16.3	17.9
事業者との日時などの調整が大変	6.3	9.7	8.1	14.3
利用できる回数や日時が少ない	13.9	19.4	7.0	17.9
サービスの質に不満がある	6.3	4.8	7.0	14.3
ほかの利用者との人間関係	0.6	11.3	14.0	3.6
利用者負担が大きい	8.9	0.0	5.8	3.6
その他	5.7	3.2	11.6	3.6
とくに困っていることはない	46.8	43.5	39.5	25.0
無回答	2.5	1.6	3.5	3.6

※最も高い割合に網掛けをしています。

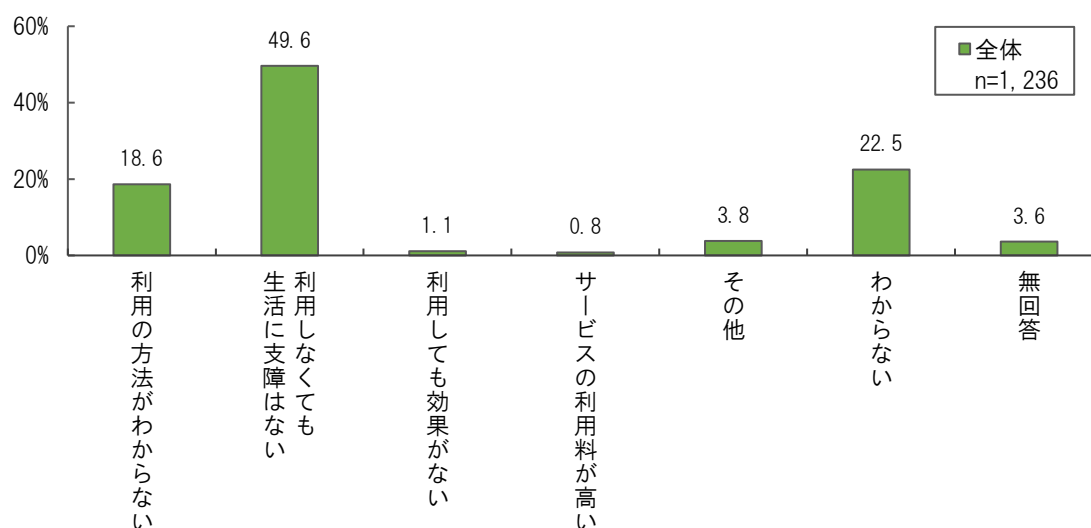
問67で「2. いいえ」と答えた方のみ

問69 障害福祉サービスなどを利用していない理由は何ですか。（○は1つ）

○障害福祉サービスを利用していない理由は、「利用しなくても生活に支障はない」が49.6%と最も高く、次いで「わからない」が22.5%、「利用の方法がわからない」が18.6%となっています。

○所持手帳種類別にみると、いずれも「利用しなくても生活に支障はない」が最も高くなっています。

■ 障害福祉サービスを利用していない理由



■ 障害福祉サービスを利用していない理由【所持手帳種類別】

単位：%

	身体障がい n=841	知的障がい n=59	精神障がい n=190	重複所持 n=24
利用の方法がわからない	18.2	16.9	27.4	20.8
利用しなくても生活に支障はない	52.3	50.8	31.6	37.5
利用しても効果がない	1.0	0.0	3.2	0.0
サービスの利用料が高い	1.0	0.0	0.5	4.2
その他	3.2	0.0	5.8	4.2
わからない	21.0	28.8	28.4	29.2
無回答	3.3	3.4	3.2	4.2

※最も高い割合に網掛けをしています。

17 障がい者施策等について

（１）障がい者施策の満足度と今後の優先度

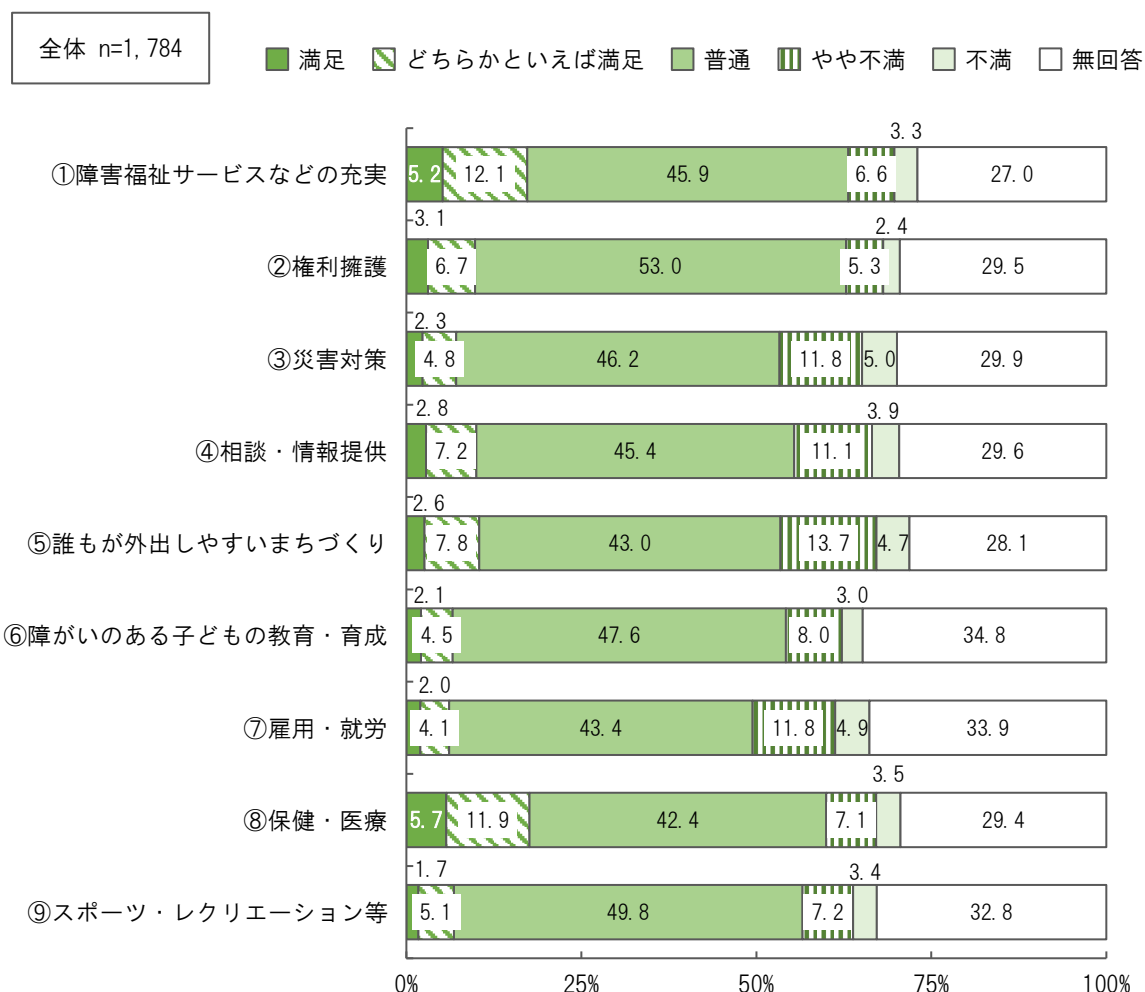
問70 尾張旭市の障がい者施策全般についておたずねします。下の表の①～⑨の項目ごとに、「現在の満足度」と「今後の優先度」のそれぞれに○を1つずつつけてください。

○障がい者施策の現在の満足度をみると、全ての項目で「普通」が最も高くなっています。また、「満足」と「どちらかといえば満足」を合わせた『満足』は“⑧保健・医療”が17.6%と最も高く、次いで“①障害福祉サービスなどの充実”が17.3%、“⑤誰もが外出しやすいまちづくり”が10.4%となっています。

一方、「やや不満」と「不満」を合わせた『不満』は“⑤誰もが外出しやすいまちづくり”が18.4%と最も高く、次いで“③災害対策”が16.8%、“⑦雇用・就労”が16.7%となっています。

“⑤誰もが外出しやすいまちづくり”は『満足』、『不満』ともに上位となっています。

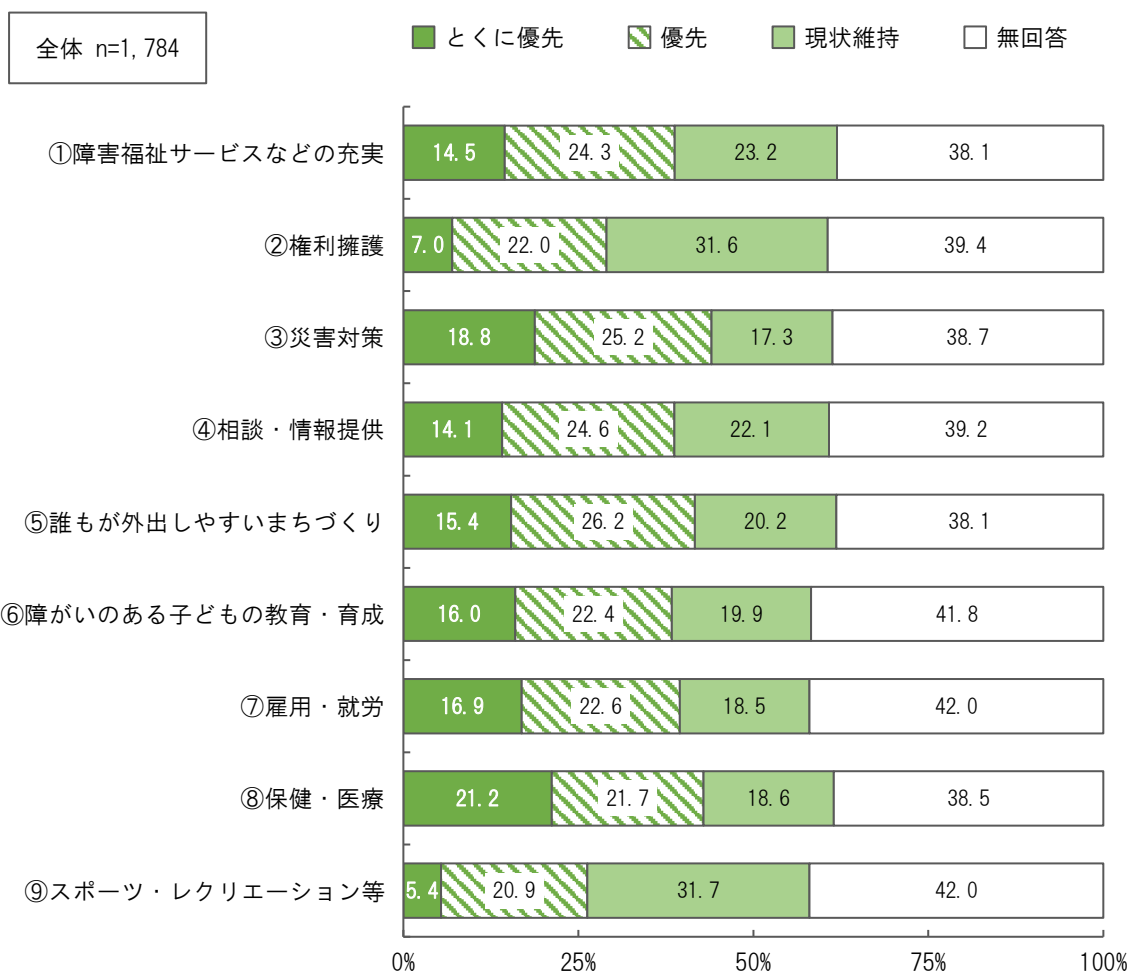
■ 現在の満足度



○障がい者施策の今後の優先度をみると、「とくに優先」と「優先」を合わせた『優先』は“③災害対策”が44.0%と最も高く、次いで“⑧保健・医療”が42.9%、“⑤誰もが外出しやすいまちづくり”が41.6%となっています。

また、「現状維持」は“⑨スポーツ・レクリエーション等”(31.7%)、“②権利擁護”(31.6%)で高くなっています。

■ 今後の優先度



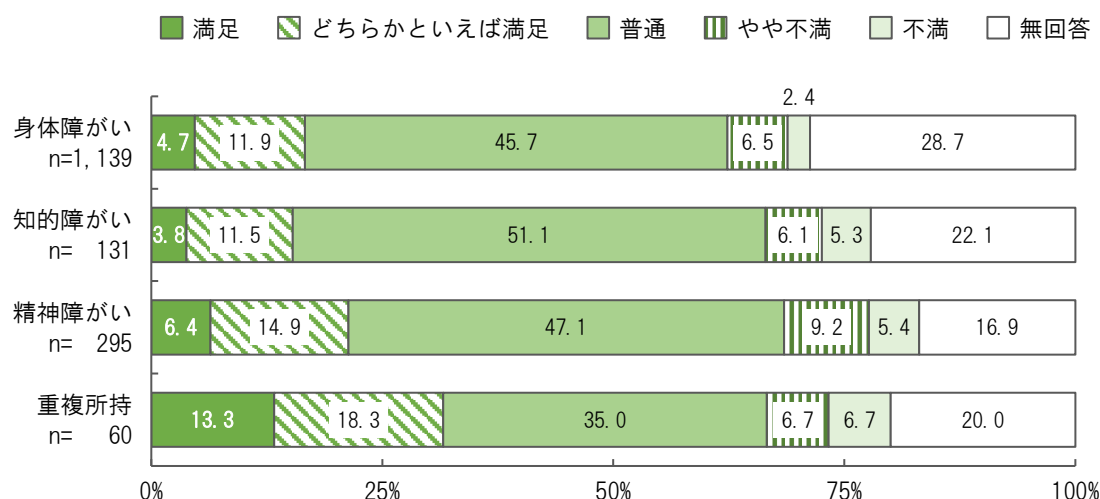
◆以下は、障がい者施策ごとの現在の満足度と今後の優先度を所持手帳種類別にみています。

① 障害福祉サービスなどの充実

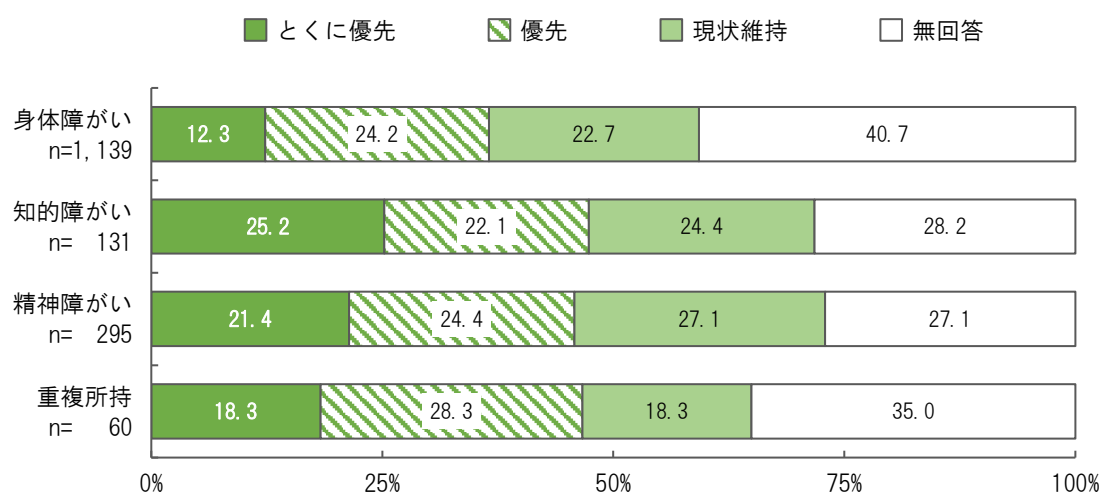
○満足度を所持手帳種類別にみると、「満足」と「どちらかといえば満足」を合わせた『満足』は身体障がいでは16.6%、知的障がいでは15.3%、精神障がいでは21.3%、重複所持では31.6%となっています。

○今後の優先度を所持手帳種類別にみると、「とくに優先」と「優先」を合わせた『優先』は身体障がいでは36.5%、知的障がいでは47.3%、精神障がいでは45.8%、重複所持では46.6%となっています。

■ 現在の満足度【所持手帳種類別】



■ 今後の優先度【所持手帳種類別】

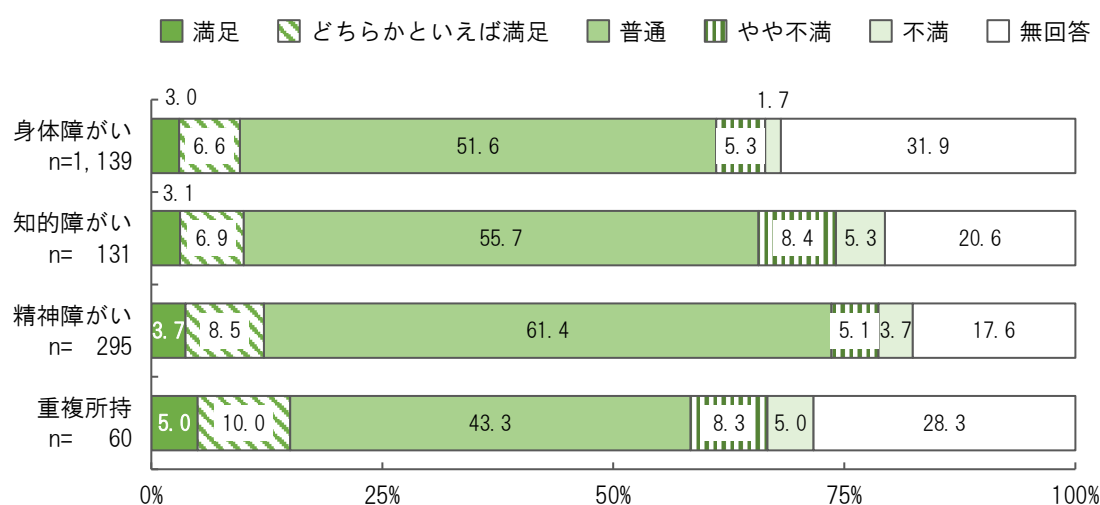


② 権利擁護

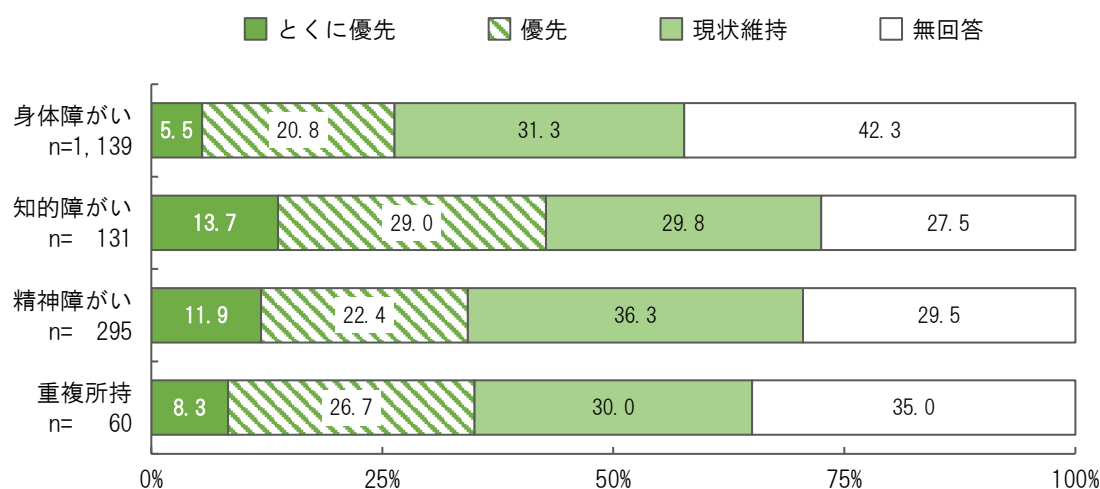
○満足度を所持手帳種類別にみると、「満足」と「どちらかといえば満足」を合わせた『満足』は身体障がいでは9.6%、知的障がいでは10.0%、精神障がいでは12.2%、重複所持では15.0%となっています。

○今後の優先度を所持手帳種類別にみると、「とくに優先」と「優先」を合わせた『優先』は身体障がいでは26.3%、知的障がいでは42.7%、精神障がいでは34.3%、重複所持では35.0%となっています。

■ 現在の満足度【所持手帳種類別】



■ 今後の優先度【所持手帳種類別】

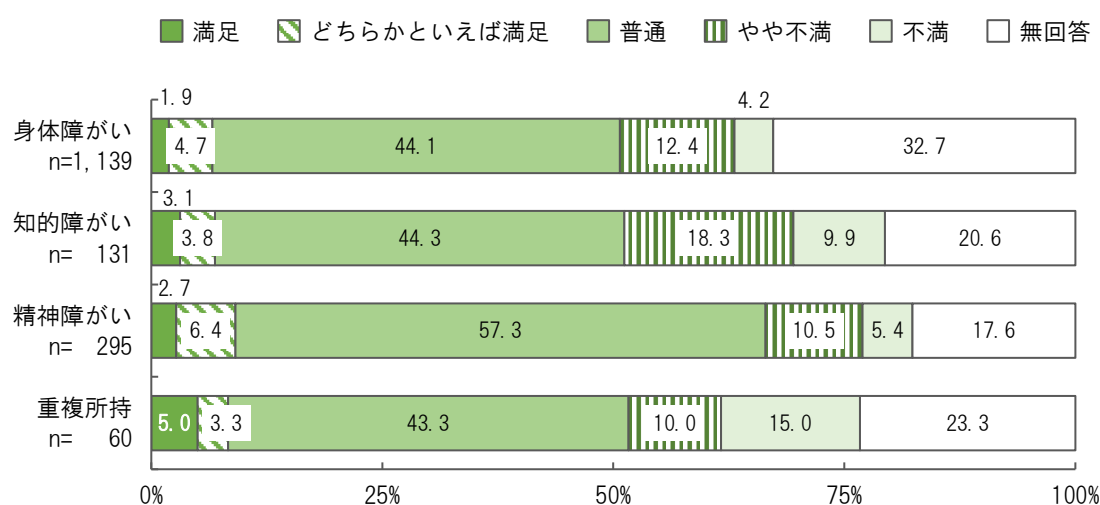


③ 災害対策

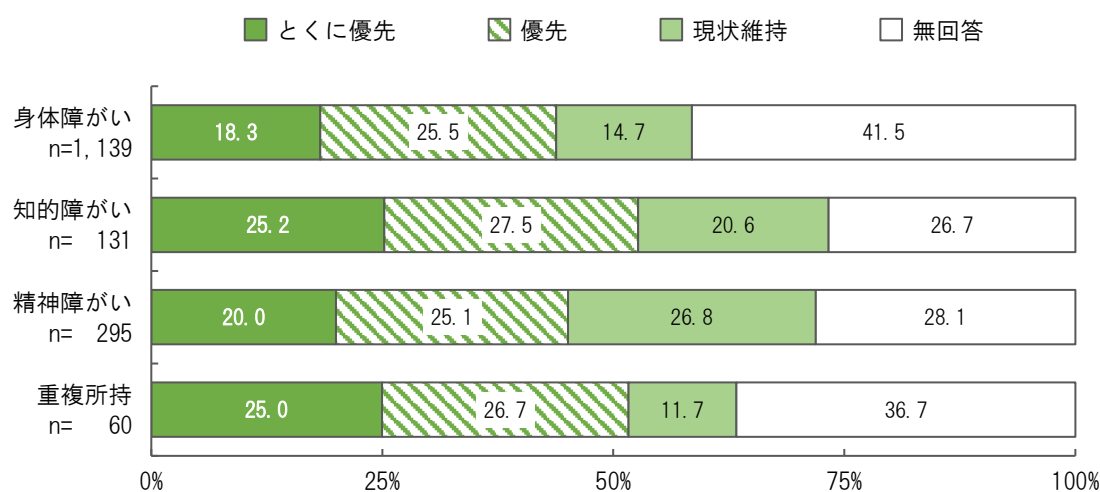
○満足度を所持手帳種類別にみると、「満足」と「どちらかといえば満足」を合わせた『満足』は身体障がいでは6.6%、知的障がいでは6.9%、精神障がいでは9.1%、重複所持では8.3%となっています。

○今後の優先度を所持手帳種類別にみると、「とくに優先」と「優先」を合わせた『優先』は身体障がいでは43.8%、知的障がいでは52.7%、精神障がいでは45.1%、重複所持では51.7%となっています。

■ 現在の満足度【所持手帳種類別】



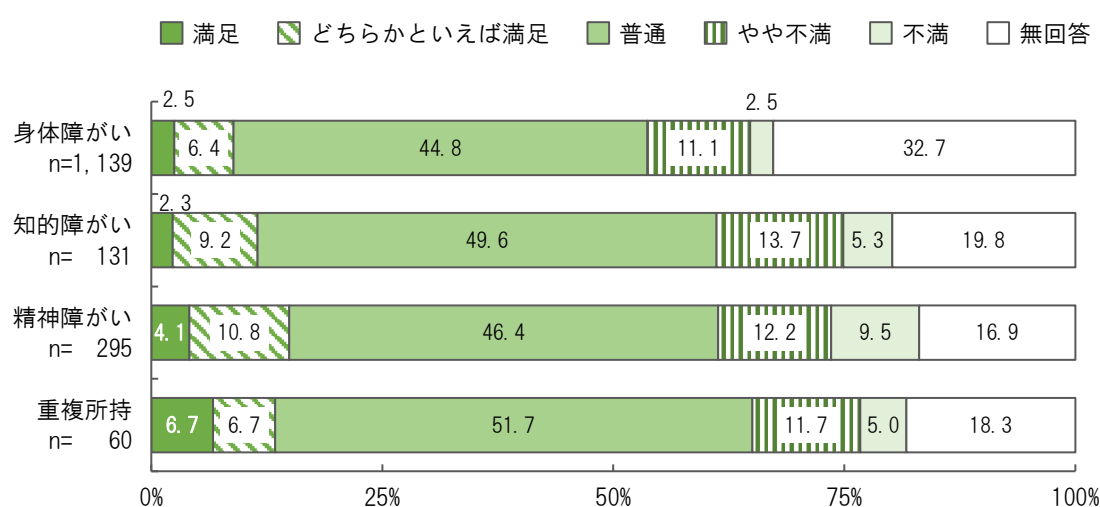
■ 今後の優先度【所持手帳種類別】



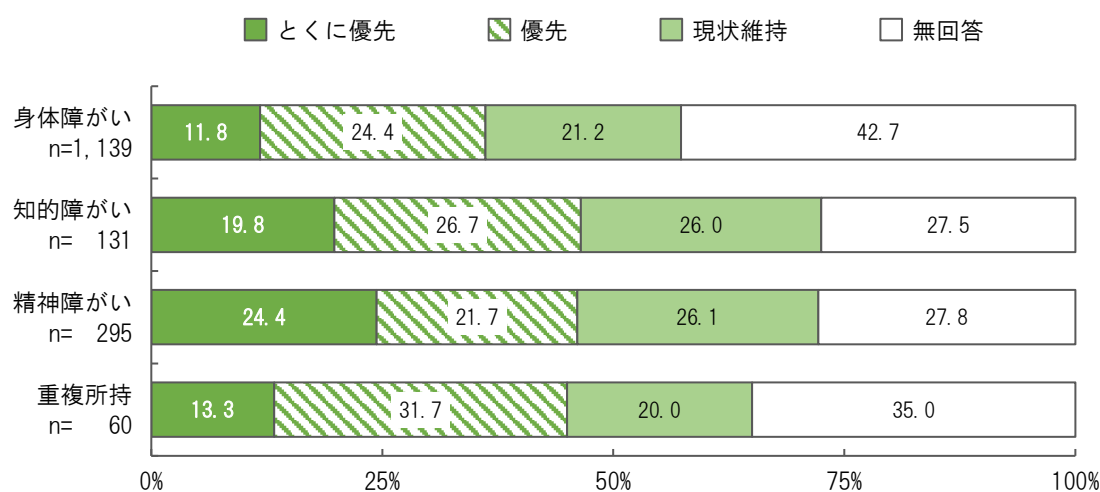
④ 相談・情報提供

- 満足度を所持手帳種類別にみると、「満足」と「どちらかといえば満足」を合わせた『満足』は身体障がいでは8.9%、知的障がいでは11.5%、精神障がいでは14.9%、重複所持では13.4%となっています。
- 今後の優先度を所持手帳種類別にみると、「とくに優先」と「優先」を合わせた『優先』は身体障がいでは36.2%、知的障がいでは46.5%、精神障がいでは46.1%、重複所持では45.0%となっています。

■ 現在の満足度【所持手帳種類別】



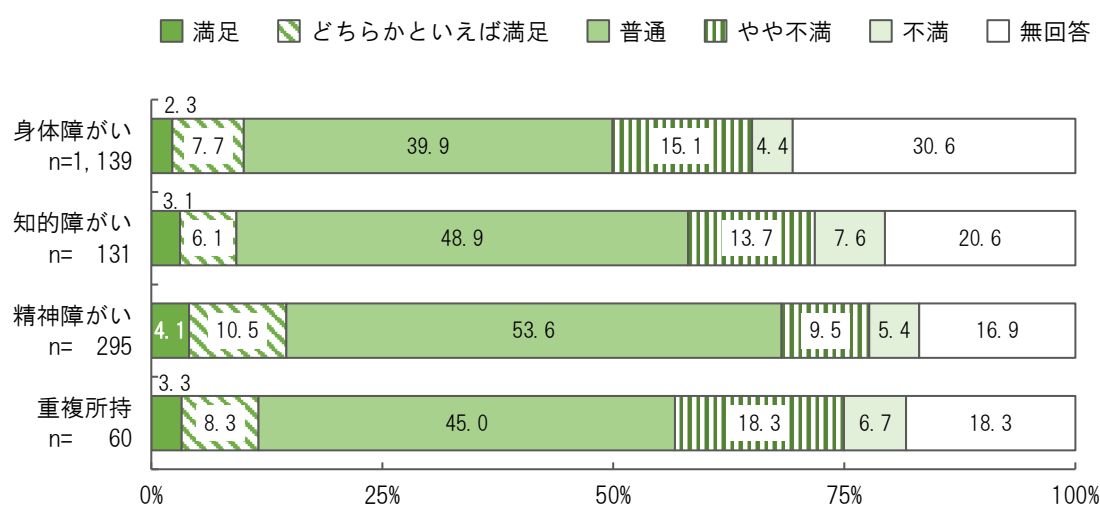
■ 今後の優先度【所持手帳種類別】



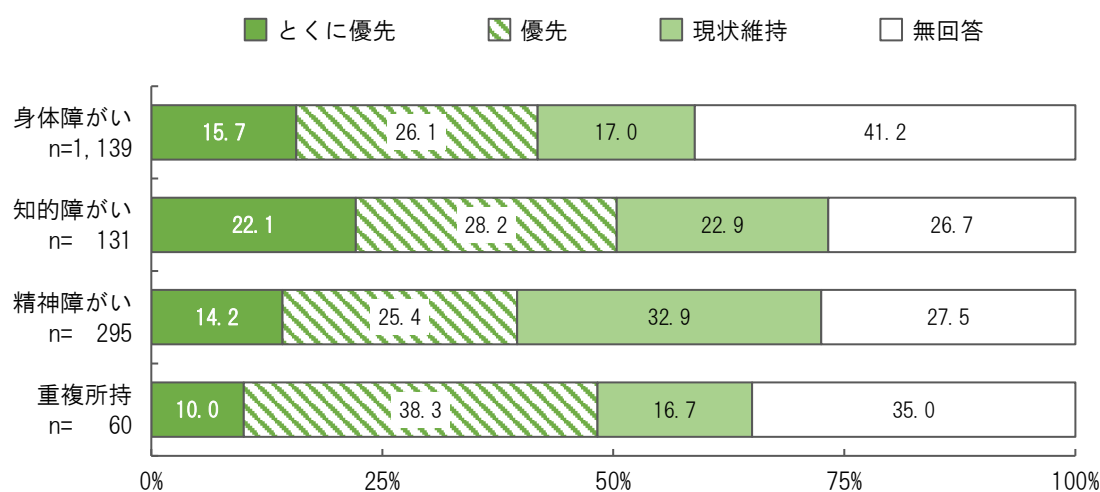
⑤ 誰もが外出しやすいまちづくり

- 満足度を所持手帳種類別にみると、「満足」と「どちらかといえば満足」を合わせた『満足』は身体障がいでは10.0%、知的障がいでは9.2%、精神障がいでは14.6%、重複所持では11.6%となっています。
- 今後の優先度を所持手帳種類別にみると、「とくに優先」と「優先」を合わせた『優先』は身体障がいでは41.8%、知的障がいでは50.3%、精神障がいでは39.6%、重複所持では48.3%となっています。

■ 現在の満足度【所持手帳種類別】



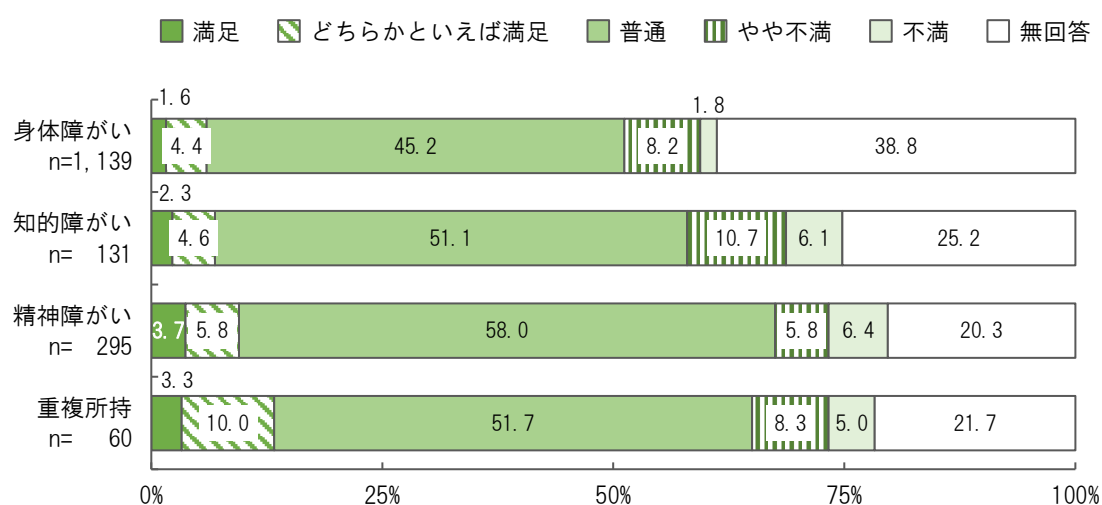
■ 今後の優先度【所持手帳種類別】



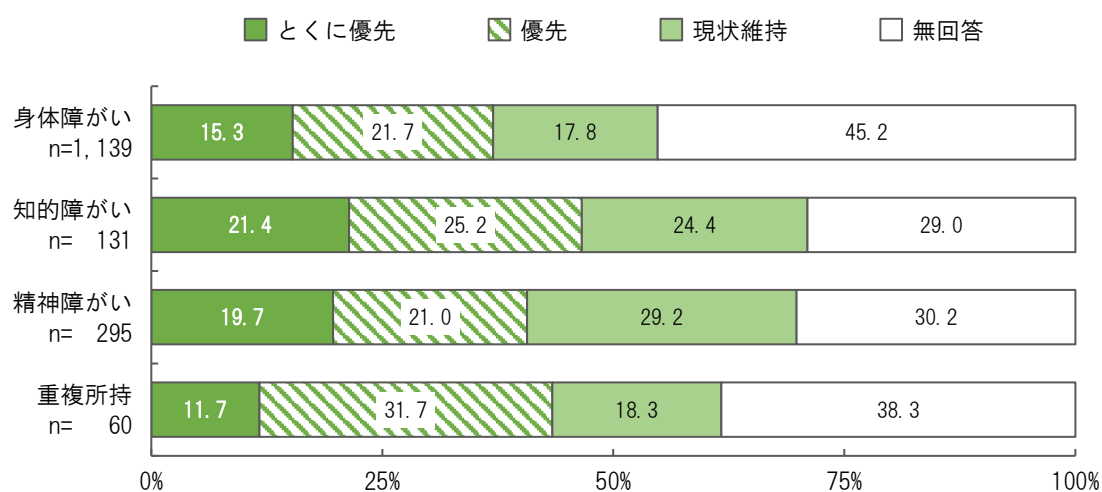
⑥ 障がいのある子どもの教育・育成

- 満足度を所持手帳種類別にみると、「満足」と「どちらかといえば満足」を合わせた『満足』は身体障がいでは6.0%、知的障がいでは6.9%、精神障がいでは9.5%、重複所持では13.3%となっています。
- 今後の優先度を所持手帳種類別にみると、「とくに優先」と「優先」を合わせた『優先』は身体障がいでは37.0%、知的障がいでは46.6%、精神障がいでは40.7%、重複所持では43.4%となっています。

■ 現在の満足度【所持手帳種類別】



■ 今後の優先度【所持手帳種類別】

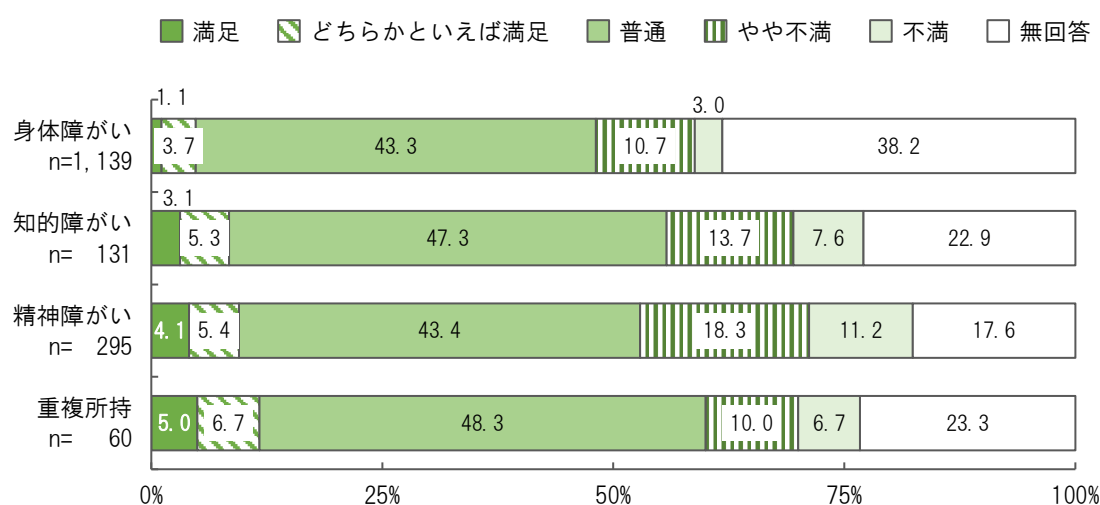


⑦ 雇用・就労

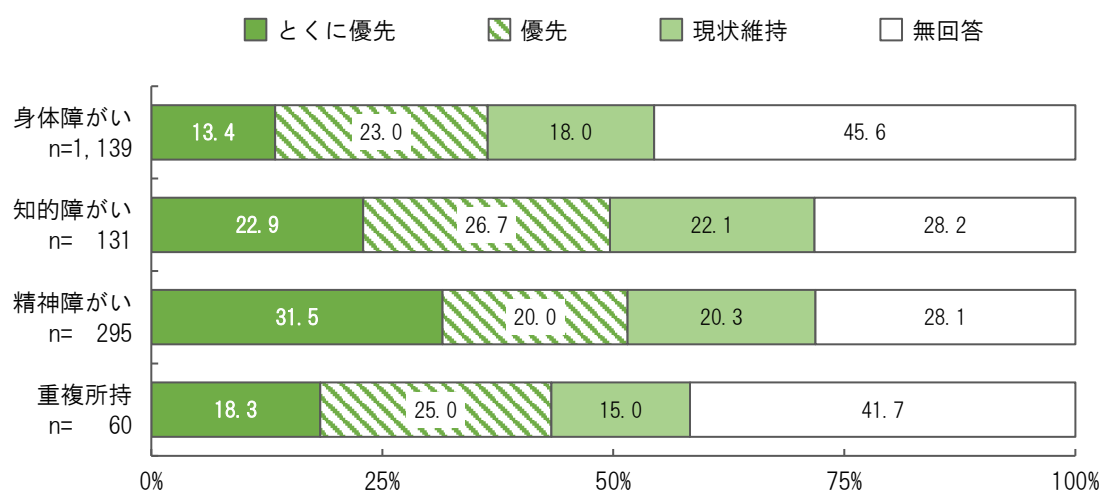
○満足度を所持手帳種類別にみると、「満足」と「どちらかといえば満足」を合わせた『満足』は身体障がいでは4.8%、知的障がいでは8.4%、精神障がいでは9.5%、重複所持では11.7%となっています。

○今後の優先度を所持手帳種類別にみると、「とくに優先」と「優先」を合わせた『優先』は身体障がいでは36.4%、知的障がいでは49.6%、精神障がいでは51.5%、重複所持では43.3%となっています。

■ 現在の満足度【所持手帳種類別】



■ 今後の優先度【所持手帳種類別】

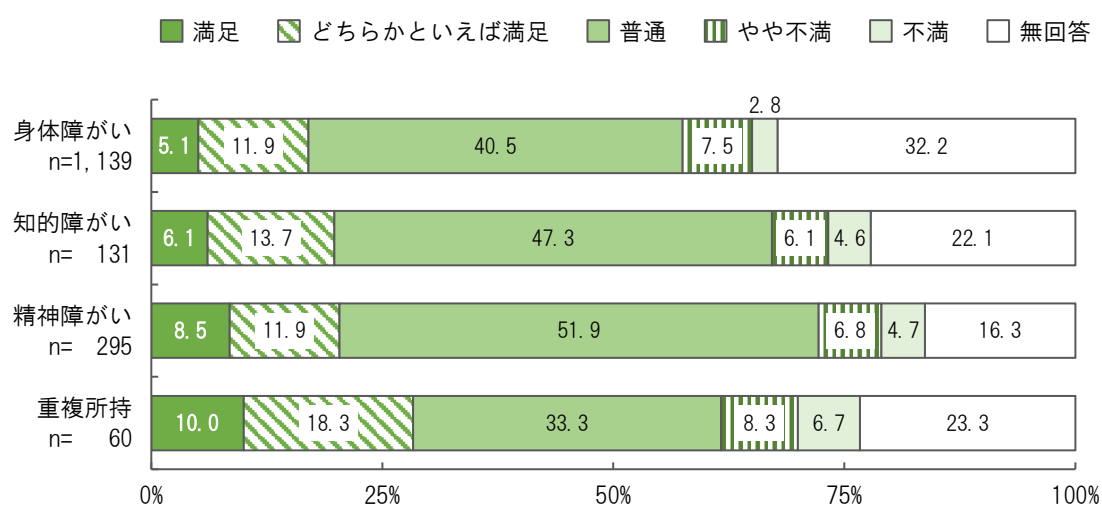


⑧ 保健・医療

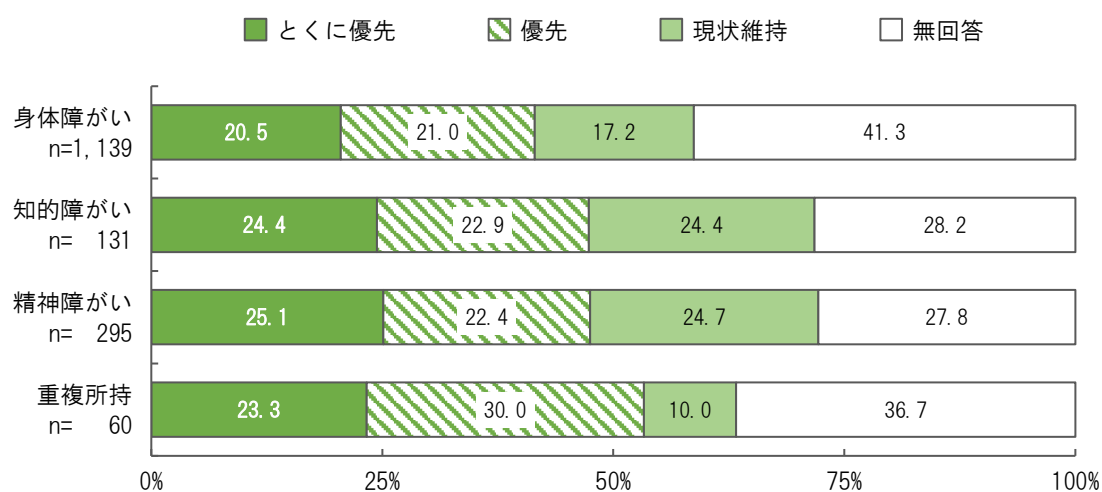
○満足度を所持手帳種類別にみると、「満足」と「どちらかといえば満足」を合わせた『満足』は身体障がいでは17.0%、知的障がいでは19.8%、精神障がいでは20.4%、重複所持では28.3%となっています。

○今後の優先度を所持手帳種類別にみると、「とくに優先」と「優先」を合わせた『優先』は身体障がいでは41.5%、知的障がいでは47.3%、精神障がいでは47.5%、重複所持では53.3%となっています。

■ 現在の満足度【所持手帳種類別】



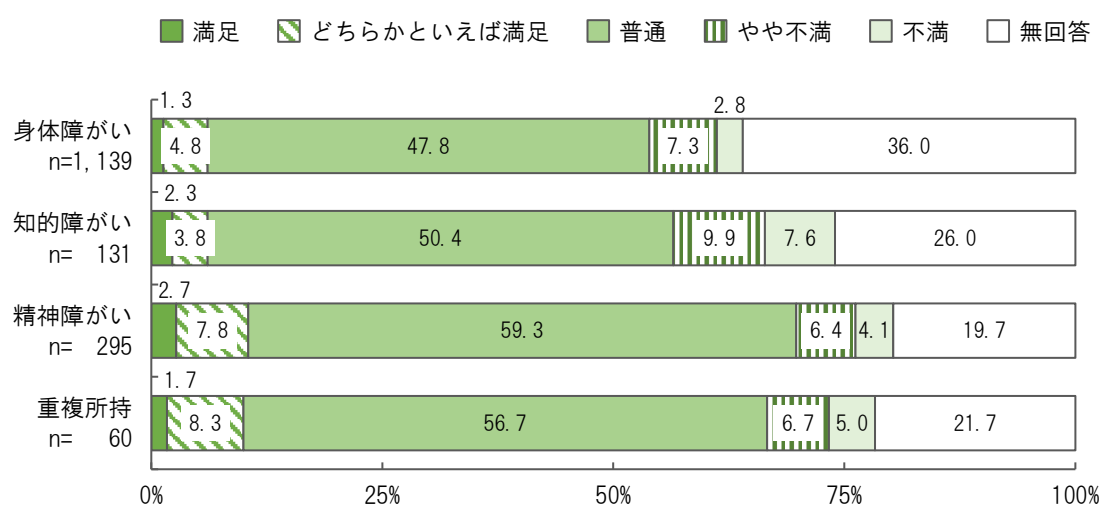
■ 今後の優先度【所持手帳種類別】



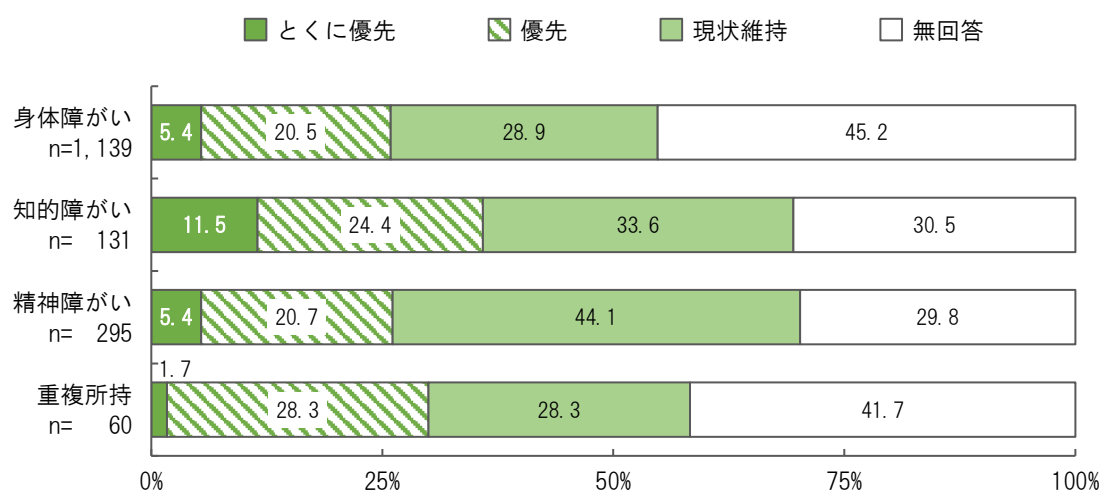
⑨ スポーツ・レクリエーション等

- 満足度を所持手帳種類別にみると、「満足」と「どちらかといえば満足」を合わせた『満足』は身体障がいでは6.1%、知的障がいでは6.1%、精神障がいでは10.5%、重複所持では10.0%となっています。
- 今後の優先度を所持手帳種類別にみると、「とくに優先」と「優先」を合わせた『優先』は身体障がいでは25.9%、知的障がいでは35.9%、精神障がいでは26.1%、重複所持では30.0%となっています。

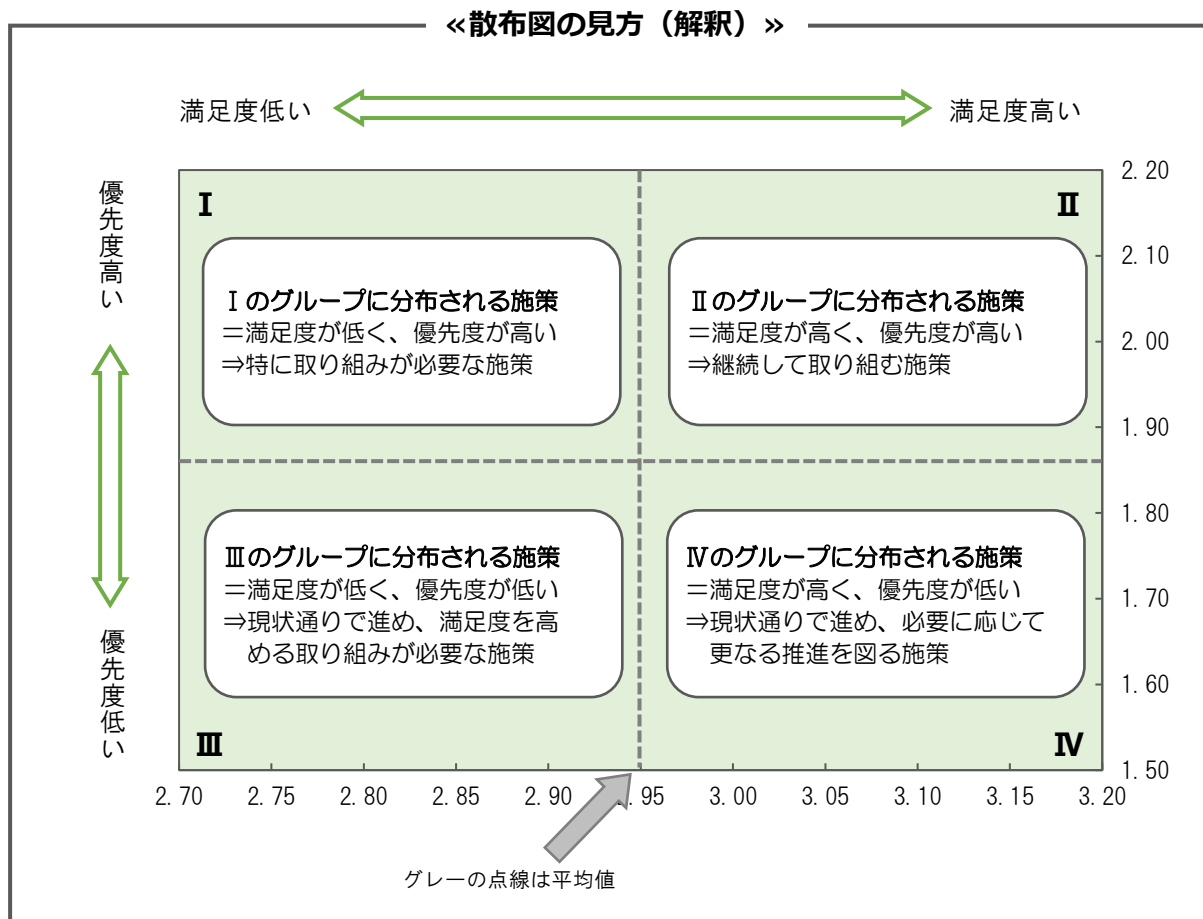
■ 現在の満足度【所持手帳種類別】



■ 今後の優先度【所持手帳種類別】

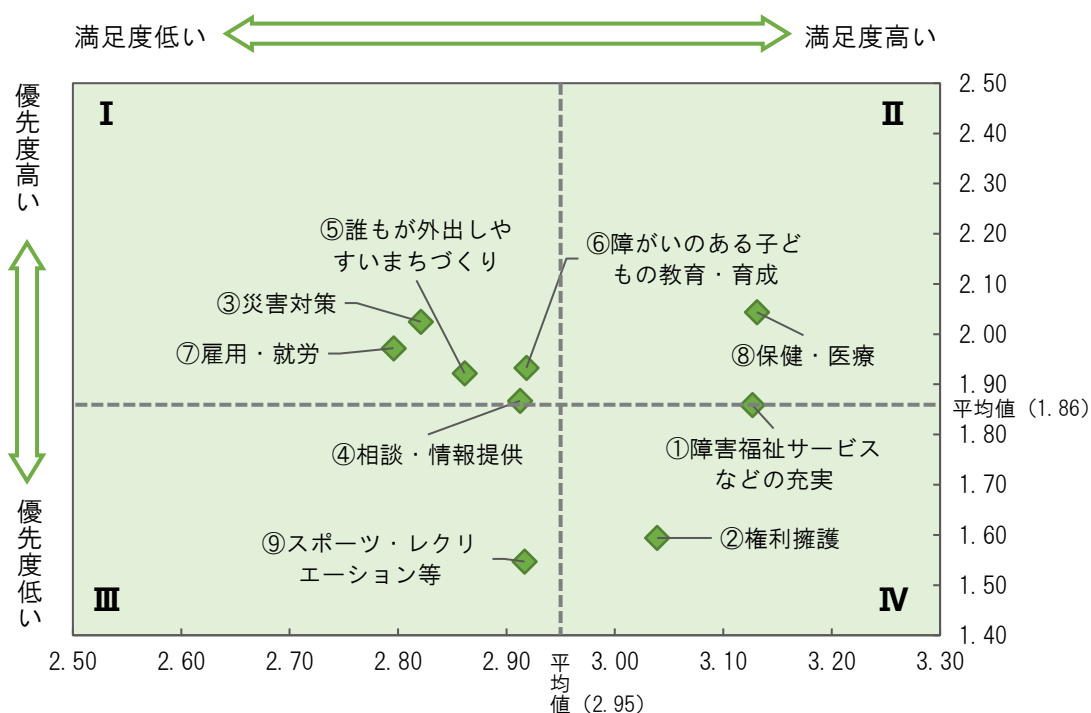


◆以下は、障がい者に関する施策9項目をについて、「満足度」は5段階、「優先度」は3段階の評価で得た回答を点数化し、横軸を「満足度」、縦軸を「優先度」として散布図にしました。



○グループⅠ（特に取り組みが必要な施策）には、「③災害対策」「④相談・情報提供」「⑤誰もが外出しやすいまちづくり」「⑥障がいのある子どもの教育・育成」「⑦雇用・就労」の5施策が上がり、中でも「③災害対策」「⑦雇用・就労」の優先度は高くなっています。グループⅡ（継続して取り組む施策）には、「⑧保健・医療」が上がり、満足度は高いものの、優先度も高くなっています。グループⅢ（現状通りで進め、満足度を高める取り組みが必要な施策）には、「⑨スポーツ・レクリエーション等」が上がっています。グループⅣ（現状通りで進め、必要に応じて更なる推進を図る施策）には、「②権利擁護」が上がっています。また、「①障害福祉サービスなどの充実」はグループⅡとⅣの境界にあります。

■ 施策の現在の満足度と今後の優先度【全体】

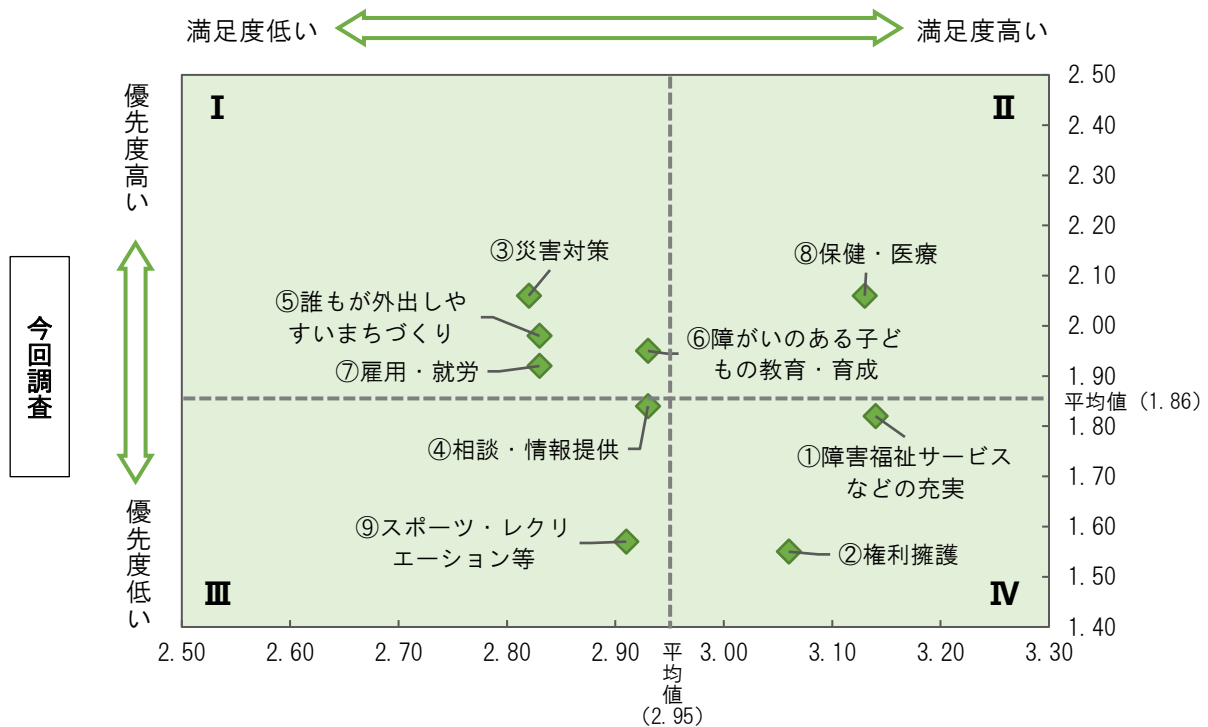


○所持手帳種類別にみると、いずれの障がいもグループⅠ（特に取り組みが必要な施策）は「③災害対策」「⑦雇用・就労」が上がっており、優先的に取り組む必要があります。また、「②権利擁護」と「⑨スポーツ・レクリエーション等」は、いずれの障がいでも優先度が低くなっています。

○身体障がいの前回調査との比較をみると、満足度の平均値が上がっています。また、「③災害対策」「⑤誰もが外出しやすいまちづくり」は前回同様にグループⅠであるが、満足度は上がっています。

加えて、「①障害福祉サービスなどの充実」は満足度が上がり、優先度が低くなっていることから、施策への一定の支持がうかがえます。

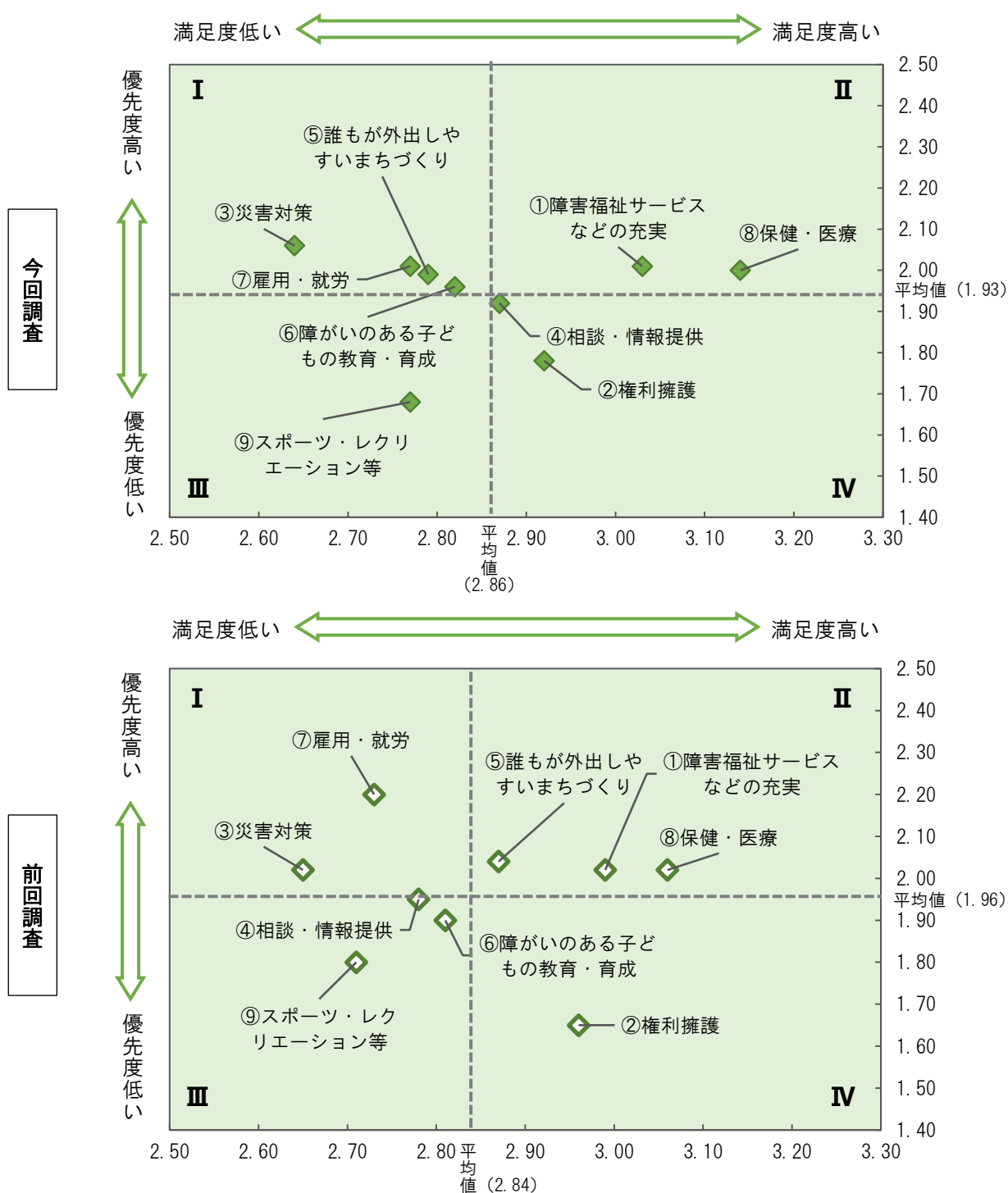
■ 施策の現在の満足度と今後の優先度【身体障がい：前回調査比較】



○知的障がいの前回調査との比較をみると、「⑦雇用・就労」は前回同様にグループⅠであるが、満足度が上がり、優先度が低くなっていることから、施策への一定の支持がうかがえます。また、「④相談・情報提供」の満足度は、前は平均値に満たなかったものの、今回は平均値より高くなっています。

一方、「⑤誰もが外出しやすいまちづくり」の満足度は大幅に低くなり、グループⅠとなっています。

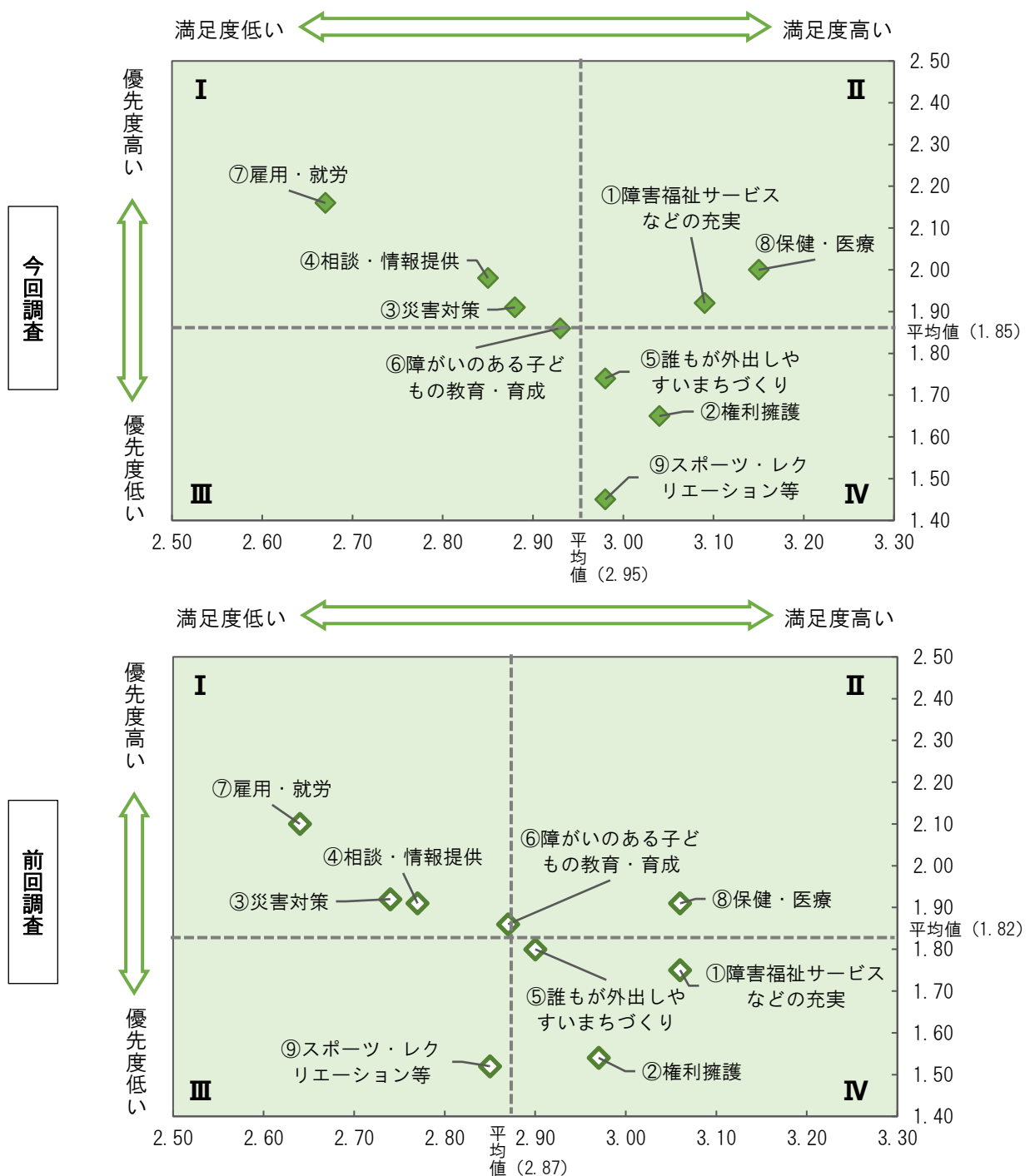
■ 施策の現在の満足度と今後の優先度【知的障がい：前回調査比較】



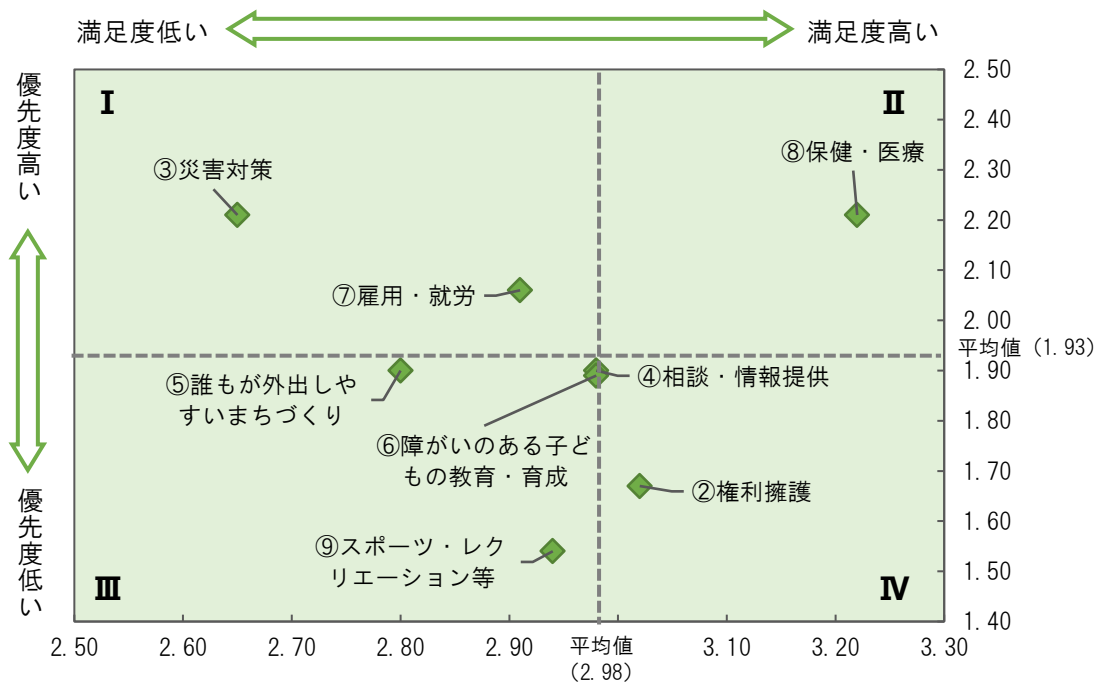
○知的障がいの前回調査との比較をみると、満足度の平均値が大幅に上がっています。また、「③災害対策」「④相談・情報提供」は前回同様にグループⅠであるが、満足度は上がっています。加えて、「⑨スポーツ・レクリエーション等」の満足度が大幅に上がっています。

一方、「①障害福祉サービスなどの充実」は満足度に大きな変化がないものの、優先度では前回の平均値以下から今回は平均値を上回りグループⅡとなっていることから、施策の充実が求められています。

■ 施策の現在の満足度と今後の優先度【精神障がい：前回調査比較】



■ 施策の現在の満足度と今後の優先度【重複所持】



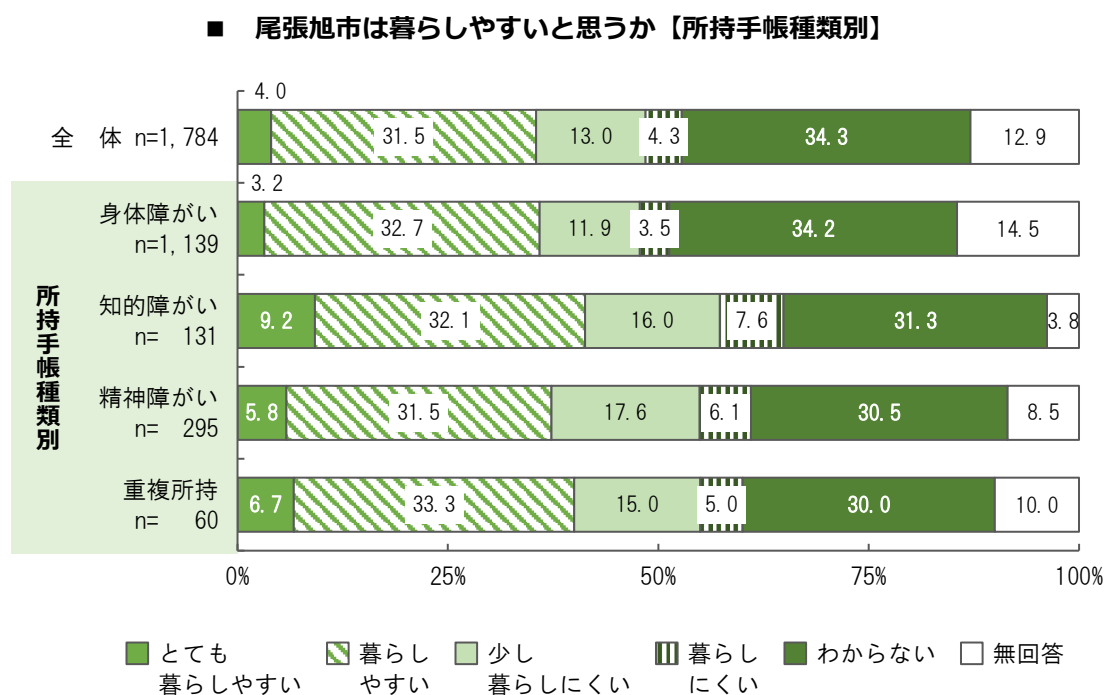
（２）障がいのある人にとっての尾張旭市の暮らしやすさ

問71 あなたは、障がいのある人にとって尾張旭市は暮らしやすいと思いますか。それとも、暮らしにくいと思いますか。（○は1つ）

○障がいのある人にとって尾張旭市は暮らしやすいと思うかの問いでは、「わからない」が34.3%と最も高く、「とても暮らしやすい」（4.0%）と「暮らしやすい」（31.5%）を合わせた35.5%が『暮らしやすい』と回答しています。

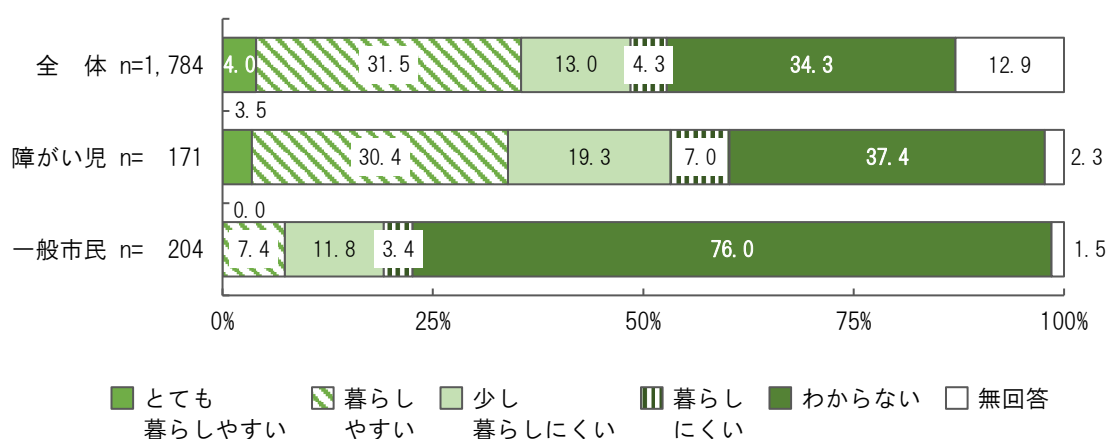
一方、『暮らしにくい』（「少し暮らしにくい」＋「暮らしにくい」）は17.3%となっています。

○所持手帳種類別にみると、『暮らしやすい』は身体障がいでは35.9%、知的障がいでは41.3%、精神障がいでは37.3%、重複所持では40.0%となっています。



○障がい児・一般市民調査との比較をみると、『暮らしやすい』は障がい児とは大きな差はないものの、一般調査は7.4%と大幅に低くなっています。また、一般市民は「わからない」が76.0%を占めています。

■ 尾張旭市は暮らしやすいと思うか【障がい児・一般市民調査比較】



◆『暮らしやすい』と思う理由と『暮らしにくい』と思う理由は下記のとおりです。

■ 「とても暮らしやすい」理由

「とても暮らしやすい」理由（一部抜粋記載）		所持手帳種類
サービス等の支援の充実	医療を負担していただけたら、大きいことですね。	精神障がい
	義肢の申請にて尽力をつくして下さい。	身体障がい
	障がい者への手当が充実している。	身体障がい
	職員の方が熱心で親切。人口が少ないので相談窓口が空いている。	精神障がい
	助成があり、デイサービス（東尾張病院）1割負担を市が助成していただいている、助かっています。	精神障がい
地域環境の充実	緊急のときの病院が近くにある交通の便もいいです。	重複所持
	静かで後ろからの自転車など気付けやすい道路が整備しており良いと思う。	身体障がい
	作業所が近くにあって働きやすい。	精神障がい
	病院、スーパー等が近くにあり工場が少なく、周りに池が有り環境面も良い。	知的障がい

■ 「暮らしやすい」理由

「暮らしやすい」理由（一部抜粋記載）		所持手帳種類
サービス等の支援の充実	医療費の助成が、しっかりしている。	精神障がい
	あさぴー号の利用などの助成があること。	身体障がい
	タクシー券の補助等がある事。	身体障がい
	あさひスマイルクーポンの実施などの手当てがある。	精神障がい
	サービスが色々ある、情報提供が色々されてる、窓口で丁寧に対応してくれる。	重複所持
地域環境の充実	公共施設、交通手段等が比較的バリアフリーになっている。	身体障がい
	森林公園があり家の近くには公園があり、買物も便利で通所施設に毎日元気に行けています。	知的障がい
	近くに就労支援施設があって歩いて通える。	精神障がい
	私の行動範囲はきわめて狭いですが、あさぴーが走り出してから、買い物や通院でよく利用しています。（我が家には車がありません）	精神障がい
	医療施設の充実。	身体障がい

■ 「少し暮らしにくい」理由

「少し暮らしにくい」理由（一部抜粋記載）		所持手帳種類
サービス等の支援が不十分	市の財政が苦しいために特定疾患の人の通院の福祉医療が無くなった。	身体障がい
	障害のある人のデイサービスは少ないと思う。	身体障がい
	将来、自分がどのような生活を送るのか見えて来ない所。尾張旭市独自のグループホームや施設がない。	知的障がい
	もっと市民税等を下げてほしい。	精神障がい
	市に相談したときに真摯に相談にのってもらえず、締切り組に対応される。通院時に介護タクシーを使用したいが、制限があり、難しい。	重複所持
	災害時の対応が全くわからないので不安。親亡きあとの子供の将来も不安。安心して預けられる施設がない。	重複所持
地域環境の不便さ・理解が少ない	公共交通機関の便数が少ない。どうしても自家用車を選択してしまう。	身体障がい
	バスの運行が少ないので、あまり使えない。	身体障がい
	ひとりで移動が困難。あさぴー号に乗りにくい。	知的障がい
	道路にガードレールや街灯が少ない	精神障がい
	あさぴー号 1 時間に 1 本では日常的に使うには少し厳しい。	重複所持

■ 「暮らしにくい」理由

「暮らしにくい」理由（一部抜粋記載）		所持手帳種類
サービス等の支援が不十分	福祉サービスが充実していない。	身体障がい
	肢体不自由障害者の入居施設がほとんど、利用不可能な状況。	身体障がい
	充実した施設がない様と思う。よい施設があれば、体力もつくし回復もするでしょう。私は色々見て春日井市に決め、行っています。	身体障がい
	就労支援を初めて利用の際、精神の人は難しいので利用を中止したらと提案された。	精神障がい
	生活費の支援が無い。食事も作れない不安（パニック）など、とても一人暮らしが出来ない。	精神障がい
	福祉サービスの利用の仕方を教えてもらえない。	精神障がい
	訪問リハビリが利用できないのが、つらいです。生活費の面も苦しいです。	重複所持
	学校も生活介護事業所もすべて市外に行っている。（受け入れてくれるところがない）	重複所持
地域環境の不便さ	車がない場合、移動することが難しく病院への通院や、買い物がすごくたいへん困っています。	身体障がい
	側道の段差、幅がせまい。公園の階段の不足、整備不十分等々。	身体障がい
	公共施設が少ない。	精神障がい
	歩行者通路の幅がせまい。	精神障がい
	仕事を探すのも難しく暮らしにくいと思いました。	知的障がい
	坂も多いし、どこへ行くにも遠い。（スーパー、病院、駅）	知的障がい
	土日祝日も含め、あさび一号バスの運行本数が少なすぎる。	知的障がい

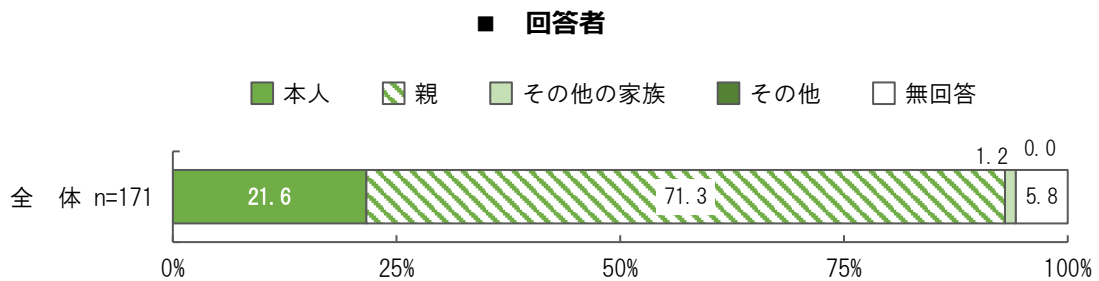
Ⅲ 調査の結果（障がい児）

1 調査の回答者について

（1）調査の回答者

■ このアンケートをご記入いただくのはどなたですか。（○は1つ）

○調査の回答者は、「本人」が21.6%、「親」が71.3%、「その他家族」が1.2%となっています。

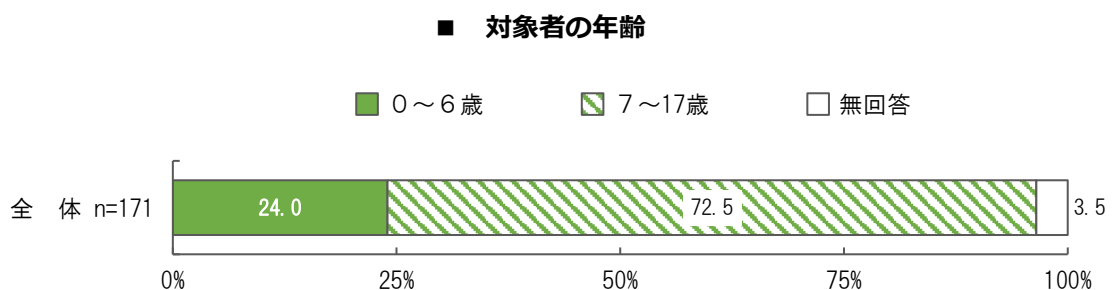


2 あなた（宛名の方）の年齢、ご家族などについて

（1）対象者の年齢

問1 あなた（封筒の宛名のご本人）の年齢は満何歳ですか（令和4年12月1日現在）。

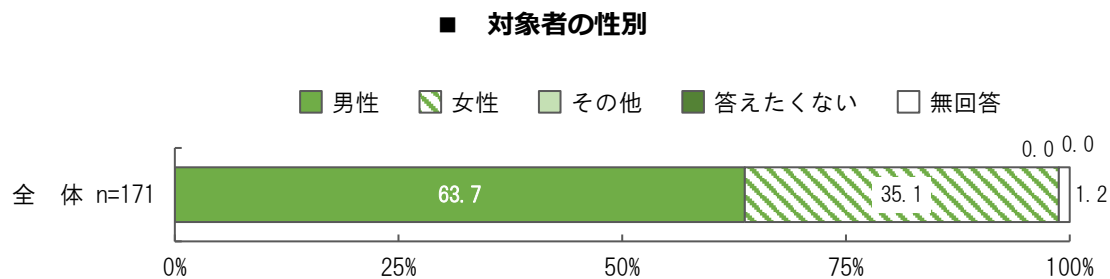
○対象者の年齢は、「0～6歳」が24.0%、「7～17歳」が72.5%となっています。



（２）対象者の性別

問２ あなたの性別をお答えください。（○は１つ）

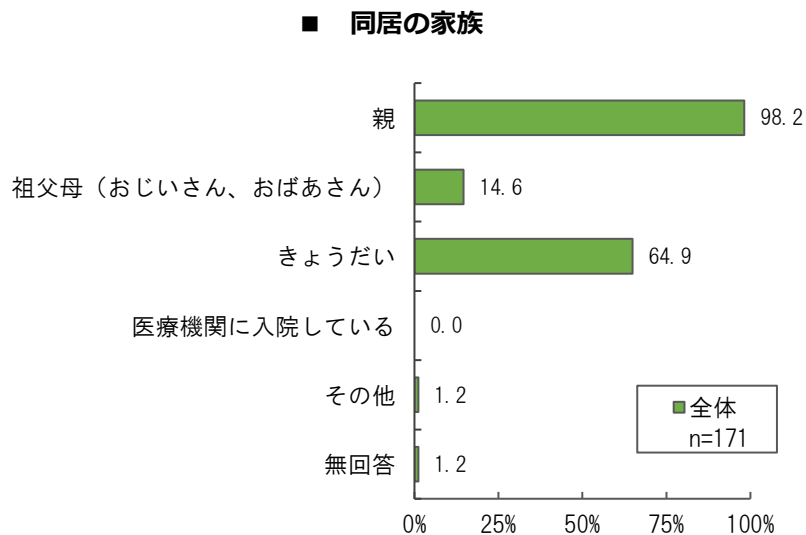
○対象者の性別は、「男性」が63.7%、「女性」が35.1%となっています。



（３）同居の家族

問３ 現在、あなたが一緒に暮らしている人は、どなたですか。（○はいくつでも）

○同居の家族の状況を見ると、「親」が98.2%と最も高く、次いで「きょうだい」が64.9%となっています。



3 あなたの障がいの種類、等級（程度）などについて

（1）障害者手帳の所持状況

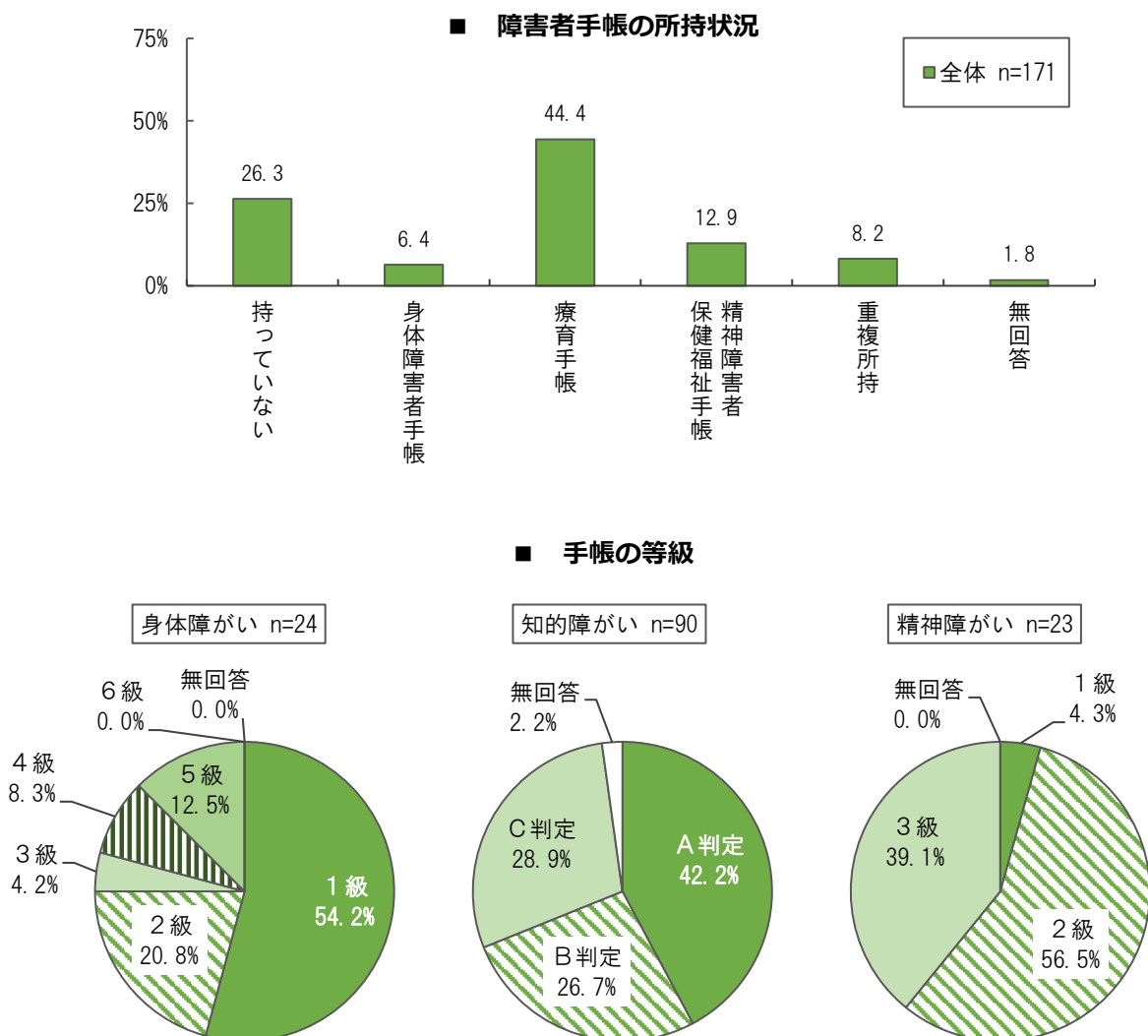
問4 あなたが、お持ちの障害者手帳は次のどれですか。（○はいくつでも）
また、お持ちの手帳については、あてはまる等級（程度）に○をつけてください。

○対象者が持っている障害者手帳の種類は、「療育手帳」が44.4%と最も高く、「身体障害者手帳」が6.4%、「精神障害者保健福祉手帳」が12.9%、「重複所持」が8.2%となっています。一方、「持っていない」は26.3%となっています。

○各手帳の等級は、『身体障害者手帳』では「1級」が54.2%と最も高く、次いで「2級」が20.8%、「5級」が12.5%となっています。

『療育手帳』では「A判定」が42.2%と最も高く、次いで「C判定」が28.9%、「B判定」が26.7%となっています。

『精神障害者保健福祉手帳』では「2級」が56.5%と最も高く、次いで「3級」が39.1%、「1級」が4.3%となっています。

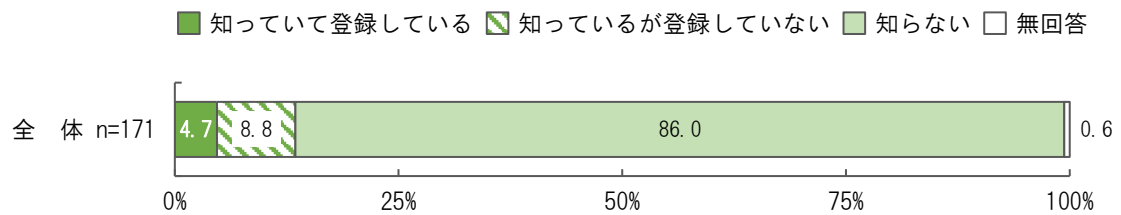


（２）障害者手帳アプリの認知度

問５ あなたは障害者手帳アプリ「ミライロＩＤ」を知っていますか。（○は１つ）

○障害者手帳アプリ「ミライロＩＤ」の認知度をみると、「知らない」が86.0%を占め、「知っていて登録している」は4.7%、「知っているが登録していない」は8.8%となっています。

■ 「ミライロＩＤ」の認知度

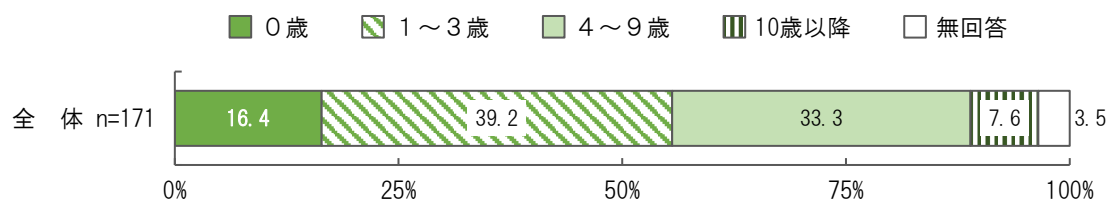


（３）障がいがわかった時期

問６ あなたが障がいを受けた（わかった）のは何歳ごろですか。

○障がいがわかった時期は、「１～３歳」が39.2%と最も高く、次いで「４～９歳」が33.3%、「０歳」が16.4%となっています。

■ 障がいがわかった時期

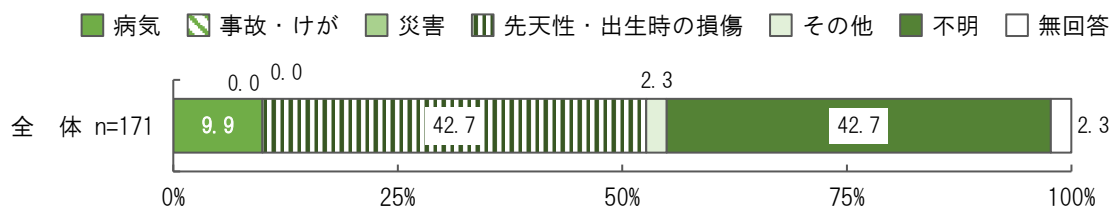


（４）障がいの主な原因

問７ 障がいの主な原因はつぎのどれですか。（○は１つ）

○障がいの主な原因は、「先天性・出生時の損傷」「不明」が各42.7%と最も高く、次いで「病気」が9.9%となっています。

■ 障がいの主な原因



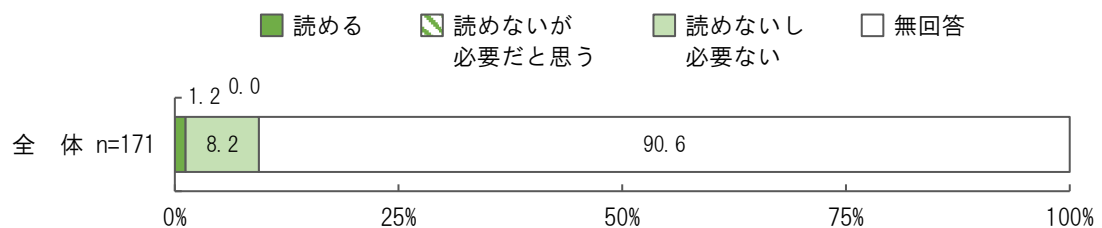
（５）点字の利用

視覚障がいのある方のみ

問８ あなたは、点字が読めますか。（○は１つ）

○点字が「読める」のは1.2%となっています。

■ 点字が読めるか

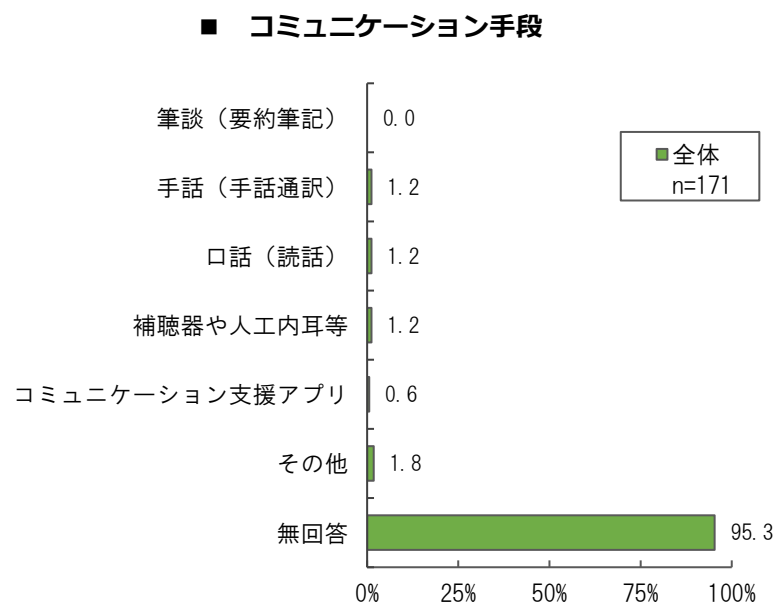


（６）コミュニケーション手段

聴覚・言語障がいのある方のみ

問９ あなたは、日常的にどのようなコミュニケーション手段を利用していますか。
（○はいくつでも）

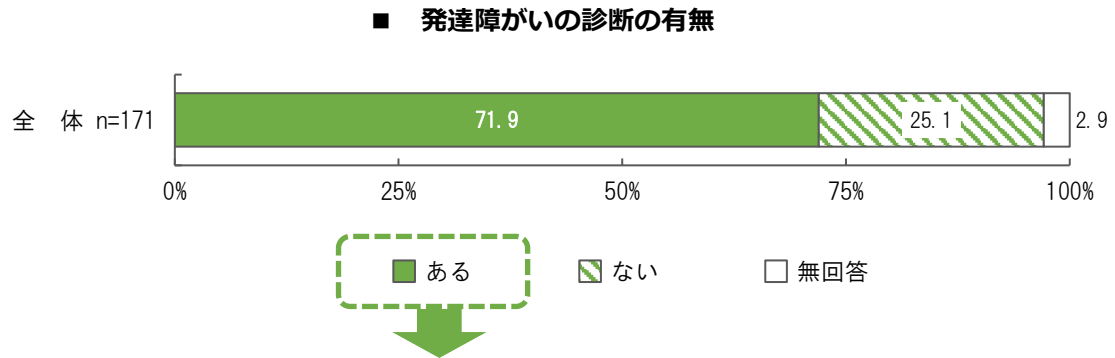
○聴覚・言語障がいがある方のコミュニケーション手段をみると、「手話（手話通訳）」「口話（読話）」「補聴器や人工内耳等」は各1.2%となり、「コミュニケーション支援アプリ」は0.6%となっています。



（７）発達障がいの診断状況

問10 あなたは発達障がいとして診断されたことはありますか。（○は1つ）

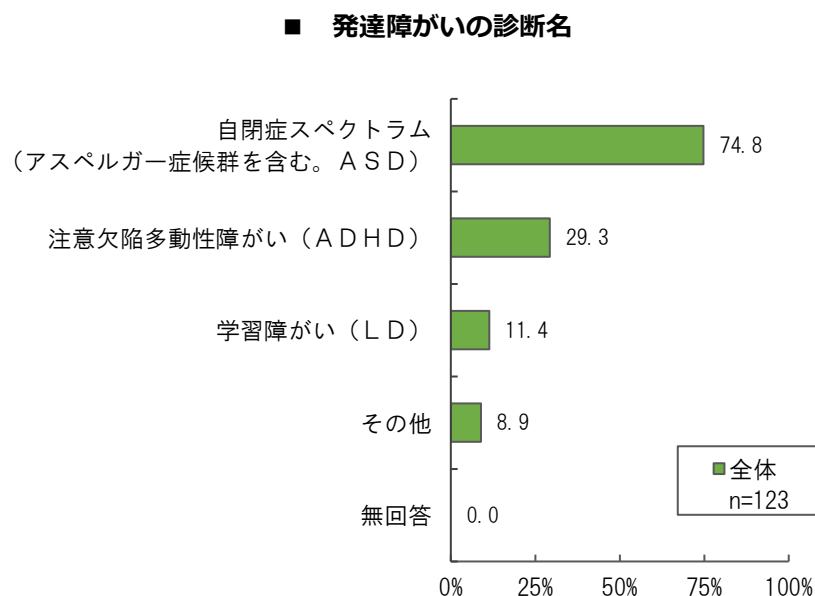
○発達障がいの診断状況をみると、「ある」が71.9%、「ない」が25.1%となっています。



問10で「1. ある」と答えた方のみ

問11 診断名は何ですか。（○はいくつでも）

○診断された発達障がいは、「自閉症スペクトラム（アスペルガー症候群を含む。A S D）」が74.8%と最も高く、次いで「注意欠陥多動性障がい（A D H D）」が29.3%、「学習障がい（L D）」が11.4%となっています。



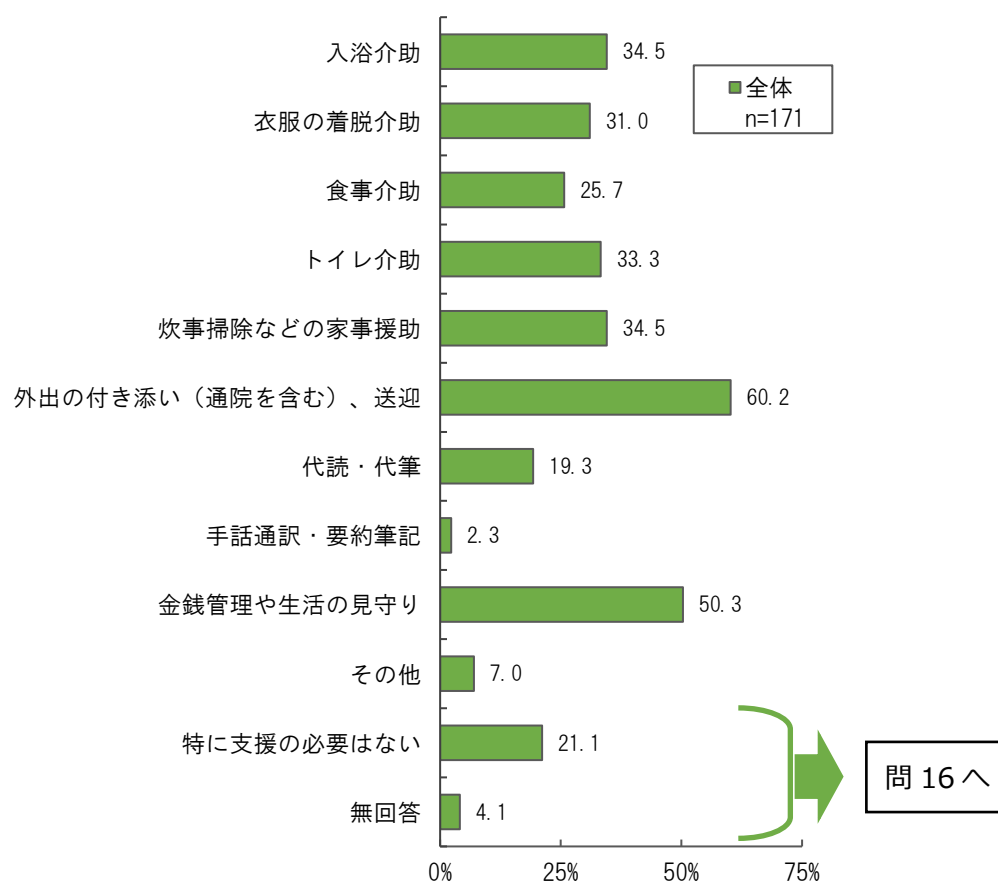
4 支援（援助、介助、看護）してくれる人のことについて

（1）生活するうえで必要な支援

問12 ふだんの生活で、どのような支援が必要ですか。（○はいくつでも）

○生活するうえで必要な支援をみると、「外出の付き添い（通院を含む）、送迎」が60.2%と最も高く、次いで「金銭管理や生活の見守り」が50.3%、「入浴介助」「炊事掃除などの家事援助」が各34.5%となっています。

■ 生活するうえで必要な支援

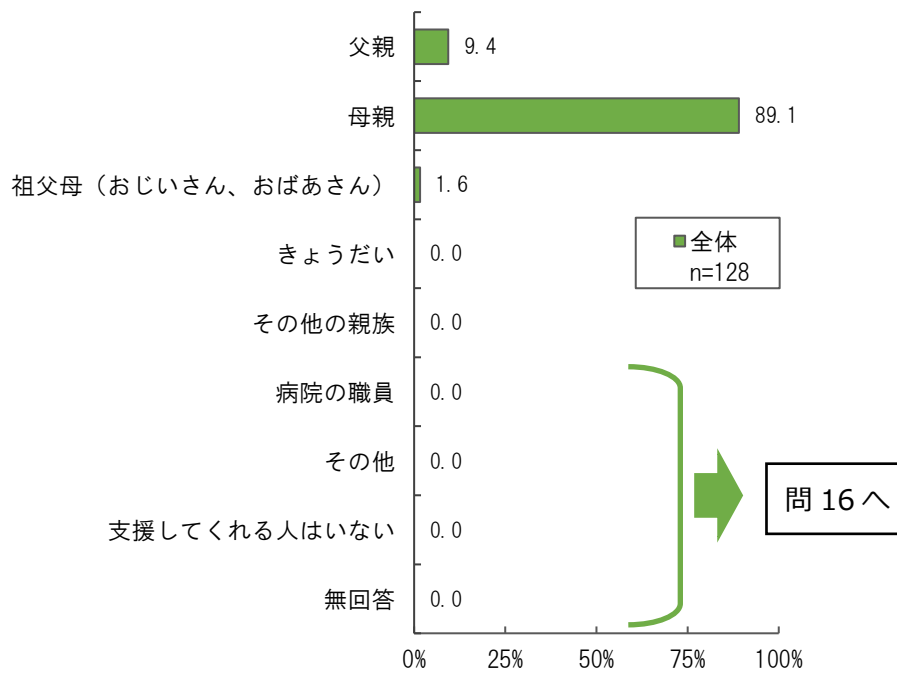


(2) 主な支援者

問13 主に支援してくれる人はどなたですか。（○は1つ）

○主に支援をしてくれる人は、「母親」が89.1%と最も高く、次いで「父親」が9.4%となっています。

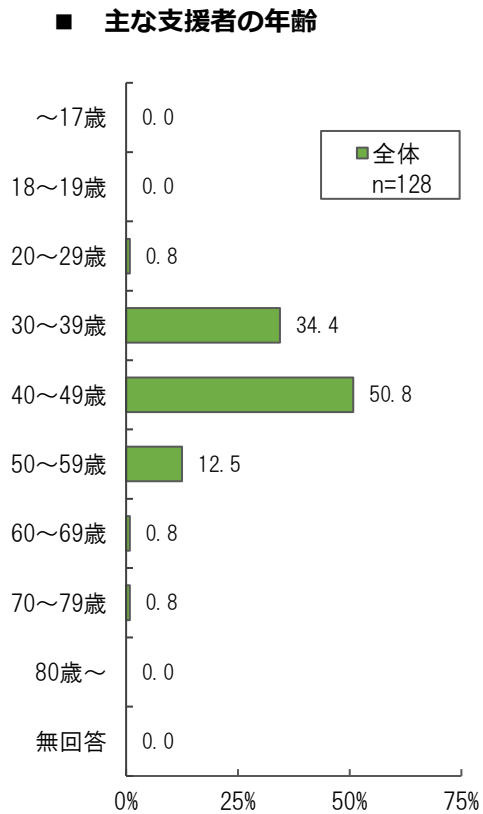
■ 主に支援してくれる人



（３）主な支援者の年齢

問14 主に支援してくれる人はいくつですか。（○は１つ）

○主な支援者の年齢は、「40～49歳」が50.8%と最も高く、次いで「30～39歳」が34.4%、「50～59歳」が12.5%となっています。

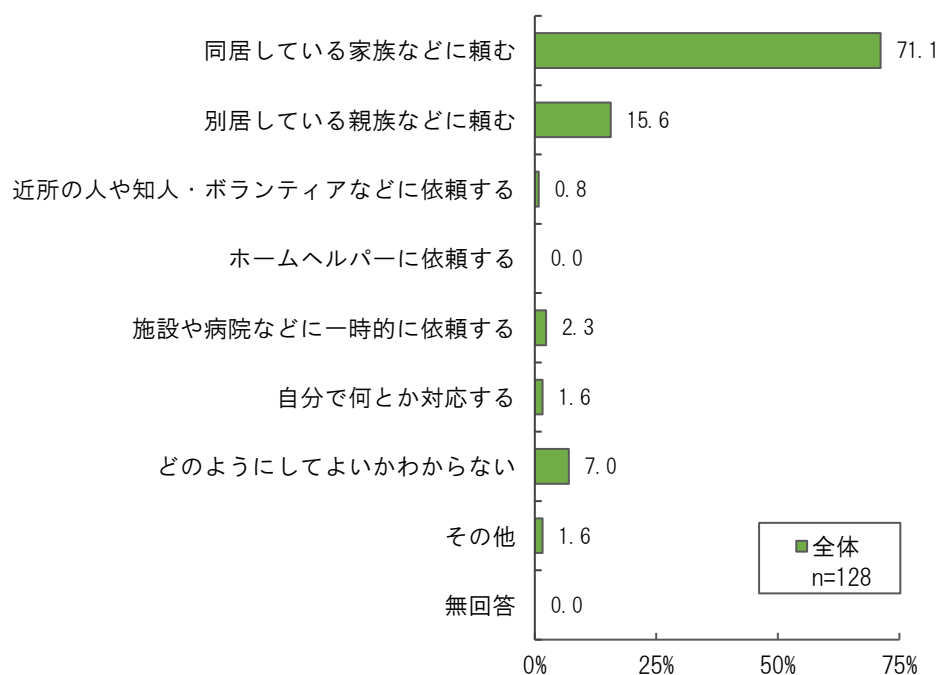


（４）主な支援者が一時的に援助できない場合の対処

問15 主に支援してくれる人が、万一急病や事故、用事などのために一時的に援助ができなくなった場合、どのようにすることになっていますか。（○は1つ）

○主な支援者が一時的に援助できない場合の対処は、「同居している家族などに頼む」が71.1%と最も高く、次いで「別居している親族などに頼む」が15.6%となっています。また、「どのようにしてよいかわからない」は7.0%となっています。

■ 主な支援者が一時的に援助できない場合の対処



5 医療について

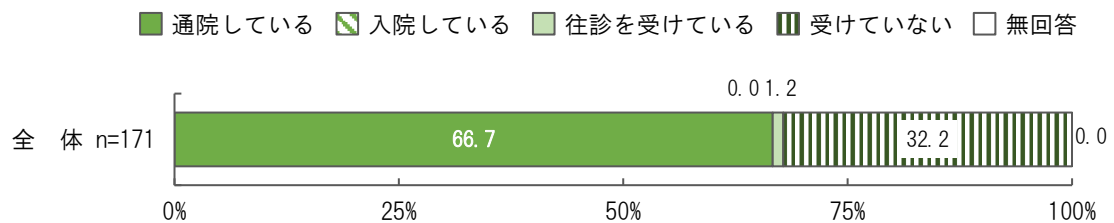
（１）病気等の治療状況

問16 あなたは現在、病院などでなんらかの治療を受けていますか。（○は1つ）

○病院などでの治療状況をみると、「通院している」が66.7%と最も高く、「往診を受けている」は1.2%となっています。

一方、「受けていない」は32.2%となっています。

■ 病気等の治療状況

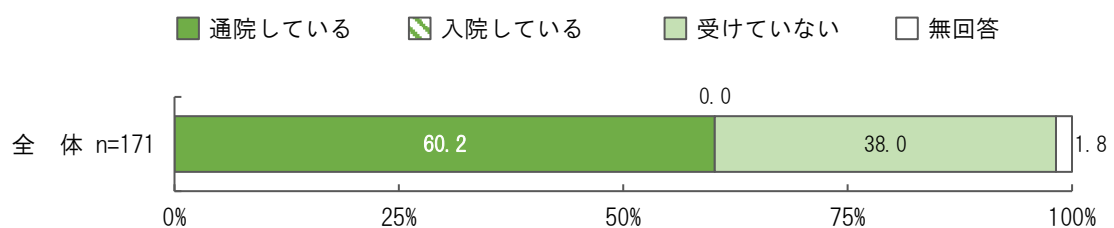


（２）精神科での治療状況

問17 あなたは現在、精神科（神経科、心療内科、小児科）で治療を受けていますか。（○は1つ）

○精神科での治療状況は、「通院している」が60.2%と最も高くなっています。

■ 精神科での治療状況

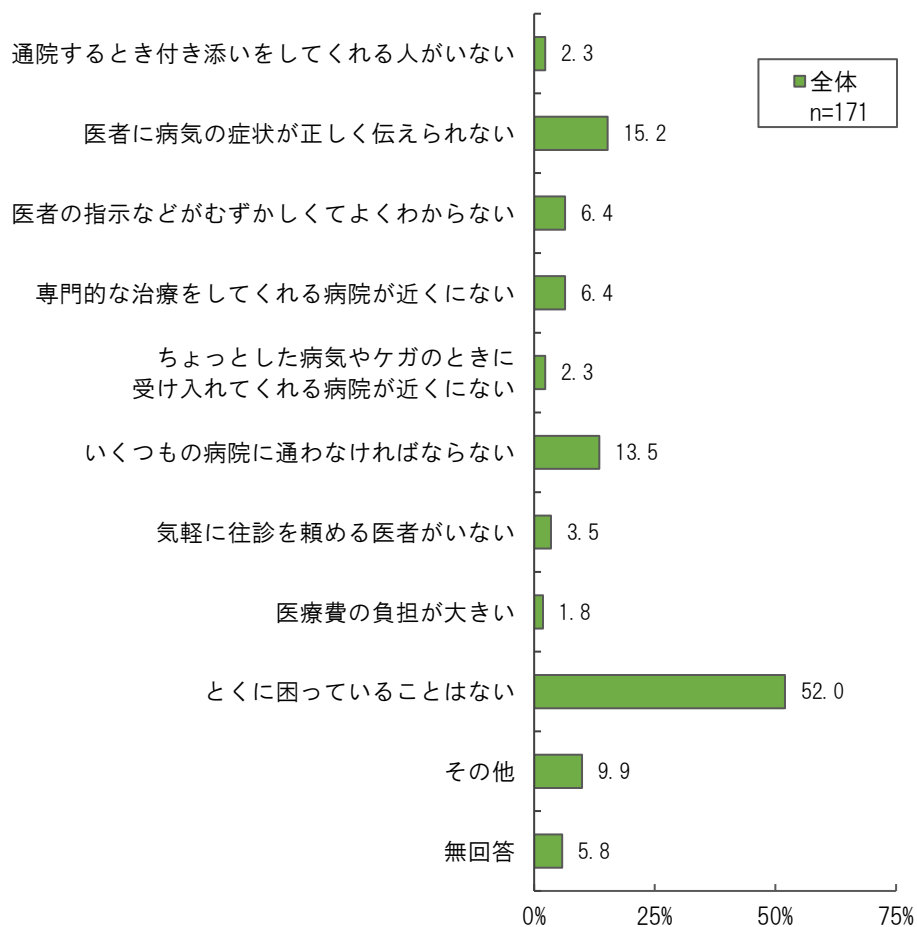


（３）医療に関して困っていること

問18 医療のことで、なにか困っていることがありますか。（○はいくつでも）

○医療のことで困っていることをみると、「とくに困っていることはない」が52.0%と最も高いものの、「医者に病気の症状が正しく伝えられない」（15.2%）、「いくつもの病院に通わなければならない」（13.5%）は1割以上が困っていることとしてあげています。

■ 医療に関して困っていること



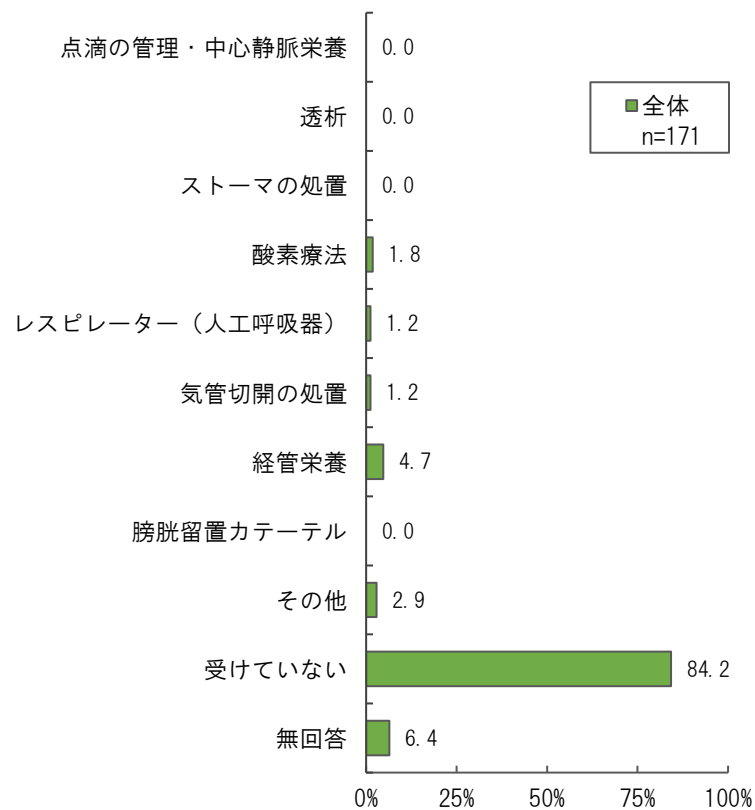
（４）医療的支援の状況

問19 あなたは、ふだん次のような、医療的支援を受けていますか。（○はいいくつでも）

○医療的支援は、「受けていない」が84.2%と最も高くなっています。また、受けている支援は、「経管栄養」が4.7%、「酸素療法」が1.8%となっています。

○全体に占める割合は少ないものの医療的ケアの必要な子どもに対する対応は、預け先の少なさや家族への支援などの課題があり、今後の課題として捉える必要があります。

■ ふだん受けている医療的支援

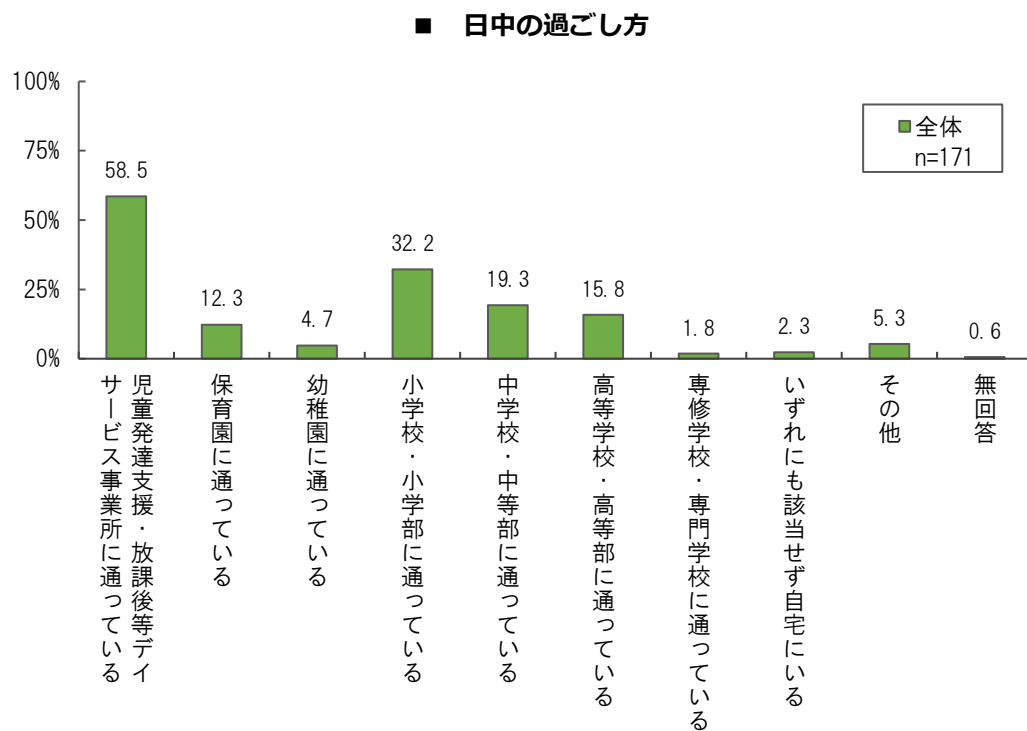


6 日中の活動について

（１）日中の過ごし方

問20 現在、日中は主にどのように過ごしていますか。（○はいくつでも）

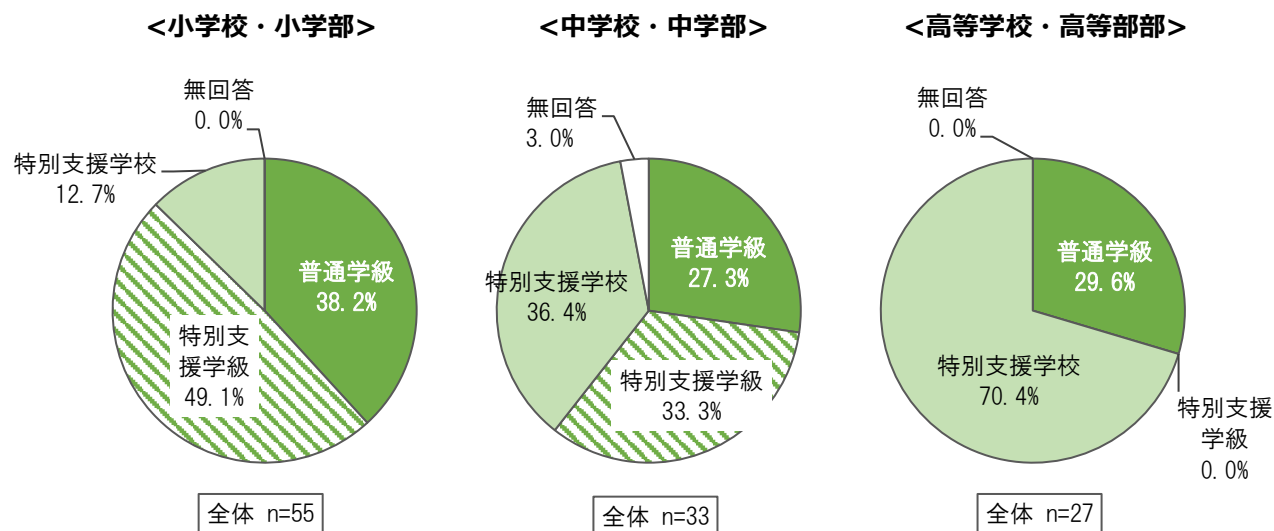
○日中の主な過ごし方をみると、「児童発達支援・放課後等デイサービス事業所に通っている」が58.5%と最も高く、次いで「小学校・小学部に通っている」が32.2%、「中学校・中等部に通っている」が19.3%となっています。



○小学校・小学部に通っている方は、「特別支援学級」が49.1%と最も高く、次いで「普通学級」（38.2%）、「特別支援学校」（12.7%）となっています。

中学校・中等部に通っている方は、「特別支援学校」が36.4%と最も高く、次いで「特別支援学級」（33.3%）、「普通学級」（27.3%）となっています。

高等学校・高等部に通っている方は、「特別支援学校」が70.4%を占め、「普通学級」は29.6%となっています。

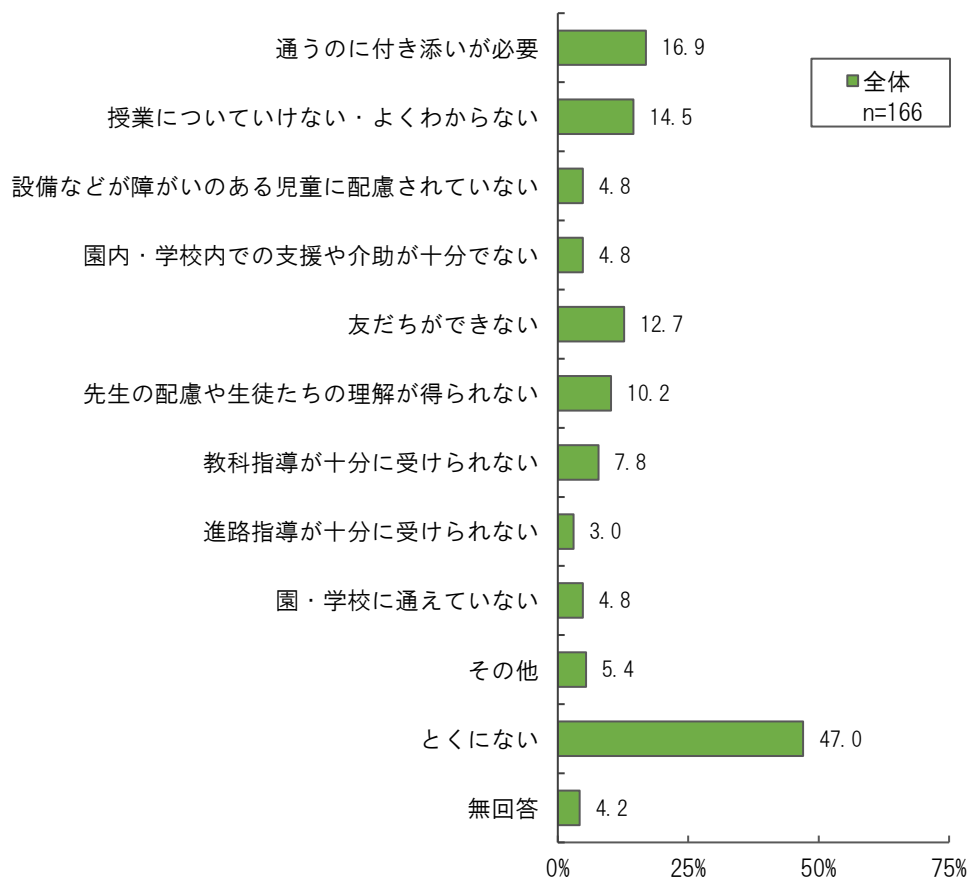


（２）通っている園や学校で困っていること

問21 現在通っている園や学校で困っていることがありますか。（○はいくつでも）

○通っている園や学校で困っていることをみると、「とくにない」が47.0%と最も高いものの、「通うのに付き添いが必要」(16.9%)、「授業についていけない・よくわからない」(14.5%)、「友だちができない」(12.7%)、「先生の配慮や生徒たちの理解が得られない」(10.2%) は1割以上が困っていることとしてあげています。

■ 通っている園や学校で困っていること

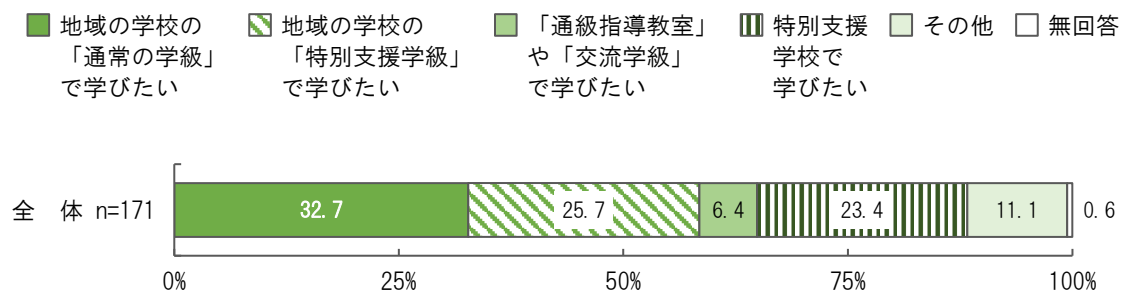


（３）学びの環境の希望

問22 どこで学びたいですか。（○は１つ）

○学びの環境の希望は、『地域の学校の「通常の学級」で学びたい』が32.7%と最も高く、次いで『地域の学校の「特別支援学級」で学びたい』が25.7%、『特別支援学校で学びたい』が23.4%となっています。

■ 学びの環境の希望



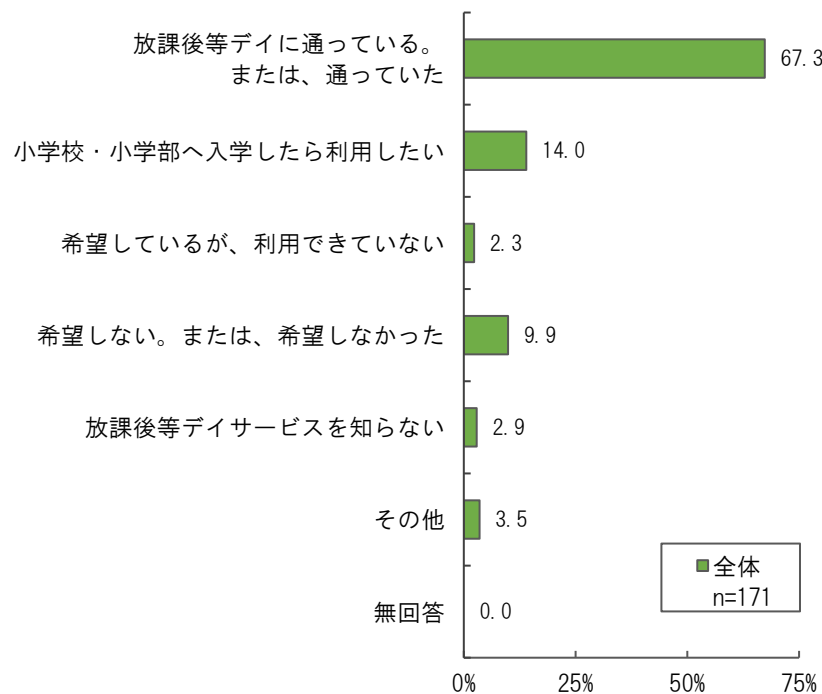
（４）放課後等デイサービス

問23 放課後や休業日に児童をあずかる放課後等デイサービスについて、あてはまるものに○をつけてください。（○は1つ）

○放課後等デイサービスに関してみると、「放課後等デイサービスに通っている。または、通っていた」が67.3%と最も高く、次いで「小学校・小学部へ入学したら利用したい」が14.0%となっています。

また、「希望しない。または、希望しなかった」は9.9%となっています。

■ 放課後等デイサービスに関して



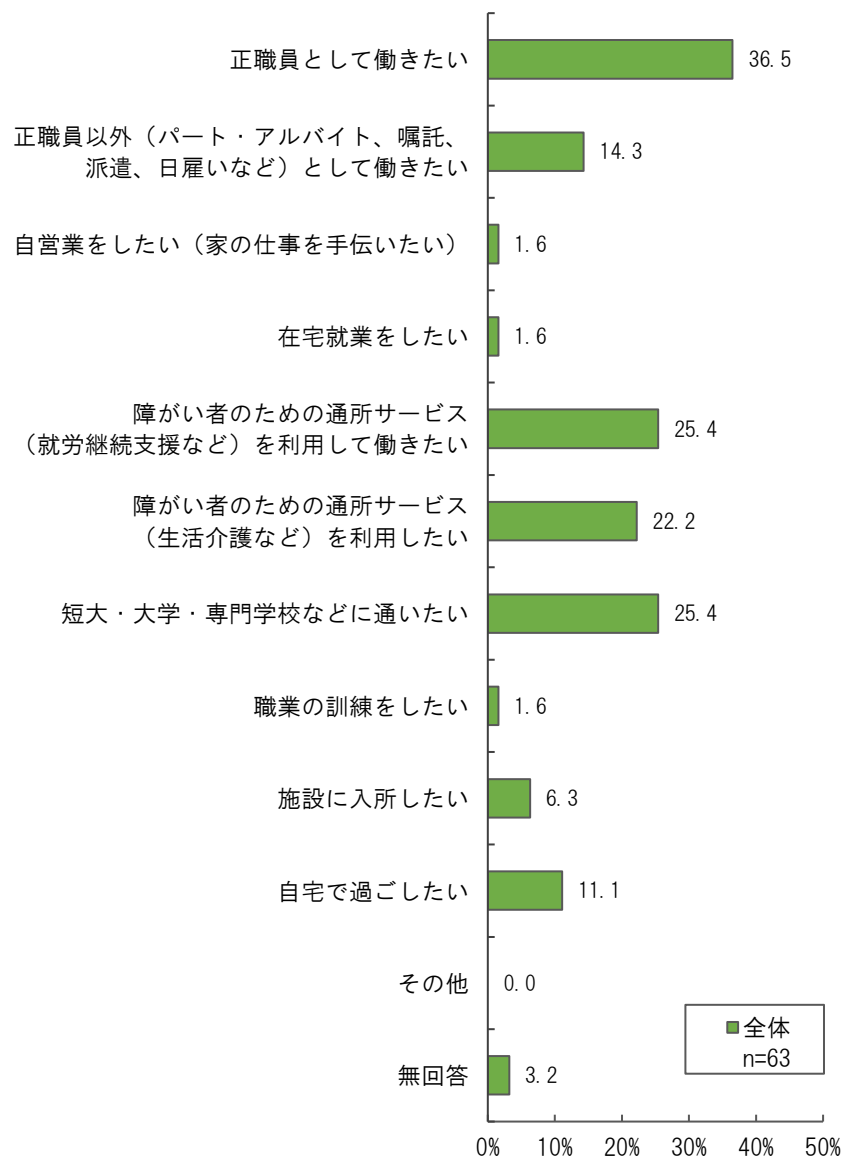
（５）学校卒業後における日中の過ごし方の意向

中学校・中等部、高等学校・高等部、専修学校・専門学校に通学している方のみ

問24 学校などを卒業してから、日中をどのように過ごしたいとお考えですか。
（○はいくつでも）

○学校卒業後における日中の過ごし方の意向をみると、「正職員として働きたい」が36.5%と最も高く、次いで「障がい者のための通所サービス（就労継続支援など）を利用して働きたい」「短大・大学・専門学校などに通いたい」が各25.4%となっています。

■ 学校卒業後における日中の過ごし方の意向



7 これからの生活について

（１）学校卒業後における暮らし方の意向

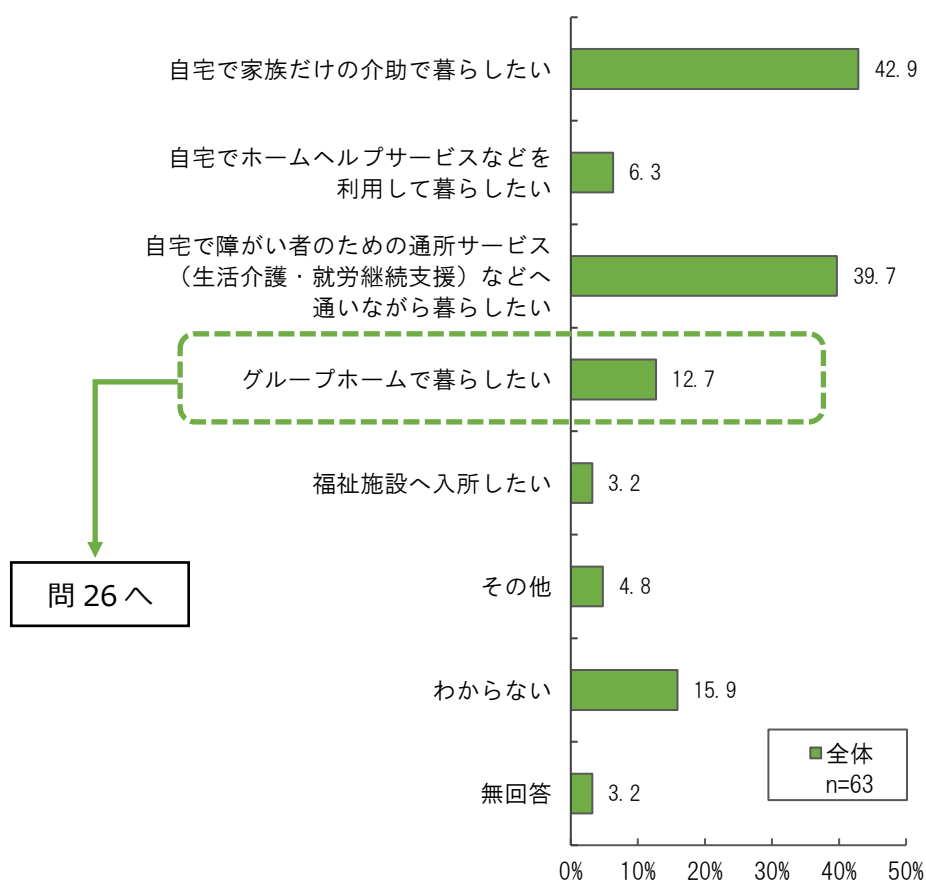
中学校・中等部、高等学校・高等部、専修学校・専門学校に通学している方のみ

問25 学校などを卒業してから、どこでどのように暮らしたいとお考えですか。
（○はいくつでも）

○学校卒業後における暮らし方の意向をみると、「自宅で家族だけの介助で暮らしたい」が42.9%と最も高く、次いで「自宅で障がい者のための通所サービス（生活介護・就労継続支援）などへ通いながら暮らしたい」が39.7%となり、自宅での生活を希望する割合が高くなっています。

一方、「グループホームで暮らしたい」は12.7%、「福祉施設へ入所したい」は3.2%となっています。

■ 学校卒業後における暮らし方の意向



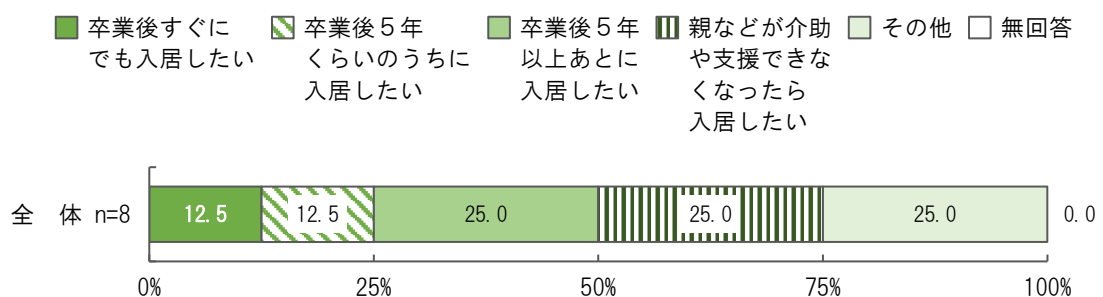
（２）グループホームへの入居希望時期

問25で「４．グループホームで暮らしたい」と答えた方のみ

問26 いつ頃からグループホームに入居したいと思いますか。（○は１つ）

○学校卒業後にグループホームでの生活を希望する方の入居のタイミングは、「卒業後５年以上あとに入居したい」「親などが介助や支援できなくなったら入居したい」が各25.0%と高くなっています。

■ 入居希望時期

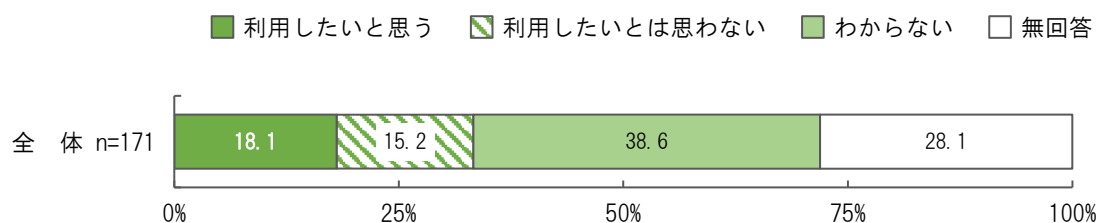


（３）グループホームなどを活用した一人暮らし体験

問27 あなたは、グループホームなどを活用した一人暮らしの体験の場があれば、利用したいと思いますか。（○は１つ）

○一人暮らし体験を「利用したいと思う」は18.1%、「利用したいとは思わない」は15.2%となっています。

■ 一人暮らし体験の利用意向



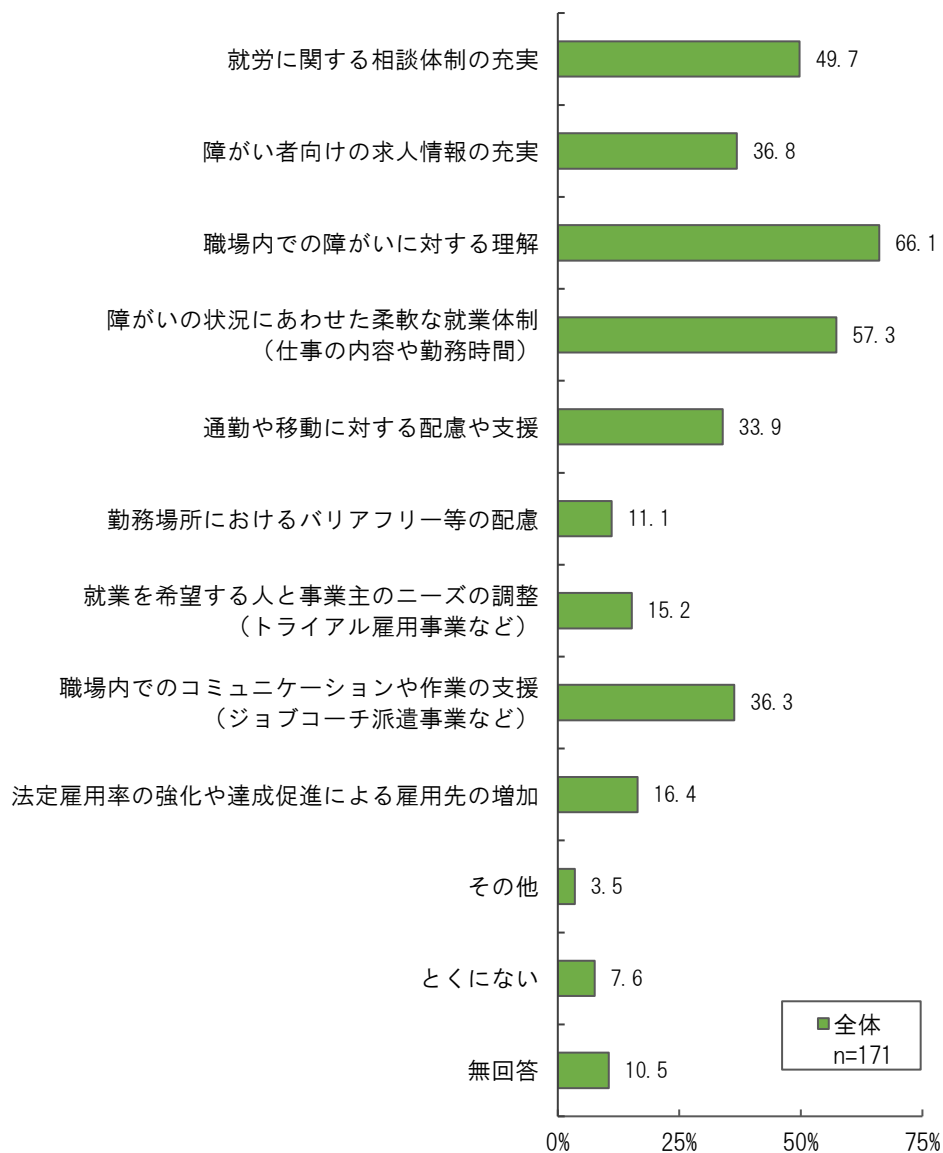
（４）就労促進に必要な配慮

問28 あなたは障がいのある人の就労を促進するために、どのような配慮が必要であると思いますか。（〇は5つまで）

○就労促進に必要な配慮は、「職場内での障がいに対する理解」が66.1%と最も高く、次いで「障がいの状況にあわせた柔軟な就業体制（仕事の内容や勤務時間）」が57.3%、「就労に関する相談体制の充実」が49.7%となっています。

○同じ設問について障がい者の調査結果も同様に障がいの理解や職場での仕事内容が上位2位を占めており、重要な配慮であると認識していることが分かりました。

■ 障がいのある人の就労促進に必要な配慮

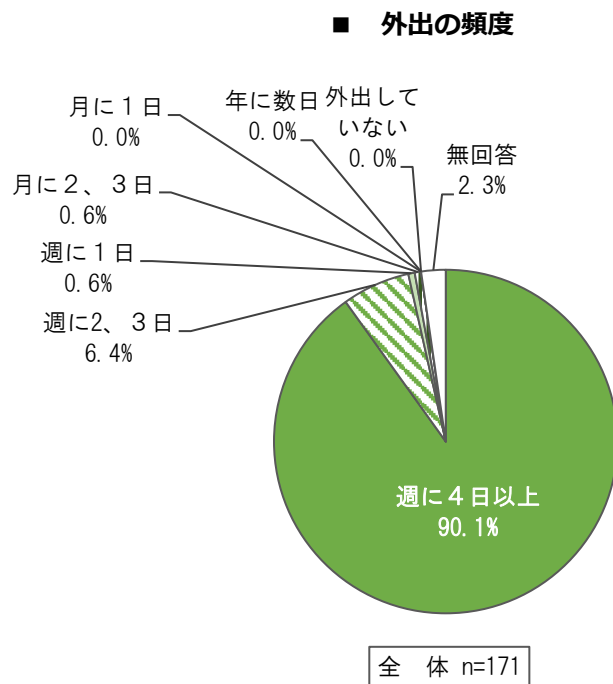


8 外出について

（1）外出の頻度

問29 あなたはどれくらいの頻度で外出していますか。（○は1つ）

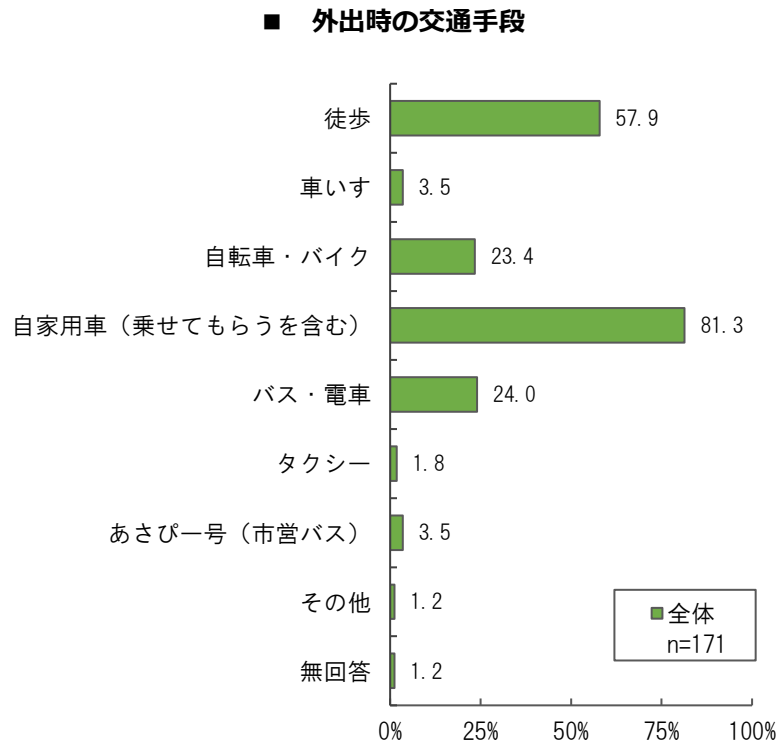
○外出の頻度は、「週に4日以上」が90.1%と最も高く、次いで「週に2、3日」が6.4%となっています。



(2) 外出時の交通手段

問30 外出のときの交通手段は何ですか。（○はいくつでも）

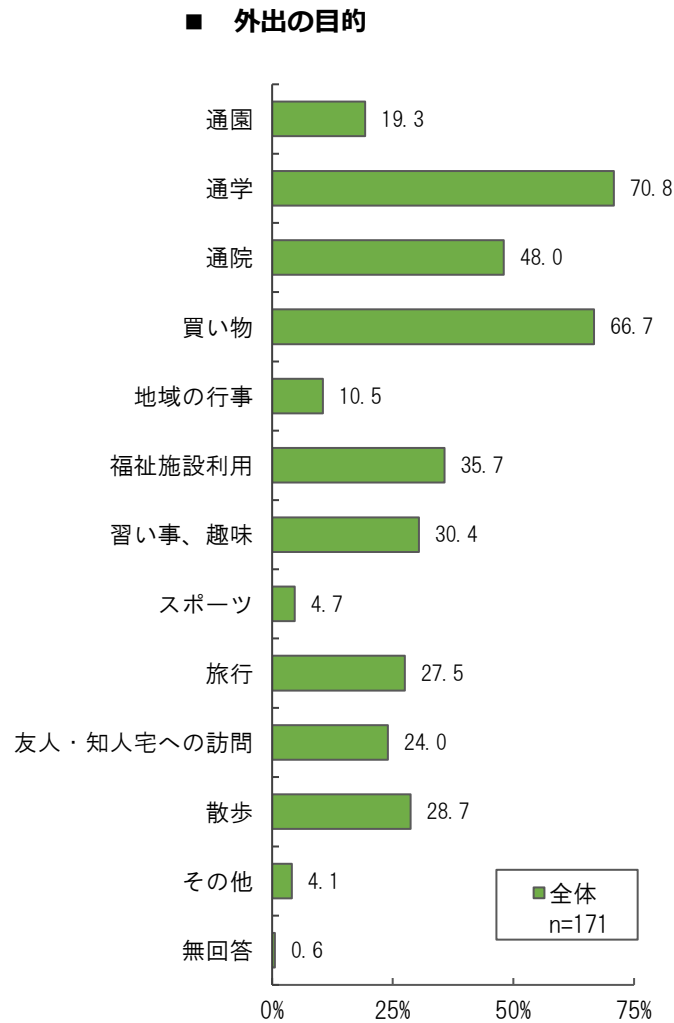
○外出時の交通手段は、「自家用車（乗せてもらう）」が81.3%と最も高く、次いで「徒歩」が57.9%、「バス・電車」が24.0%となっています。



（３）外出の目的

問31 外出の目的は何ですか。（○はいくつでも）

○外出の目的は、「通学」が70.8%と最も高く、次いで「買い物」が66.7%、「通院」が48.0%となっています。

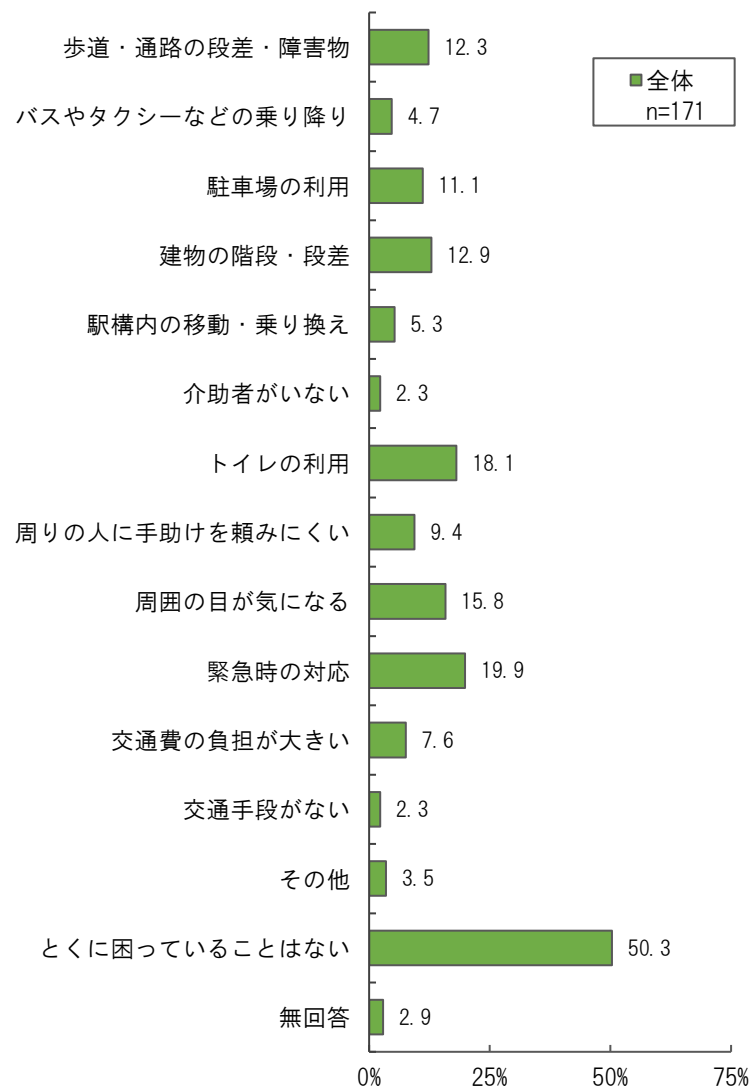


（４）外出時に困ること

問32 外出するうえで困ることは何ですか。（○はいくつでも）

○外出時に困ることをみると、「とくに困っていることはない」が50.3%と最も高いものの、「緊急時の対応」は19.9%、「トイレの利用」は18.1%、「周囲の目が気になる」は15.8%が困ることとしてあげています。

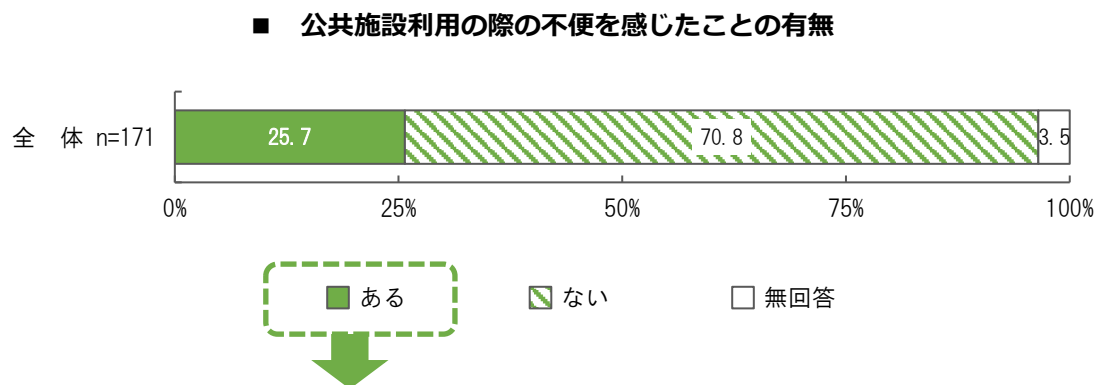
■ 外出時に困ること



（５）公共施設の利用に関して

問33 市内の公共施設を利用するときに、不便を感じたことがありますか。（○は1つ）

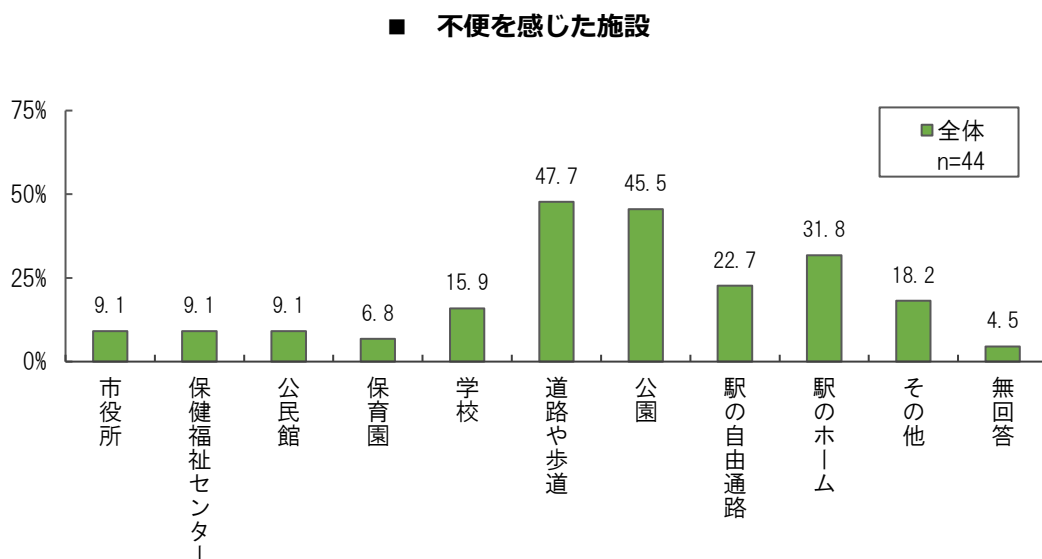
○市内の公共施設を利用するときに、不便を感じたことが「ある」は25.7%、「ない」は70.8%となっています。



問33で「1. ある」と答えた方のみ

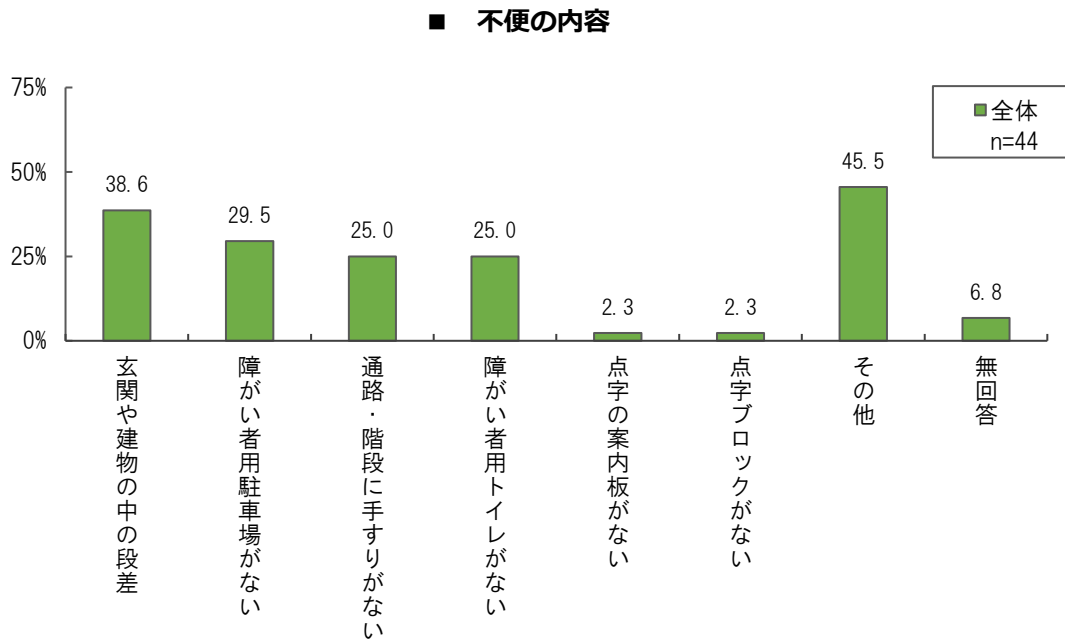
問34 どの施設で感じましたか。（○はいくつでも）

○不便を感じた施設は、「道路や歩道」が47.7%と最も高く、次いで「公園」が45.5%、「駅のホーム」が31.8%となっています。



問35 どのような不便でしたか。（○はいくつでも）

○不便を感じた内容は、「玄関や建物の中の段差」が38.6%、「障がい者用駐車場がない」が29.5%、「通路・階段に手すりがない」「障がい者用トイレがない」が各25.0%と高くなっています。

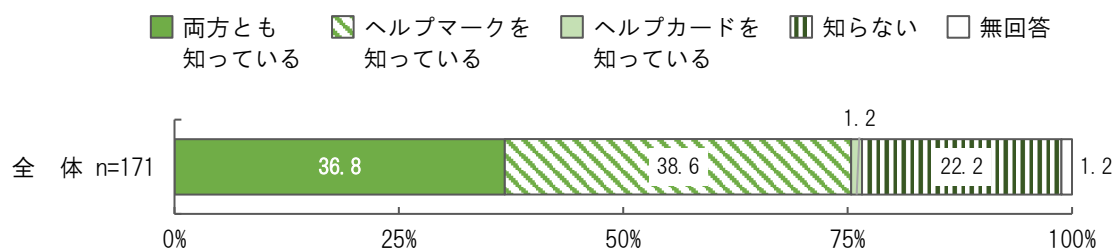


（６）ヘルプマーク・ヘルプカードの認知度

問36 あなたは、配慮や支援を必要としていることを周囲の人に知らせる「ヘルプマーク」や「ヘルプカード」を知っていますか。（○は1つ）

○ヘルプマーク・ヘルプカードの認知度は、「ヘルプマークを知っている」が38.6%と最も高くなっています。また、「両方とも知っている」も36.8%と高くなっています。

■ ヘルプマーク・ヘルプカードの認知度

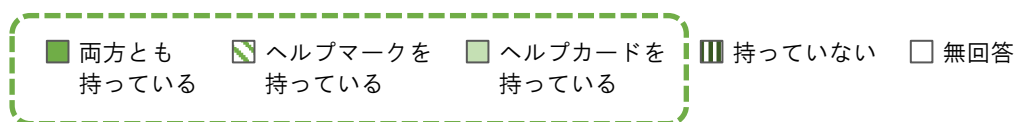
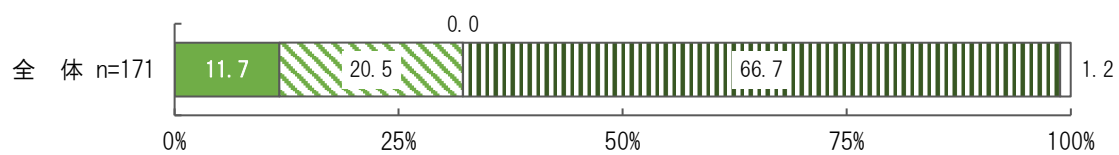


（７）ヘルプマーク・ヘルプカードの所持状況

問37 あなたは、「ヘルプマーク」か「ヘルプカード」を持っていますか。（○は1つ）

○ヘルプマーク・ヘルプカードの所持状況を見ると、「持っていない」が66.7%と最も高く、「両方とも持っている」は11.7%、「ヘルプマークを持っている」は20.5%となっています。

■ ヘルプマーク・ヘルプカードの所持状況



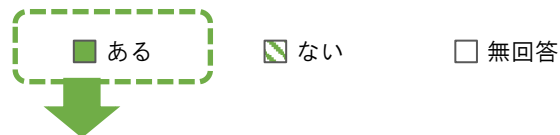
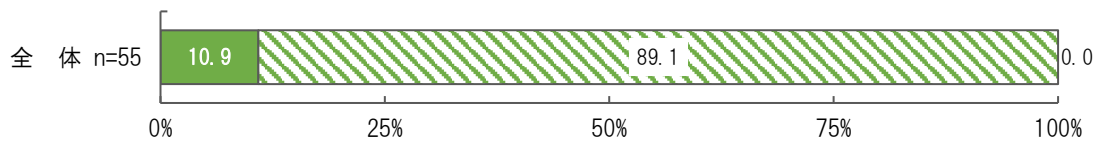
問 38 へ

問37で「1. 両方とも持っている」～「3. ヘルプカードを持っている」と答えた方のみ

問38 ヘルプマークやヘルプカードを使用することで、周囲の手助けを受けられるなど役に立ったことはありますか。（○は1つ）

○ヘルプマークやヘルプカードが役立ったことが「ある」は10.9%、「ない」は89.1%となっています。

■ ヘルプマーク・ヘルプカードが役立ったことの有無【所持手帳種類別】



■ 役立った具体的な内容

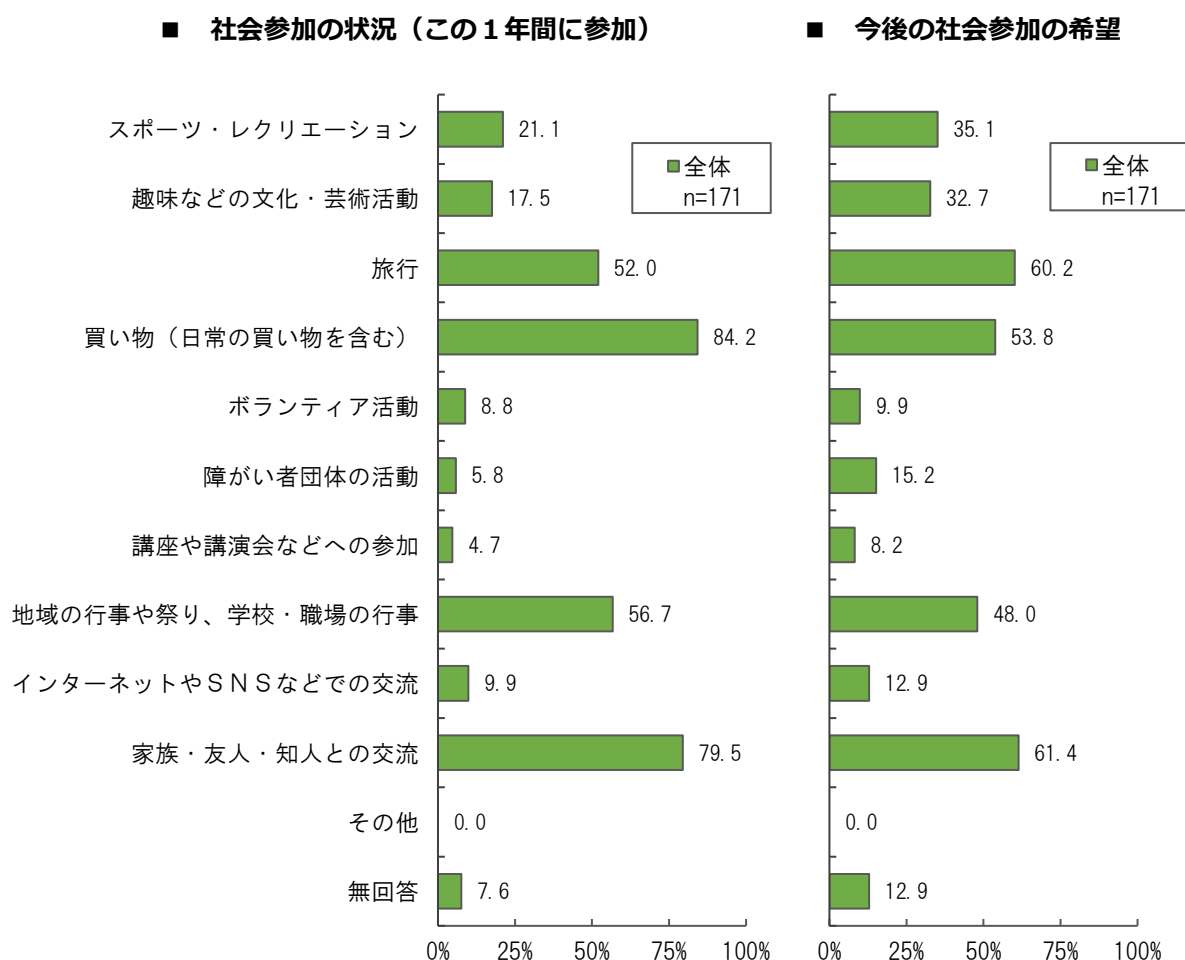
役立った具体的な内容	所持手帳種類
パニックになって騒いでも白い目で見られるだけで、怒られることはない。	知的障がい
見た目ではわからないので、マークを見て気遣ってくださることがあります。	知的障がい
なにも言わなくても障がいを持っていることを伝えることができ納得してもらえる。助けてもらおうなんて思わない。	知的障がい
電車で席をゆずってもらえた。	知的障がい
電車で席をゆずってくれる。	身体障がい
マークをつけていることに気づき、病院などで手助けの声をかけてもらえた。	重複所持

9 社会参加について

（１）社会参加の状況と今後の意向

問39 この1年にどのような社会参加をしましたか。また、今後どのような社会参加をしたいですか。（○はいくつでも）

- この1年間に参加した活動等は、「買い物（日常の買い物を含む）」が84.2%と最も高く、次いで「家族・友人・知人との交流」が79.5%、「地域の行事や祭り、学校・職場の行事」が56.7%となっています。
- 今後参加を希望する活動等は、「家族・友人・知人との交流」が61.4%と最も高く、次いで「旅行」が60.2%、「買い物（日常の買い物を含む）」が53.8%となっています。
- 実際の参加状況と今後の希望を比較すると、「趣味などの文化・芸術活動」では15.2ポイント、「スポーツ・レクリエーション」では14.0ポイント希望が高くなっています。

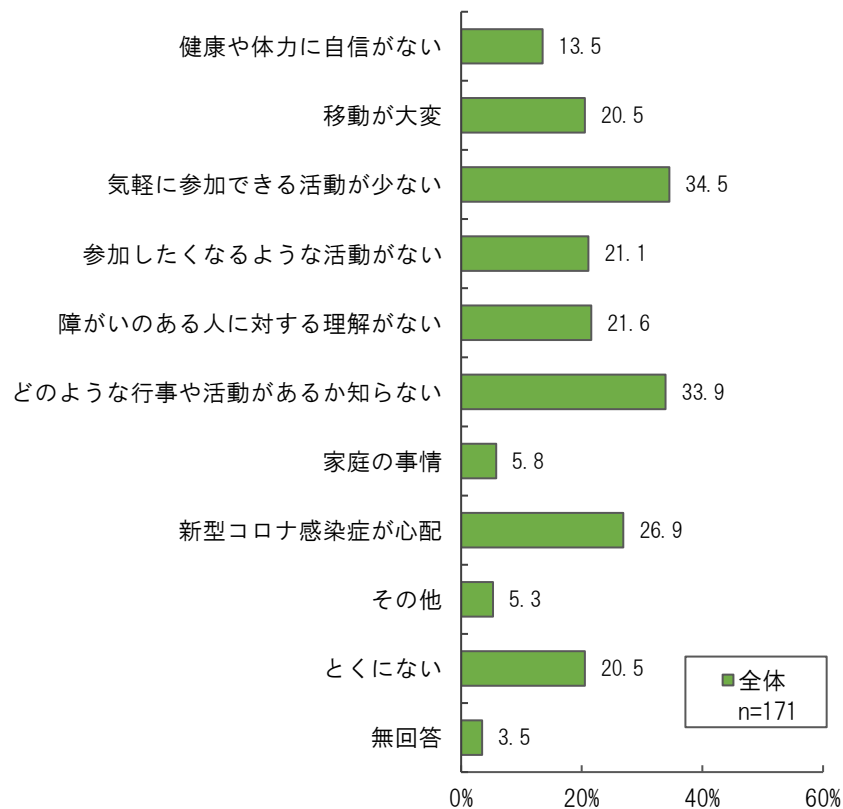


（２）社会参加するうえでの問題

問40 あなたが社会参加する場合、問題となることはありますか。（○はいくつでも）

○社会参加する場合の問題をみると、「気軽に参加できる活動が少ない」が34.5%と最も高く、次いで「どのような行事や活動があるか知らない」が33.9%、「新型コロナウイルス感染症が心配」が26.9%となっています。

■ 社会参加するうえでの問題

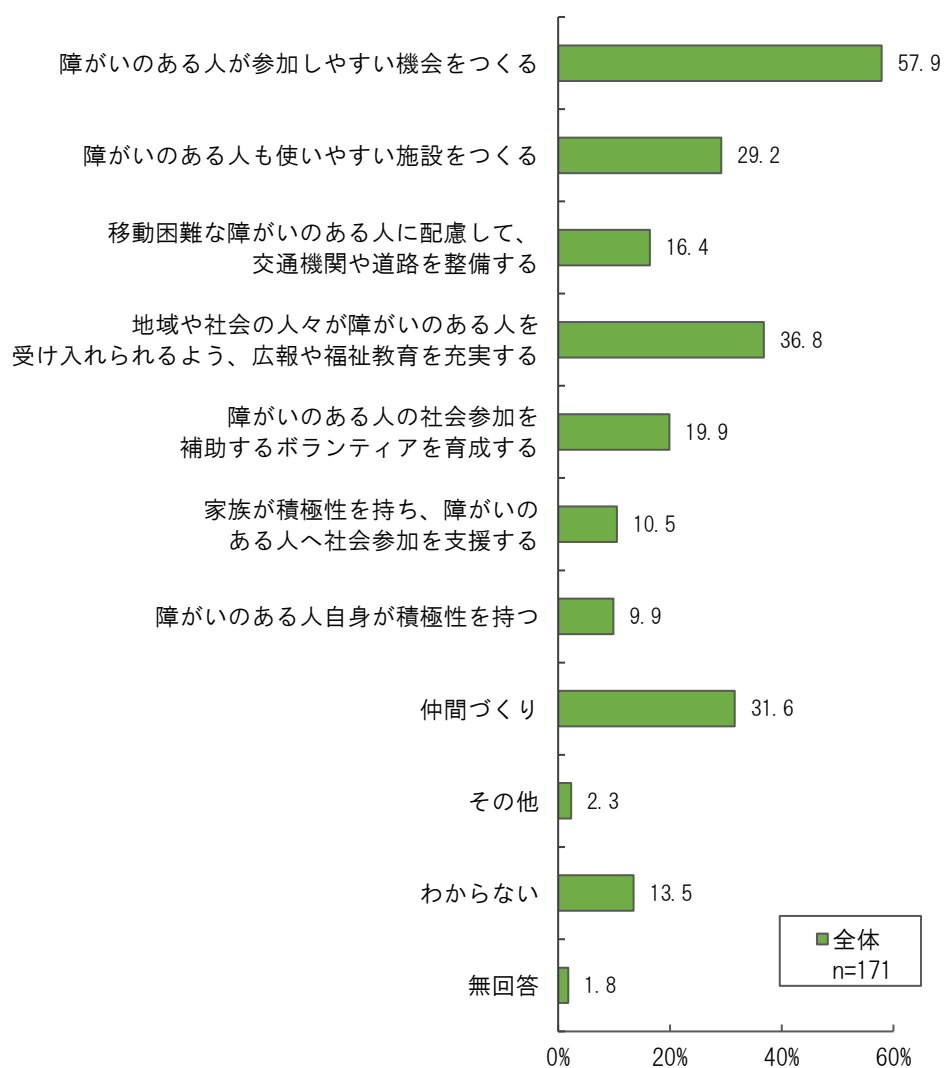


（３）積極的な社会参加に大切なこと

問41 あなたは障がいのある人が地域や社会に積極的に参加できるようにするために、大切なことは何だとお考えですか。（○は3つまで）

○積極的な社会参加に大切なことは、「障がいのある人が参加しやすい機会をつくる」が57.9%と最も高く、次いで「地域や社会の人々が障がいのある人を受け入れられるよう、広報や福祉教育を充実する」が36.8%、「仲間づくり」が31.6%となっています。

■ 積極的な社会参加に大切なこと



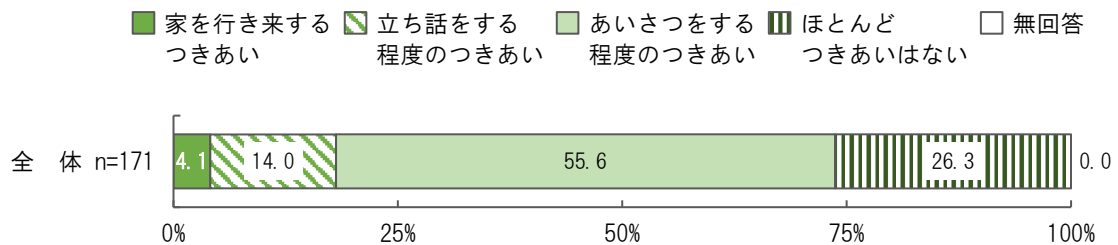
10 地域活動について

（１）近所づきあいの程度

問42 あなたは、ふだん近所の方とどの程度のおつきあいをしていますか。（○は1つ）

○近所づきあいの程度をみると、「あいさつをする程度のつきあい」が55.6%と最も高く、次いで「ほとんどつきあいはない」が26.3%、「立ち話をする程度のつきあい」が14.0%となっています。

■ 近所づきあいの程度

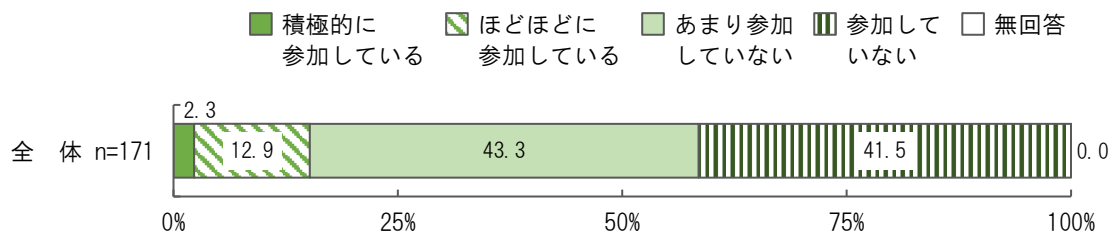


（２）地域活動や行事への参加

問43 あなたは地域の活動や行事にどの程度参加していますか。（○は1つ）

○地域活動や行事への参加をみると、「あまり参加していない」が43.3%と最も高く、「参加していない」（41.5%）を合わせた『参加していない』は84.8%を占めています。

■ 地域活動や行事への参加程度

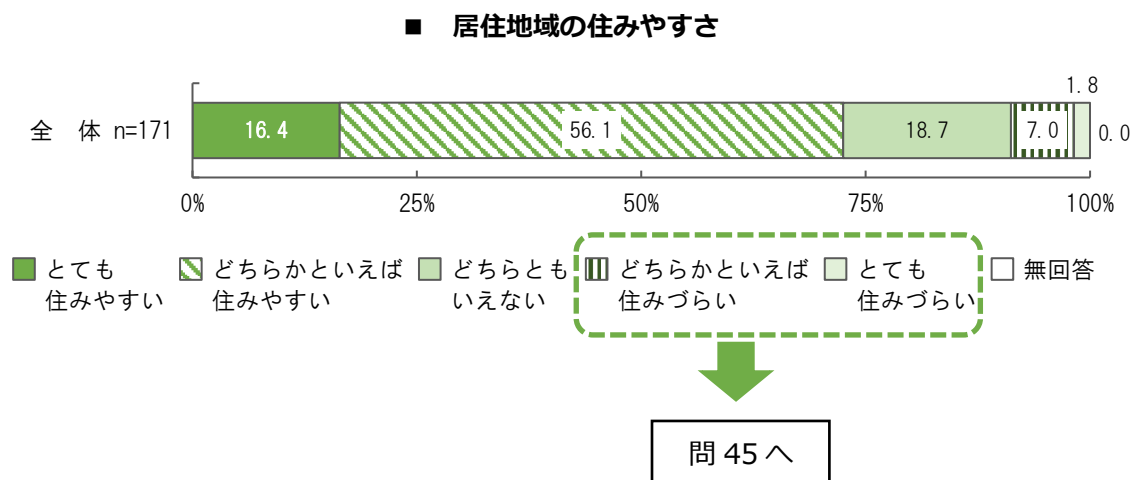


（３）居住地域の住みやすさ

問44 あなたの住んでいる地域（小学校区）は住みやすいと思いますか。（○は1つ）

○居住地域の住みやすさをみると、「どちらかといえば住みやすい」が56.1%と最も高く、次いで「どちらともいえない」が18.7%となっています。

また、「とても住みやすい」と「どちらかといえば住みやすい」を合わせた『住みやすい』は72.5%、「どちらかといえば住みづらい」と「とても住みづらい」を合わせた『住みづらい』は8.8%となり、『住みやすい』が大きく上回っています。

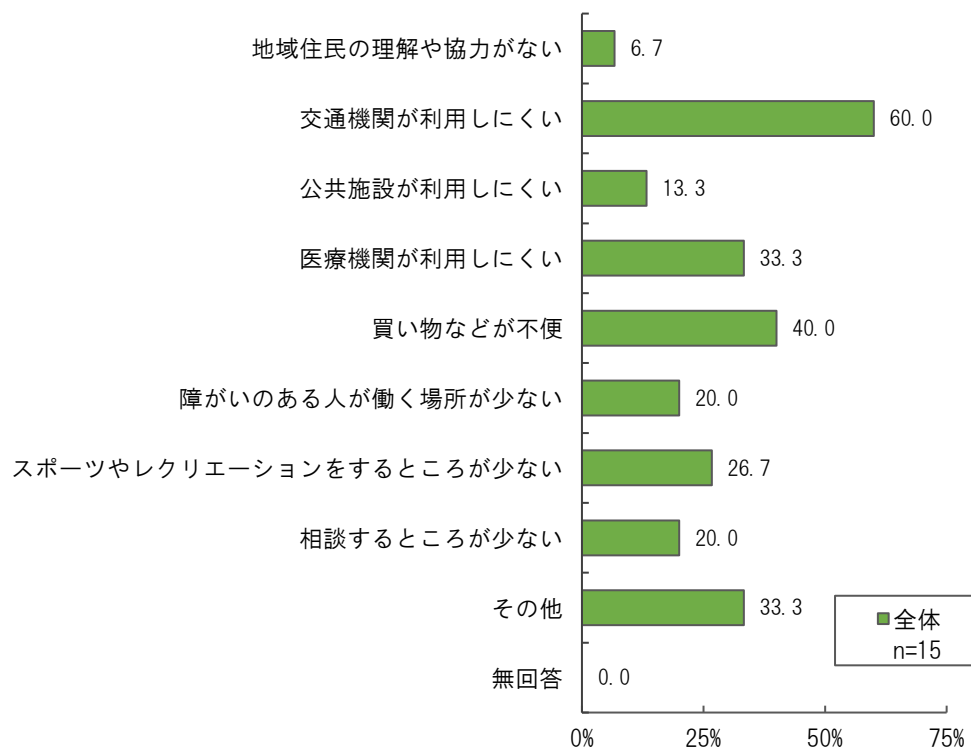


問44で「4. どちらかといえば住みづらい」または「5. とても住みづらい」と答えた方のみ

問45 住みづらい理由は何ですか。（○はいくつでも）

○住みづらい理由をみると、「交通機関が利用しにくい」が60.0%と最も高く、次いで「買い物などが不便」が40.0%、「医療機関が利用しにくい」が33.3%となっています。

■ 住みづらい理由



11 災害時に困ることについて

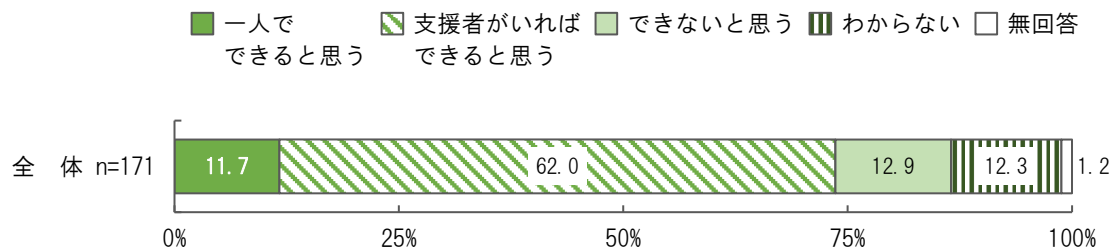
（１）災害時の避難の可否

問46 地震などの災害時に避難できますか。（○は1つ）

○災害時の避難は、「支援者がいればできると思う」が62.0%と最も高く、「一人でできると思う」は11.7%となっています。

一方、「できないと思う」は12.9%となっています。

■ 災害時の避難の可否

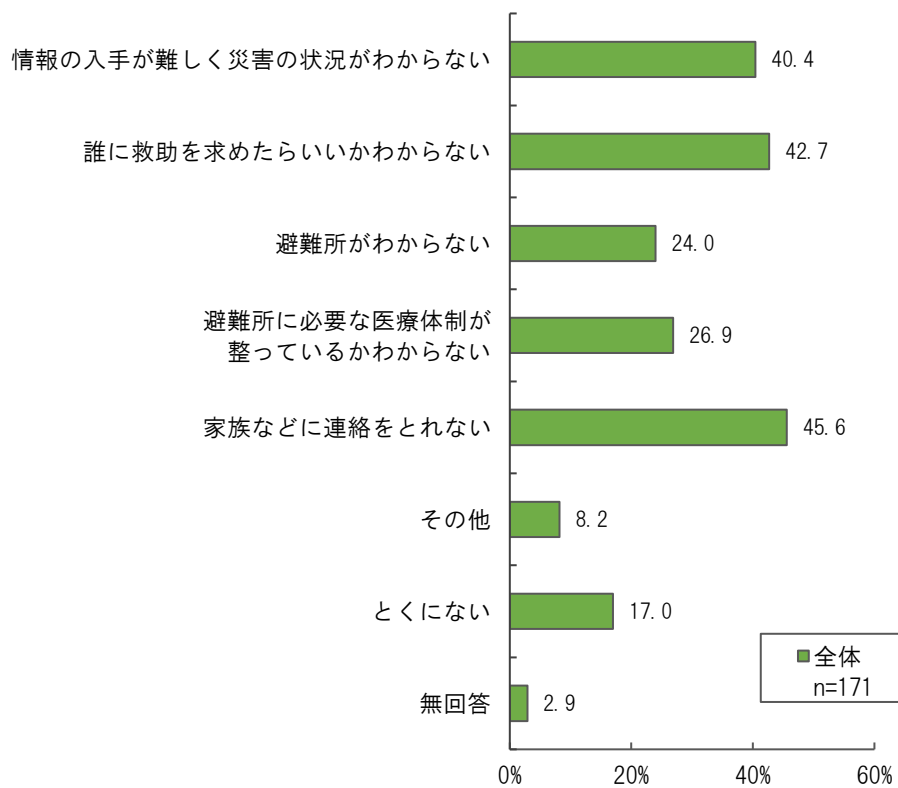


（２）災害時に困ることや不安なこと

問47 地震などの災害時にすぐに困ることや不安に思うことは何ですか。
（○はいくつでも）

○災害時に困ることや不安なことは、「家族などに連絡をとれない」が45.6%と最も高く、次いで「誰に救助を求めたらいいかわからない」が42.7%、「情報の入手が難しく災害の状況がわからない」が40.4%となっています。

■ 災害時に困ることや不安なこと

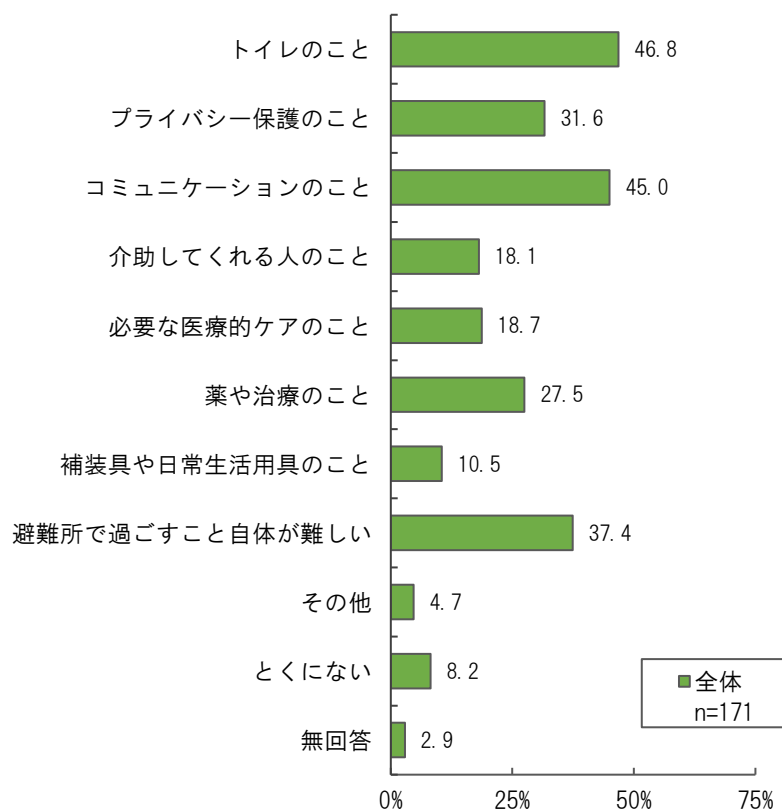


（３）災害時に避難所で困ること

問48 災害時に、避難所等で困ると思われることは何ですか。（○はいくつでも）

○災害時に避難所で困ることは、「トイレのこと」が46.8%と最も高く、次いで「コミュニケーションのこと」が45.0%、「避難所で過ごすこと自体が難しい」が37.4%となっています。

■ 災害時に避難所で困ること



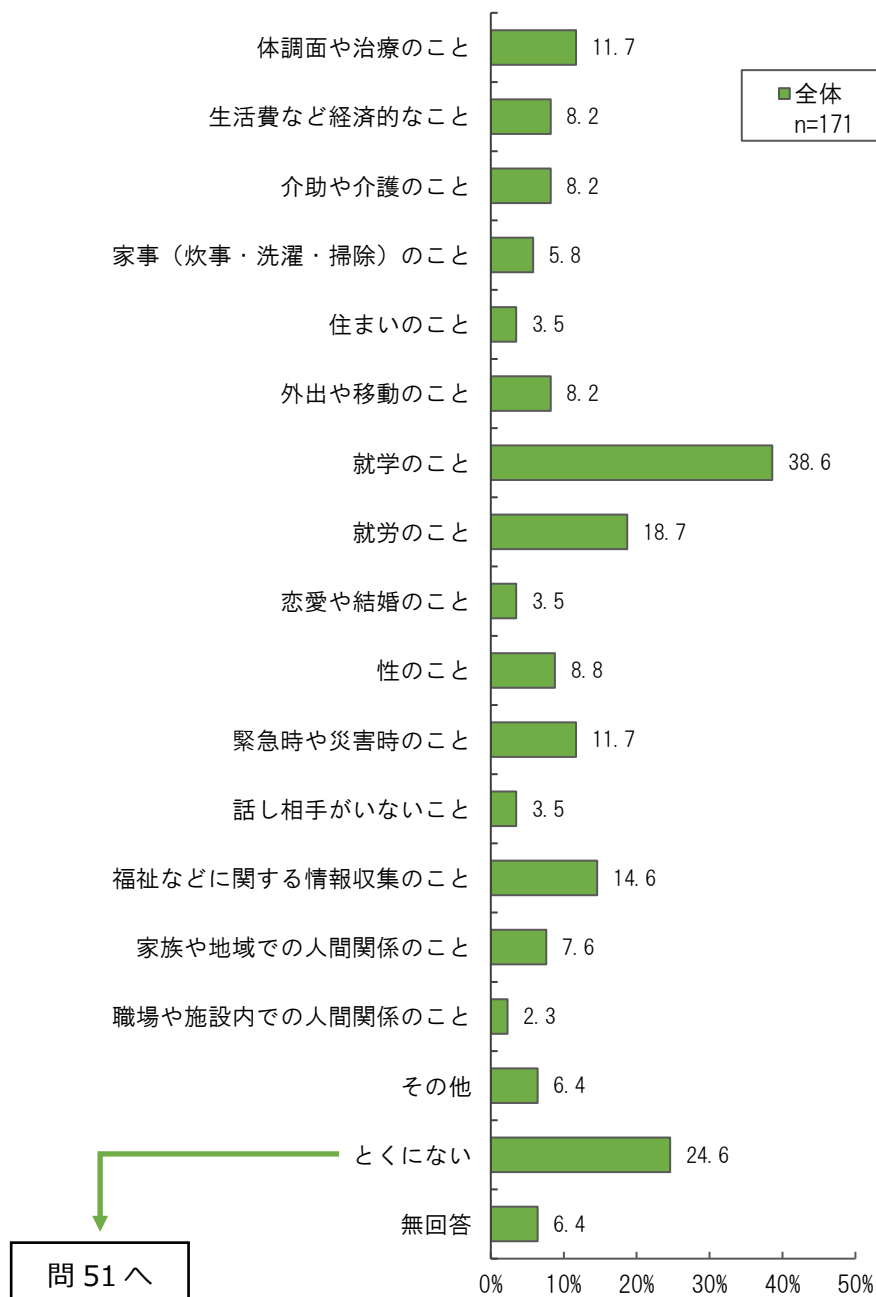
12 相談などについて

（１）悩みや相談したいこと

問49 現在、悩んでいることや相談したいことがありますか。（○はいくつでも）

○現在の悩みや相談したいことは、「就学のこと」が38.6%と最も高く、次いで「就労のこと」が18.7%、「福祉などに関する情報収集のこと」が14.6%となっています。
一方、「とくにない」も24.6%と高くなっています。

■ 悩みや相談したいこと

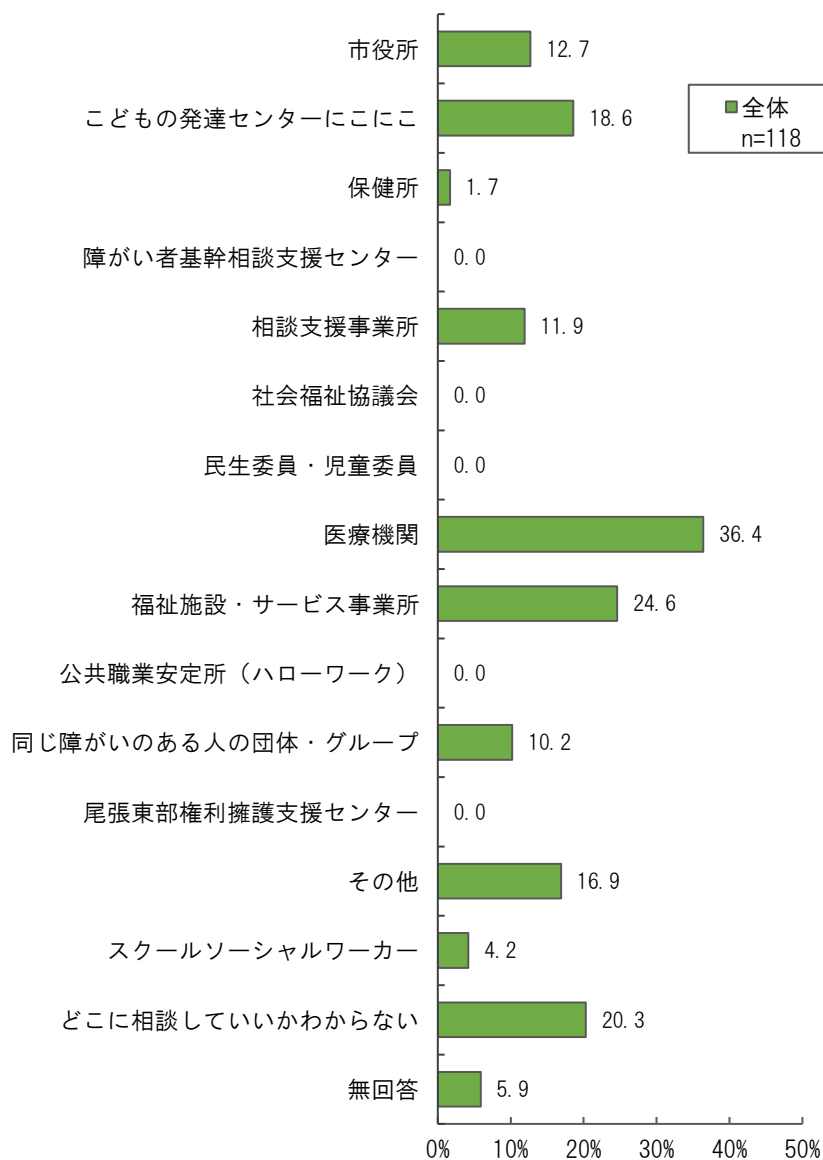


（２）悩みの相談先

問50 悩んでいることを、家族以外でどこに相談していますか。（○はいくつでも）

○家族以外の悩みの相談先をみると、「医療機関」が36.4%と最も高く、次いで「福祉施設・サービス事業所」が24.6%、「こどもの発達センターにここ」が18.6%となっています。一方、「どこに相談していいかわからない」は20.3%となっています。

■ 悩みの相談先（家族以外）



13 権利擁護について

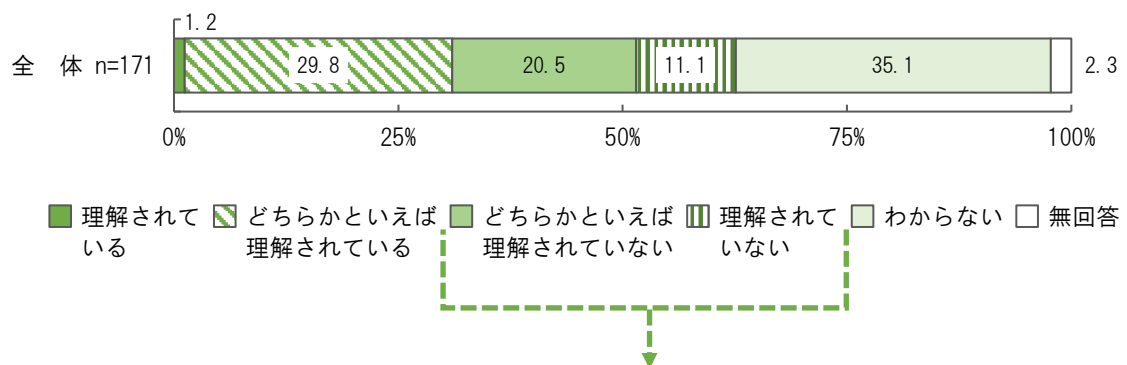
（１）障がいのある人に対する社会の理解

問51 あなたは日常生活の中で、障がいのある人に対する社会の理解についてどう感じますか。（○は1つ）

○障がいのある人に対する社会の理解は、「わからない」が35.1%と最も高く、次いで「どちらかといえば理解されている」が29.8%となっています。

また、『理解されていない』（「どちらかといえば理解されていない」＋「理解されていない」）と感じている方は31.6%となっています。

■ 障がいのある人に対する社会の理解



問51で「3. どちらかといえば理解されていない」「4. 理解されていない」と答えた方のみ

問51-1 あなたは日常生活の中で、障がいのある人が理解されていないと感じることは何ですか。（自由回答）

■ 障がいのある人が理解されていないと感じることの自由回答の分類

自由回答の分類（n=54）	件数（件）	割合（％）
見た目では分からない障がいへの配慮不足	11	20.4
支援・サービスの不足	9	16.7
差別・嫌な思いをする	7	13.0
具体的な障がいの内容、困難さが理解されていない	5	9.3
バリアフリー等の整備不足	4	7.4
周囲の反応が気になる	3	5.6
無関心・見て見ぬふり	2	3.7
無回答	13	24.1

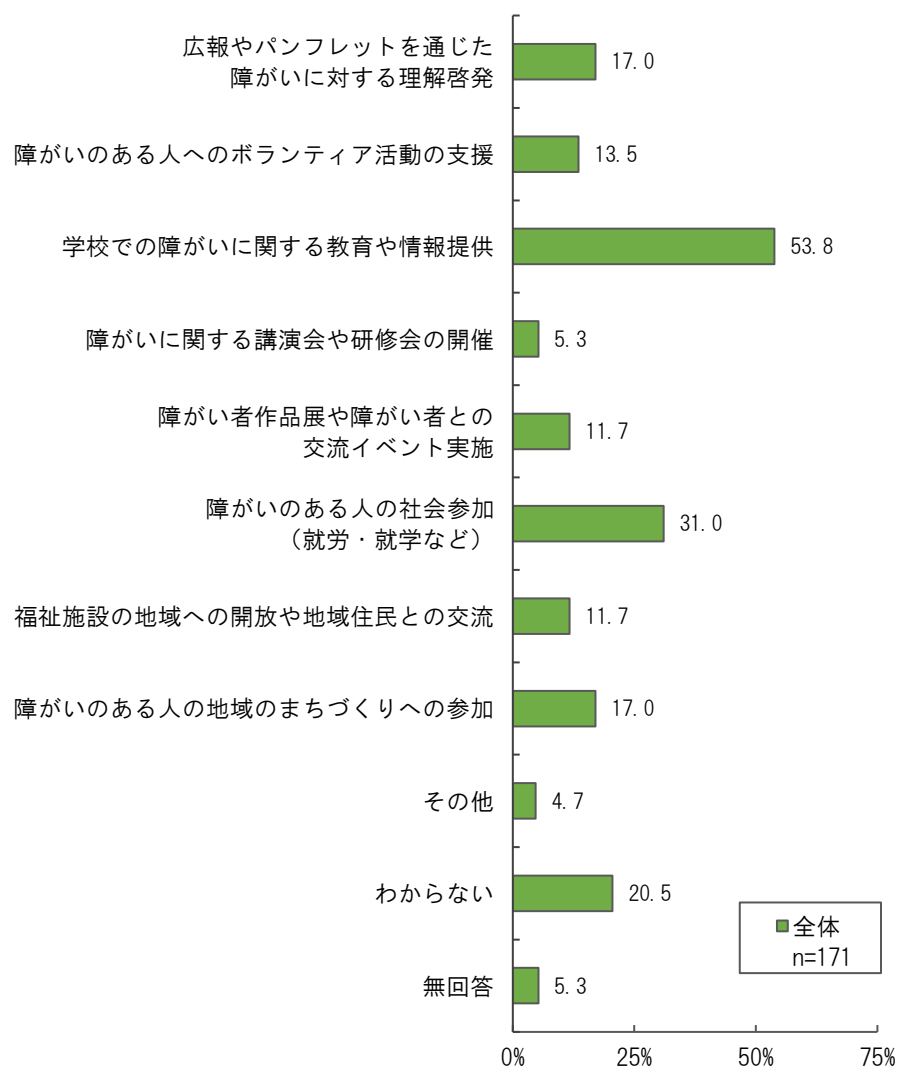
（２）市民理解を深めるために必要なこと

問52 障がいのある人に対する市民の理解を深めるために、必要だと思うことは何ですか。（○は3つまで）

○障がいのある人に対する市民理解を深めるために必要なことは、「学校での障がいに関する教育や情報提供」が53.8%と最も高く、次いで「障がいのある人の社会参加（就労・就学など）」が31.0%、「わからない」が20.5%となっています。

○同じ設問について障がい者の結果と同様に「学校での障がいに関する教育や情報提供」が最も高く、幼い頃からの学校の教育の重要性がうかがえます。

■ 市民理解を深めるために必要なこと

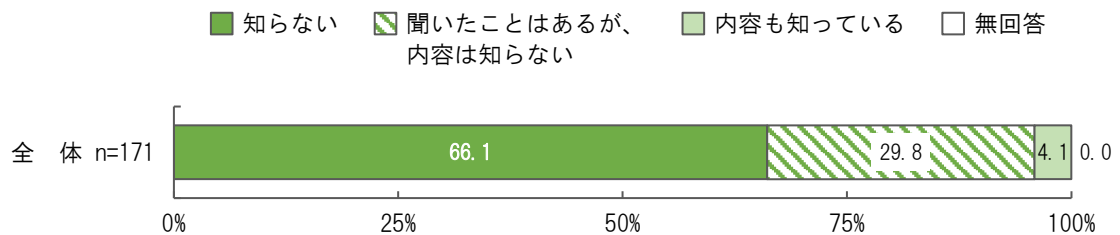


（３）日常生活自立支援事業の認知度

問57 日常生活自立支援事業を知っていますか。（○は１つ）

○日常生活自立支援事業の認知度をみると、「知らない」が66.1%と最も高く、「聞いたことはあるが、内容は知らない」は29.8%、「内容も知っている」は4.1%となっています。

■ 日常生活自立支援事業の認知度

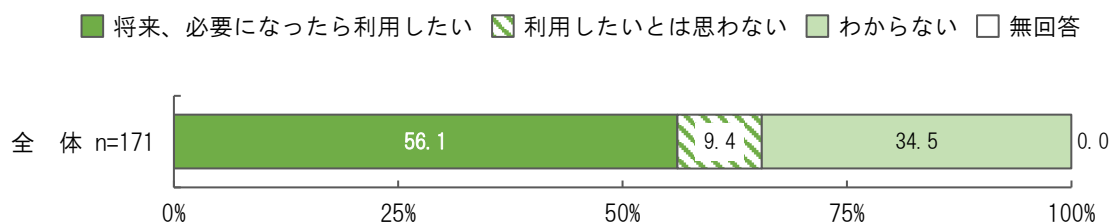


（４）日常生活自立支援事業の利用意向

問58 日常生活自立支援事業を利用したいですか。（○は１つ）

○日常生活自立支援事業の利用意向をみると、「将来、必要になったら利用したい」が56.1%と最も高く、次いで「わからない」が34.5%となっています。

■ 日常生活自立支援事業の利用意向

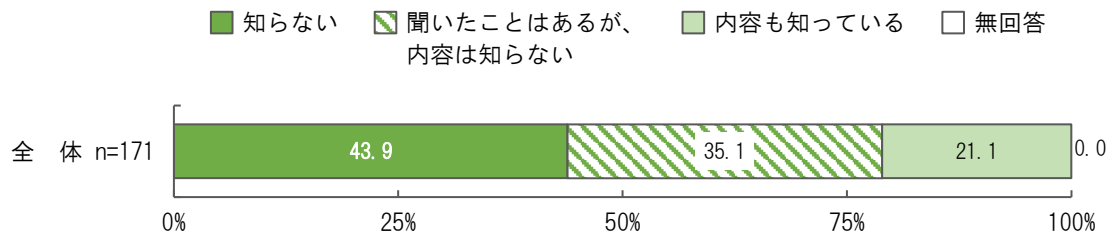


（５）成年後見制度の認知度

問55 成年後見制度を知っていますか。（○は1つ）

○成年後見制度の認知度をみると、「知らない」が43.9%と最も高く、次いで「聞いたことはあるが、内容は知らない」が35.1%となり、「内容も知っている」は21.1%となっています。

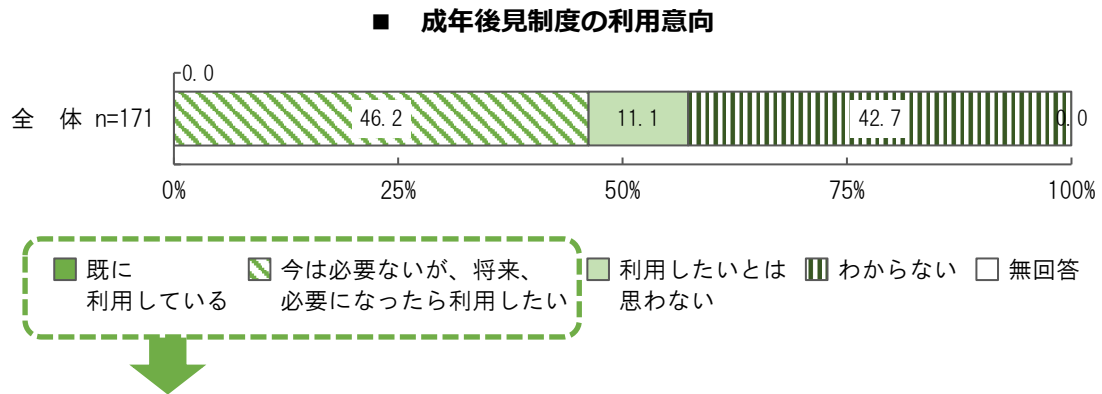
■ 成年後見制度の認知度



（６）成年後見制度の利用意向

問56 成年後見制度を利用したいですか。（○は1つ）

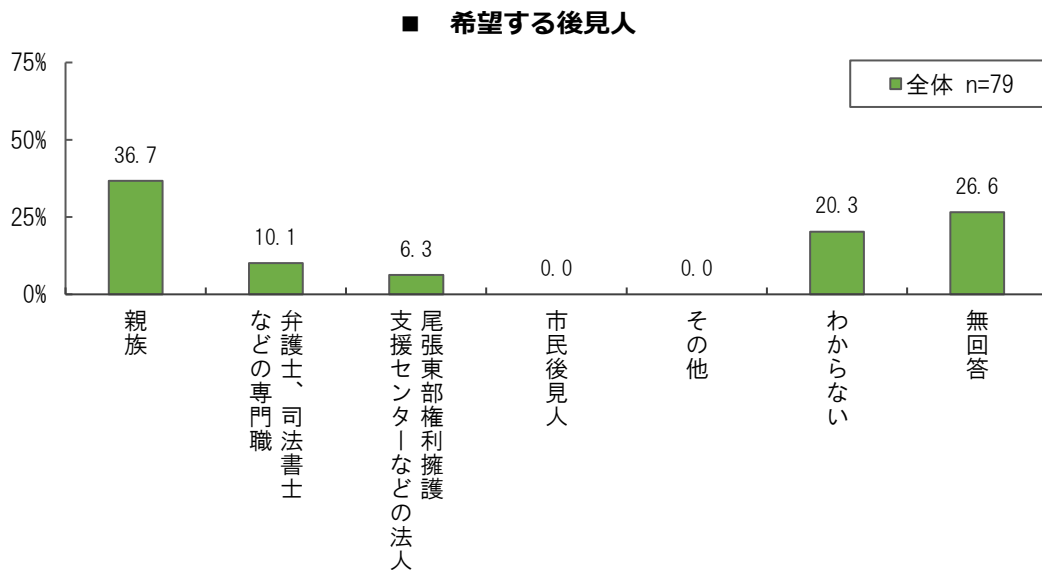
○成年後見制度の利用意向をみると、「今は必要ないが、将来、必要になったら利用したい」が46.2%と最も高く、次いで「わからない」が42.7%となっています。



問56で「1. 既に利用している」または「2. 今は必要ないが、将来、必要になったら利用したい」と答えた方のみ

問57 支援してくれる後見人などはどのような方を希望しますか。（○は1つ）

○希望する後見人は、「親族」が36.7%と最も高く、次いで「わからない」が20.3%となっています。

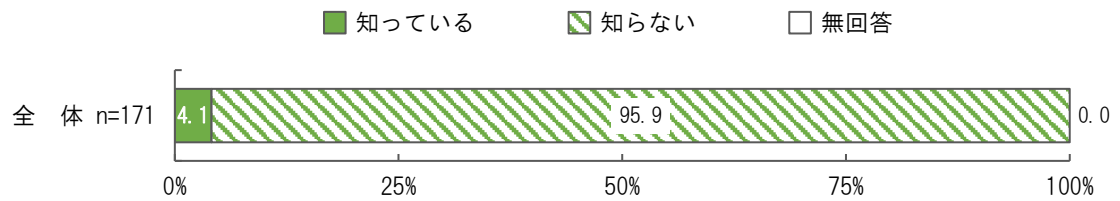


（７）尾張東部権利擁護支援センターの認知度

問58 あなたは、成年後見制度の相談や利用支援などを行う尾張東部権利擁護支援センターを知っていますか。（○は1つ）

○尾張東部権利擁護支援センターの認知度をみると、「知らない」が95.9%を占め、「知っている」は4.1%となっています。

■ 尾張東部権利擁護支援センターの認知度



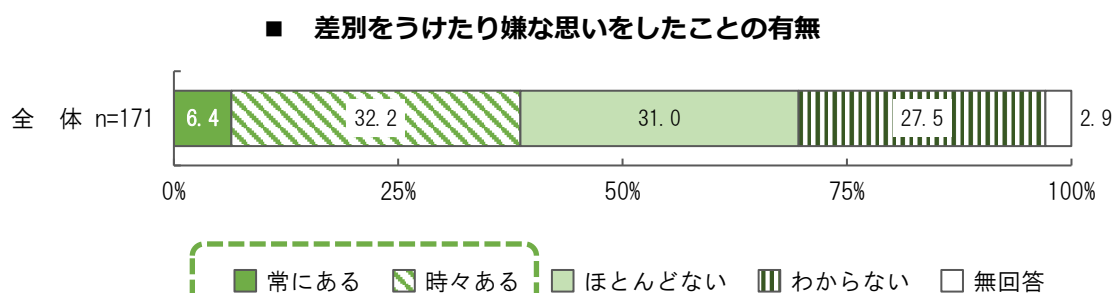
14 障がいなどのある人に対する差別や配慮について

（１）差別をうけたり嫌な思いをしたことの有無

問59 あなたは、障がいなどがあるために差別をうけたり、いやな思いをしたことがありますか。（○は1つ）

○差別をうけたりいやな思いをしたことの有無をみると、「時々ある」が32.2%と最も高く、「常にある」（6.4%）を合わせた38.6%は差別やいやな思いをしたことが『ある』としています。

○同じ設問で障がい者の『ある』が17%に対して、障がい児は38.6%と高くなっています。



■ いやな思いをした具体的な内容

具体的な内容（一部抜粋記載）	
身体障がい	満員電車の中で席をゆずらない。降りる時など人が通路をあけてくれない。
	学校で目つきが悪いと下級生に言われじろじろと見られる。外出先でも、子どもにじっと目を見られ、いやな思いをする。
	健常者が利便性を優先して障がい者スペースを利用される事でただでさえ大変な介助が更に何倍も不便になっています。予定を変更せざるを得ない事もしばしばあります。それに伴い活動範囲や頻度が減っています。
	学校のお母さんたちが障がいがあることに触れてはいけなく、とか話に気を使っていて距離を置かれてしまうことがあります。
知的障がい	子供が地域の学校に通学してた時に、他の生徒にからかわれたり、笑われた。
	独り言を言ったり、動き回ったり、奇異な目で見られることがしばしばある。
	中学校で支援学級に在籍。交流という事で普通級に参加した時に明らかに歓迎されていない嫌味を言われた。体育祭で負けた理由を普通級に参加した自分のせいにされ、そのクラスのグループLINEに名指しで書かれていた。
	対応がわからなくて、ほったらかしにされる。
	誰かに何かされた訳ではなくて、ベビースイミングや、音楽教室に通っていましたが、2歳くらいになると周りの子達と比べて言葉の後れや、コミュニケーションのとれなさを感じて定型発達の子供に混じって習い事をするのが（親が）辛くなりました。
	医療的ケアが必要だと保育園入園ができず、発達遅延があると0～2歳児の入園は見合わせるよう発達センターから話があった。健常児であれば入園でき、障がいがあると入園できないのは差別であると思う。
	特に、かかりつけ医の待ち合い室で、じっとしていられない、奇声を出してしまう娘に対してすごい顔で見られます。

具体的な内容（一部抜粋記載）	
精神障がい	小学生のため。通学団等でヒソヒソとバカにされるような事を言われるよう被害妄想かも知れない
	陰口を言われる。
	奇声、落ち着かなく走り回ってしまうがそれを中々制御できない事だが、理解されず、すぐ静かにさせ動かないように求められる事。パニックになっている子を無理に止めさせようとすると余計に悪化する事を理解されない。外に連れ出せば飛び出したり等でパニック中は出来ないのが理解されない。パニックが落ち着くまで大らかな目で待って欲しい。
	変な目線を感じた。
	バカにされる。一生懸命やっても伝わらず。ふざけていると思われる。（不器用さや、理解力不足からくることにより）。自分の思いを上手く相手に伝える事ができず、コミュニケーションが取れない。取ろうとする事に恐怖心が出てくる。
	吃音が酷い時に発言を促されるようなシチュエーション。
重複所持	ジロジロ見られる。
	防護帽子をかぶっているので冷たい目で見られたりする。車椅子でショッピングセンターへ行ってもエレベーターが満員で何台も見送る。
	嫌な目で見られる。子どもが「あの子、おかしい」と自分のことを言い、親も何も言わない時など。
	親族の結婚式に本人を連れて行く選択肢を身内（解答者の両親）に示したら、ショートステイに預けるよう言われた。（元々ショートステイに預けるつもりだったが、場合によっては本人も式に連れていく可能性もあると話した。）そのように言われた理由は参列者の目が気になるから。一般的な総合病院で高齢の女性から本人に年齢を聞かれた時に答えたら、一般の子との成長具合とかけ離れている為、驚かれたこと。入院中に同部屋の入院者（高齢女性）に「本当はあばれる程動き回りたいのにできなくてかわいそう」と言われたこと。
持っていない	周りの人の視線が常にあります。保育園などの入園の際は市に確認して難しいなどの返答があった。
	友達からからかわれることがある。
	発達障害があるため幼稚園に入れない。保育園のサポート保育で入ると就労などの条件があるため、下に兄弟がいるまたはこれから産まれる家庭は負担が大きい。退園させられても受け入れ先がない。
	特別支援級に通っている事で子供同士トラブルがあった時にうちの子のせいだと思われがち。
	出来ないことを叱責される。周囲との違いを頻繁に指摘する。
	コミュニケーションがうまくできず、それを含めて受け入れてもらえない。
	同級生に『障害者なの？バカなの？』と言われた
	仕方がないこととはわかっていますが、健常な子供を念頭に置いて、母親がなっていないと注意されるのは非常に腹が立ちます。病院で、歯科検診で、町の服屋さんで、どこでもそういった言葉をかけられます。仕方がないとわかってはいますが、やはりつらいです。特に、病院や歯科など、専門性の高いはずの人からひどい態度をとられると泣きたくなります。
	入塾希望の時めんどくさそうに対応された。入れなかった。
	学校で支援学級在席だと分かるとバカにする様な言動をされる事がある。
	園で子供の障がい（特性）について、見下されたような発言があった。先生に相談し、かなり心配していると話したが、「流してください」と言われ何も対策をとって頂けなかった。
	変な奴だと決めつけられた。さけられた。（本人の言葉）代筆母
不明	息子がバカにされているのを見ても何も言えませんでした。

問60 障がいなどのある人に対する配慮で、良かったことやうれしかったことなどがあれば具体的にお書きください。

■ 良かったことやうれしかった配慮

良かったことやうれしかった配慮	
障がい 身体	エレベーターやドアを開けて待っていただいたり、少しずつトイレや駐車場が整備されて増えているので助かっています。
	手話をおぼえてくれること。筆談してくれたこと。
知的 障がい	療育が素晴らしいです。療育に通うようになって言葉が出てきましたし、ごはんを座って完食してくれることも増えました。お友達に興味を持つこともできました。なにより息子の成長を専門的な人が一緒に見守ってくださる安心感があり感謝しています。療育を受けるまでは不安を一人で抱えることがあり辛かったです。
	保育園では、運動会でみんなが我が子を応援してくれたり、日常生活においても、息子ができたことを他のお子さんが先生に報告してくれたりするので、とても嬉しく思いました。
	相談窓口が多いので、一人で抱え込まずにいけることはありがたいです。
	障害者医療費受給者証を交付していただき、安心して病院へ通えます。
	手帳があるので割引されること。
	最初から優しい人はまずいない。障害児だと知って舌打ちが見守りに変わることはある。
	ルールがうまく理解出来なくて間違えてしまっても、笑顔で受け入れてくれた。
	市で行う健診や保育園などである面談を待ち時間を少なくなるように配慮してくれたこと。サポート保育があること。保育内容も本人に合うようにしてくださっていること。出来ることに焦点を当てて、話をしてくださる保育園の先生や、にこにこの寺田先生みたいな人が増えて欲しい。いつも助けられています。
	息子が泣いていても、元気な証拠だねと言われたとき。
	まだ子どもがなので、学校で行事や色々な事で助けてくれたり、声かけをしてくれる子たちがいるので、とても嬉しいです。
	療育手帳があることで無料で利用できる施設がある。
	ヘルプマークを付けているのを見たおばあさんが「私とおそろいね」と優しく話しかけてもらえてうれしかった。
	遊園地などでは並んでいられないため、他の場所でまったり、時間になったら行けば乗り物に乗れたりしたことがよかった。
	保育園では、親子さんの理解を多く得ていて、とても助かっていますし、娘も楽しそうに登園しています。サポート保育で先生が付きっきりで保育して下さり、先生や親子さんからとても優しい声をかけていただき感謝しかありません。
	公園などで、散歩中の方に声をかけられたり、笑顔で接してくれる事がうれしかったです（一人で心細い時）。
	スーパーで会計時に一瞬離れ（1mぐらい）パニックになり他害や癇癪で困っていると、見知らぬ女性が、「たぶんうちの子と同じだから」と声をかけてくれ見守ってくれた。気持ちが理解してもらえたことがうれしかった。
	娘を養育する上で余裕がなく、書類の提出が未提出だった際に提出の催促のTELをかけてくれたこと。
	保育園の大半の先生、児童は息子に対して理解や配慮があるように見えます。児童に理解してもらえるよう先生の指導教育があったと思います。

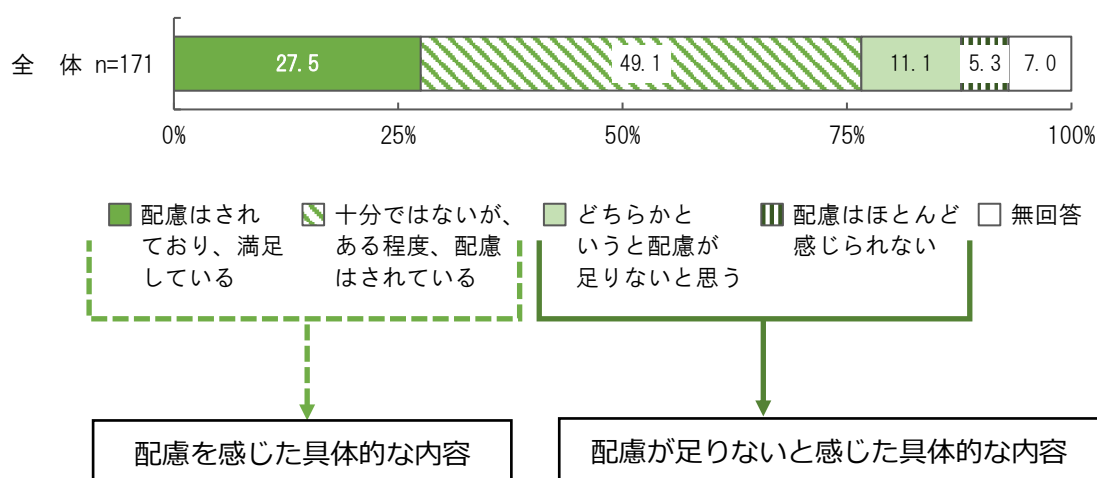
良かったことやうれしかった配慮	
精神障がい	冷たい目線で見える代わりに、必要な助けがあれば言ってねと見守ってくれる視線。
	入学前はクラスが支援級と普通級と分かれていなかったなので周りの子が平等に接してくれた。注意せず見守ってくれた。話を聞いてくれた。
	公的機関や病院等、待ち時間がじっとしていられず困る。車内待機で順番が来たら連絡してもらえるようにして頂けたら有難い。
	子どもの方がエレベーターで閉まりそうな時に、開けるボタンを押してくれた所。
	分かりやすく説明してくれた。
	友達が進んで分からないところをサポートしたり声掛けしてくれるところ。
重複所持	近隣の方から何か手伝うことがあればってねと声をかけていただいたこと。
	普通に接してもらえた。
	優先していただいた。
	優しく声をかけてくれる時。
	駅で駅員さんがスロープを持ってきてくれるだけでなく、道も一緒に案内してくださったこと。バギー型車いすで、スロープもエレベーターもない場所に遭遇した時に、職員さんや周りの人が手伝ってくださったこと。
	エレベーターでボタンを押してもらえたりするだけでとてもうれしいです。
持っていない	放課後デイが利用できたことはとてもよかった。
	サポート保育の先生はよく勉強しているし、とても熱心に保育してくれた。
	障がい者として偏見の目で見るとはなく、その子の個性を受け入れてくれること。
	大丈夫？と聞いてくれたこと。
	病院の待合で障害があると伝えたところ、集団が苦手だったら離れて待っていても大丈夫ですよ、と言ってもらえたことがあり、嬉しかったですしありがたかったです。
	デイサービスの利用。
	西部保育園が理解ある園でよかった。他はもっとひどい所があると聞いている。
	僕の話しを聞いてくれたこと。（本人の言葉）代筆母

（２）市役所の配慮

問61 市役所の窓口や電話での職員の対応、市役所から自宅に届く文書などについて、障がいのある人などへの配慮をどのように感じていますか。（○は1つ）

○市役所の配慮について、『配慮されている』（「配慮はされており、満足している」＋「十分ではないが、ある程度、配慮はされている」）と感じている方は76.6%、一方、『配慮されていない』（「どちらかという配慮が足りないと思う」＋「配慮はほとんど感じられない」）と感じている方は16.4%となっています。

■ 市役所の配慮【所持手帳種類別】



■ 配慮を感じた具体的な内容

配慮を感じた具体的な内容	
身体障がい	障害者にもわかりやすいように丁寧に説明してくれる。自分のスピードに合わせてくれる。
知的障がい	サポート保育の申請を行ったとき、サポート保育担当の方が対応してくださいました。市役所で手続きすることが多いですが、どの方もいつも優しく丁寧に対応して頂いています。ありがとうございます。
	疑問に思うことや希望を丁寧に聞いて返答してくださいます。
	健診時に事前に担当保健師さんが連絡入れてくださり、配慮いただけるのはとてもありがたいです。
	文章などきちんと送っていただけることです。
	今まで対応してくださった方々は、皆さん感じが良く、的確な答えをくれるので、不満を感じたことはありません。
	補助金が出ることがあるので。ただ、金額が少なすぎる。
	文書だけでもわからないことも窓口で親切に対応してくれる。
	検診の時に長時間待たなくてもいいような順番にしてくれたこと。
	半年に1回面談があり、成長しているのがわかる。

配慮を感じた具体的な内容	
知的障がい	書類など、窓口に行ってから書いても、イヤな顔しないで対応してくれる。
	声がけの仕方。
	1歳半検診で他の子とは別で、早めに終わらせてもらえた。
	理解出来なかったりした時に分かりやすく親切に教えて下さったりしたこと。
	書類等も分かりやすい内容になっていると思う。
	話しの内容を分かりやすく言葉を選んで伝えてくれた。
	親が話をする職員さんとは別に、子どもの相手をする職員さんがいてくれたこと。
	相談に行った時、窓口のところに座っていられなかったなので、遊具の所で遊ぶのを横のベンチで見ながら、親が手続きや相談をしてもらえたこと。
	園を探してくれる。病院も相談してもらえた。小学校のことも話を聞いてもらえた。
	丁寧に対応してくださる所。
	封筒の表紙の記載内容。
精神障がい	とても親切な対応に感謝している。
	市役所以外の民間の施設などと比べると十分に配慮されていると思います。
	福祉課の職員の皆さんは親身になって話を聞いてくれると思います。優しい対応をしてもらえます。
	どこかに走っていかないように個室を用意してもらえる。0番対応がある。
重複所持	丁寧な対応。
	昔に比べたら対応が良くなった（窓口での対応とか）。
	子どもが障害児であるが、覚えていてくださりいつも優しく声をかけてくださる。いなくても、元気ですか？と声をかけてくださること。
	福祉サービスなどの更新書類など毎年数多くある中で、住所や変更の少ないところを事前に書かなくていいよう印字されている機会が増えて助かっている。
持っていない	障害を持つ子供の保護者に対し、上から話す人にまだ会ったことがありません。市役所にはとても感謝しています。助かります。
	寄り添ってくれる職員が比較的多いと思った
	優しく対応して下さいと思っています。
	福祉課の方としか対応されていない。顔を覚えてあいさつしてくれたこと。わかりやすい質問の仕方。
	書類の書き方や提出先は教えてくれる。
	細かいことでもわかりやすく丁寧に説明してもらえる。
	特に福祉課の方には丁寧に接して頂き感謝しています。
	不明点等があれば、親切、丁寧に教えて頂ける所。

■ 配慮が足りないと感じた具体的な内容

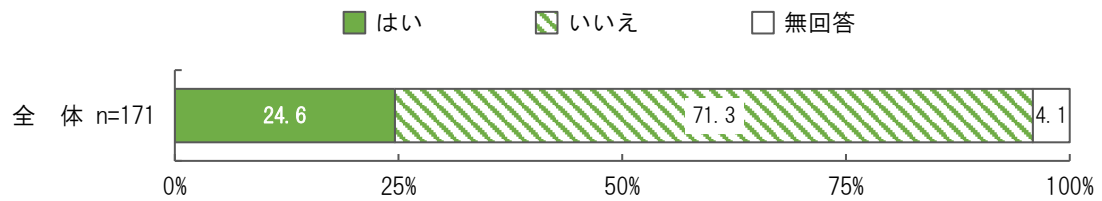
配慮が足りないと感じた具体的な内容	
身体障がい	窓口の担当者がとても冷たく感じる。
	補装具の申請にすぐく時間がかかり、とても不便であり、ややこしいのでもう少し簡単にしてほしい。質問に答えられない方がいる。いつも時間がかかる。
知的障がい	説明不足。
	療育手帳を取るときとか市役所の人は言い方が冷たい。
	障がい者を一括りにし過ぎている。このアンケートも家族が記入しているが、本人の気持ちを理解出来ている訳ではない。発語なし、コミュニケーションのやり取りも限られているのに、本人に代わってなどあり得ない。本当に障がい者に寄り添ったり福祉を改善しようと思ってくれているのであれば、障がい者を分類からして欲しいと思う。時間や労力を考えると難しいとは思う。でも今回のアンケートのよう物は本人ではなく家族の考えや希望である。
	アンケートの内容がレベルの高い人向けで、重度の知的の子用ではないところ。
	文章の意味がわからないことがある。
	尾張旭自体、子育て支援は手厚いと思うが、障がい者福祉に対しては薄いように感じる。保健福祉センターにいる人、健診の時にいる保健師や看護師の物の言い方に傷ついたことは何度か覚えています。保健福祉センターの人と市役所の人と市役所でも課が違えば、違うことを言われることもあり、振り回されることもありましたが、相談したいと思えず傷つくことを言われました。
	サービスの利用理由を言わせられたり、書面状の肩書がかたい。
	言葉たらずが多い。
	手続きが多い。
	特別給付金の申請の際、郵送して放置なのが不親切だった。TELをして申請をうながすなどの配慮が必要。提出が確認できるまでケアが必要。
精神障がい	文書の説明の時に説明する時の口のスピードが速い。何回も聞き返した時に「分からないんですか？」みたいな目で見られる。
重複所持	このアンケートが2部送られてきたこと。申請など気づかないところをどんどんアプローチしてほしい。
持っていない	仕事が忙しいだろうし、流れ作業になるのかもしれないけど…初めて何も分からず話を聞きに行っているこちらとしてはもう少し対応を考えて欲しい。冷たい印象。感情がない。
	わざわざ窓口まで聞きに行ったにも関わらず、聞いた事についてはっきりとした返答が得られない。分からないから聞きに行ったのに、正解を教えて貰えないなら窓口に出向く意味がないと思います。時間の無駄です。
	難しい言葉が多くわかりづらい。

（３）虐待に関する相談窓口の認知度

問62 障がいのある人などに対する虐待に気づいた人は、市へ通報する義務があります。
あなたは虐待に関する相談窓口が市役所にあることを知っていますか。（○は１つ）

○市役所にある虐待に関する相談窓口の認知度をみると、「はい」（知っている）は24.6%、
「いいえ」（知らない）が71.3%となっています。

■ 虐待に関する相談窓口が市役所にあることを知っているか



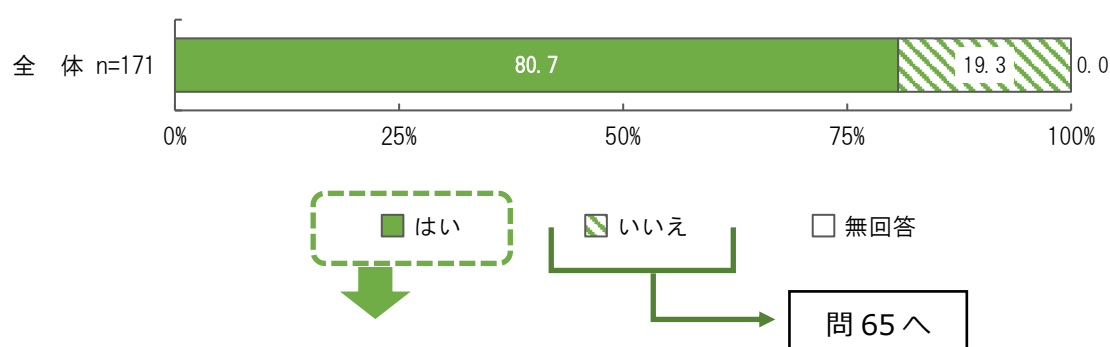
15 障がい児などに対するサービスについて

（１）障がい児などに対するサービスの利用の有無

問63 あなたは、現在、児童発達支援や放課後等デイサービスなど障がい児などに対するサービスを利用していますか。（○は1つ）

○サービスの利用の有無をみると、「はい」（利用している）は80.7%、「いいえ」（利用していない）は19.3%となっています。

■ 障がい児などに対するサービスの利用の有無

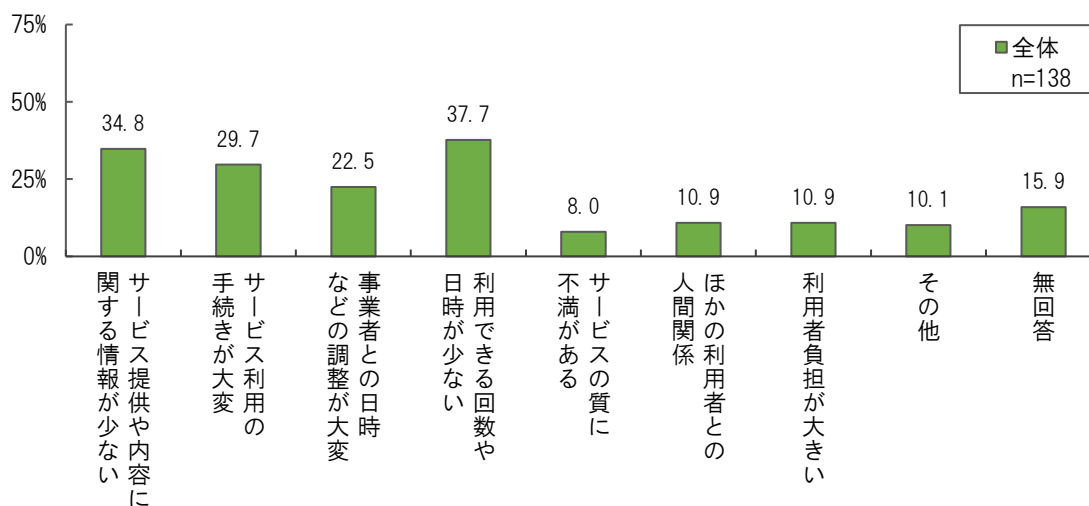


問63で「1. はい」と答えた方のみ

問64 障がい児などに対するサービスなどを利用する上で困っていることはありますか。（○はいいくつでも）

○利用する上で困っていることをみると、「利用できる回数や日時が少ない」が37.7%と最も高く、次いで「サービス提供や内容に関する情報が少ない」が34.8%、「サービス利用の手続きが大変」が29.7%となっています。

■ 利用する上で困っていること

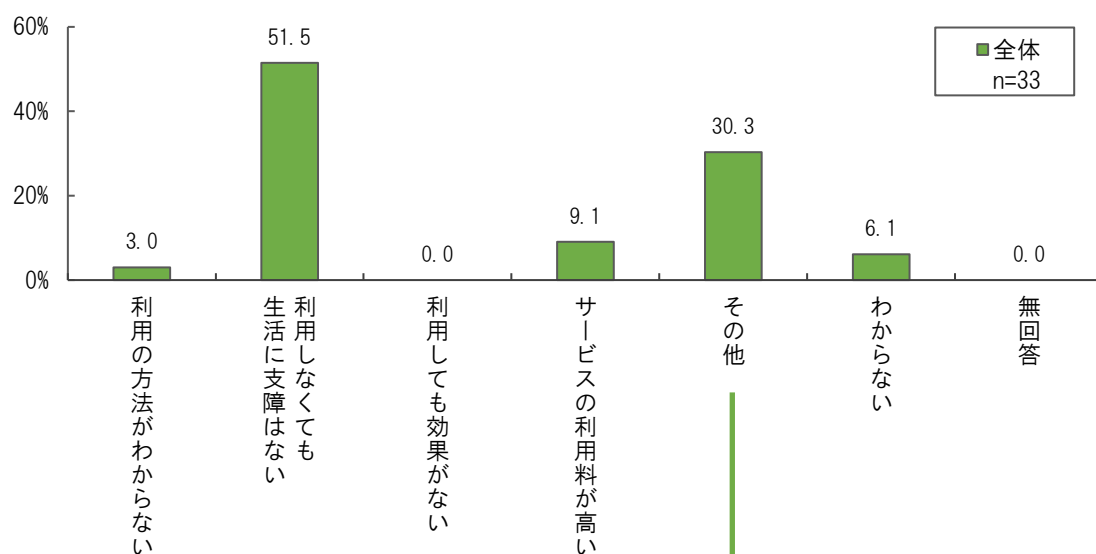


問63で「2. いいえ」と答えた方のみ

問65 障がい児などに対するサービスなどを利用していない理由は何ですか。（○は1つ）

○サービスを利用していない理由は、「利用しなくても生活に支障はない」が51.5%と最も高くなっています。また、「サービスの利用料が高い」は9.1%、「利用の方法がわからない」は3.0%となっています。

■ 障害福祉サービスを利用していない理由



■ その他の内容

その他の内容
通える場所に通いたがる施設が見つからないため。
今度見学に行き通わす予定。
放課後等デイサービスが見つからない。
利用していましたが、行動障害がひどくなってから、事業所さんの方で対応困難とのことで、曜日限定で可能とのことでしたが、色々ご迷惑おかけしたりするのも気が辛いというのと、本人が行きたいのかという所も重要なので、今後様子みて考えたいです。
対象の年齢ではない。
学童保育利用。
行きたくないとのこと。

16 障がい者施策等について

（１）障がい者施策の満足度と今後の優先度

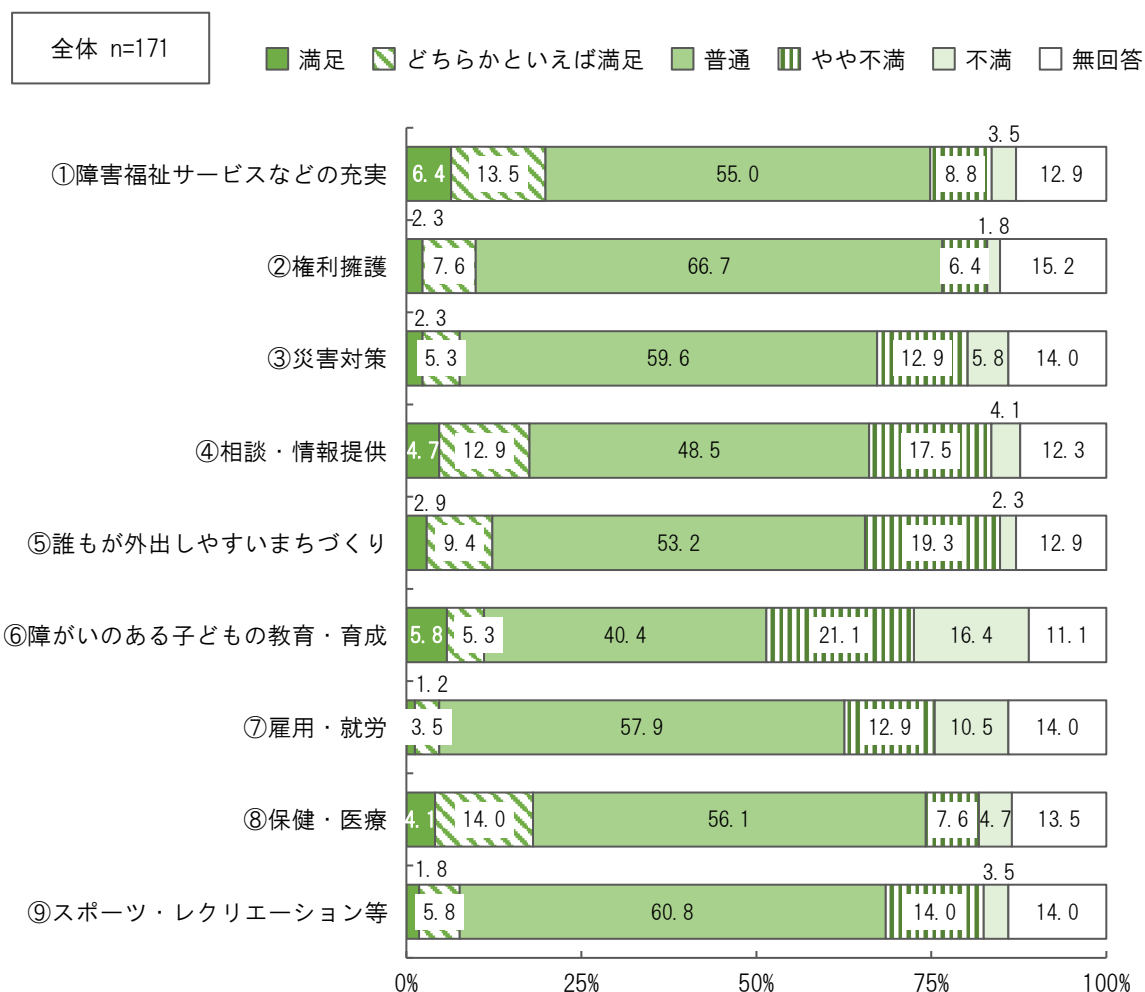
問66 尾張旭市の障がい者施策全般についておたずねします。下の表の①～⑨の項目ごとに、「現在の満足度」と「今後の優先度」のそれぞれに○を1つずつつけてください。

○障がい者施策の現在の満足度をみると、全ての項目で「普通」が最も高くなっています。また、「満足」と「どちらかといえば満足」を合わせた『満足』は“①障害福祉サービスなどの充実”が19.9%と最も高く、次いで“⑧保健・医療”が18.1%、“④相談・情報提供”が17.6%となっています。

一方、「やや不満」と「不満」を合わせた『不満』は“⑥障がいのある子どもの教育・育成”が37.5%と最も高く、次いで“⑦雇用・就労”が23.4%、“④相談・情報提供”と“⑤誰もが外出しやすいまちづくり”が各21.6%となっています。

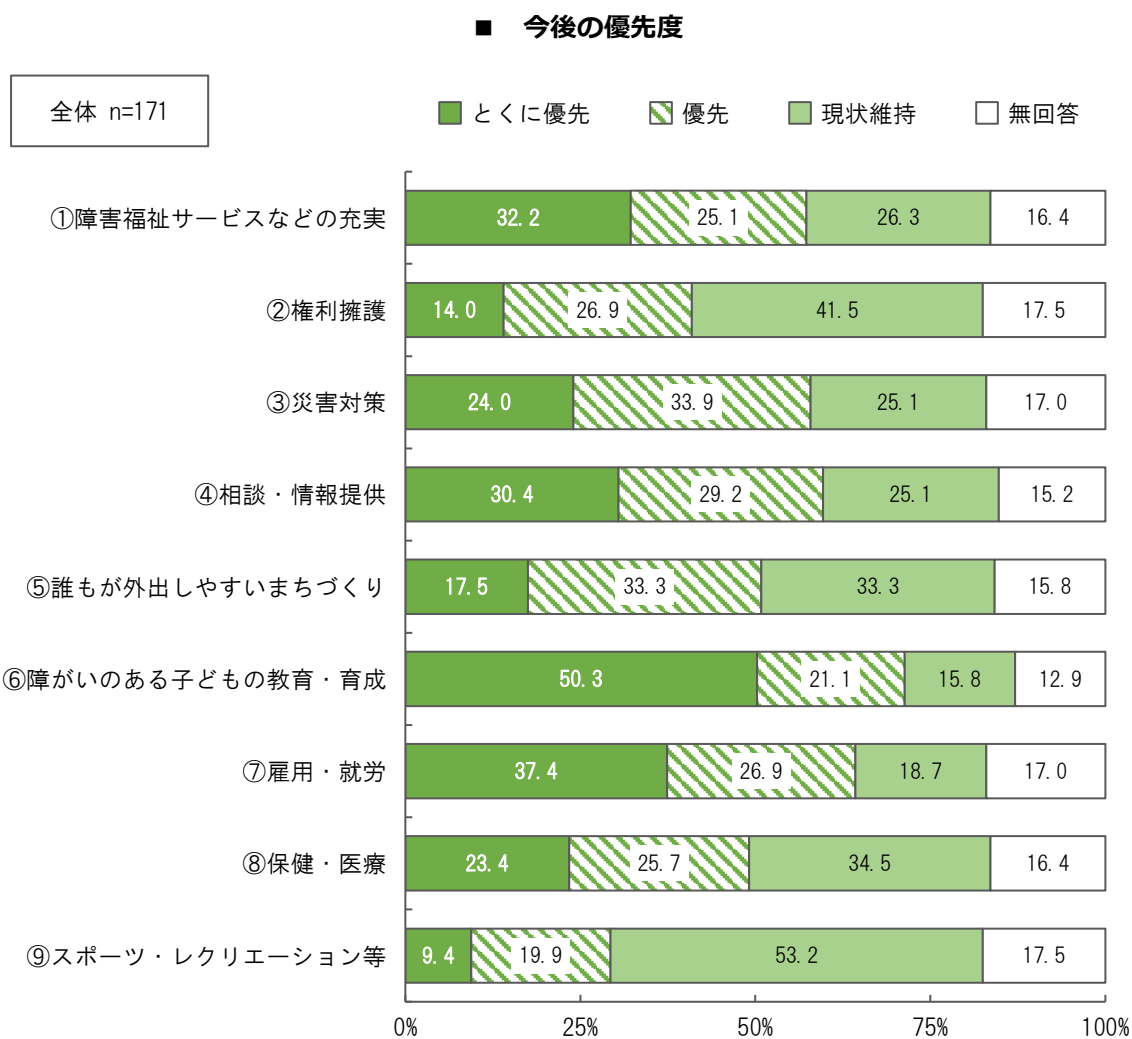
“④相談・情報提供”は『満足』、『不満』ともに上位となっています。

■ 現在の満足度



○障がい者施策の今後の優先度をみると、「とくに優先」と「優先」を合わせた『優先』は“⑥障がいのある子どもの教育・育成”が71.4%と最も高く、次いで“⑦雇用・就労”が64.3%、“④相談・情報提供”が59.6%となっています。

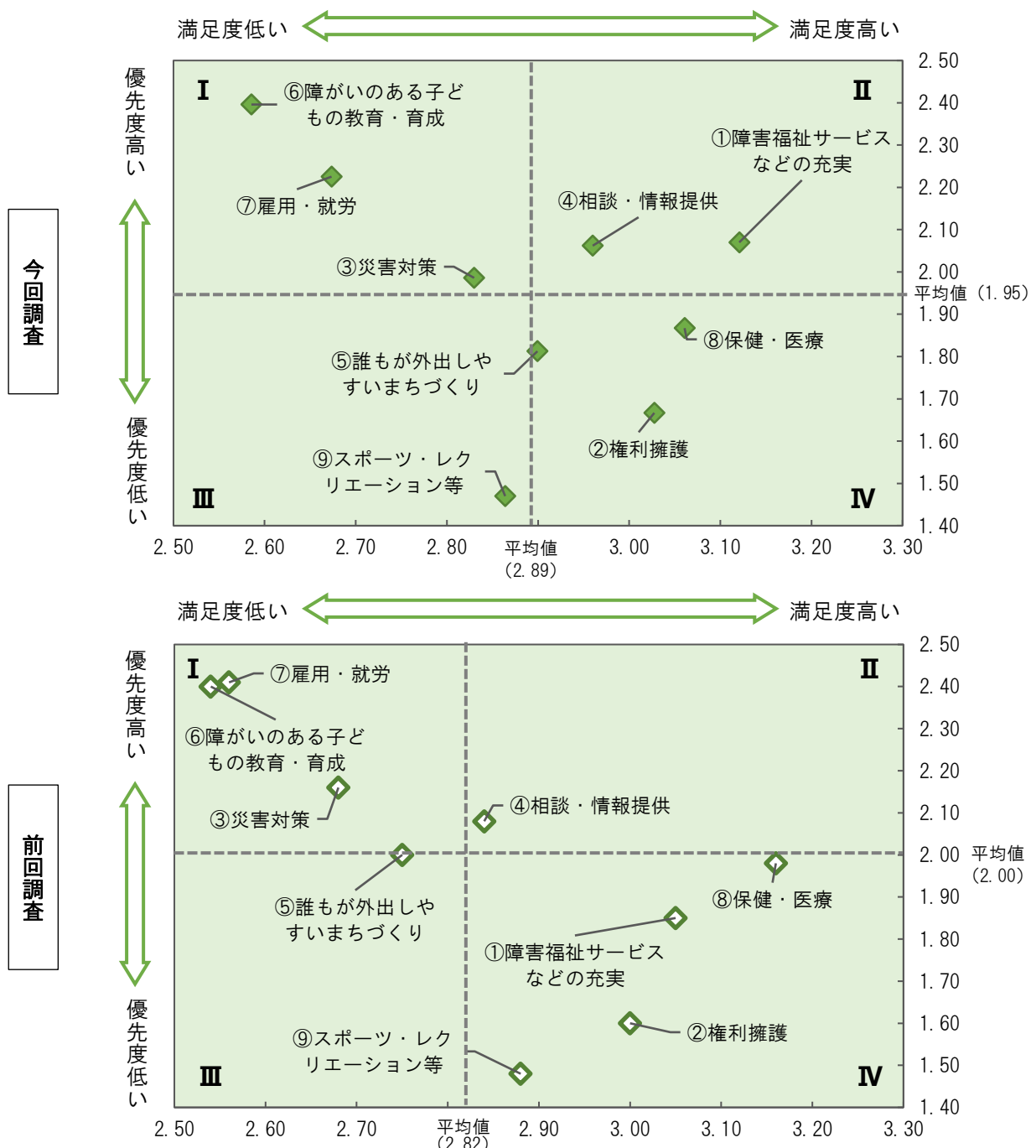
また、「現状維持」は“⑨スポーツ・レクリエーション等”（53.2%）、“②権利擁護”（41.5%）で高くなっています。



◆以下は、障がい者に関する施策9項目をについて、「満足度」は5段階、「優先度」は3段階の評価で得た回答を点数化し、横軸を「満足度」、縦軸を「優先度」として散布図にしました。

○グループⅠ（特に取り組みが必要な施策）には、「③災害対策」「⑥障がいのある子どもの教育・育成」「⑦雇用・就労」の3施策が上がっています。また、前回調査との比較をみると、満足度の平均値が上がっています。グループⅠの項目は前回と変わりはないものの、「⑦雇用・就労」は満足度が下がり優先度が高くなっていることからより具体的なニーズの把握に努める必要があります。

■ 施策の現在の満足度と今後の優先度の散布図【障がい児：前回調査比較】



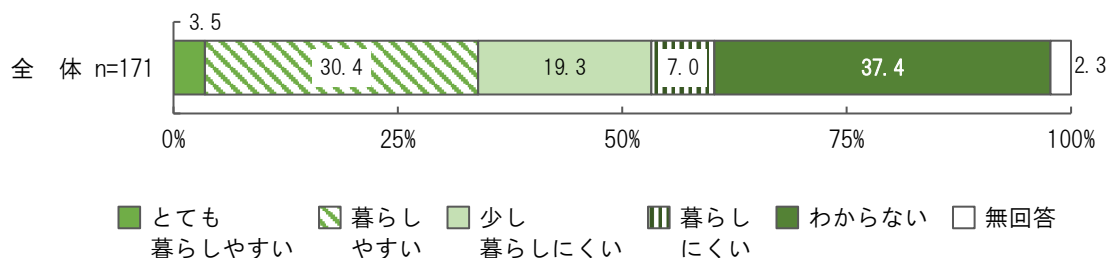
（２）障がいのある人にとっての尾張旭市の暮らしやすさ

問67 あなたは、障がいのある人にとって尾張旭市は暮らしやすいと思いますか。それとも、暮らしにくいと思いますか。（○は1つ）

○障がいのある人にとって尾張旭市は暮らしやすいと思うかの問いでは、「わからない」が37.4%と最も高く、「とても暮らしやすい」（3.5%）と「暮らしやすい」（30.4%）を合わせた33.9%が『暮らしやすい』と回答しています。

一方、『暮らしにくい』（「少し暮らしにくい」+「暮らしにくい」）は26.3%となっています。

■ 尾張旭市は暮らしやすいと思うか



◆『暮らしやすい』と思う理由と『暮らしにくい』と思う理由は下記のとおりです。

■ 「とても暮らしやすい」理由

「とても暮らしやすい」理由	所持手帳種類
いろいろなお店がたくさんあるから。	持っていない
市外の同じ境遇の方と話をした際に、尾張旭市は障がい福祉が充実していてありがたいと感じた。	知的障がい
市がとても相談にのってくれて、今のサポート保育まで受けることができました。	知的障がい

■ 「暮らしやすい」理由

「暮らしやすい」理由		所持手帳種類
サービス等の支援の充実	サービスが充実している。(同様1件)	身体・知的障がい
	児童発達支援センターが複数あるからです。市役所の方の対応が素晴らしいからです。	知的障がい
	園とデイサービスに通えて、配慮をいただいている為、そのサポートについて満足している。	知的障がい
	障がい者に対する支援が充実していると思ったから。	持っていない
	医療費を援助してもらっているから。	知的障がい
	障がい児の小学校就学に向けてのセミナーを初めて開催してくださったとのことで、感謝しています。就学、就労について、不安や悩みがたくさんあります。積極的に支援をしてくださるのかな、という雰囲気を感じました。	持っていない
	今のところ子どもなのでわかりませんが、オムツの支援などもあるし、市の職員の方も親身になって相談に乗ってくれるし、動いてくれるのでありがたい。	知的障がい
	ピンポンパン教室のような場は他の市ではあまり聞かず、とても成長の場になった。	知的障がい
	今は4歳で、市の療育教室、発達相談などを受けやすい体制だと思うから。	知的障がい
地域環境の充実	町の人が優しい。	重複所持
	バリアフリーが充実している。	持っていない
	地域の治安が安定している点。	知的障がい
	駅の周りに飲食店が多く住みやすい。	身体障がい
	公園もあって楽しい。	持っていない
	いろいろな施設が充実している。名古屋市が近い。	精神障がい

■ 「少し暮らしにくい」理由

「少し暮らしにくい」理由		所持手帳種類
サービス等の支援が不十分	福祉事業所やショートステイ等の施設が少ない。	知的障がい
	ショートステイとかする場所が少ない。（同様１件）	知的障がい
	福祉サービス（事業所など）が少ない、今後の就労の場や生活介護、ショートステイなどの数が少ない。	知的障がい
	利用できるデイサービスが少ない。（同様１件）	知的障がい
	児発の利用日数が少なすぎると思います。	持っていない
	児童・生徒の障害福祉サービスが十分と言えない。	精神障がい
	児童発達支援の利用できる回数が少ない。事業所も少ない。	知的障がい
	受給日数を増やすのが難しい。療育を受けたくても大幅に増やしたりはできない。	知的障がい
	市のかたはとても親切ですが、市によって児童発達支援などを受けられる日数に差がありすぎる。尾張旭は小さい市なので予算が限られているのはわかるが、住む場所が数キロ違うだけで、受けられる福祉サービスがまったく違ってくるのはおかしいと思う。せめて愛知県で統一した基準がほしい。	精神障がい
	小学校前はピンポンパン教室や相談出来るところがあるが、そこまで支援が終わってしまう。その後も同じ子たちが集まったり出来る所があった方が、心強くていいと思う。小学校だとお友達がつくりづらかったりするの。	持っていない
	福祉サービスの情報を聞いても詳しい情報を得られない。同じ障がいを持つお母さん情報のが良い。	重複所持
地域環境の不便さ・理解が少ない	バリアフリーがまだ不十分。	重複所持
	バリアフリーでない場所がある。希望するサービスを受けられるかは、市役所に決定権があり利用者主体ではない。	持っていない
	歩道の整備が進んでいない。狭かったり草や木が邪魔していたりして普通の人でも歩きにくい。	精神障がい
	交通の不便さ、夜の街の暗さ。	重複所持
	スーパーなど買い物施設が少ないことと駅が利用しづらい。	知的障がい
	障害者の存在をもっと知ってもらいたい。知らない人多すぎる。	知的障がい
	理解のある人が少ない。	知的障がい
その他	健常児にとっては暮らしやすい市かもしれないが、障がいをもつ子どもにとっては少し暮らしにくいと思ったから。でも瀬戸市の特別支援学校に通学できるよう働きかけてくれたことは感謝している。	重複所持
	園とか小学校とか、マンツーマン対応レベルだと難しいという感じで結局一度も地域の中では通えていないという感じが残っているため。	知的障がい
	健常者と同じようには暮らせない。	身体障がい

■ 「暮らしにくい」理由

「暮らしにくい」理由		所持手帳種類
サービス等の支援が不十分	公立の幼稚園、認定子ども園がない。障がい児を育てる親のサポートがない。特別支援学級に籍を置くと年間半分以上交流級で過ごす事が出来ない。児童発達支援及び放課後デイサービスに通うために必要な受給者証の日数を貰えない。	持っていない
	希望した時にすぐに入れる福祉施設や短期入所施設がない。日中一時支援や移動支援など日数や時間数が少ないので、卒後親は何歳になっても子供が通所している10時頃から16時頃までしか外出できない。子供は生活介護で収入はなく、親も10:30～15:30の就労では生活できない。健常者の親はどんどん手が離れていくのに、障がい者の親は老いていくのに手が離せない。	知的障がい
	受給日数が希望日数中々もらえない事。本人、親、親族、兄弟、関わる多くの関係者にとって最重要に必要な事。これが改善されたら尾張旭市はずっと暮らしていきたい街だと思う。	精神障がい
	尾張旭独自の取り組みが感じられないため、福祉に力を入れている他市町村に比べると暮らしにくいと思う。	知的障がい
地域環境の不便さ	登校時、通学経路が長い。	知的障がい
	保、小中高と瀬戸市の施設でお世話になってきました。支援はしていただいていることに感謝はしていますが、どこまで関わりをもとうとしていただけたかは分かりません。バリアフリー化もどんどん進めてほしい場所はまだまだあります。	重複所持
	まずバリアフリーが進んでない。子育て支援は比較的手厚いと思うので障がいがある前までは思わなかったが、障がいがあった時から、尾張旭に住んでよかったと思うことがない。外出しづらい。出かけるのも市外が圧倒的に多い。	知的障がい
	坂道が多い。	知的障がい
	交通が不便だから。医療機関が少ない。	身体障がい
	車が無いと外出出来ないため介助者が必要。	精神障がい

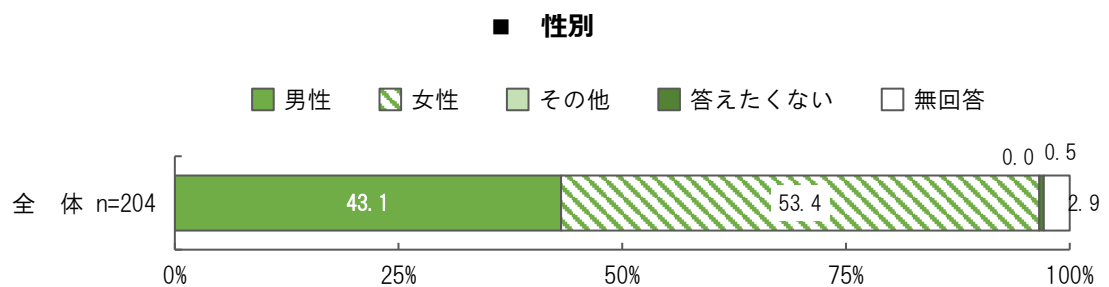
IV 調査の結果（一般）

1 あなたご自身のことについて

（1）性別

問1 あなたの性別をお答えください。（○は1つ）

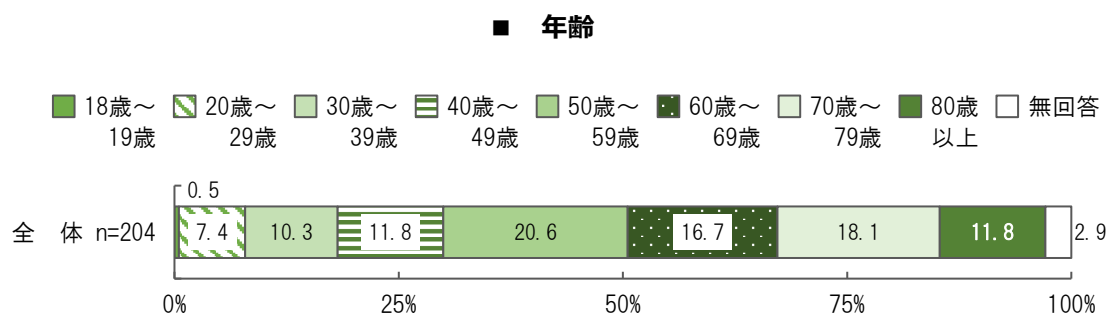
○回答者の性別は、「男性」が43.1%、「女性」が53.4%となっています。



（2）年齢

問2 令和4年12月1日現在のあなたの年齢をお答えください。（○は1つ）

○回答者の年齢は、「50歳～59歳」が20.6%と最も高く、次いで「70～79歳」が18.1%、「60歳～69歳」が16.7%となっています。



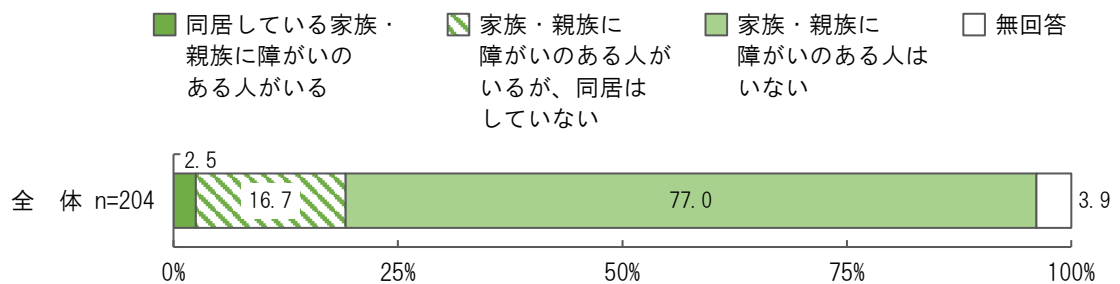
（３）障がいのある家族・親族の状況

問３ あなたの家族・親族に障がいのある人はいますか。（○は１つ）

○障がいのある家族・親族の状況は、「家族・親族に障がいのある人はいない」が77.0%と最も高くなっています。

一方、「同居している家族・親族に障がいのある人がいる」は2.5%、「家族・親族に障がいのある人がいるが、同居はしていない」は16.7%となっています。

■ 障がいのある家族・親族の状況

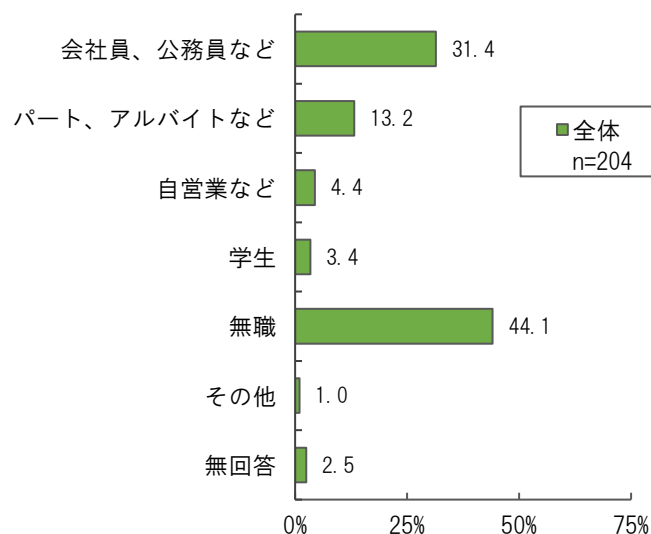


（４）職業

問４ あなたの職業をお答えください。（１つに○）

○回答者の職業は、「無職」が44.1%と最も高く、次いで「会社員、公務員など」が31.4%となっています。

■ 職業



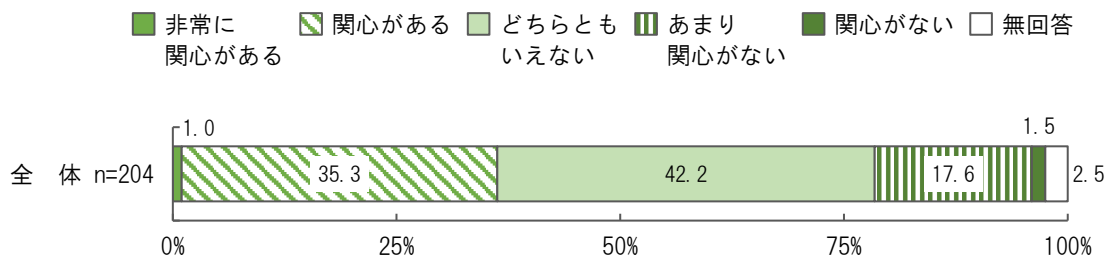
2 障がいのある人への関心などについて

（１）障がいのある人への関心

問５ あなたは地域で暮らす障がいのある人について関心はありますか。（○は１つ）

○地域で暮らす障がいのある人への関心は、「どちらともいえない」が42.2%と最も高く、『関心がある』（「非常に関心がある」＋「関心がある」）は36.3%、『関心がない』（「あまり関心がない」＋「関心がない」）は19.1%となっています。

■ 障がいのある人への関心

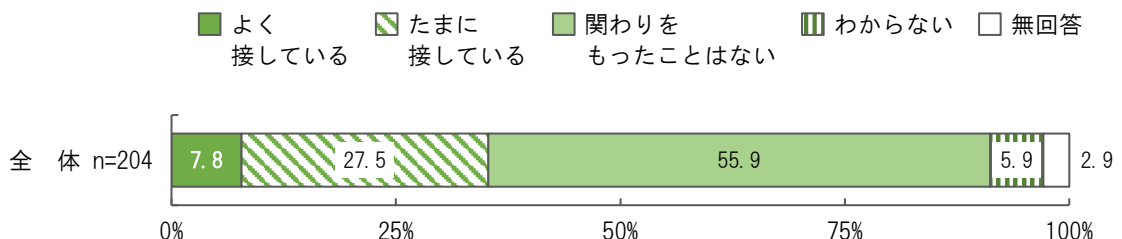


（２）障がいのある人との関わりの状況

問６ あなたは家族・親族・地域・職場・学校・ボランティアなどで障がいのある人との関わりがありますか。（○は１つ）

○障がいのある人との関わりをみると、「関わりをもったことはない」が55.9%と最も高く、次いで「たまに接している」が27.5%、「よく接している」が7.8%となっています。

■ 障がいのある人との関わりの状況



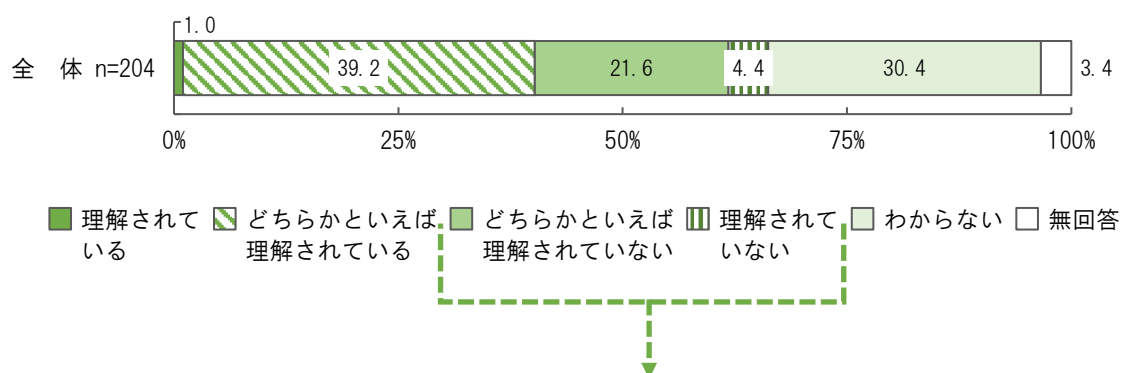
（３）障がいのある人に対する社会の理解

問７ あなたは日常生活の中で、障がいのある人に対する社会の理解についてどう感じますか。（○は１つ）

○障がいのある人に対する社会の理解は、「どちらかといえば理解されている」が39.2%と最も高く、次いで「わからない」が30.4%となっています。

また、『理解されていない』（「どちらかといえば理解されていない」＋「理解されていない」）と感じている方は26.0%となっています。

■ 障がいのある人に対する社会の理解



問7で「3. どちらかといえば理解されていない」「4. 理解されていない」を選択した方のみ

問7-1 あなたは日常生活の中で、障がいのある人が理解されていないと感じることは何ですか。（自由回答）

■ 障がいのある人が理解されていないと感じること

障がいのある人が理解されていないと感じること	属性
分からないから、敬遠する。	女性・60代
自分自身が障がいという定義をよく理解していないと感じるので。	女性・50代
身の回りに障がい者がいる人を除いては、関心が低いと感じるため。	男性・30代
電車やバスで優先座席に健常者が平気で座っていることをよく見ます。優先座席の意味がなくなる。	男性・60代
身体的障がいは理解されていると思うが、精神的なことは目に見えず、特徴的な行動が「変なこと」と思われるのか、ジロジロ見たり嫌悪感を示す人がたまにいる。	女性・30代
必要な支援が講じられていない人を見かける。	男性・20代
公共施設以外でのバリアフリーが意外と進んでいないように思える（主観ではあるがエレベーターの優先性や交通手段への乗降等＜駅のホームの安全性を含む＞）。 自分を含め周りに障がいのある人がいないと実際のことはわからない。	男性・60代

障がいのある人が理解されていないと感じること	属性
障がい者と健常者という括りに縛られ、見た目は健常者だが実は障がいを持っている人（精神的な障がいや初期の認知症、ADHDなど）への理解が乏しいと感じることがある。	女性・50代
駅のバリアフリーなど。	男性・50代
無関心の人が多いのでは？どうしても自分中心の生活になっている。	男性・70代
身体障がいはある程度見てわかるため理解も進んできたと思うが、最近増えている発達障がいについては、グレーゾーンもあり、理解されにくく、差別や偏見もあるように思われる。	女性・50代
ほとんどの人が助けようとしない。（電車の中や道路上で）	男性・50代
あまり見かけないので、限られた所で生活されている気がします。	女性・50代
もともと小・中学校の教育で障がいについて学ぶことがほとんどない。	男性・40代
私はろう者と関りがありましたが、小中学校の実践教室で学んでも、実際、どんな苦労があるかなどしっかりわかっていない。耳が聞こえないことがどんなことか、など実際にろう者と話してみたい。	女性・70代
家族に障がいの方がいないと、関りがなくわからないことが多いので、理解しようがないと思う。	女性・80歳以上
ニュース等で障がい者がこういう事に困っている、不自由に感じているという内容を見ると、気づかなかったと感じる事が多いので自分はあまり理解できていないと感じます。	女性・40代
学校教育について改善すべき点があると感じます。例えば小学校の登校、帰校時にすれ違う時「おはよう」「こんにちば」と声を掛けても返事を受ける事は10人中1～2名である。将来の福祉国家となる事に、学校の教育方針に疑問を感じる。「あいさつも出来ない子ども達」の将来を考えると空虚さを感じる。福祉の基本では？	女性・80歳以上
見ていても見ていないふりをしているように思う。	女性・70代
いところが車いす生活で、買い物等の移動をするのも大変な姿を見ているから。	女性・50代
障がいのある方に限らず、自分とは異なる人、物、その他に対して、基本的に差別する意識が、無意識の内に身についてしまっている。	男性・70代
電車で通勤しているが、ほとんど皆スマホを見ていて、白杖の方、妊婦、ヘルプマークを付けている方に気が付かない。	男性・50代
耳が不自由だったり、言葉が上手く話せない様な人にとって今のマスク社会は不親切でしかないと思う。また、身体的理由で不調がある人にもマスクはデメリットでしかないのに「する＝普通、していない＝非常識」の様な空気感はおかしい。	女性・30代
障がい者、ご家族と、どのように接したらよいのかわからない。	女性・50代
外出されている障がいのある方が、少ないように感じる。外出の際に必要な助け、逆に妨げとなる事が、世間全体で理解されていない為と思われる。	男性・40代
身内に障がいのある人がいない、体験したことのない人は、結局本当に理解なんてできないと思います。結局は他人事ですから。	女性・30代
今の生活の中では障がいのある方と接する機会がないので遠い存在に感じます。困っている時に手助けしたいが、どのようにしたら良いのかわからないです。	女性・50代
駐車場、車イスを乗せたり降ろしたりするのにドアを横に全開する場合があるので2台分くらいのスペースは必要と思うが、そのスペースが確保されていないように思われる。	女性・50代
好奇の目で見られる事がある。	女性・60代
障がいがあると何もできないと思われたり見た目でわからないと、誤解されたりする事があると感じる。	女性・50代

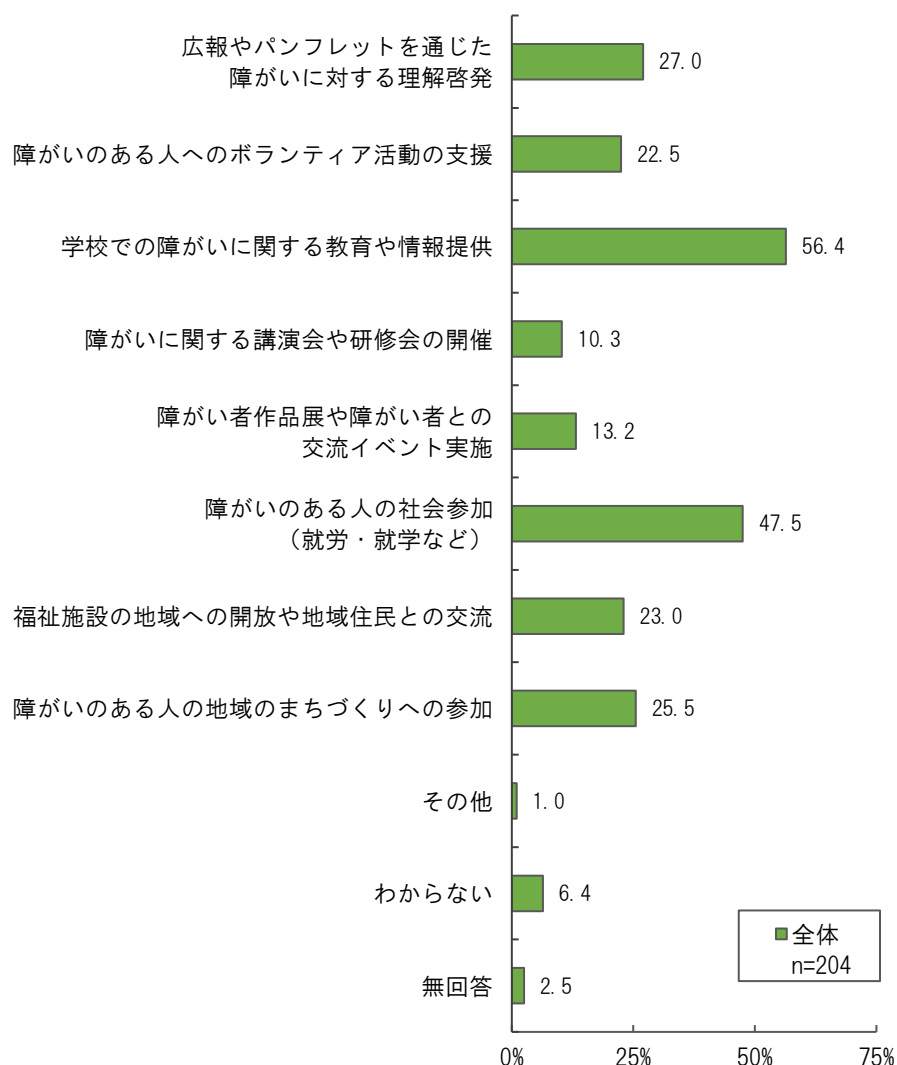
障がいのある人が理解されていないと感じること	属性
特別な目でみられなくて生活できていない。	男性・60代
障がいのある人にとって生活しやすい環境（バリアフリー化）などが未だ不十分であると私は思います。	男性・20代
買い物に行った時、食品スーパードラッグストア等は、カートのあるお店はあるが、その他・衣料品、スーパーの2階等はカートが置いていない。店員の気遣いはあまりない。駐車場の障がいスペースが少ない。	女性・70代
障がいのある人に接したことの無い人が多いからでは。	女性・70代
段差が解消されていない、障がい者用トイレが少ない、電車内で障がい者に席を譲る人がいない。	男性・50代
周りの人は迷惑そうに思う人が多い。	男性・70代

（４）市民理解を深めるために必要なこと

問 8 障がいのある人に対する市民の理解を深めるために、必要だと思うことは何ですか。
（○は3つまで）

○障がいのある人に対する市民理解を深めるために必要なことは、「学校での障がいに関する教育や情報提供」が56.4%と最も高く、次いで「障がいのある人の社会参加（就労・就学など）」が47.5%、「広報やパンフレットを通じた障がいに対する理解啓発」が27.0%となっています。

■ 市民理解を深めるために必要なこと



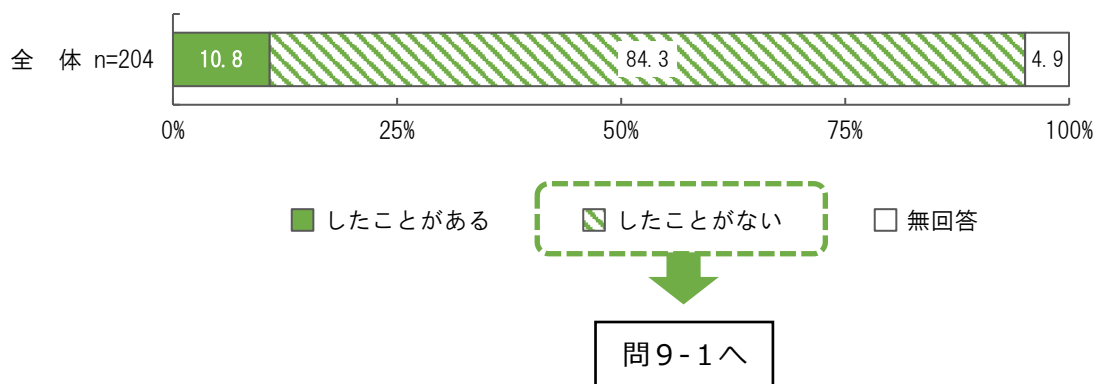
3 障がいのある人への地域でのボランティア等について

（1）障がいのある人との地域活動への参加

問9 あなたは障がいのある人とともに地域活動に参加をしたことがありますか。
（○は1つ）

○障がいのある人とともに地域活動に参加を「したことがある」は10.8%となり、一方、「したことがない」は84.3%となっています。

■ 障がいのある人との地域活動への参加

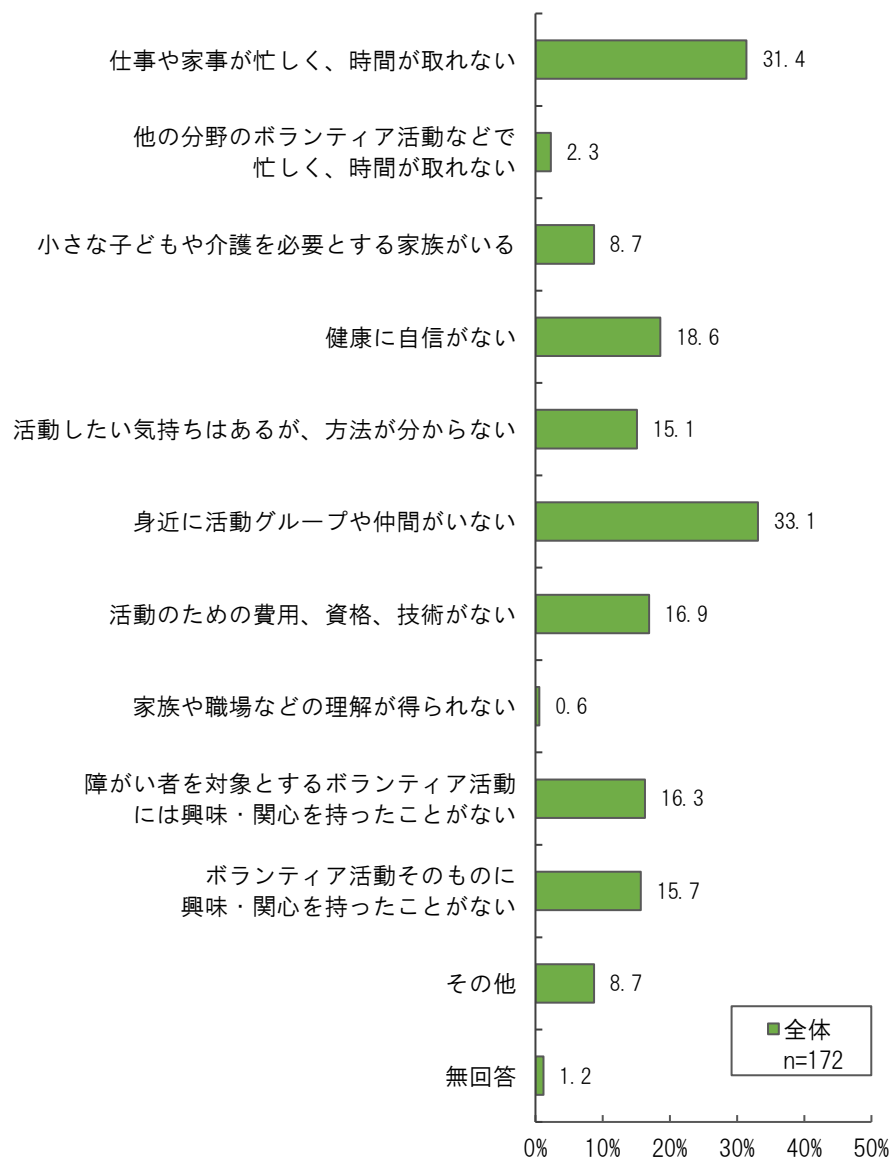


問9で「2. したことがない」と答えた方のみ

問9-1 その主な理由は何ですか。（○はいくつでも）

- 障がいのある人とともに地域活動に参加をしたことがない理由をみると、「身近に活動グループや仲間がいない」が33.1%と最も高く、次いで「仕事や家事が忙しく、時間が取れない」が31.4%、「健康に自信がない」が18.6%となっています。
- 調査結果から活動したいというニーズもうかがわれるため、ボランティアの活動の内容や参加方法などを周知に努める必要があります。

■ 主な理由



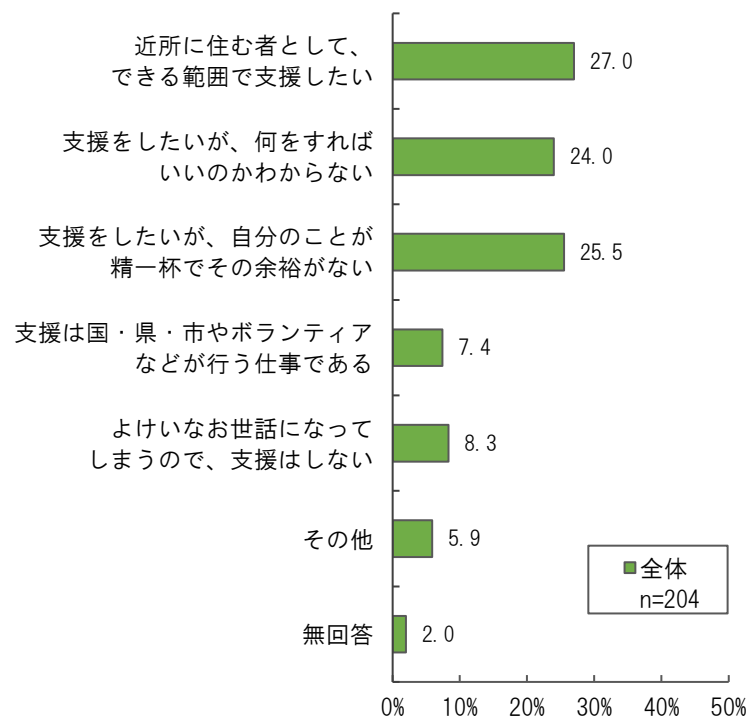
（２）障がいのある人やその家族に対する日常的な支援

問10 近所に住む障がいのある人やその家族に対する日常的な支援について、あなたの考えに最も近いものはどれですか。（○は1つ）

○日常的な支援への考えは、「近所に住む者として、できる範囲で支援したい」が27.0%と最も高く、次いで「支援をしたいが、自分のことが精一杯でその余裕がない」が25.5%、「支援をしたいが、何をすればいいのかわからない」が24.0%となっています。

○調査結果から多くの人々が支援したいという意向を持っており、支援の必要な人と支援したい人をつなぐ仕組みづくりが必要と考えられます。

■ 障がいのある人やその家族に対する日常的な支援

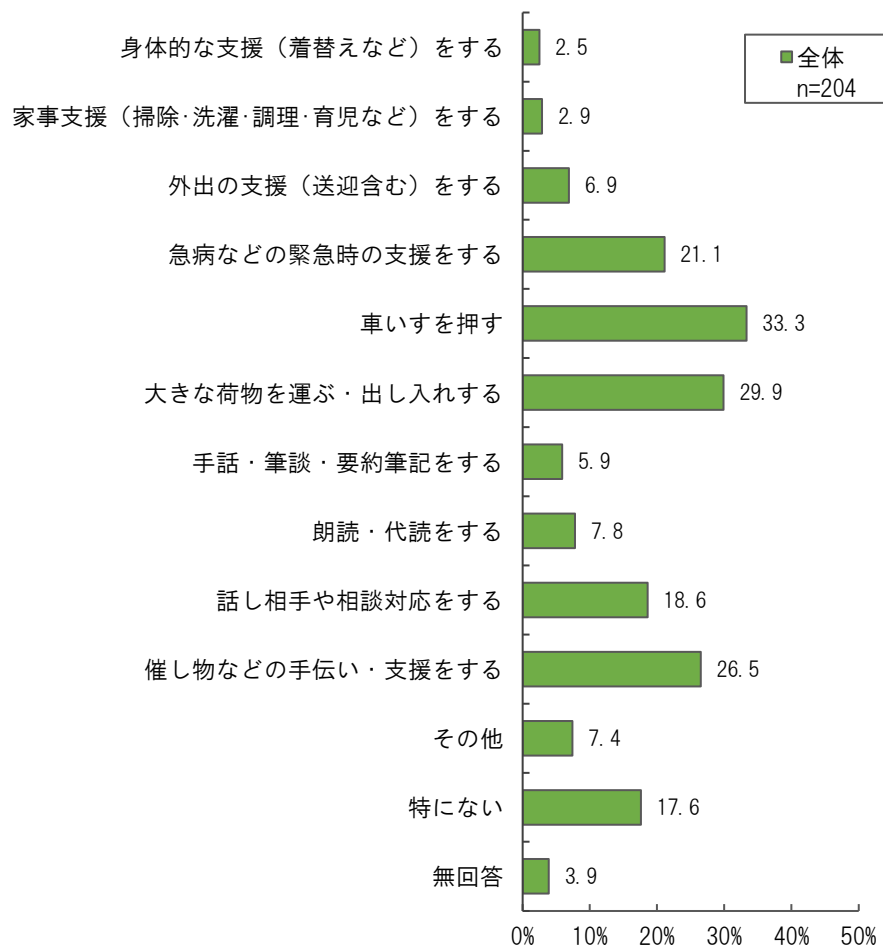


（３）障がいのある人に対してできる支援

問11 あなたが日常生活の中で、障がいのある人に対する支援としてできることはありますか。（○は3つまで）

○支援できることは、「車いすを押す」が33.3%と最も高く、次いで「大きな荷物を運ぶ・出し入れする」が29.9%、「催し物などの手伝い・支援をする」が26.5%となっています。

■ 障がいのある人に対してできる支援



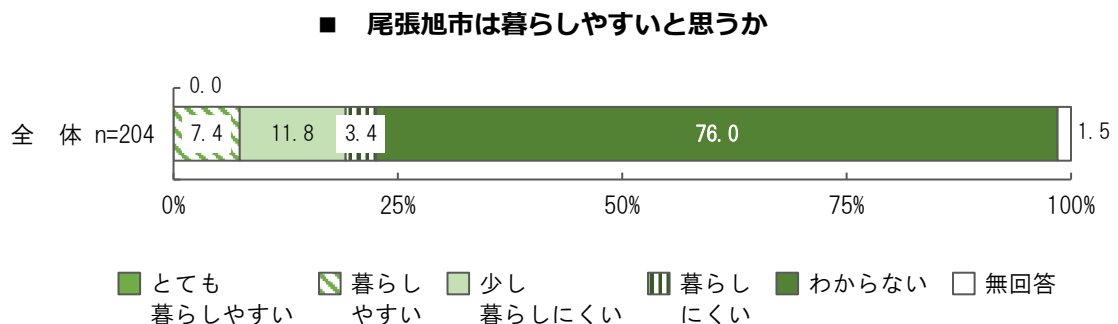
4 尾張旭市の暮らしやすさや地域への参加について

（1）障がいのある人にとっての尾張旭市の暮らしやすさ

問12 あなたは、障がいのある人にとって尾張旭市は暮らしやすいと思いますか。それとも、暮らしにくいと思いますか。（○は1つ）

○障がいのある人にとって尾張旭市は暮らしやすいと思うかの問いでは、「わからない」が76.0%と最も高くなっています。

また、「とても暮らしやすい」の回答はなく、「暮らしやすい」は7.4%、一方、「少し暮らしにくい」（11.8%）と「暮らしにくい」（3.4%）を合わせた『暮らしにくい』は15.2%となっています。



◆ 『暮らしやすい』と思う理由と『暮らしにくい』と思う理由は下記のとおりです。

■ 「暮らしやすい」理由

「暮らしやすい」理由	属性
具体的な支援内容は分からず抽象的な意見だが、大きな市ではないので把握しやすい=支援が行き届くイメージです。	女性・30代
住民の方々はやさしい方が多いと思う。	女性・60代
今年主人が亡くなった（障がい者だった）。医療に関して大変良かった。	女性・60歳代
市営バス（あさびー号）がありがたい。	女性・80歳以上
福祉が充実していると思う。	男性・80歳以上
市役所に行ったとき、とても親切・丁寧、優しく対応して頂きました。	女性・70代
尾張旭市に限らない。障がい者に優しい人は増えている。行政が関わると暮らしにくくなっている。	男性・80歳以上
自然環境に恵まれているとともに都市機能も水準以上のものが備えられている。行政の支援も他と比較して遜色ないと聞いている。	男性・80歳以上
場所によっては道が狭かったり、上り坂が多い印象はあるが、緑が多く自然豊かな所は良いと思います。バスも安い（あさびー号）。	女性・20代

■ 「少し暮らしにくい」理由

「少し暮らしにくい」理由	属性
公民館催しなど地域の行事に参加している障がい者を見かけることがほばない。気楽に参加できる環境ではないということなのではないか、と考えられるから。	女性・50代
身体的な障がいについては、道路や施設内仕様などでまだまだバリアフリー化が十分されているとは思えない。知的な障がいについてはよくわからない。	女性・50代
理解されてない。	男性・50代
駅のエレベーターの対応が遅い。その他道路や信号などの対応ができていない。段差が多い。障がい者優先の駐車場を健常者が平気で使用している。	男性・60代
車椅子ユーザーがあさびーバスを利用するのが難しい。	女性・20代
交通機関が無い。	男性・50代
公共の場所や駅などにサポートできるような設備や人材がまだまだ少ないと思う。	女性・60代
エレベーターのない駅があるが階段に手すりもない。	女性・60代
横断歩道に信号音の鳴る所が少ない。	男性・70代
道路が狭い。	男性・70代
歩道が無いところが多い。	女性・70代
坂道が多い、歩道のない道が多い。	男性・50代
安全に歩ける歩道が整備されていない道路が多いから	女性・50代
狭く、平坦ではない歩道が多いと感じる。	男性・40代
歩道に段差が多い（特に尾張旭駅城山周辺）。	男性・50代
尾張旭市は歩道と車道が分かれてない所が多く危ない。	男性・40代
マスクやワクチンの推奨ばかりで、データのデメリットや被害の報告がないことに不信感と生きづらさを感じる。	女性・30代
特に尾張旭がということではなく、まだまだ改善できる点が多いと思う。市民の意識（私も含めて）が、それほど追いついていない。	女性・50代
核家族化して近隣の情報が無い。	不明

■ 「暮らしにくい」理由

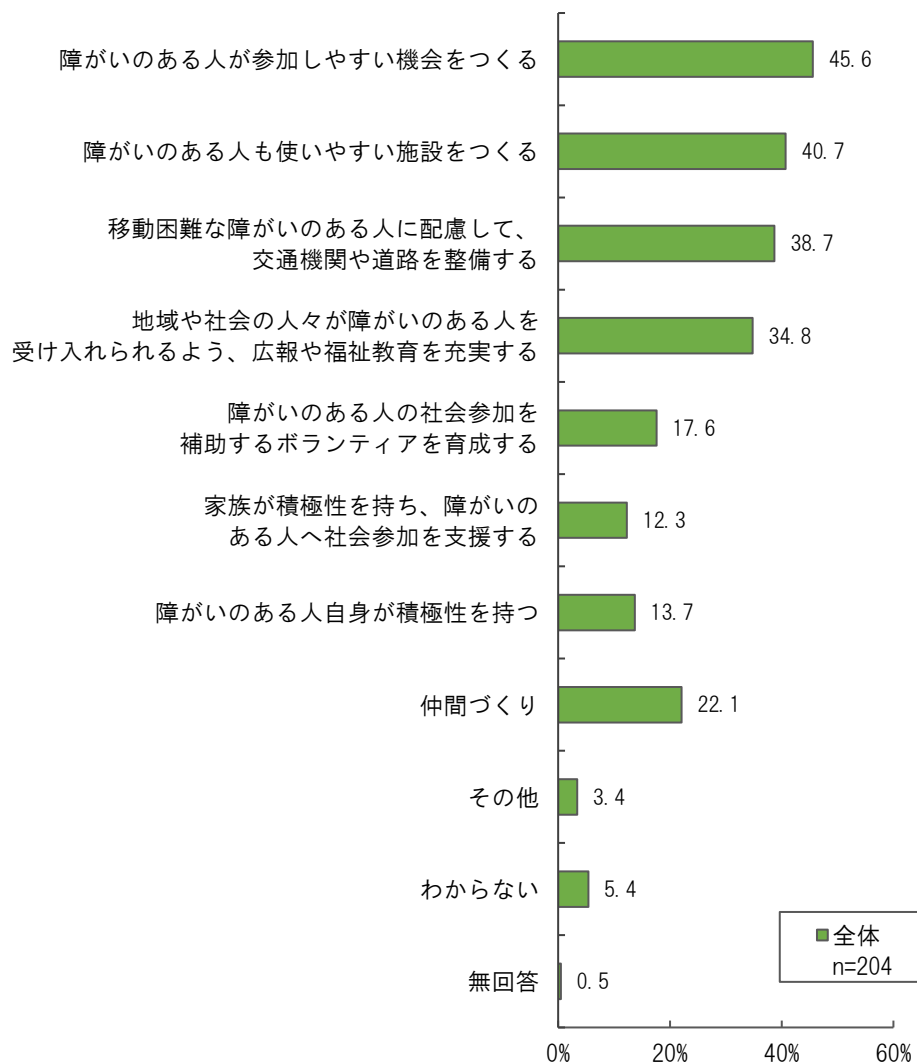
「暮らしにくい」理由	属性
尾張旭市の、障がいのある方に対する特別なサポート体制を知らない。	女性・60代
めったに見かけないから。見かけないということはあまり外に出ていないと思う。出やすい社会ならもっと見かけていると思うから。	不明
「名古屋市と比べてタクシーチケットなどが少なく足りない」という話をいとこから聞いた事がある為。	女性・50代
駅にエレベーターがない。普通に子供連でも暮らしにくいです。	男性・30代
いつも目につくような場所（スーパー、ドラッグストア）や学校などでパンフを設置して広報。情報少ない。こちらからネットでアクセスして情報を集めるしかない。	女性・40代

（２）積極的な社会参加に大切なこと

問13 あなたは障がいのある人が地域や社会に積極的に参加できるようにするために、大切なことは何だとお考えですか。（○は3つまで）

○障がいのある人の積極的な社会参加に大切なことは、「障がいのある人が参加しやすい機会をつくる」が45.6%と最も高く、次いで「障がいのある人も使いやすい施設をつくる」が40.7%、「移動困難な障がいのある人に配慮して、交通機関や道路を整備する」が38.7%となっています。

■ 積極的な社会参加に大切なこと



5 障がい福祉に関わる言葉や制度、法律等について

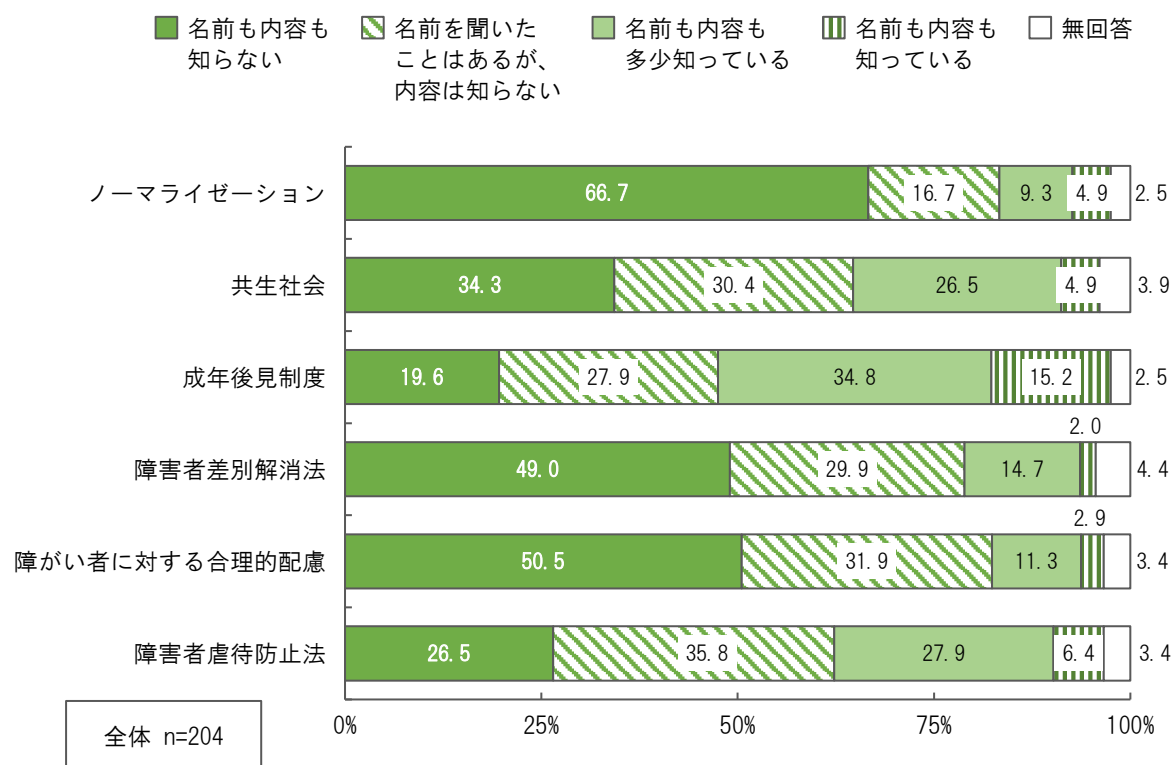
（１）障がい福祉に関わる言葉、制度、法律等の認知度

問14 あなたは、以下の障がい福祉に関わる言葉、制度、法律等について知っていますか。
（それぞれ1つに○）

○障がい福祉に関わる言葉、制度、法律等の認知度をみると、「名前も内容も知らない」は『ノーマライゼーション』が66.7%と最も高く、次いで『障がい者に対する合理的配慮』（50.5%）、『障害者差別解消法』（49.0%）となっています。

一方、「名前も内容も知っている」は『成年後見制度』が15.2%と最も高く、次いで『障害者虐待防止法』（6.4%）となっています。

■ 障がい福祉に関わる言葉、制度、法律等の認知度



6 就労について

（１）障がいのある人と一緒に働くことへの考え

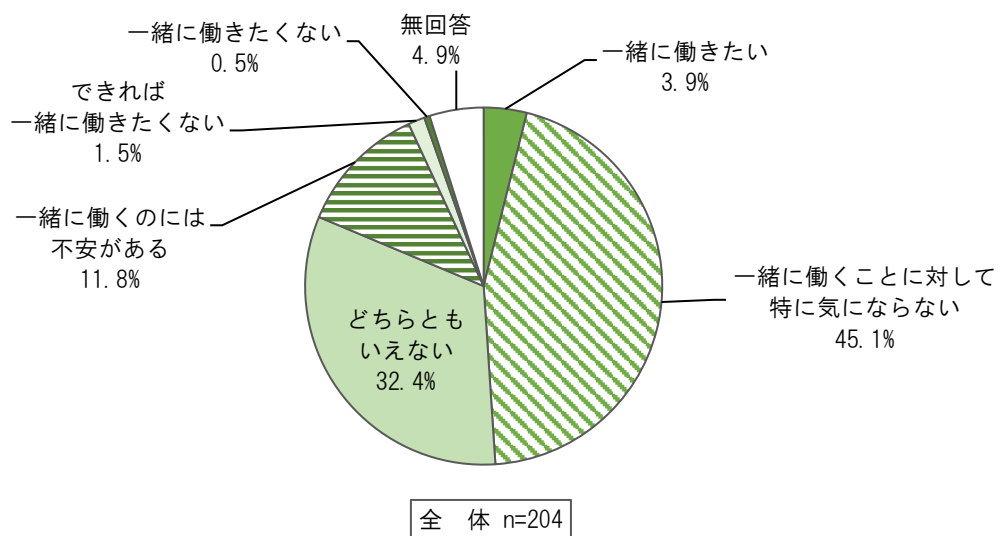
問15 あなたは、障がいのある人と一緒に働くことについてどう思われますか。
(○は1つ)

○障がいのある人と一緒に働くことについては、「一緒に働くことに対して特に気にならない」が45.1%と最も高く、「一緒に働きたい」(3.9%)を合わせた『一緒に働くことに肯定的』な方は49.0%となっています。

一方、『一緒に働くことに否定的』(「一緒に働くのには不安がある」+「できれば一緒に働きたくない」+「一緒に働きたくない」)な方は13.8%となっています。

○『一緒に働くことに否定的』な人の自由記載をみると、障がいの知識や理解が少ないことが要因と考えられ、まず第一に障がいに対する理解の必要がうかがわれます。

■ 障がいのある人と一緒に働くことへの考え



問15で「4. 一緒に働くのには不安がある」「5. できれば一緒に働きたくない」「6. 一緒に働きたくない」と答えた方のみ

問15-1 障がいのある人と一緒に働くのには不安がある、または働きたくない理由を簡単にお書きください。（自由回答）

■ 一緒に働くことに不安がある、または働きたくない理由

一緒に働くことに不安がある、または働きたくない理由	属性
コミュニケーションがとれるか不安。	女性・40代
どう接して良いかわからない。どうしても同情してしまって嫌な思いをさせてしまいそう。	男性・40代
気をつかう。	男性・50代
精神的障がい者とは、働きたくない、何をされるかわからないので。	男性・20代
経営状態が悪いとどうしても収支が悪化する（効率が下がる）。逆に経営状態さえ良ければ特に気にはならない。	男性・60代
公正な業務評価の弊害にならないか心配。	男性・50代
そもそも障がいの申請による車いすの方であれば仕事に問題がなければ気にならない。知的障がいの方の場合は相手への理解が進まないように思う。	男性・40代
知識や精度が必要な仕事だと不安。	男性・50代
どう接して良いのか、何が出来て、何が難しいのか、どこまでお願いして良いのか分からない。	女性・30代
忙しい時などに十分配慮ができるか、また、どんなサポートが必要かと考えると不安を感じる。	女性・50代
どの様に接触したらいいかわからない。	男性・70代
仕事の内容にもよりますが、障がいの方のフォローを含めて自分に可能かどうか自信がない。	女性・50代
意思の疎通ができない。	女性・60代
障がいの程度や携わる業務内容によって一緒に働くことが可能か判断できないので。	女性・60代
どのように接して良いかわからない。障がいの種類、程度による。	女性・50代
教える中で、口調が強くなる事がありそう。	男性・60代
障がいのある人はその人にあったオーダーメイドの配慮が必要だと思う。一般企業ではそこまでの余裕が無い所が多いと思う。	女性・60代
仕事に集中できない気がする。	女性・40代
障がいのある人に傷等を負わすリスクを避けたい。	男性・70代
実際に働いてみないと、どのように対応してよいのかわからないと思うから。	男性・50代

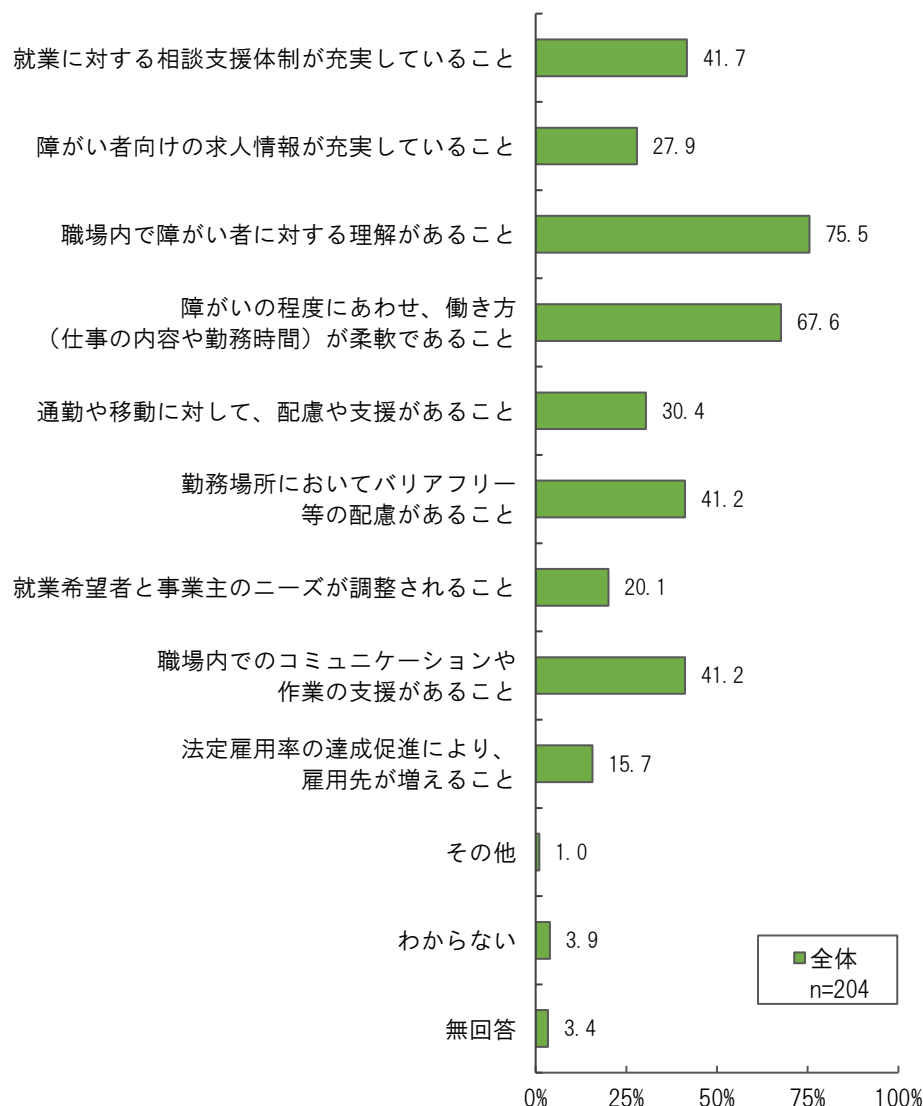
（２）障がいのある人の就労促進に必要な配慮

問16 障がいのある方が企業などで就労を促進するために、どのような配慮が必要であると思いますか。（〇は5つまで）

○就労促進に必要な配慮は、「職場内で障がい者に対する理解があること」が75.5%と最も高く、次いで「障がいの程度にあわせ、働き方（仕事の内容や勤務時間）が柔軟であること」が67.6%、「就業に対する相談支援体制が充実していること」「勤務場所においてバリアフリー等の配慮があること」「職場内でのコミュニケーションや作業の支援があること」が各41.7%となっています。

○事業者調査での、「障がい者雇用における工夫」から具体的な配慮をみると、「昼からの勤務で週4回勤務」、「常に体調の確認、コミュニケーション時間の確保」、「仕事を切り分け、その障害の人が可能な業務を集めた」など市内の事業所でも様々な取り組みを行っています。

■ 障がいのある人の就労促進に必要な配慮



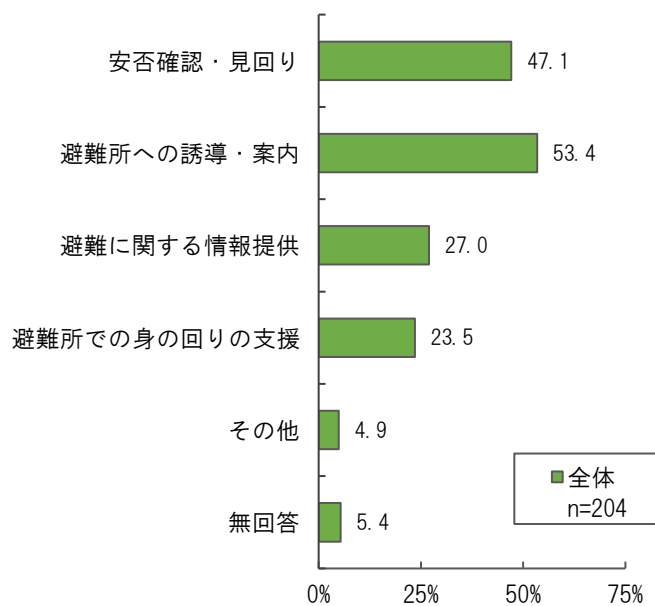
7 災害時の障がいのある人への支援について

（1）災害時の障がいのある人への支援

問17 あなたは、災害時に自分の安全が確保されたと分かった場合、障がいのある人へのどのような支援ができますか。（2つまで○）

○災害時に障がいのある人へできる支援は、「避難所への誘導・案内」が53.4%と最も高く、次いで「安否確認・見回り」が47.1%、「避難に関する情報提供」が27.0%となっています。

■ 災害時の障がいのある人への支援



8 権利擁護について

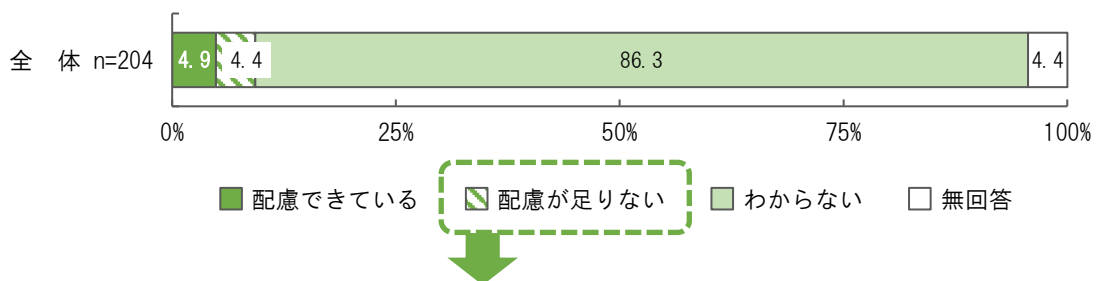
（１）障がいのある人への配慮

問18 あなたは、普段の生活の中で、あなたが住む地域では障がいのある人への配慮ができていますか。（○は1つ）

○障がいのある人への配慮ができていないかでは、「わからない」が86.3%と最も高くなっています。

また、「配慮ができていない」が4.4%、「配慮が足りない」が4.4%となっています。

■ 障がいのある人への配慮の有無



問18で「2. 配慮が足りない」と答えた方のみ

問18-1 障がいのある人への配慮が足りないと思うことは何ですか。（自由回答）

○障がいのある人への配慮が足りないと思うことに関する自由回答は、以下のとおりです。

■ 配慮が足りないと思うこと

配慮が足りないと思うこと	属性
公民館にエレベーターがない。	女性・50代
点字ブロック上に物が乗っていること（自転車他）。	女性・70代
車いすに優しくない道路。	女性・50代
バス等が利用しづらい。	男性・40代
瀬戸線の駅の階段に手すりが無い。	女性・60代

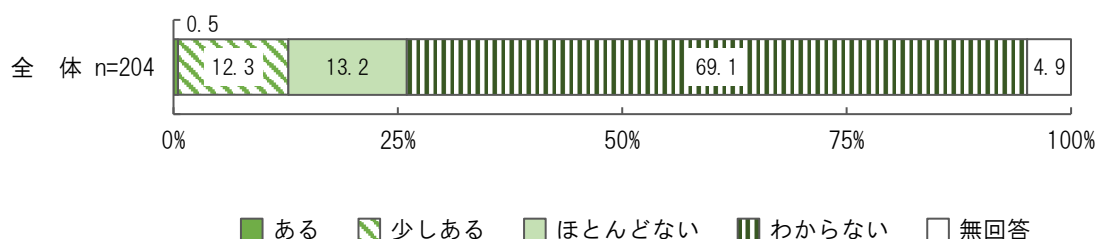
（２）障がいのある人への差別や偏見の有無

問19 あなたが住む地域では、障がいがある方に対して差別や偏見があると思いますか。
（○は1つ）

○地域での障がいがある人への差別や偏見の有無をみると、「わからない」が69.1%と最も高くなっています。

また、「ある」(0.5%)と「少しある」(12.3%)を合わせた『ある』は12.8%となっています。

■ 障がいのある人への差別や偏見の有無



問19-1 障がいのある方に対する差別や偏見について感じるがありましたら、内容をお書きください。（自由回答）

○障がいのある方に対する差別や偏見について感じることの自由回答は、以下のとおりです。

■ 差別や偏見について感じること

差別や偏見について感じること	属性
職業柄、障がい者とは接触が多いです。しかし、日常ではほとんど関係することがありません。ただ、結婚や就職などで偏見の存在を感じます。	女性・50代
例えば視聴覚障がい者や足不自由な老人にとって横断歩道や、踏切など安全なのか、信号機のない横断歩道で渡ろうとしている人がいても止まらず走りすぎる車が多いことか、市民の交通意識も高めてほしい。	女性・70代
見て見ぬふりなど。	女性・50代
障がいのある方を街中で見かけた場合、ついついそちらに気を取られる。	男性・70代
市内の至る所で見かける“マスクを着けよう”の様なポスターや呼びかけは、マスクもしない、できない人にとってはかなりの圧力ですし、マスクが必要ない人もしなければならぬおかしいルールが出来てしまっています。障がいの有無に関係ないのかもしれませんが、まずはそういう課題からクリアしていかなきゃ永遠に“生きやすい社会”にはならない気がします。	女性・30代
みんな自分の生活にいっぱいいっぱい障がいうんぬん以前に他人に興味をもつ余裕がない。余裕のある年代の人は差別意識が高いのでは？	男性・30代
差別、偏見という見方ではなく、違うことをお互い認めるのは大切と思う。全く同じように対応することが平等ではないと思う。	女性・50代

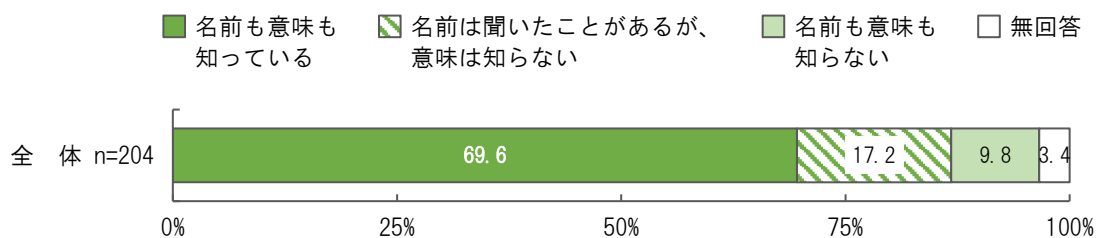
9 広報・啓発について

（１）ヘルプマークの認知度

問20 あなたは、「ヘルプマーク」を知っていますか。（○は1つ）

○「ヘルプマーク」の認知度は、「名前も意味も知っている」が69.6%と最も高く、次いで「名前は聞いたことがあるが、意味は知らない」が17.2%となっています。

■ ヘルプマークの認知度

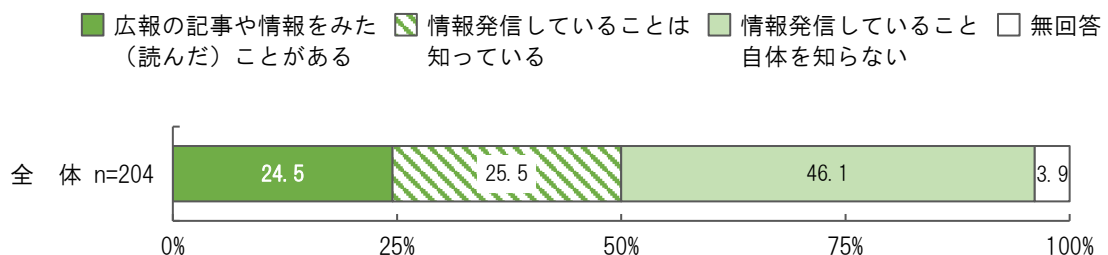


（２）障がいや障がい者に関する情報発信

問21 尾張旭市が「広報おわりあさひ」や公式ホームページなどで、障がいや障がい者に関する情報を発信していることをご存じですか。（○は1つ）

○障がいに関する情報発信の認知度をみると、「情報を発信していること自体を知らない」が46.1%と最も高く、「広報の記事や情報をみた（読んだ）ことがある」は24.5%、「情報発信していることは知っている」は25.5%となっています。

■ 障がいや障がい者に関する情報発信の認知度



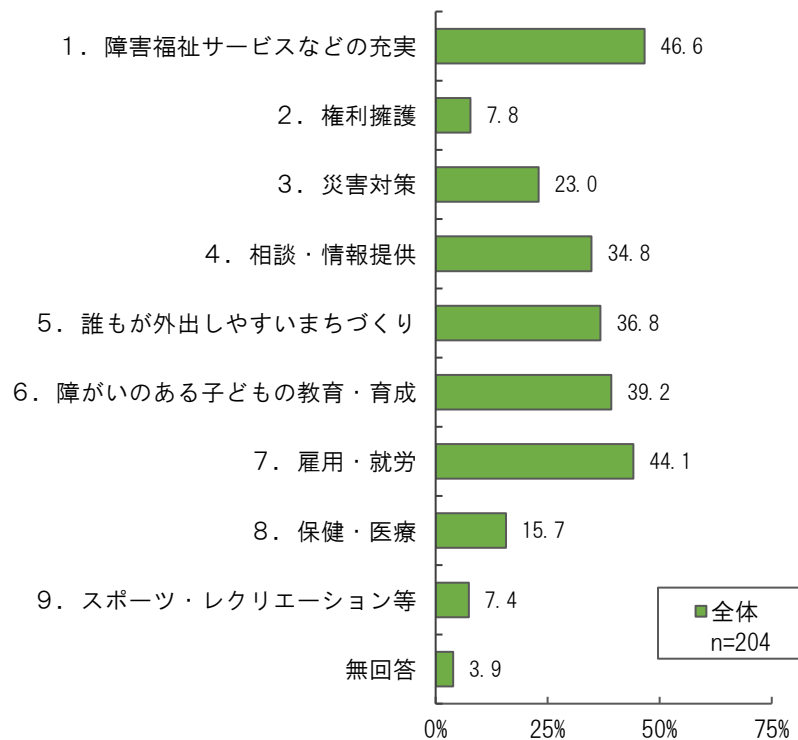
10 障がいのある人への施策について

（１）障がいのある人への充実すべき施策

問22 あなたが今後、特に充実すべきだと考える障がいのある人への施策は何ですか。
1～9の中からお選びください。（○は3つまで）

○充実すべきだと考える障がいのある人への施策は、「１．障害福祉サービスなどの充実」が46.6%と最も高く、次いで「７．雇用・就労」が44.1%、「６．障がいのある子どもの教育・育成」が39.2%となっています。

■ 障がいのある人への充実すべき施策



V 調査の結果（事業所）

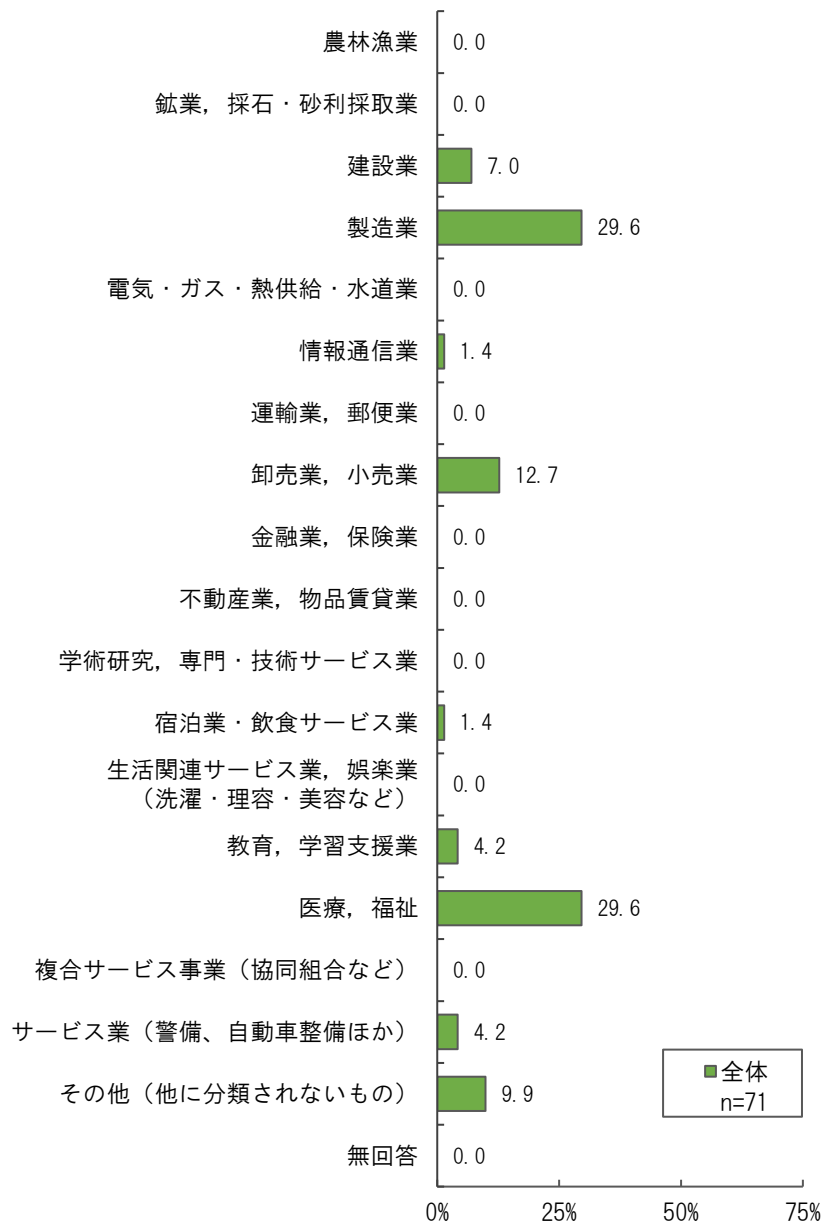
1 事業所の状況について

（1）主たる事業内容

問1 貴事業所の主たる事業の内容をお答えください。あてはまるものに1つだけ○を付けてください。

○回答事業所の主たる事業内容は、「製造業」「医療、福祉」がともに29.6%と最も高く、なっています。

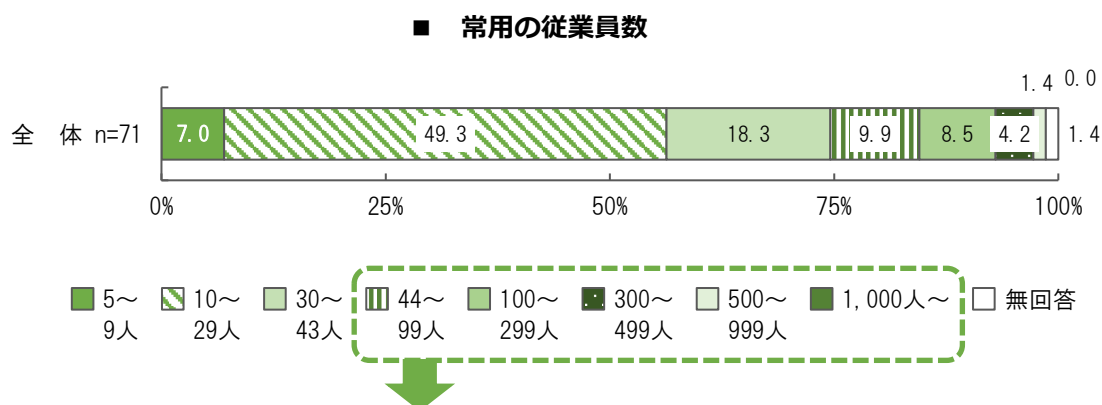
■ 主たる事業内容



（２）常用の従業員数

問２ 貴事業所の常用の従業員数は何人ですか。あてはまるものに１つだけ○を付けてください。

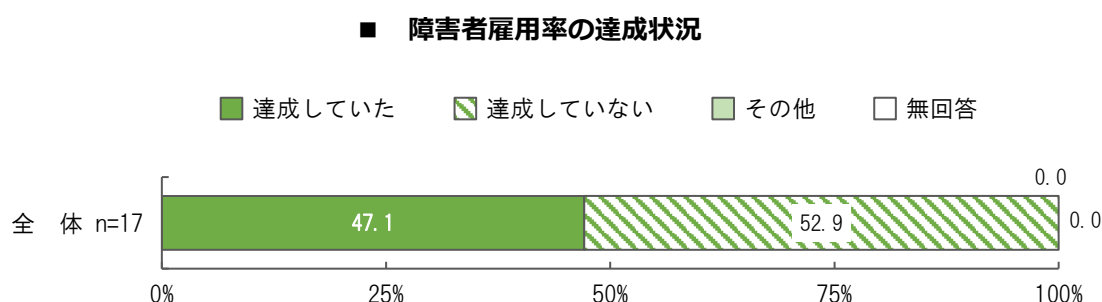
○常用の従業員数は、「10～29人」の事業所が49.3%と最も高く、次いで「30～43人」が18.3%、「44～99人」が9.9%となっています。



問２で常用の従業員数が「４．４４～９９人」以上の事業所のみ

問２－１ 貴事業所は令和４年６月１日時点の雇用状況報告では障害者雇用率は達成していましたか。あてはまるものに１つだけ○を付けてください。

○障害者雇用率を「達成していた」事業所は47.1%、一方、「達成していない」事業所は52.9%となっています。

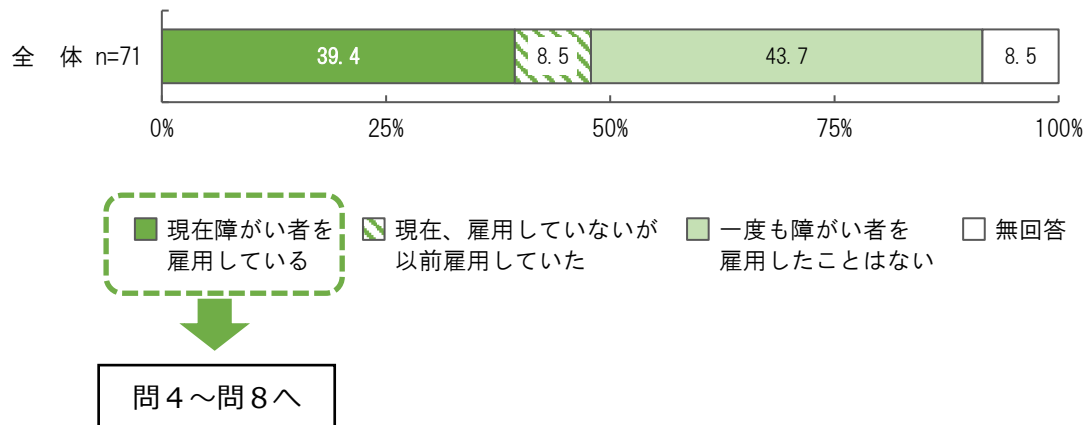


（３）障がい者の雇用状況

問３ 貴事業所における障がい者の雇用状況について、あてはまるものに１つだけ○を付けてください。選択肢ごとに該当の設問からお答えください。

○障がい者の雇用状況は、「現在障がい者を雇用している」事業所が39.4%、一方、「一度も障がい者を雇用したことはない」事業所が43.7%と最も高くなっています。

■ 障がい者の雇用状況



2 障がい者の雇用について

問3で「1. 現在障がい者を雇用している」と答えた事業所のみ。

問4～問8をお答えください。

（1）障がい者の雇用人数等

問4 障がいの種類別の雇用人数をご記入ください。

○現在障がい者を雇用している28事業所における障がい者の雇用人数は、全体で74人となっています。

障がいの種類別にみると、「身体障がい」は28人（37.8%）、「知的障がい」は23人（31.1%）、「精神障がい」は19人（25.7%）となっています。

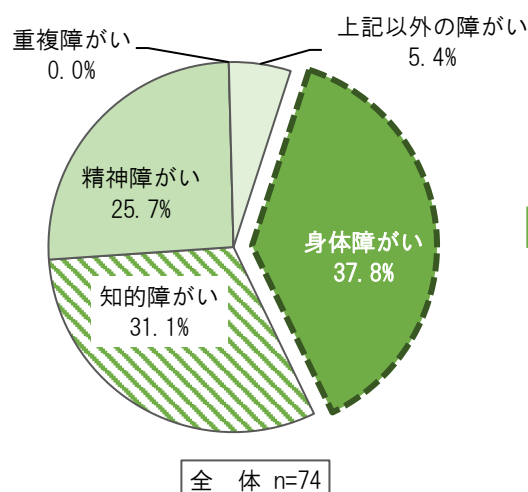
また、身体障がいを障がいの種類別にみると、「肢体不自由」が15人（53.6%）と最も多く、次いで「聴覚障がい等」が7人（25.0%）、「内部障がい」が5人（17.9%）「視覚障がい」が1人（3.6%）となっています。

■ 障がいの種類別雇用人数

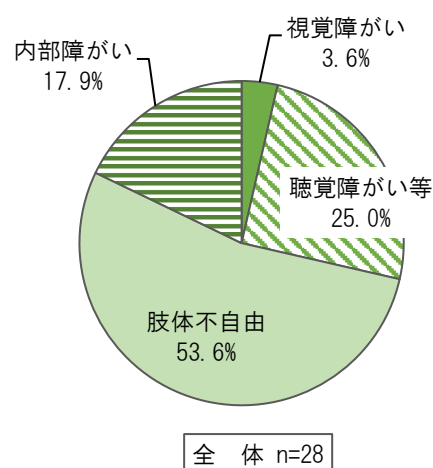
	合 計	身体障がい				知的 障がい	精神 障がい	重複 障がい	上記 以外の 障がい (左記)
		視覚 障がい	聴覚 障がい等	肢体 不自由	内部 障がい				
雇用人数（単位：人）	74	1	7	15	5	23	19	0	4
事業所数（単位：事業所）	28	1	5	10	5	17	13	0	3

※事業数は重複があるため、合計と一致しません。

■ 障がい種類別の割合



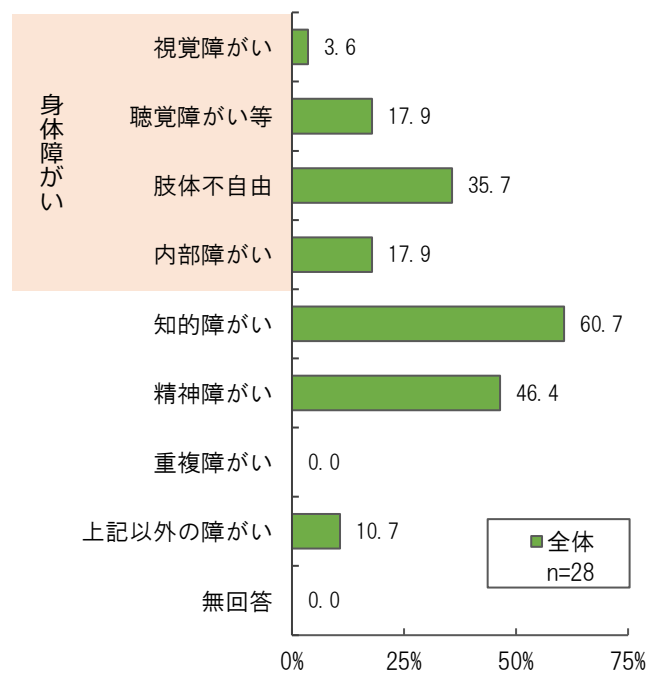
■ 身体障がいの内訳



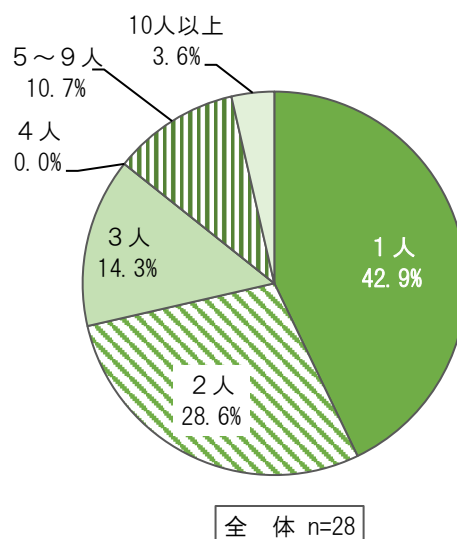
○障がい者を雇用している事業所をみると、「知的障がい」の方を雇用している事業所が60.7%と最も高く、次いで「精神障がい」が46.4%、身体障がいの「肢体不自由」が35.7%となっています。

○雇用している障がい者の人数は、「1人」が42.9%と最も高く、次いで「2人」が28.6%、「3人」が14.3%となっています。また、「10人以上」雇用している事業所は3.6%となっています。

■ 障がい種類別の障がい者を雇用している事業所割合



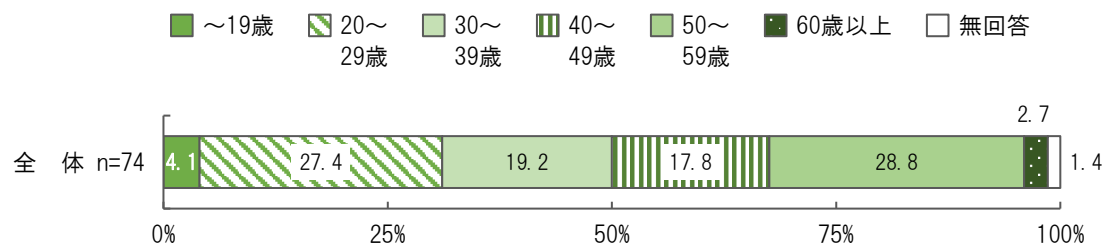
■ 雇用している障がい者の人数



問 4 - 1 上記の年齢の内訳をお答えください。（該当の欄に人数を記入してください。）

○雇用している障がい者の年齢は、「50～59歳」が28.8%と最も高く、次いで「20～29歳」が27.4%、「30～39歳」が19.2%となっています。

■ 雇用している障がい者の年齢

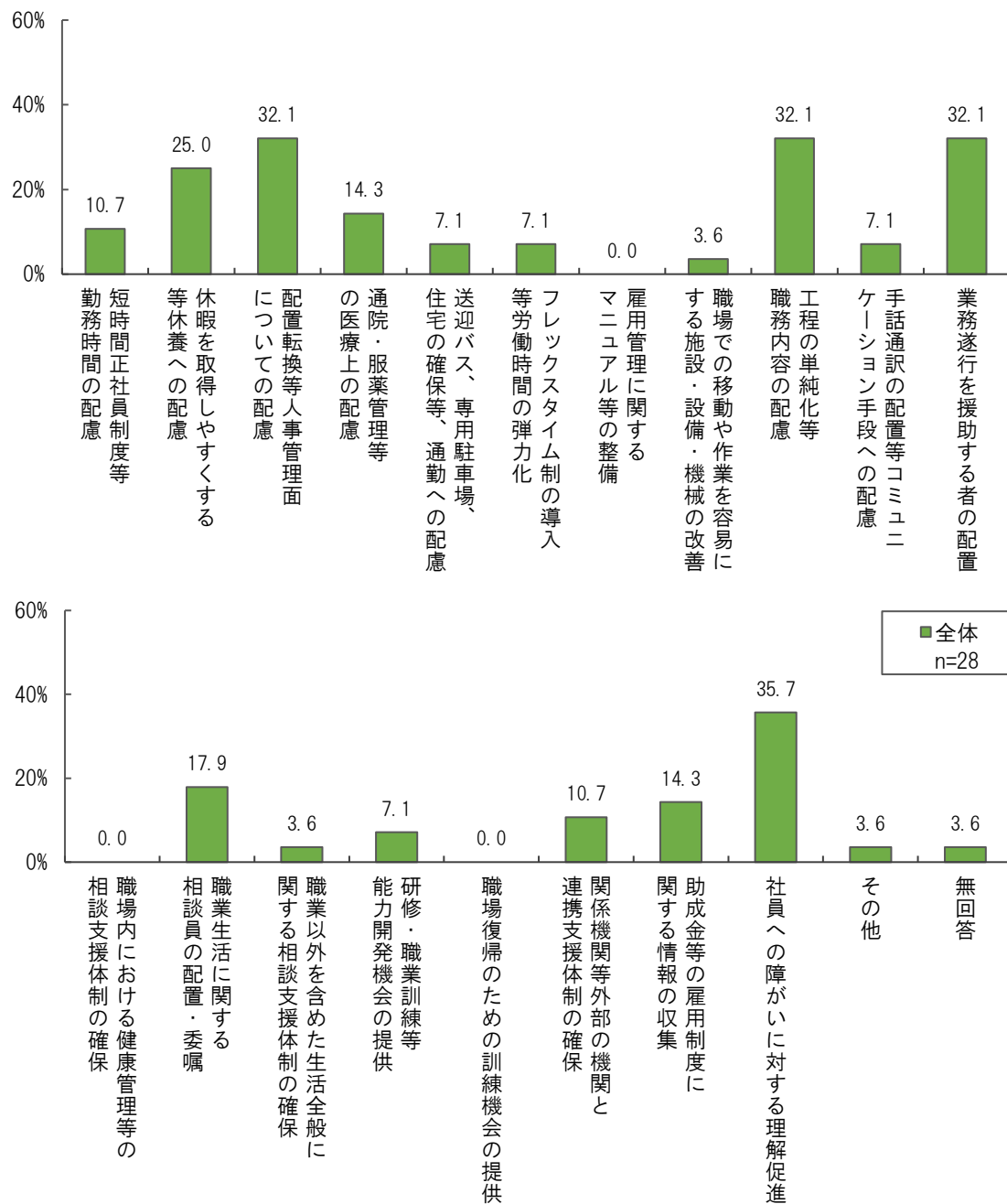


（２）雇用する上での配慮

問５ 障がい者を雇用する上で配慮したことはどのようなことですか。（○はいくつでも）

○障がい者を雇用する上で配慮したことは、「社員への障がいに対する理解促進」が35.7%と最も高く、次いで「配置転換等人事管理面についての配慮」「工程の単純化等職務内容の配慮」「業務遂行を援助する者の配置」が各32.1%となっています。

■ 雇用する上での配慮



（３）障がい者雇用における工夫

問６ 障がい者を雇用する上で、貴事業所で工夫している内容をお書きください。

■ 障がい者雇用において事業所で工夫していること

工夫していること		
①	身体障がい	○食事場所の確保。 ○誘導灯を持って交通誘導できるかどうか。また、その判断ができるか。 ○疾病による心臓機能に障がいのある者で、毎月１回経過観察のため通院しているため、休暇を取得しやすい環境を整えている。 ○右手が不自由なので、他の社員が補助をするように心がけている。 ○受診時の休暇を取りやすいような、周囲の職員への教育の実施。 ○単純作業をお願いしている。
②	知的障がい	○昼からの勤務、週４日勤務。 ○終礼による問題把握。 ○作業制限・他従業員の援助体制の構築。 ○仕事を切り分け、知的障がい者でも可能な業務を集めた。 ○交通誘導警備にあたって判断できるかどうか。 ○障がい者が従事する工程には、仕事サポーターを配置して相談しやすい環境を作っている。一般社員が先に挨拶・声掛けを意識的に行う様にしている。 ○業務に慣れるまで健常者従業員とペアを組ませた。 ○サポートする職員を決め、混乱しているようであれば援助を行うようにしている。 ○本人の無理の無い範囲で就業時間を定め、徐々に増やしている。習熟度をみながら徐々に作業内容を増やしている。 ○作業の簡素化、ストレスを溜めないような人間関係。 ○単純作業をお願いしている。
③	精神障がい	○終礼による問題把握。 ○特性に合った仕事をしてもらう事。 ○障がい者が従事する工程には、仕事サポーターを配置して相談しやすい環境を作っている。一般社員が先に挨拶・声掛けを意識的に行う様にしている。 ○仕事量や内容に伴う心理的な負担が生じないように、軽度な業務をお願いしている。 ○障がい者従業員のできる作業を確認し、日々のスケジュールを設定。 ○本人の無理の無い範囲で就業時間を定め、徐々に増やしている。 ○職場内、障がい者情報の共有。 ○軽作業をお願いしている。 ○常に体調の確認、無理をしていないか確認。コミュニケーション時間の確保。
④	①～③以外の障がい	○手足や体幹の運動や動作には肢体不自由を伴わないため、日常生活で特に配慮することはございません。

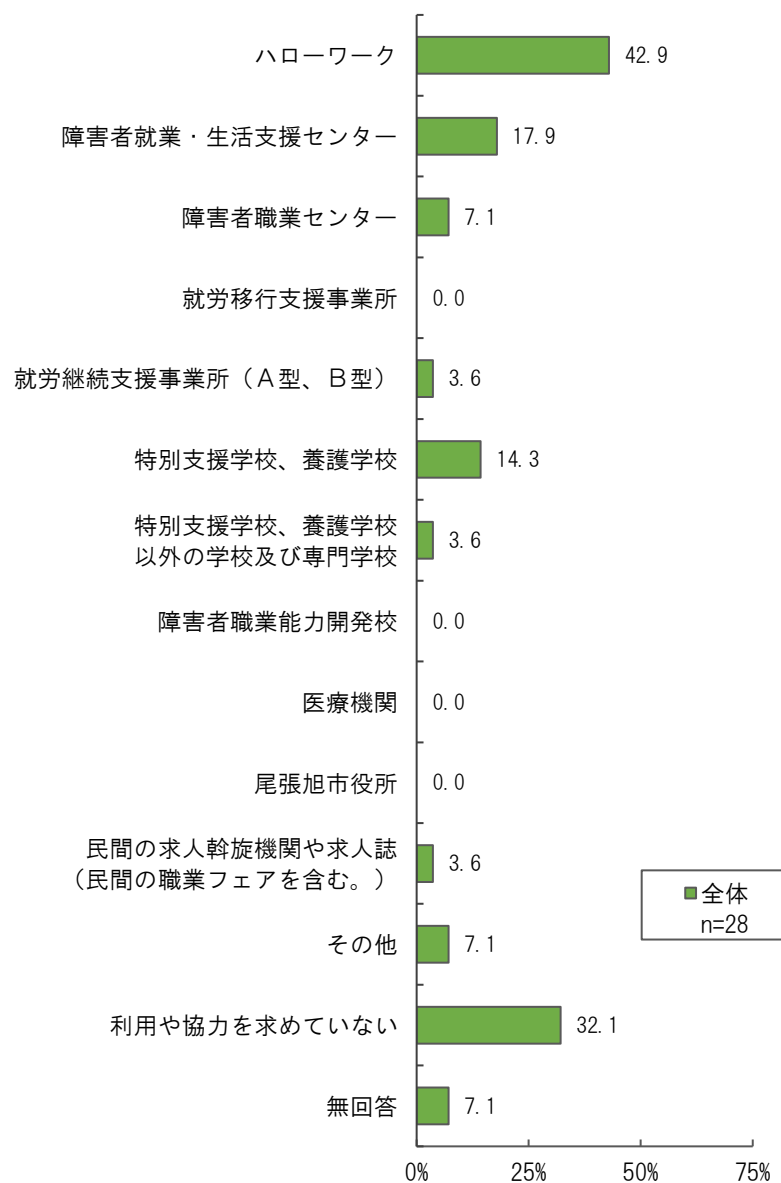
（４）協力等を求めた関係機関

問７ 障がい者の雇用に関して、利用した又は協力を求めた関係機関がありますか。
（○はいくつでも）

○障がい者の雇用に関して、利用した又は協力を求めた関係機関をみると、「ハローワーク」が42.9%と最も高く、次いで「障害者就業・生活支援センター」が17.9%、「特別支援学校、養護学校」が14.3%となっています。

一方、「利用や協力を求めているない」も32.1%と高くなっています。

■ 協力等を求めた関係機関



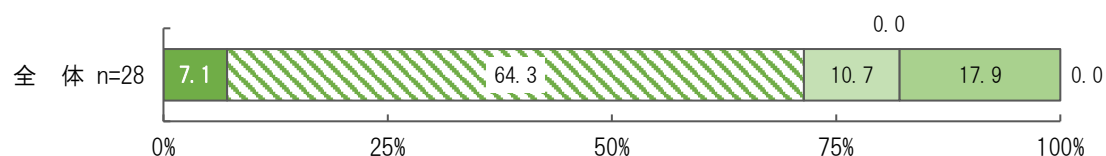
（５）障がい者雇用への考え（現在障がい者を雇用している事業所）

問 8 今後の障がい者雇用についてどのようにお考えですか。（○は1つだけ）

○障がい者雇用への考えは、「今後も現在の雇用を維持していく」が64.3%と最も高く、「積極的に雇用したい」（7.1%）と「サポートがあれば雇用を検討したい」（10.7%）を合わせた82.1%は障がい者雇用に前向きな状況です。

■ 障がい者雇用への考え

■ 積極的に雇用したい
▨ 今後も現在の雇用を維持していく
■ サポートがあれば雇用を検討したい
▤ 今後、雇用を縮小していく
■ わからない
□ 無回答



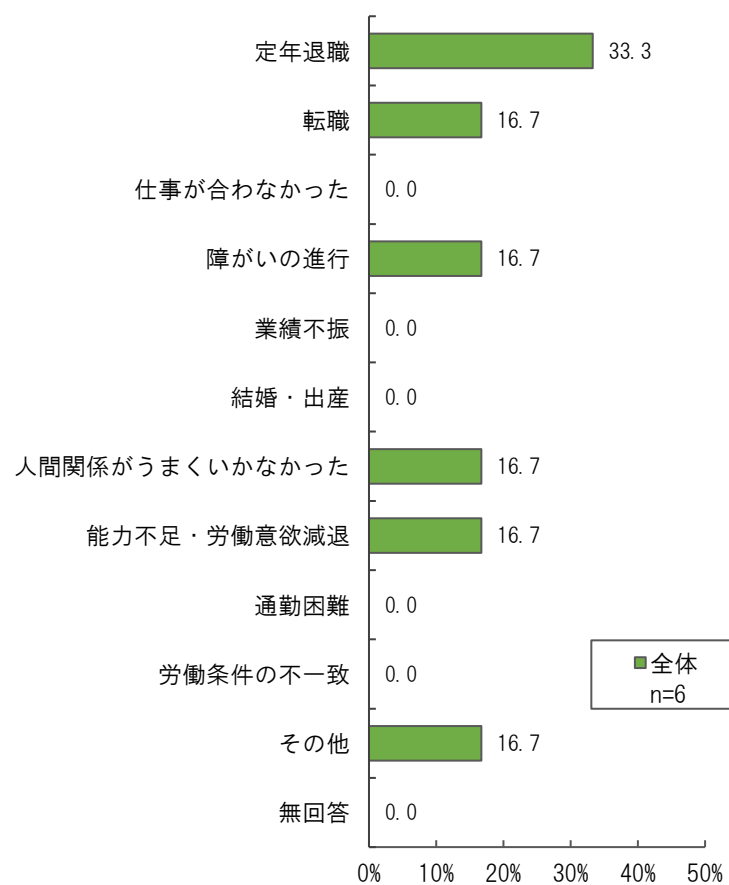
問3で「2. 現在、雇用していないが以前雇用していた」と答えた事業所のみ
問9と問10をお答えください。

（6）雇っていた方が辞めた理由

問9 以前雇っていた方が辞めた理由は何ですか（○はいくつでも）

○以前雇っていた障がい者の方が辞めた理由は、「定年退職」が33.3%と最も高くなっています。

■ 以前雇っていた方が辞めた理由

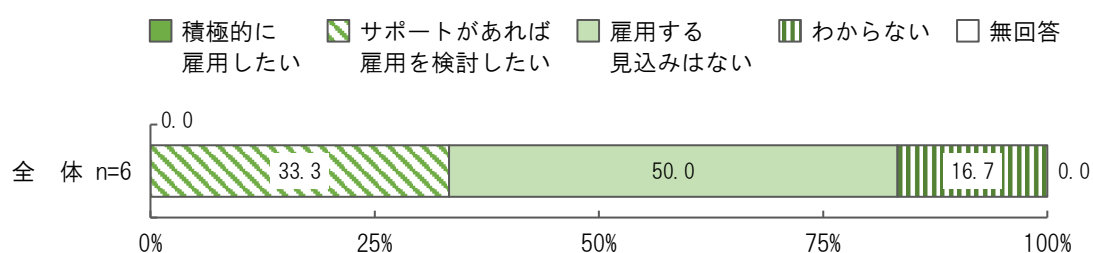


（7）障がい者雇用への考え（以前雇用していた事業所）

問10 今後の障がい者雇用についてどのようにお考えですか。（○は1つだけ）

○障がい者雇用への考えは、「雇用する見込みはない」が50.0%と最も高く、次いで「サポートがあれば雇用を検討したい」が33.3%となっています。

■ 障がい者雇用への考え



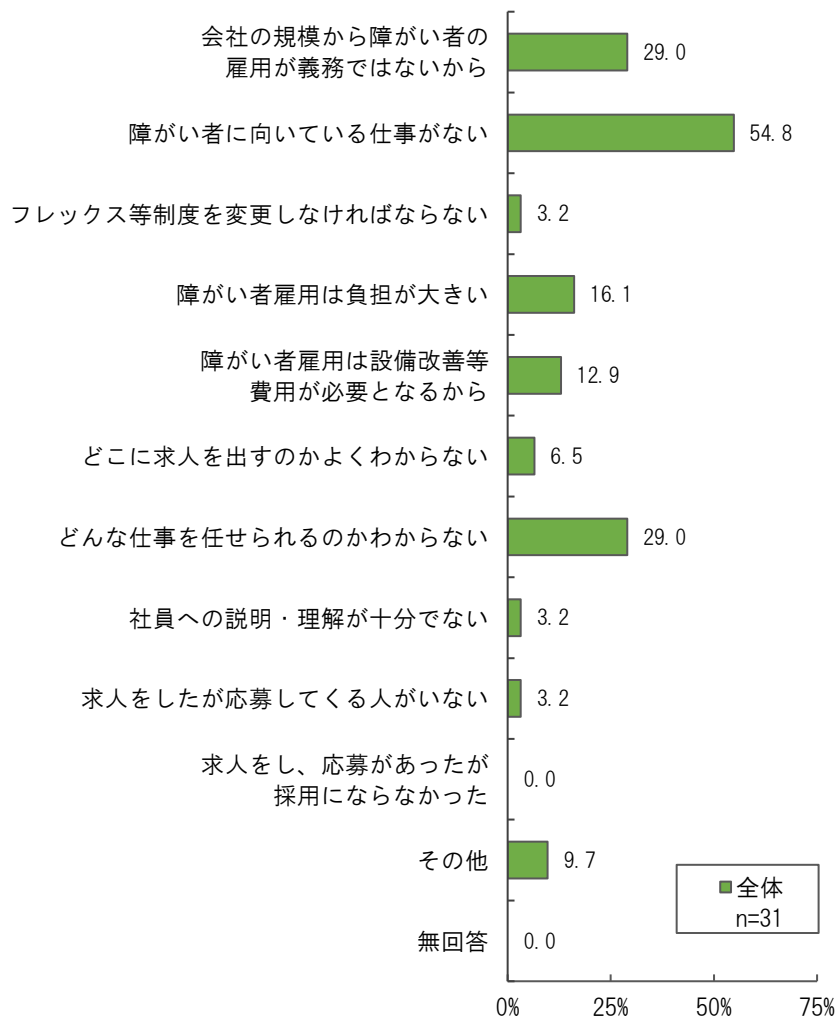
問3で「3. 一度も障がい者を雇用したことはない」と答えた事業所のみ
問11と問12をお答えください。

（8）障がい者を雇用していない理由

問11 障がい者を雇用していない理由は何ですか。（○はいくつでも）

○障がい者を雇用していない理由は、「障がい者に向いている仕事がない」が54.8%と最も高く、次いで「会社の規模から障がい者の雇用が義務ではないから」「どんな仕事を任せられるのかわからない」が各29.0%、「障がい者雇用は負担が大きい」が16.1%となっています。

■ 障がい者を雇用していない理由

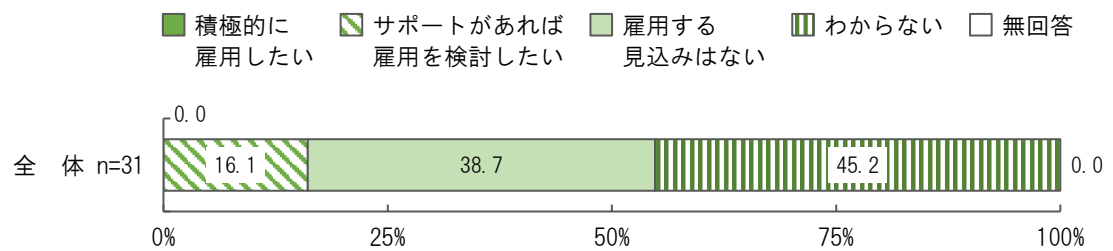


（９）障がい者雇用への考え（雇用していない事業所）

問12 今後の障がい者雇用についてどのようにお考えですか。（○は1つだけ）

○障がい者雇用への考えは、「わからない」が45.2%と最も高く、次いで「雇用する見込みはない」が38.7%となっています。

■ 障がい者雇用への考え

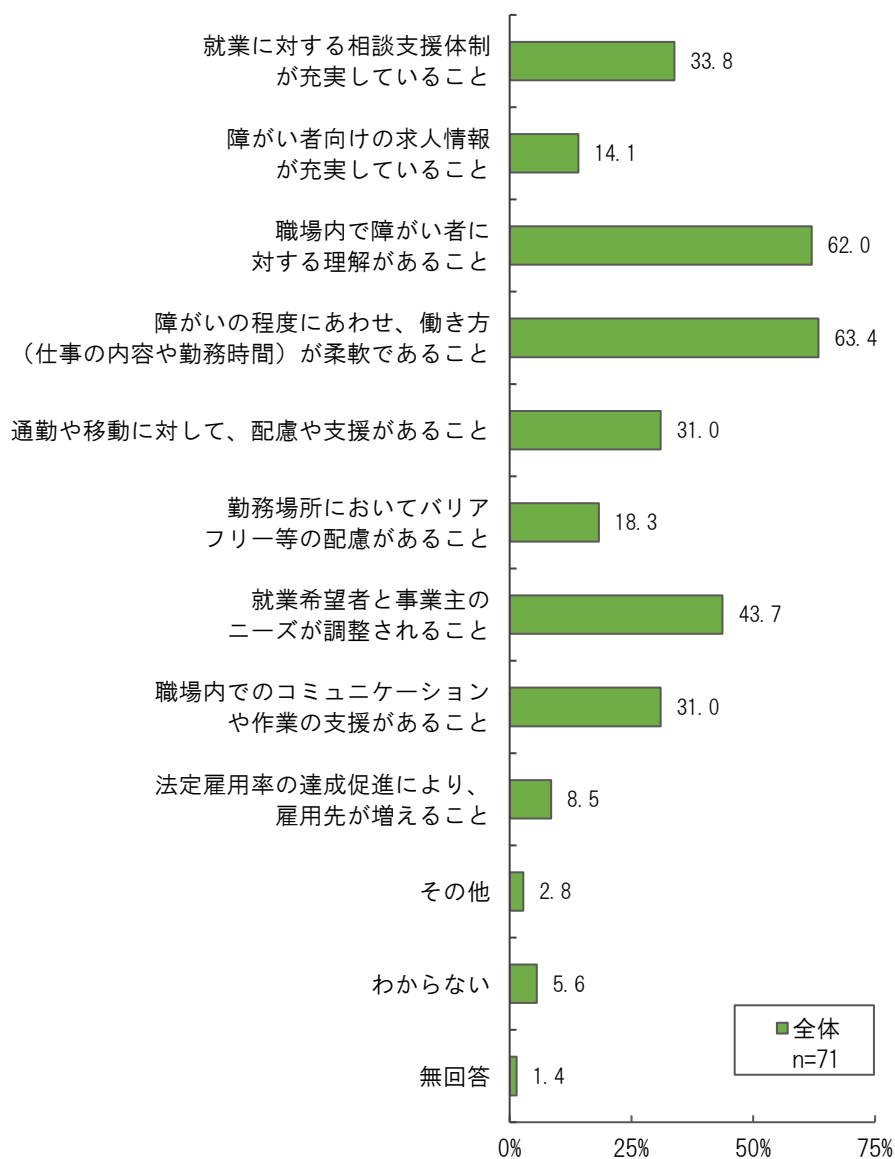


(10) 障がいのある方の企業就労を促進するために必要な配慮

問13 障がいのある方が企業などで就労を促進するために、どのような配慮が必要であると思いますか。（○は5つまで）

○障がいのある方の企業就労を促進するために必要な配慮は、「障がいの程度にあわせ、働き方（仕事の内容や勤務時間）が柔軟であること」が63.4%と最も高く、次いで「職場内で障がい者に対する理解があること」が62.0%、「就業希望者と事業主のニーズが調整されること」が43.7%となっています。

■ 障がいのある方の企業就労を促進するために必要な配慮



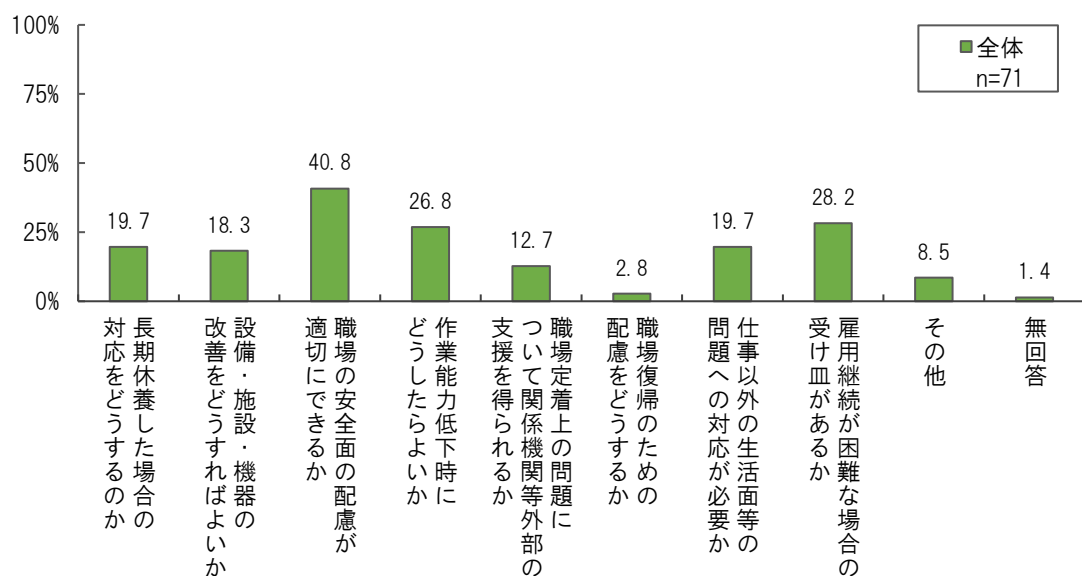
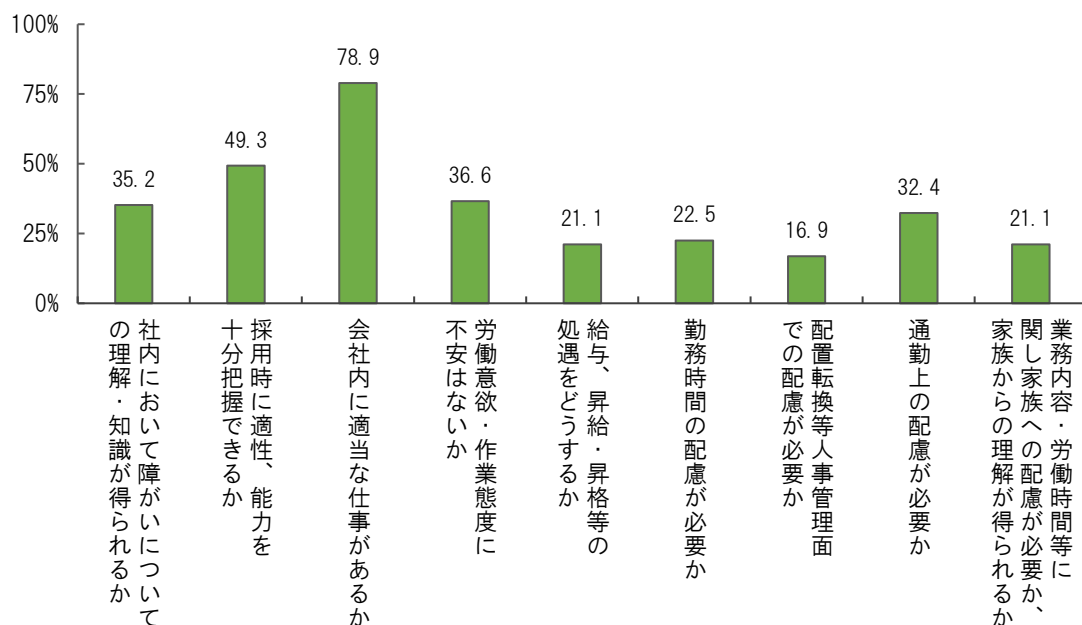
3 雇用上の課題及び配慮について

（1）障がい者雇用の課題

問14 障がい者を雇用するにあたっての課題はどのようなことですか。（○はいくつでも）

○障がい者を雇用するにあたっての課題は、「会社内に適当な仕事があるか」が78.9%と最も高く、次いで「採用時に適性、能力を十分把握できるか」が49.3%、「職場の安全面の配慮が適切にできるか」が40.8%となっています。

■ 障がい者雇用の課題

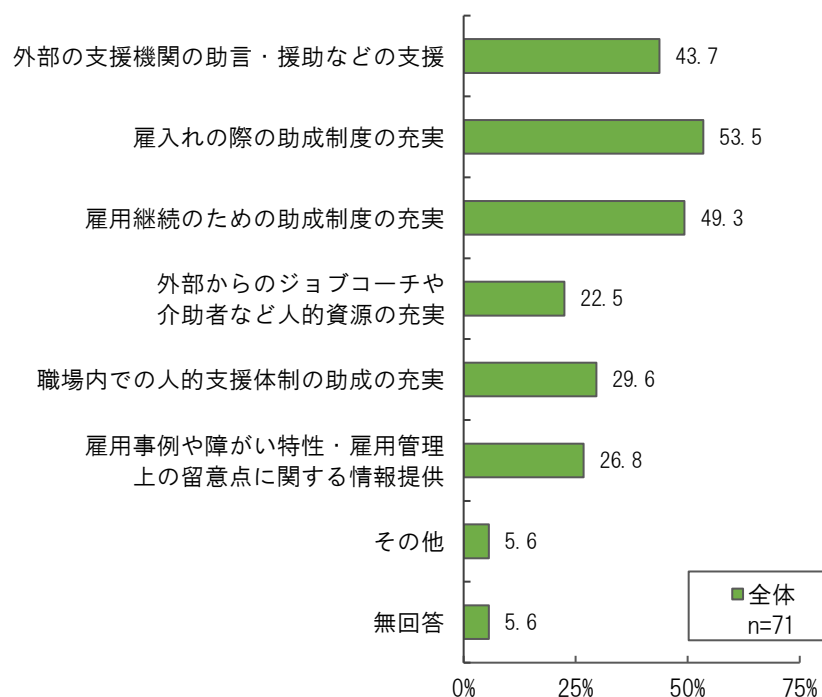


（２）障がい者雇用の促進に必要な施策

問15 障がい者の雇用を促進する為に必要な施策について、あてはまるものすべてに○を付けてください。（○はいくつでも）

○障がい者雇用の促進に必要な施策は、「雇入れの際の助成制度の充実」が53.5%と最も高く、次いで「雇用継続のための助成制度の充実」が49.3%、「外部の支援機関の助言・援助などの支援」が43.7%となっています。

■ 障がい者雇用の促進に必要な施策



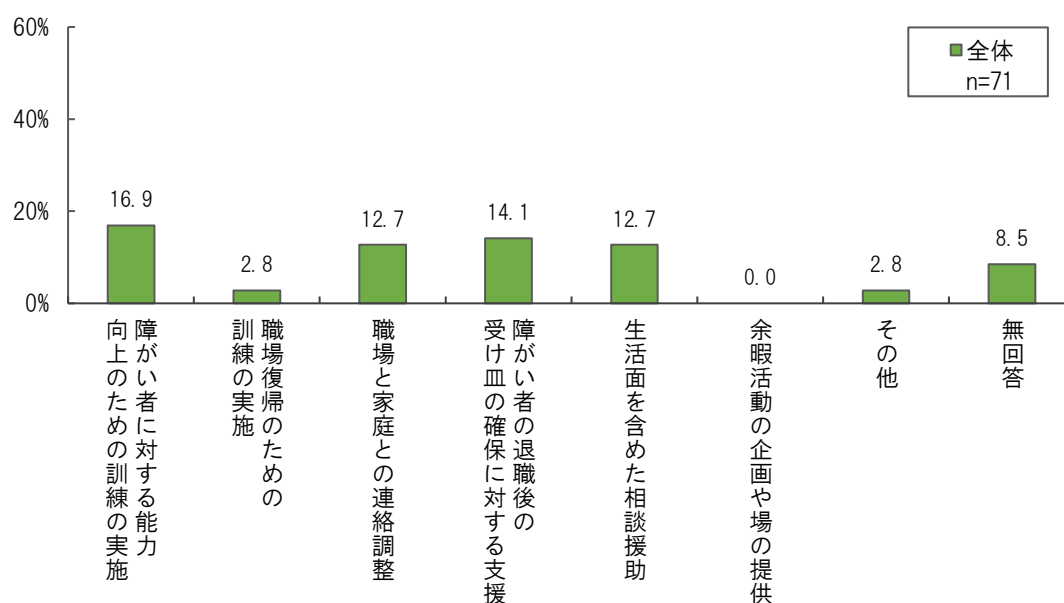
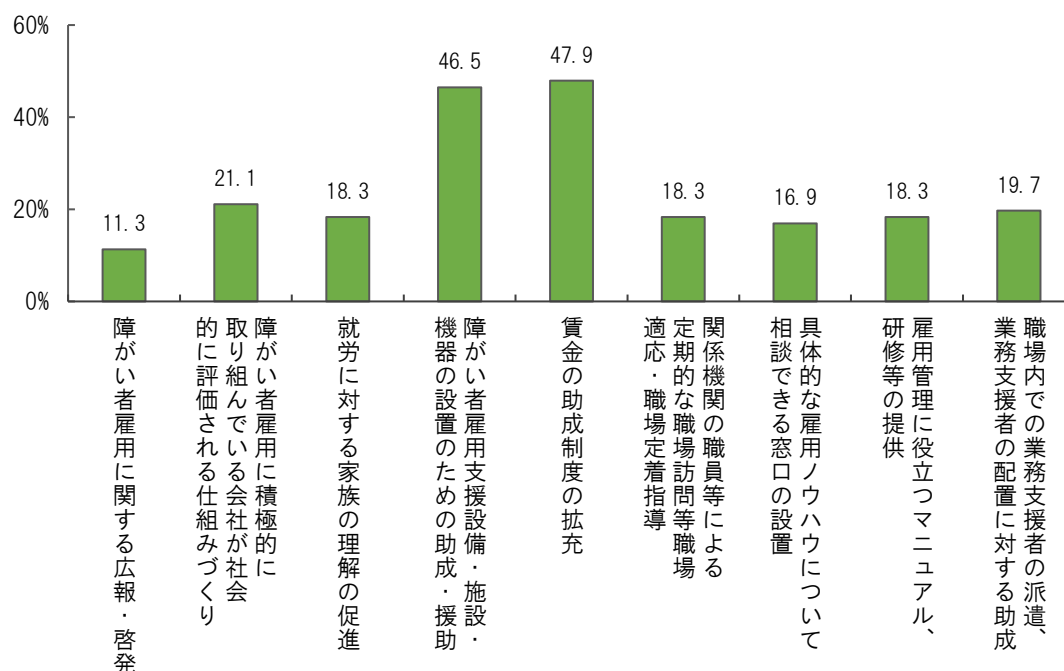
4 関係機関との連携について

（１）関係機関の取組・施策に期待すること

問16 障がい者の雇用を進める上で関係機関による取組及び支援を期待したいことはどのようなことですか。（○は5つまで）

○障がい者の雇用を進める上で関係機関による取組及び支援に期待することは、「賃金の助成制度の拡充」が47.9%と最も高く、次いで「障がい者雇用支援設備・施設・機器の設置のための助成・援助」が46.5%となっています。

■ 関係機関の取組・施策に期待すること



VI 自由回答の整理

1 障がい者調査の自由回答

(1) 充実していくと良いと思う活動や支援・サービス

尾張旭市の障がい福祉について、今後、行政や地域、学校、企業等で充実していくと良いと思う活動や支援、サービスに関する自由回答は296件となり、以下のように分類できました。

最も多い意見は、「福祉サービス等の充実」が54件となり全体の18.2%、次いで「経済的支援・助成等」が42件となり全体の14.2%、「バリアフリー、施設等の整備、地域環境の改善」が31件となり全体の10.5%となっています。

充実していくと良いと思う活動や支援・サービスの分類	回答件数(件)	回答割合(%)
福祉サービス等の充実	54	18.2
経済的支援・助成等の充実	42	14.2
バリアフリー、施設等の整備、地域環境の改善	31	10.5
公共交通機関の充実	22	7.4
雇用・就労の促進	21	7.1
相談体制、情報提供の充実	21	7.1
障がい理解教育の推進、体験教育等の充実	20	6.8
交流・イベント等ふれあいの充実	14	4.7
障がいに対応した支援、積極的な声かけ	10	3.4
行政へ	7	2.4
災害時等の支援	5	1.7
教育環境の充実	4	1.4
各諸申請の電子化、手続きの簡略化	3	1.0
医療の充実	3	1.0
その他	33	11.1
わからない	6	2.0

(2) その他、意見・要望

その他、意見・要望の自由回答は264件となり、以下のように分類できました。

最も多い意見は、「サービス等、福祉の充実について」が49件となり全体の18.6%、次いで「経済的支援、助成について」「アンケートについて」がともに34件となり全体の12.9%、「バリアフリー・地域環境について」が22件となり全体の8.3%となっています。

その他、意見・要望の分類	回答件数(件)	回答割合(%)
サービス等、福祉の充実について	49	18.6
経済的支援、助成について	34	12.9
アンケートについて	34	12.9
バリアフリー・地域環境について	22	8.3
福祉に関する現状への満足・感謝等	20	7.6
交通について	12	4.5
将来への不安について	10	3.8
情報提供・相談体制について	6	2.3
災害について	5	1.9
雇用・就労について	5	1.9
差別等について	4	1.5
障がい者理解の促進・啓発について	2	0.8
医療について	2	0.8
市への要望・意見	20	7.6
その他	39	14.8

2 障がい児調査の自由回答

(1) 充実していくと良いと思う活動や支援・サービス

尾張旭市の障がい福祉について、今後、行政や地域、学校、企業等で充実していくと良いと思う活動や支援、サービスに関する自由回答は76件となり、以下のように分類できました。

最も多い意見は、「教育環境の充実」が21件となり全体の27.6%、次いで「福祉サービス等の充実」が18件となり全体の23.7%、「相談体制、情報提供の充実」が8件となり全体の10.5%となっています。

充実していくと良いと思う活動や支援・サービスの分類	回答件数(件)	回答割合(%)
教育環境の充実	21	27.6
福祉サービス等の充実	18	23.7
相談体制、情報提供の充実	8	10.5
グループホーム等施設の充実	5	6.6
社会参加への支援	5	6.6
障がい理解教育の推進	5	6.6
バリアフリー、施設等の整備、地域環境の改善	4	5.3
遊びの場の充実	2	2.6
経済的支援・助成等の充実	2	2.6
公共交通機関の充実	2	2.6
医療の充実	1	1.3
その他	3	3.9

(2) その他、意見・要望

その他、意見・要望の自由回答は36件となり、以下のように分類できました。

最も多い意見は、「福祉サービス等の充実」「アンケートについて」がともに7件となりそれぞれ全体の19.4%、次いで「相談体制、情報提供の充実」が5件となり全体の13.9%となっています。

その他、意見・要望の分類	回答件数(件)	回答割合(%)
福祉サービス等の充実	7	19.4
アンケートについて	7	19.4
相談体制、情報提供の充実	5	13.9
市への要望・意見	4	11.1
教育環境の充実	2	5.6
公共交通機関の充実	2	5.6
福祉に関する現状への満足・感謝等	2	5.6
遊びの場の充実	1	2.8
社会参加への支援	1	2.8
経済的支援・助成等の充実	1	2.8
バリアフリー、施設等の整備、地域環境の改善	1	2.8
障がい理解教育の推進	1	2.8
その他	2	5.6

3 一般市民調査の自由回答

(1) 障がいのある人への施策に関する意見や要望

障がいのある人への施策に関する意見や要望は以下のとおりです。

障がいのある人への施策に関する意見や要望	属性
健常者と障がいのある方が同じ空間を過ごすコミュニティ(図書館の様な広い空間でどの世代でも居たくなる仕掛けがあるコミュニティ)。本を読む場所だからといって、飲食を禁止にしない。陽射しがさして、至る所に座れる場所がある。市外の人でも気楽に使える、開放的にしたスタジオや会議室も設ける。障がいがある方、その家族が市外からも流れてくると、障がいのある方同士の交流も増えて、外に出るきっかけが増えると思う。市内の健常者の方は、自然と周りに障がいがある方が居る機会が増えて、障がいがあるのが普通存在に変わっていくと思う。	男性・40代
障がい者のスポーツなどの活動を各地域で増やしたり、バリアスコートと道路整備、エレベーターやエスカレーターの設置などが必要だと思います。	男性・60代
ハード面だけでなく、ソフト面を充実させる施策を希望します。特別支援学級や就労支援など、長期にわたり支援し続けるにはマンパワーが必要です。支える側の教育訓練も含めて、より良い人材が多くいてこそ、障がいを抱えても安心して暮らせる街になると思います。公だけでなく、民間とも協働して知恵を絞っていただきたいです。	女性・50代
障がい者と日常で接触できる環境やどのようにコミュニケーションしたらいいかの知識があれば、偏見差別は薄らいでいくと思います。	女性・50代
私の姉が障がい者で(3年前死亡)、地域に大変お世話になり、恩返ししたい気持ちがありますが、情報が入って来ません(最近)。コロナでつながりが減ったように思います。	不明
自分も障がいがあると自分では思っていますが、障がいとは認めてもらえない所にいらだちがあります。	男性・50代
障がい者が声をあげられやすくなるような、交流の場、情報発信をして、みんなに障がい者目線に立った活動ができるよう、みんな協力して助けあえるような関係ができるといいと思う。障がい者もいろんなレベルの人がいるので、その人その人の対応が求められる難しい面もある。障がい者が声を上げられ、それを聞けるような施策が必要と思う。	男性・70代
印旛駅ようやくエレベーターの工事が始まり、少なくとも公共交通機関や公共施設のバリアフリーは進めていただけるとありがたいです。障がいのある子どもを持つ家族への支援をお願いしたいです。	女性・50代
助ける立場の人も助けられる人も、お互いが能動的に歩み寄る姿勢が必要。基本は皆が感謝を持って相手を尊重して接すれば全てうまくいくと思う。	男性・50代
ご家族が亡くなった後でも安心して生活できるといいなと思います。	女性・50代
身体障がい、知的障がいなど障がいのレベルが色々あります。それらについて個々に支援を考えていくのがいいと思います。	男性・60代
公共の施設のトイレに紙パンツを持ち帰るよう書いてありますが、障がい者や子育て中の人は処理していただけたら大変助かると思います。係の人の負担が増えることはわかりますが、話し合って改善していただけたらと思います。なお、保育所に紙パンツを市で提供していただけたら保育士の負担は大幅軽くなるそうです。	女性・70代
高齢化も進み、この問題は増々重要になると思います。いざという時、安心できる体制があると嬉しく思います。	女性・50代
障害者本人又支える御家族の方々の思いは一言では言えなく、何が一番必要なのかよくわかりません。	女性・70代

障がいのある人への施策に関する意見や要望	属性
尾張旭で生まれ、学校に通い、現在に至る若者が大人になったからと言って、必要がなければ「広報あさひ」を手にとる事は皆無に等しい。「広報あさひ」で発信する以外に何らかの方法を考える必要性がある。	不明・20代
障がいも人それぞれ色々なケースがあると思いますが、ご本人とその人の家族が先の心配を少しでも軽減できる社会があると良いと思います。支援も大切かと思いますが、何よりも自立ができるための制度や取り組みが重要かと思います。そして周りの人たちの知識をもっと高めることが必要だと思います。ヘルプマークについて、最近SNSでも問題視されていますが、見直しも必要だと思います。	女性・50代
ある無しに関わらず、子供の頃からの教育、周知が必要。	男性・70代
自発的に行動ができる町づくりが大切かと。公共施設でのスムーズな移動。道路の段差解消。障がいをお持ちの方が日々の中で暮らしやすい町づくりが大切かと思います。	男性・50代
障がいに関する講演会やイベントはいくつか開催されていると思いますが、小さい子がいるため参加は難しいです。そのため興味はあるものの、交流には至りません。インターネットなどを利用しつつ、紙媒体での情報発信（こまりごと、手伝ってほしいこと）を増やしたり、小学校と連携した行事・イベントの開催を通して、子供達への理解を深めてもらえるとうありがたいです。 それから「ボランティア」も良いのですが、障がいのある方の能力を活かしたイベントなど（参加者がお金を払っても良いと思います）障がいのない人による「やってあげている」感覚のない、障がいのある方が尊重（リスペクト）されるようなイベントや取り組みが増えていくと良いと思います。昔よりは、社会全体の理解もあると思いますので。	女性・30代
問14のノーマライゼーションとかネットで調べなければ知らない方が多いと思う。広報あさひなどで少しでも分かりやすく説明し知ってもらう事が大切だと思う。	女性・60代
行政が障がい者に対する施策や施設をいくつ造っても、当該障がい者が利用しやすく、暖かみのある施策は一つもない。福祉課の窓口へ障がい者が訪ねた時に、身をもって対応してくれる職員は一人も居ない。いろいろな施策や施設を造り、障がい者に対応しているように外観を繕い、己の責任を回避しているに過ぎない。このアンケートに答えることに虚しさを感じる。	男性・80歳以上
このアンケートを機に「障がい福祉関係」に注力したいと思いました。	男性・80歳以上
車いすでも安心、安全に外出（散歩、買い物等）できる街づくり。	男性・50代

4 事業所調査の自由回答

（1）障がい者雇用に関する意見

障がい者雇用に関する意見は以下のとおりです。

障がい者雇用に関する意見
デイサービスを運営しております。ご年配の方々を少ないスタッフで見守る必要があり、人手不足にて募集してもなかなか従業員が増えない状況です。障がいの方々が、働ける環境が多くなるのが望ましいですが、小さい事業所はなかなか前進できずにいるのが現状です。
会社、職場長の指示に従わない人や、何度注意しても態度の改善がみられない障がい者の方が出て、対応に苦慮している場合、相談できる窓口があれば教えて頂きたい。

尾張旭市

障がい福祉に関する計画策定のための市民意識調査結果報告書

発行日 令和5年3月
発行者 尾張旭市 健康福祉部 福祉課
住 所 〒488-8666 愛知県尾張旭市東大道町原田2600番地1
T E L 0561-76-8142
